

国立国語研究所学術情報リポジトリ

4年制大学における日本語教員養成カリキュラム

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-05-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所日本語教育センター第一研究室 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002815

「日本語教育の内容と方法についての調査研究」資料（6）

4 年制大学における 日本語教員養成カリキュラム

国 立 国 語 研 究 所
日本語教育センター 第一研究室

1990. 3

『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料（6）
「4年制大学における日本語教員養成カリキュラム」

正誤表および追加資料

正誤表

以下の通り訂正致します。

- * 目次 viページ および
- * 本文 133ページ 2行目

（誤）

大阪大学文学部日本文学科
日本語教育学講座

（正）

大阪大学文学部日本文学科
言語系

追加資料

『'90学生便覧』 ー東北大学文学部・東北大学大学院文学研究科ー
により、東北大学文学部日本語学科のカリキュラムを、別添の通り追加いたします。

1990年4月25日
国立国語研究所
日本語教育センター
第1研究室
鮎澤孝子

東北大学

文学部日本語学科

専攻	授業科目	単位	選 択 科 目	単位	自由科目	単位	備 考
日 本 語 教 育 学	日本語教育学 普通講義	4	音 声 学				他学部聴講 単位は、12 単位以内と する。
	現代日本論普通講義	4	国 文 学				
	日本語教育学 特殊講義	4	中 国 語 学				
	日本語教育学 演習	4	英 語 学				
	日本語教育学 講読	8	ド イ ツ 語 学				
	日本語教育学 実習	4	フ ラ ン ス 語 学				
	現代日本論特殊講義		行 動 科 学				
	現代日本論 演習	4	国 史				
	現代日本論 講読	4	日 本 思 想 史				
	日 本 事 情 論	4	文 化 人 類 学				
	言 語 学	4	英 語				
	言 語 交 流 学	4	ド イ ツ 語				
	国 語 学	8	フ ラ ン ス 語				
	現 代 日 本 語 学	8	中 国 語				
	計	44	朝 鮮 語				
			計	12	計	12	

専攻	授 業 科 目	毎週 授業 時数	単位	講 義 題 目	担 当 教 官	備考(用書名・その 他特記事項等)
日 本 語 教 育 学	日本語教育学 普通講義	2	4	日本語学と日本語 教育	教 授 加藤 正信 助教授 才田いずみ	4月～9月を加藤教授 10月～3月を才田助教 授が担当
	日本語教育学 演 習	2	4	日本語教育教材研 究	助教授 才田いずみ	
	同 講 読	2	4	外国語教育の方法		Richards, J. C. & Ro- dgers, T. S.: Approa- ches and Methods in Language Teaching ほか
	日 本 事 情 論	2	4	「日本事情」に関 する理論的研究	講 師(非) 原土 洋	
	日本語教育学 特殊講義	連	2	話しことばの理解	講 師(非) 大坪 一夫	
	日本語教育学 特殊講義	連	2	試験と評価	講 師(非) 村上 隆	

平成2年度 文学研究科講義題目

博士課程

専攻	授業科目	単位			講義題目	担当教官	備考(用書名・その他特記事項等)
		毎週授業回数	前期後期	合計			
国文学 国語学 日本思想史学	日本語教育学演習	2	4	4	日本語教育教材研究	助教授 才田いずみ	
	同 講 読	2	4	4	外国語教育の方法		Richards, J. C. & Rodgers, T. S.: Approaches and Methods in Language Teaching ほか
	日本事情論	2	4	4	「日本事情」に関する理論的研究	講師(非) 原 士 洋	
	日本語教育学 特殊講義	連	2	2	話しことばの理解	講師(非) 大坪 一夫	
	日本語教育学 特殊講義	連	2	2	試験と評価	講師(非) 村 上 隆	
	日本思想史 特殊講義	2	4	4	中世・近世思想史の諸問題	教 授 玉 懸 博之	
	同 演 習	2	4	4	日本思想史の諸問題		
	同 演 習 I	2	4	4	日本の伝統と外来思想 — 中世・近世における —		
	日本思想史 演 習 II	2	4	4	海防論の系譜	教 授 吉 田 忠	
	日本思想史 特殊講義	連	2	2	中世思想史の諸問題	講師(非) 広 神 清	
	日本思想史 特殊講義	連	2	2	近世思想史の諸問題	講師(非) 鈴 木 咲一	

日本語教員養成課程の履修について

日本語教員養成に関して文部省が示した学部主専攻課程，同副専攻課程における標準的な教育内容及びそれらと本学部で開講する授業科目との対応は，次に示す表のとおりである。将来，日本語教員になるためには，この表に従って所定の単位を履修することが望ましい。

なお，主専攻とは，この課程で開設する授業を中心に学びつつ卒業のために必要な単位を修得する課程をいい，副専攻とは，他の専門の授業を中心に学びつつ，一方，この課程で開設する授業をもある程度併せて学び，卒業のために必要な単位を修得する課程をいう。

内 容		主専攻	副専攻	左の各内容に対応すると認定される本学部の授業科目
I-(1)	日本語の構造に関する体系的，具体的な知識	18	10	国語学，現代日本語学，日本語教育学，音声学
I-(2)	日本人の言語生活等に関する知識・能力	4	2	国語学，現代日本語学，日本語教育学，現代日本論
II	日本事情	4	1	日本事情論，現代日本論
III	言語学的知識・能力	8	4	言語学，言語交流学，音声学
IV	日本語の教授に関する知識・能力	11	9	日本語教育学
	計	45	26	

(表中の数字は最低修得単位を示す)

まえがき

「日本語教育の内容と方法についての調査研究」は日本語教育センターの前身である日本語教育部が発足した1974年度より続いているテーマであるが、取り上げる調査の対象分野は数年ごとに変わってきている。これまでに取り上げた分野の調査研究の結果は次にあげるように『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料(1)から資料(5)にまとめられている。

1. 『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料(1)
「日本語教育語彙資料(1)－低学年初級 500語－」1979.6
2. 『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料(2)
「日本語教育語彙資料(2)－低学年初級 500語－」1979.6
3. 『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料(3)
「年少者の日本語教育における初級50時間のための基本的文型」1980
4. 『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料(4)
「国立大学・国立高等専門学校における日本語教育の現状(1983年12月1日現在調べによる)」1985.2
5. 『日本語教育の内容と方法についての調査研究』資料(5)
「技術研修の分野における日本語教育の現状」1989.3

今回の資料(6)は3年計画で実施している「4年制大学における日本語教員養成の分野を対象にした調査研究」の資料である。延べ52の大学(学科)、大学院の日本語教員養成のためのカリキュラムと学科目の内容を、各大学より送付された『履修の手引』『講義要項』などから抜き出してまとめたもので、4年制大学および大学院における1988、89年現在での日本語教員養成のカリキュラムの現状を知るための資料である。

4年制大学における日本語教員養成は2、3の私立大学においては以前から行われていたが、日本語教員養成を主目的とする学科が大学に設置されはじめたのは1985年からである。これは1985年に「日本語教員養成のための標準的な教育内容」が文部省の「日本語教育施策の推進に関する調査研究会」の報告書

「日本語教員の養成等について」において示され、日本語教員養成機関の整備、充実を図る必要があることが述べられた結果である。

この指針に沿ったカリキュラムによる日本語教員の養成がいくつかの大学で始まり、1989年度にはそのカリキュラムによって教育を受けた学生が初めて卒業した。と同時に1989年現在で50以上の大学（学部）、大学院において日本語教員養成が行われはじめている。このような状況を迎え、大学における日本語教員養成をめぐる、どのような問題があるのかを見直し、今後の方策等について検討するために、この資料が役立つものであれば幸いである。

なお、ここに記載したものは日本語教員養成のための学科目が主専攻または副専攻コースとして履修できるようになっているカリキュラムのみであり、副専攻相当の単位数（26単位）に満たないカリキュラムの場合は載せていない。また、ここに収録されていない大学でも、現在コース等の開講を準備中の大学もある。

ここに載せた大学・大学院、延べ52機関について、その内訳を以下のようにまとめ、次ページに別表として掲載した。併せてご参照いただきたい。

別表

- (1) 地域別、国立・私立別機関数
- (2) 日本語教員養成の学科目のおかれている学部別、国立・私立別機関数
- (3) 学部別、主専攻・副専攻相当カリキュラム別機関数

資料をお送りくださった各大学の所在地と資料のリストは巻末に記載した。各大学のご協力に心から感謝したい。

この資料作成の作業には日本語教育センター第一研究室のアルバイト、阿左美厚子、伊能敦子、諸川玲子、山元啓史があたった。

国立国語研究所日本語教育センター
第一研究室長 鮎澤 孝子

別表 (1) 地域別、国立・私立別機関数

	国立大学	私立大学	計
東北地方	1	1	2 大学
東京都	4	1 1	1 5 "
その他関東地方	4	6	1 0 "
中部地方	2	2	4 "
近畿地方	5	7	1 2 "
中国・四国地方	3	1	4 "
九州・沖縄地方	2	3	5 "
計	2 1	3 1	5 2 大学

別表 (2) 学部別、国立・私立別機関数

	国立大学	私立大学	計
大学院	7	0	7 大学
教育大学 教育学部	7	2	9 "
外国語大学 外国語学部	2	8	1 0 "
文学部等	3	1 4	1 7 "
その他の学部	2	5	7 "
センター	0	2	2 "
計	2 1	3 1	5 2 大学

別表 （３）学部別、主専攻・副専攻相当カリキュラム別機関数

【大学院は除く】

	主専攻相当	副専攻相当	計
教育大学 教育学部	4	5	9 大学
外国語大学 外国語学部	7	3	10 "
文学部等	8	9	17 "
その他の学部	5	2	7 "
センター	1	1	2 "
計	25	20	45 大学

《註．主専攻・副専攻相当カリキュラムについては１ページの表参照のこと》

目 次

日本語教員養成のための標準的な教育内容	1
---------------------	---

I. 大学院

大阪外国語大学大学院 外国語学研究科日本語学専攻	2
大阪大学大学院 文学研究科日本学専攻	6
筑波大学大学院 修士課程地域研究研究科（日本語教師養成プログラム）	11
筑波大学大学院 博士課程文芸・言語研究科（応用言語学、日本語教育）	15
東京外国語大学大学院 外国語学研究科日本語学専攻	17
名古屋大学大学院 修士課程文学研究科日本言語文化専攻	19
広島大学大学院 教育学研究科教科教育学専攻	26

II. 大学

A. 教育大学・教育学部系

広島大学 教育学部日本語教育学科	29
愛知教育大学 教育学部総合科学課程日本語教育コース	39
琉球大学 教育学部総合科学課程日本語教育コース	45
香川大学 教育学部総合科学課程言語文化コース言語学日本語教育専攻	49
京都教育大学 総合科学課程言語文化コース日本言語文化専攻	52
東京学芸大学 教育学部国際文化教育課程日本研究専攻	57
早稲田大学 教育学部国語国文学科	60
芦屋大学 教育学部教育学科日本語教員養成コース	63
横浜国立大学 教育学部日本語教育基礎コース	64

B. 外国語大学・外国語学部系

大阪外国語大学 外国語学部日本語学科	66
東京外国語大学 外国語学部日本語学科	75
杏林大学 外国語学部日本語学科	88
南山大学 外国語学部日本語学科	93
姫路獨協大学 外国語学部日本語学科	96
明海大学 外国語学部日本語学科	101
麗澤大学 外国語学部日本語学科	109
神奈川大学 外国語学部日本語教員養成課程	123
関西外国語大学 外国語学部日本語教員養成（課程）	129
獨協大学 外国語学部	131

C. 文学部系

大阪大学 文学部日本学科日本語教育学講座	133
東北大学 文学部日本語学科	137
文教大学 文学部日本語日本文学科	140
学習院大学 文学部国文学科日本語教育系	148
松蔭女子学院大学 文学部国文学科日本語教育コース	155
昭和女子大学 文学部日本文学科日本語教育	163
聖心女子大学 文学部日本語教員課程	167
梅花女子大学 文学部日本語教員養成コース	174
鹿児島女子大学 文学部日本語教員養成副専攻課程	176
岐阜女子大学 文学部日本語教員養成コース	179
筑紫女学園大学 文学部日本語・日本文学科日本語教員養成副専攻課程	183
東京家政学院大学 人文学部日本文化学科	185
二松學舎大学 文学部日本語教員養成課程	189
梅光女学院大学 文学部日本語教員養成副専攻課程	194
福岡大学 人文学部日本語教員養成課程	197
盛岡大学 文学部日本文学科	199
琉球大学 法文学部文学科日本語教育副専攻	201

D. その他の学部

筑波大学 第二学群日本語・日本文化学類	203
国際基督教大学 教養学部語学科日本語教育プログラム	212
上智大学 比較文化学部日本語・日本文化学科日本語言語学コース	214
同志社女子大学 学芸学部日本語日本文学科	218
お茶の水女子大学 文教育学部日本語教育基礎コース	224
拓殖大学 日本語教員資格認定講座	225
天理大学 日本語教員養成課程	226

Ⅲ. 大学に附属するセンター

慶応義塾大学 国際センター日本語教授法講座	228
東海大学 留学生教育センター日本語教育学課程	232

大学の所在地と資料のリスト	237
---------------	-----

日本語教員養成のための

標準的な教育内容

日本語教員に必要な 知識・能力	一般の日本語教員 養成機関	大学の学部 日本語教育副専攻	大学の学部 日本語教育主専攻	大学院修士課程 Aコース Bコース
1-(1) 日本語の構造に関する体系的、具体的な知識 (科目名例示) 日本語学(概論、 音声、語彙・意味、 文法・文体、文字・ 表記)	150時間	10単位	18単位	4単位 11単位
1-(2) 日本人の言語生活等 に関する知識・能力 (科目名例示) 言語生活 日本語史	30時間	2単位	4単位	4単位 2単位
2 日本事情	15時間	1単位	4単位	
3 言語学的知識・能力 (科目名例示) 言語学概論、社会言 語学、対照言語学 日本語学史	60時間	4単位	8単位	7単位 5単位
4 日本語の教授に関す る知識・能力 (科目名例示) 日本語教授法、日本 語教育教材・教具論 評価法、実習	165時間	9単位	11単位	9単位 10単位
合 計	420時間	26単位	45単位	24単位 28単位

日本語教育施策の推進に関する調査研究会の報告「日本語教員の養成等について」
(昭和60年5月13日)による。

大阪外国語大学大学院

外国語学研究科日本語学専攻

専攻	修士課程	
	入学定員	総定員
日本語学専攻	6	12

専攻	授業科目	講義題目	単位	担当教官名	備考
日本語学専攻	国語学研究	語彙論	4	前田	
	国語学演習		4	北	㊦
	国語学・国語学史		4		来年度開講
	国文学研究 A	日本文学史研究	4	尾上	㊦
	同 B	続小林秀雄「当麻」詳考	4	尾上	㊦
	国文学演習	芸談の考察	4	伊藤	㊦
	現代日本語学研究	モグリティの研究	4	益岡	
	現代日本語学演習	格の研究	4	小矢野	
	対照語学研究		4		来年度開講
	比較語学研究		4	小泉	
	日本語教授法	教育方法の研究	4	大倉	
	日本語教授法演習 A	日本語文典の研究	4	小林	
	同 B		4	角道	
	国語教育学	学習者中心の言語カリキュラムについて	4	山本	
	視聴覚教育		4		来年度開講
	言語学研究		4		不開講
	(各個言語研究)		2	()	
	中国語		2	()	
	タイ語		2	()	
	アラビア語		2	()	
	英語		2	()	
	イスパニア語		2	()	
	ロシア語		2	()	

日本語学専攻

国語学研究

前 田 講 師

国語語彙（国語語彙論、語構成、語義、計量語彙論など）の研究方法についての講義。

国語学演習

北 教 官

方丈記には諸本があるが、伝鴨長明自筆本を使用する。和漢混淆文の先駆としての価値、文章史・文体史の問題、あるいは語彙・文字等の諸問題についての検討を行う。

国文学研究 A（日本文学史研究）

尾 上 教 官

昭和63年度の授業の続き。本年度は中古・中世が主。時代区分の原理的考察も行なう。そして、歴史というものに対する根本的な見方についての問題提起を行なう。事柄は、哲学・宗教の分野にもかかわる。

国文学研究 B（続小林秀雄「当麻」詳考）

尾 上 教 官

昭和63年度の授業の続き。テキストの後半を主として問題にする。小林は、先の戦時下、人類の一員としての自己の立場と日本人としての自己の立場との相克に苦しんだ。この問題は、田辺哲学にあっては、「種の論理」として理論構築された。私はこの論理には批判的である。そこでは、自己の属する共同体の客観性を保証する論理が明確に描かれていない。それならいかにして我々は一つの共同体に運命的に属していながらそれを果しうるのだろうか。これらの問題を学生と共に自由に議論する事の中で考えていきたい。

現代日本語学研究（モダリティの研究）

益 岡 講 師

文論研究の一環として「モダリティ」を取り上げ、総論と各論に分けて考察を加える。

現代日本語学演習（格の研究）

小矢野 教 官

現代日本語の格について、具体例に基づいて分析する。格の考え方を問うために数編の論文を精読する。受講者には、現代日本語の格の考察に関する基礎的な知識を持って受講することが要求される。

比較語学研究

小 泉 教 官

現在イギリスでは Relevance 理論が提唱されている。語用論における会話的含意から関連理論の進展を追究してみる。まず、H. P. Grice : Logic and

日本語教授法（教育方法の研究）

大 倉 教 官

日本語の運用能力習得をめざした教育方法の実際を概観し、その実践的応用を考える。

テキスト：Wilga M. Rivers “Teaching Foreign-Language Skills” (Second Edition

(邦訳『外国語習得のスキル』第2版—研究社出版)

日本語教授法演習 A（日本語文典の研究）

小 林 教 官

1850年から1930年に著された日本語文典の中から、数編を選んで検討していく。使用するテキストはプリントを配布する。

国語教育学（学習者中心の言語カリキュラムについて）

山 本 教 官

David Nunan (1988) The Learner-Centred Curriculum (Cambridge UP) 「学習者中心のカリキュラム」を読んでいきます。毎回担当者にレポートをしてもらいます。

共通科目

言語学特殊研究II（統語論・類型論研究）

近 藤 教 官

格をめぐる諸問題。テキスト Frans Plank (ed.), *Ergativity*. Academic Press. 1979. を精読しながら、いわゆる主格一対格、能格一絶対格の格形システムの観点から、世界の諸言語を観察して類型化すると共に、他方で格の本質、すなわち「格とは何か」について考察する。

語学特殊研究II演習（現代日本語の敬語表現）

南 講 師

諸外国語における敬語表現との対照的考察から見た日本語の敬語の性格、敬語の意味構造、敬語使用の条件などについて述べる。

言語学特殊研究II演習（動詞）

高 橋 講 師

動詞とはなにか。動詞の語形のシステム。ヴォイス。テンス。アスペクト。
その他。動詞が動詞らしさをうしなうとき。

北欧諸語特殊研究

小 泉 教 官

フィンランド語の文法を修得し、訳読と会話の実力を養成する。
テキストとして、小泉保著『フィンランド語文法読本』（大学書林、1983）を用いる。

大阪大学大学院

文学研究科日本学専攻

日本語教員養成課程（コース）の履修について

日本語教員養成に関して文部省が示した学部主専攻課程、同副専攻課程、大学院修士課程Aコース、同Bコースにおける標準的な教育内容は、次に示す表の通りである。将来、日本語教員になるためには、この表に従って所定の単位を履修することが望ましい。

なお、主専攻とは、この課程で用意する授業を中心に学びつつ卒業のために必要な単位を修得する課程をいい、副専攻とは、他の授業を中心に学びつつ、一方、この課程で用意する授業を併せて学び、卒業のために必要な単位を修得する課程をいう。Aコース・Bコースとは、大学院生のためのコースであって、前者は学部主専攻課程を修了したもの、後者はそれ以外のものを対象とする。

本学部日本学科および大学院日本学専攻その他で開講される各講義題目の備考欄に示すローマ数字は、この表に対応するものである。したがって、各課程・コースを履修しようとするものは、その点に留意すること。

内容 \ 課程（コース）		主 専 攻	副 専 攻	A コー ス	B コー ス
I - (1)	日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	1 8	1 0	4	1 1
I - (2)	日本人の言語生活等に関する知識・能力	4	2	} 4	} 2
II	日本事情	4	1		
III	言語学的知識・能力	8	4	7	5
IV	日本語の教授に関する知識・能力	1 1	9	9	1 0
計		4 5	2 6	2 4	2 8

（表中の数字は最低修得単位を示す）

日 本 学 専 攻

M：前期課程のみ

D：後期課程のみ

共：前・後期課程共通科目

ローマ数字：67 ページ参照

科目 番号	授 業 科 目	担当教官	講 義 題 目	毎週 授業 時数	単 位	備 考
433	日 本 文化学	講 義 子 安 教 授	获生徂徠研究	2	4	共
434	日 本 文化学	演習 1 "	近世日本思想史研究	2	4	M
435	日 本 文化学	演習 2 "	朱子学の研究	2	4	共
436	日 本 文化学	講 義 小松助教授	日本文化学基礎論	2	4	M II
437	文 化 人類学	演 習 "	民俗文化論	2	4	共
438	民俗学	演 習 "	日本の民俗宗教	4 隔週	4	共
439	文 化 人類学	講 義 須 藤 講 師	東アジア・オセアニアの社会構造論	4 隔週	2	共 第 2 学期
440	日 本 文化学	講 義 野 崎 講 師	日本思想考究の方法について	集中	2	共 第 2 学期
441	比 較 地誌学	演 習 矢 守 教 授	日本の風土Ⅱ	2	2	M 第 1 学期
442	比 較 文化学	演 習 "	比較文化学演習Ⅰ	2	2	M 第 1 学期
443	比 較 文化学	演 習 矢 守 教 授 高橋助教授	地域研究と比較文化の方法	2	4	共
444	歴 史 地理学	講 義 矢 守 教 授	絵地図研究	2	2	共 第 2 学期
445	歴 史 地理学	講 義 "	近世の都市空間	2	2	共 第 1 学期

科目 番号	授 業 科 目		担当教官	講 義 題 目	毎週 授業 時数	単 位	備 考
446	比 較 地誌学	演 習	高橋助教授	日本の風土Ⅰ	2	2	M 第1学期 留学生を主 とする。
447	比 較 文化学	講 義	"	日本人と世界地理	2	2	共 第 2 学期
448	比 較 文化学	演 習	"	比較文化学演習Ⅱ	2	2	M 第 2 学期
449	比 較 地誌学	講 義	日下(雅) 講師	地形環境と人間	2	2	共 第 1 学期
450	比 較 文化学	講 義	末 尾 講 師	技術の伝播・変革とその地理的 背景	2	2	共 第 2 学期
451	比 較 地誌学	講 義	坂 本 講 師	社会における距離と立地	2	2	共 第 2 学期
452	歴 史 地理学	講 義	金 坂 講 師	都市の歴史地理	2	2	共 第 1 学期
453	文 化 交流史	講 義	広 田 教 授	近代日本における対外観の変遷	2	4	共
454	文 化 交流史	演習 1	"	近代化論	2	4	共
455	文 化 交流史	演習 2	"	文化交流論	2	4	共
456	文 化 交流史	講 義	黒 川 教 授	菅茶山の詩	2	4	共
457	国 際 文化交流論	講 義	李 講 師	近世における朝・中・日の文化 交流	2	4	共
458	文 化 交流史	講 義	上 田 講 師	日本における外来文化の受容と 伝播	2	4	M 参考図書： 「日本洋学史の 研究Ⅱ・Ⅲ」（有 坂隆道編）他
459	現代日 本語学	講 義	寺 村 教 授	日本文法の諸問題	2	4	共 Ⅰ - (1)
460	現代日 本語学	演 習	寺 村 教 授 仁田助教授	現代日本語学文献研究	2	4	共 Ⅰ - (1)

科目 番号	授 業 科 目	担当教官	講 義 題 目	毎週 授業 時数	単 位	備 考
461	現代日 本語学	演 習 仁田助教授	動詞の語彙論・統語論	2	4	共 I - (1)
462	現代日 本語学	講 義 玉 村 講 師	日本語語彙論	2	2	共 第 1 学期 I - (1)
463	現代日 本語学	講 義 渡 辺 講 師	叙法副詞の研究	集中	2	共 第 1 学期 I - (1)
464	現代日 本語学	講 義 石 綿 講 師	日本語の機械処理	集中	2	M 第 1 学期 Ⅲ
465	社 会 言語学	演 習 徳 川 教 授	社会言語学入門	2	2	M 第 1 学期 Ⅲ
466	現代日 本語学	講 義 "	日本音声学	2	2	M 第 2 学期 I - (1)
467	社 会 言語学	講 義 徳 川 教 授	日本の方言研究	2	4	共 I - (2)
468	社 会 言語学	演 習 徳 川 教 授 真田助教授	社会言語学の諸問題	2	4	共 Ⅲ
469	社 会 言語学	演 習 真田助教授	方言の動態に関する調査研究	2	4	共 I - (2)
470	現代日 本語学	演 習 森 山 講 師	日本語学基礎論	2	4	M 留学生 を主とする I - (1)
471	現代日 本語学	講 義 "	現代日本語学の諸問題	2	4	M I - (1)
472	社 会 言語学	講 義 鈴木(孝) 講 師	言語・文化・社会に関する諸問 題	集中	2	共 第 2 学期 Ⅲ
473	対 照 言語学	講 義 大河内講師	日本語と中国語の対照研究	2	2	共 第 2 学期 Ⅲ
474	言語学	講 義 井 上 講 師	言語の普遍性と個別性	集中	4	M Ⅲ
475	日本語 教育学	演 習 佐 治 教 授	日本語教育の諸問題	2	4	共 Ⅳ
476	日本語 教育学	演 習 佐 治 教 授 郡 司 講 師	日本語教育実習	4	1	M 第 1 学期 Ⅳ

科目 番号	授 業 科 目	担当教官	講 義 題 目	毎週 授業 時数	単 位	備 考
477	日本語 教育学	講 義 佐 治 教 授	日本語文型の研究	2	4	共 I - (1)
478	日本語 教育学	講 義 奥田(邦) 講師	日本語教育学の諸問題	集中	2	共 第 1 学期 N
479	日本語 教育学	講 義 山 本 講 師	日本語教授法	2	2	M 第 2 学期 N
480	国文学	講 義 伊井助教授	公任集の研究	2	4	共
481	国語学	講 義 前 田 教 授	衣生活語彙史	2	4	共 I - (2)
482	日 本 社会史	演 習 脇 田 教 授	日本近世社会論	2	4	共
483	日 本 思想史	演 習 黒 田 教 授	中世史の諸問題	2	4	共
484	日 本 古代 中世史	講 義 都 出 教 授	古墳と王権	2	4	共

筑波大学大学院

修士課程地域研究研究科（日本語教師養成プログラム）

次の要件をすべて満たした場合、日本語教師養成プログラム修了の認定を行う。

1. 地域研究研究科日本コースの最低修得単位を満たしていること。

A. 基礎科目（6単位）

比較文化論、国際関係論、地域研究論

B. 日本研究必修科目（4.5単位）

日本研究概論、日本研究演習

C. その他の専攻科目（15.5単位）

D. 地域研究特別研究（4単位）

E. 外国語科目（7.5単位）

2. 1のCの専攻科目として次の科目を必ず履修していること（10.5単位）。

日本語構造論（1～7）のうち2科目、外国語としての日本語教授法研究、外国語としての日本語教授法演習

3. 1のCの専攻科目として、2で述べた科目の他に次のうちから2科目履修していること。

日本語構造論（1～7）のうち2で選択した以外の科目、言語学概論、日本語資料講読演習、日本の文学と文化

4. 1のDの特別研究（修士論文）のテーマが日本語教育または日本語に関するもの。

5. 外国人留学生については1のEの外国語科目は次のものとする。

日本語講読（上）、日本語作成（上）、日本語会話（上）、日本語専門書講読、日本語聴解（上）

なお、以上のプログラムを修了した場合、学生の要請により修了証明書を発行する。

（注）1. 3.の科目は指導教官の指導および日本語教育担当教官の承認を得た場合、関連科目で読みかえることができる。

2. 4.のテーマは、日本語教育担当教官の承認を得た場合、関連テーマを認める。

地域研究研究科地域研究専攻（日本語教師プログラム）の参考履修列

基礎科目 (必修)	専攻科目		特別研究 (必修)	単位 合計	語学 科目	単位 合計	修了後の 主要進路	履修者の 出身分野
	必修科目	選択科目						
6単位	4.5単位	15.5単位 以上	4単位	30 単位以上	7.5単位	37.5 単位以上	各国の大学 の日本語教 師など	文学 語学 など
比較文化論(2単位)		言語学概論 (3単位) 外国語としての 日本語教授法研究 (3単位) 同演習 (1.5単位) 日本語資料講読 (1.5単位) 演習 日本語構造論 (3単位) 日本の地域性と 風土 (3単位) 日本の環境と資源(2単位) 日本の思想と宗教(2単位) 日本の文学と文化(2単位) 日本の政治 (2単位) 日本の芸術 (2単位) 日本の法律 (2単位) 日本の教育 (2単位) 日本研究特講 (2単位)	地域研究特別研究(4単位)		外国人留学生の場合 日本語講読(上) (1.5単位) 日本語作文(上) (1.5単位) 日本語会話(上) (1.5単位) 日本語専門書 (1.5単位) 講読 日本語聴解(上) (1.5単位)			
国際関係論(2単位)	日本研究概論(3単位)				日本人学生の場合 他コースと同じ。			
地域研究論(2単位)	日本研究演習(1.5単位)				注) 受験のさいに第二外国語 をとらなかった学生は、 第二外国語3単位を最低 限修得すること。			

授業科目の概要

(1) 基礎科目

授業科目	授業概要	担当教官
比較文化	地域研究における「地域」の概念をより明確にし、地域研究における比較文化論的視点を問いつつ、その学際的アプローチについて考察し、文化と文化の背後にある宗教の問題を手がかりにして比較文化を考察する。	荒木美智雄
国際関係論(1)	国際関係論の基礎からアドバンス・コース迄全体を講義する。具体的には、国益の概念の紹介から始まり、外交政策決定過程の理論的フレームワークなどをみていく。	花井 等
国際関係論(2)	ブレトンウッズ体制成立から今日に至るまでの国際経済関係の展開について研究する。特に南北問題をめぐる国際関係の構造を他国籍企業、中進国の登場の問題などを含めて分析する。	細野 昭雄
地域研究論	地域概念、地域区分、文化景観の種類などの理論を紹介し、筑波研究学園都市を一例として、地域分析、地域調査の方法を示す。	佐々木 博

(2) 専攻科目

日本研究コース

日本研究概論(1)	日本文化研究に関する近年の諸家の考え方を説明し、日本人論の位置づけを行う。テキストはその都度紹介する。	宮田 登
日本研究演習	「日本独特の」風物、概念などについて、文献、画像、映像資料などによって認識を深めるとともに、「日本的なもの」とは何かについて討議する。	増成 隆士
日本の思想と宗教	日本における思想と宗教の歴史的展開の跡を、それぞれの時代を代表する思想家・宗教者の著作等の中に辿る。	広神 清
日本の文学と文化(2)	日本近代文学の成立期をめぐって、未紹介の作品群を取りあげ、従来の文学史の再検討をめざして、作品研究をおこなう。	平岡 敏夫
日本の芸術	日本の古典芸能と芸術を原典の講読を通して検討する。	熊倉 功夫
日本研究特講(1)	この講義は原則として外国人留学生を対象とする。現代日本文学の代表的散文作品を読み進めつつ、その背後にある日本文化・日本文学についての常識を説明する。テキストは未定。	田代慶一郎
言語学概論	言語学の方法論、研究分野について、重要な先行研究を検討しつつ考察する。ヨーロッパとりわけドイツで発展した理論に特に注目する。	高田 誠
外国語としての日本語教授法研究	日本語を効率的に教授するための学校の組織法、教員間の役割分担、教材、授業などの評価法、学生の能力の測定法、教材開発のための基本的考え方、C A I の授業への摘要と教材の開発手法などについて考察する。	大坪 一夫

授 業 科 目	授 業 概 要	担 当 教 官
外国語としての 日本語教授法演 習	模擬実習、教育実習を通して、カリキュラム作成、教案作成、教材開発、 教授技術の訓練を行なう。また、視聴覚教材および中・上級の教授法につ いても考える。受講者は日本語教師養成プログラムの2年生に限る。	堀口 純子
日本語資料講読 演習(1)	日本語の微妙な表現を最高度に生かした文芸である連歌と、その表現に かかわる諸問題を論じる連歌論を読む。とくに心敬『ささめごと』連歌撰 集と『竹林抄』とを演習資料とする。	奥野 純一
日本語構造論(1)	日本語の音声学的音韻論的な特徴を、具体的な観察によりながら考えて 行く。	湯澤 質幸
日本語構造論(2)	日本語の語彙の構造について、意味論の立場から調べていく。計量的な 研究法や言語意識調査についても扱う。	荻野 綱男
日本語構造論(3)	現代日本語の文法的な構造を考察する。本年度はモダリティ、テンス、 アスペクトを中心に、文の基本的な構造を多面的に分析したい。	野田 尚史
日本語構造論(4)	自然言語処理のための日本語の文法および意味の分析、記述の詳細を考 察する。	草薙 裕
日本語構造論(5)	日本語や日本文化に関する新書本を用いて、速読の練習をする。毎回、 発表者を中心に読解した内容と表現の問題について、討議し、その結果を ふまえて、要約文・レポート等を提出し、さらに議論を深める形で進める。	佐久間まゆみ

筑波大学大学院

博士課程文芸・言語研究科（応用言語学、日本語教育）

言語学専攻

言語学特講 A (4)	題目：「ウガリト語講読」。ウガリト語テキストの講読を通して、ウガリト語の音韻・文法について考察する。	津村 俊夫
言語学特講 B (4)	題目：理論および実験音声学。一昨年度に続いて、エレクトロバトグラフフィー、フローネイザリティ・グラフなどを用いて、言語音の生理的側面を実証的に研究する。	城生伯太郎
一般言語学研究 (4)	題目「統語論と類型論」：前年度に引き続き、言語類型論の立場から文法の普遍的基盤の問題を考究する。	松本 克己
一般言語学演習 4	題目：「言語接触の諸問題」。言語間および方言間の接触の問題を、古代オリエントからの諸情報に基づいて、具体的に考察する。セム語の知識は特に必要としないが、ヘブル語などの基礎知識があることが望ましい。	津村 俊夫
比較言語学 (4)	題目「印欧言語学の諸問題 2」：前回に続いて印欧比較文法のとくに形態・統語法の問題について論ずる。	松本 克己
言語発達論研究 (3)	言語発達とバイリンガリズムの研究領域から 2、3 の課題を取り上げ、心理言語学の立場から論ずる。	芳賀 純
コンピュータ言語学研究 (3)	自然言語処理のための日本語の文法および意味の分析、記述の詳細を、大量のデータを用いながら考察する。	草薙 裕
日本語教授法研究 (2)	日本語を効率的に教授するための学校の組織法、教員間の役割分担、教材、授業などの評価法、学生の能力の測定法、教材開発のための基本的な考え方、C A I の授業への応用と教材の開発手法などについて考察する。	大坪 一夫
日本語構造論研究 (3)	近年の日本語音韻研究論文をふまえて、今後の研究動向を考えていく。	湯沢 賢幸
日本語研究特講 (2)	『西行上人集』延宝 2 年版本を底本として、同集の諸伝本および他の集の歌を校合し、一首一首について、本集の目ざした本文を追求する。併せて、歌語の異文の発生について検討を加える。	大井 善寿
社会言語学研究 (2)	日本の社会言語学の成果を中心に、諸外国の研究も含め先行研究の検討をし、その方法論をさぐる。また、各自テーマを設定し、データの収集・分析を試みる。	高田 誠
日本語学研究 (3)	日本語学研究の方法について考える。演習形式。(5 月末開講)	小松 英雄
日本語学研究 (4)	日本語学研究の方法について考える。演習形式。(5 月末開講)	小松 英雄
日本語学研究 (5)	日本語学研究の方法について考える。演習形式。(5 月末開講)	小松 英雄
日本語音韻研究 (3)	日本漢字音史研究。日本漢字音の歴史的資料の分析・検討を通じて日本漢字音および日本語音韻史の諸問題を考える。	林 史典
日本語音韻研究 4	日本漢字音史研究。日本漢字音の歴史的資料の分析・検討を通じて日本漢字音および日本語音韻史の諸問題を考える。	林 史典
日本語音韻研究 (5)	日本漢字音史研究。日本漢字音の歴史的資料の分析・検討を通じて日本漢字音および日本語音韻史の諸問題を考える。	林 史典
日本語文法研究 (3)	近年発表された日本語文法に関する諸論について検討する。	北原 保雄

日本語文法研究 (4)	近年発表された日本語文法に関する諸論について検討する。	北原 保雄
日本語文法研究 (5)	近年発表された日本語文法に関する諸論について検討する。	北原 保雄
日本語史料研究 (3)	平安時代の女流仮名文学作品を中心に考察する。順次受講生が報告し、その報告を踏まえて論議する。何について報告するかについては、原則として報告者の自主的判断にゆだねる。	森野 宗明
日本語史料研究 (4)	平安時代の女流仮名文学作品を中心に考察する。順次受講生が報告し、その報告を踏まえて論議する。何について報告するかについては、原則として報告者の自主的判断にゆだねる。	森野 宗明
日本語史料研究 (5)	平安時代の女流仮名文学作品を中心に考察する。順次受講生が報告し、その報告を踏まえて論議する。何について報告するかについては、原則として報告者の自主的判断にゆだねる。	森野 宗明
日本語演習(1)	『万葉集』巻三を読み、上代の日本語について考える。	北原 保雄
日本語演習(2)	『法華百座聞語』を読む。午後6時前後まで延長。(5月末開講)	小松 英雄
英語学演習(4)	現代英語に関する生成文法理論の研究の動向を探る。細心の言語学専門雑誌・論集からの論文を基にした発表と討論をおこなう。	中右 実
生成文法理論(4)	人間言語の普遍性と相対性の視点から、日本語と英語の文法構造を分析し、形と意味との適正な関係を捉えるモデルを考察する。	中右 実
英語文法研究(4)	Radford: Transformational Grammar (CUP, 1988)を読む。	磯輔 幸生
生成音韻論(4)	非線形音韻論の理論上、記述上の問題点について、主として分節音韻論に関するものを中心に、多角的に検討する。	原口 庄輔
英語音声学・音韻論(4)	英語音声学・音韻論の新しい理論の検討、言語事象の観察・分析・記述などを行う。文献の口頭発表と討議も含める。	島岡 丘
フランス語学研究(3)	現代フランス語の文法的現象に関する最近の論文を選び、批判的に検討する。	古川 直世
フランス語学演習(3)	現代フランス語に関する最近の論文をもとにした討論を中心とする。	古川 直世
フランス語意味論	Irène Tamba-Macz《La sémantique》を講読しながら、フランス語における意味論研究の歴史と現状および将来の展望について講義する。	青木 三郎
中国語学研究(2)	漢語(中国語)の構語法(word formation)に関して陸志韋の所説を中心に検討したい。主として中国語、一部英文による文献を使用する。	上野 恵司
中国語学演習(2)	中国語学研究(2)に関する資料、論文を読む。	上野 恵司
中国語特講(4)	漢語方言学專題研究。本年度も昨年度に引き続き閩語を取扱う。	樋口 靖

東京外国語大学大学院

外国語学研究科日本語学専攻

平成元年度

専攻	授業科目	講義題目	単位	教官名	備考
日本語学専攻	日本語学研究	教育文法の試み	4	窪田	地域研究科共通授業
		文の陳述性（継続）	4	工藤	
	日本語学演習	「醒睡笑」を読むー承前ー	2	小杉	
		動詞の意味	2	湯本	
	日本文学研究	近代文学研究	4	国松	
	日本文化研究	近代日本思想史の諸相	4	成田	
	日本言語文化研究	談話分析	4	松田	
	日本語教授法研究	外国語教授法理論と日本語教育	4	近藤	
	日本語教授法演習	日本語教育教材研究	2	佐久間	

日本語学研究（教育文法の試み） 窪田 富男

・いくつかのトピックをめぐって、シンタクス・意味・機能を重視しながら、コミュニケーション力の養成に役立つ内容・方法とは何かを考える。

・資料はコピーによる。

日本語学研究（文の陳述性（継続）） 工藤 浩

昨年度にひきつづき、文の陳述性（おもにモダリティ）に関する、理論的、実証的文献を綿密に読みたい。

日本語学演習（「醒睡笑」を読むー承前ー） 小杉 商一

元和9年（1615）安楽庵策伝（1554～1642）の著「醒睡笑」は、語彙・語法ともに、いわゆる古典文法からはずれるところがあり、古代語と近代語のはざまの日本語の姿が見られる。そのへんを探究しよう。

テキスト：内閣文庫本「醒睡笑」（影印） プリント

日本語学演習（動詞の意味） 湯本 昭南

・現代日本語の動詞について、資料の収集と分析をおこなう。

・具体的なテーマは参加者の顔ぶれをみてきめる。

・研究生の聴講は不可。

日本文学研究（近代文学研究） 国 松 昭

最初は、近代文学全般について述べてある代表的評論を、少しずついいねいに読んでいく（その際、主役は院生諸氏にしたい）。次いで、具体的作品（中野重治、太宰治など昭和期の作家たちの）について考察する予定である。

日本文化研究（近代日本思想史の諸相） 成 田 龍 一

近年の日本の思想史学の成果や分析方法の特徴について検討をしたのち、1900年代－20年代に活躍した思想家をとりあげ考察する。

日本言語文化研究（談話分析） 松 田 徳一郎

談話の構造、結束性、適格性等について考察する。

テキスト：Stephen C. Levinson, *Pragmatics*, Cambridge University Press,

£11.95 paper

日本語教授法研究（外国語教授法理論と日本語教育） 近 藤 安月子

外国語習得理論・外国語教授法理論の流れを概観し、日本語教授法に関する諸問題について考察する。

日本語教授法演習（日本語教育教材研究） 佐久間 勝 彦

既存の日本語教科書を、教授法・教室活動との関連で検討し、特定の目的に合った教科書およびその使用法について、グループ作業を行なう。

グループ作業などで、「日本語教授法研究」と関係するので、同時聴講が望ましい。

名古屋大学大学院

修士課程文学研究科日本語文化専攻

日本語文化専攻は、国際的・学際的理念に立ち、指導的な日本語教員及び日本語教員の養成に携わる者を養成し、併せて外国生活の経験のある者、国際社会に貢献する熱意のある者に道を拓き、広く国際社会における日本理解を推進することを目的とする。

なお、課程修了者には、学術修士の学位が授けられる。

講座及びその内容

講 座 名	内 容
日本語文化学講座	比較言語文化学理念に立って、言語と文化の相関を解明し文化交流における外国語教育の役割を国際的、学際的に広い視野からとらえ、外国語としての日本語研究と外国人に対する日本語教育に理論的基盤と実践的指針を与えようとするものである。
日本語教育学講座	日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追究する。また、日本語教授法の理論を開発し、演習によって、理論の有効性を確かめ、日本語教育学及び日本語教育プログラムの完成を目指す。言語理論と教育理論を分離せず、有機的にとらえる努力により、日本語教育の科学的研究の基盤を作ろうとするものである。
現代日本語学講座	現代の日本語を共時的な視点から徹底的に分析、把握する。社会言語学的手法及び音声学的手法が方法論の基本となる。書きことばと話しことばの領域を明確に位置づけ、表現演習（文章表現演習及び口頭表現演習）を厳しく行うことにより、日本語教員の資質・能力の基本と考えられる優れた日本語運用能力を与えることを目指すものである。
応用言語学講座	言語教育のための基礎理論を科学的に構築するために、言語の応用に関する実践的理論を、心理言語学、言語教育学、情報理論等の成果を踏まえて追究する。ともすれば主観的な方法論に陥りやすい日本語教育の実践に、科学的な理論と手法の基礎を与えようとするものである。

授 業 内 容 (大学院修士課程)

修 士 課 程

学 科 目	種別	担当教官	講 義 題 目	週時	単位	備 考
日本語文化専攻						
日本語構造論	講義	深田助教授	統語論と語用論からの日本語文法へのアプローチ	2	4	
日本語運用論	講義	水谷教授	日本人の言語行動	2	4	(国語学特殊研究)
現代日本語学概論	講義	竹内教授	社会言語学的方法による日本語研究	2	4	(国語学特殊研究)
日本語音声学	講義	土岐助教授	日本語音声の諸相	2	4	(国語学特殊研究)
言語構造論	講義	丹辺教授	言語理論と構造主義	2	4	
文 体 論	講義	白井教授	日仏比較文体論	2	4	
日本語表現演習Ⅰ (文章表現)	演習	竹内教授	文章論の実践的研究	2	3	(後隔)
日本語表現演習Ⅱ (口頭表現)	演習	土岐助教授	日本語音声表現の実践的研究	2	3	(後隔)
比較言語文化学原論	講義	升本教授	言語文化の諸相	2	4	
言語文化学方法論	講義	今泉助教授	現代批評理論	2	4	
言語文化交流論	講義	升本教授	文化の移入と受容	2	4	
比 較 文 学	講義	早崎教授	表現主義からシュールレアリスムまでーベルリン・チューリヒ・パリ・東京ー	2	4	
分析批評演習	演習	大野助教授	批評理論研究	2	2	(後)
現 代 日 本 言 語 文 化 論	講義	柴田助教授	近代日本文学の諸相(1) ー自由民権運動と北村透谷ー	2	4	
古典日本文芸論	講義	山下教授	日本文学の美と表現	2	2	(前)
現 代 日 本 映 像 文 化 論	講義	High助教授	戦前・戦中・戦後の日本映画史	2	4	
対照表現演習Ⅰ	演習	升本教授	日・英対照表現研究	2	2	(後)
対照表現演習Ⅱ	演習	今泉助教授	日・英表現演習	2	2	(前)

修士課程

日本語文化

12名

授 業 内 容 (大学院修士課程)

学 科 目	種別	担当教官	講 義 題 目	週 時	単 位	備 考
応 用 言 語 学	講義	小野教授	新言語学を応用しての日本語分析	2	4	
対 照 言 語 学	講義	近藤教授	統語法の普遍性と特殊性	2	4	
対 照 音 声 学Ⅰ (日本語と英語)	講義	飯田助教授	日本語、韓国語、英語の音声面における対照研究	2	2	(前)
対 照 音 声 学Ⅱ (日本語と中国語)	講義	平井教授	日本語と中国語の音声面における対照研究	2	2	(後)
コミュニケーション論	講義	小野教授	機能主義言語学による文章伝達の説明	2	4	
日 本 語 史・ 日 本 語 学 史	講義	田島教授	語彙研究法	2	2	(隔)国文学専攻の「語彙研究法」を受講のこと
言語教育工学演習	演習	飯田助教授	各種教育機器の利用によるコースウェアの設計	3	3	(後)
日本語教育学原論	講義	水谷教授	日本語教育研究の基礎	2	4	
日本語教授法 及び実習Ⅰ (カリキュラム と指導理論)	講義 実習	水谷教授	日本語教授法及び実習	3	3	
日本語教授法 及び実習Ⅱ (能力評価と 教材開発)	講義 実習	深田助教授	能力評価と教材開発	3	3	
外 国 事 情Ⅰ (フランス事情)	講義	大野助教授	フランス文化論研究	2	2	(前)
外 国 事 情Ⅱ (中国事情)	講義	平井教授	中国文化論	2	2	(前)

備考

(前) 前期開講のもの (後) 後期開講のもの (隔) 隔週に授業を行うもの

(後隔) 前期は毎週、後期は隔週に授業を行うもの

[] 転用可

日本言語文化専攻

A類の授業科目のうちから日本語表現演習Ⅰ又はⅡの3単位を含めて11単位、B類の授業科目のうちから比較言語文化学原論4単位を含めて4単位、C類の授業科目のうちから言語教育工学演習3単位を含めて5単位、D類の授業科目のすべて10単位を含めて30単位以上を修得し、研究指導を受けなければならない。

日本言語文化専攻

A類

日本語構造論	講義	4単位
日本語運用論	講義	4単位
現代日本語学概論	講義	4単位
日本語音声学	講義	4単位
言語構造論	講義	4単位
文体論	講義	4単位
日本語表現演習Ⅰ	演習	3単位
日本語表現演習Ⅱ	演習	3単位

B類

比較言語文化学原論	講義	4単位
言語文化学方法論	講義	4単位
言語文化交流論	講義	4単位
比較文学	講義	4単位
分析批評演習	演習	2単位
現代日本言語文化論	講義	4単位
古典日本文芸論	講義	2単位
現代日本映像文化論	講義	4単位
対照表現演習Ⅰ	演習	2単位
対照表現演習Ⅱ	演習	2単位

C類

応用言語学	講義	4単位
対照言語学	講義	4単位
対照音声学Ⅰ	講義	2単位
対照音声学Ⅱ	講義	2単位
コミュニケーション論	講義	4単位
日本語史・日本語学史	講義	2単位
言語教育工学演習	演習	3単位

D類

日本語教育学原論 講義 4単位

日本語教授法及び実習Ⅰ 講義及び実習 3単位

日本語教授法及び実習Ⅱ 講義及び実習 3単位

E類

外国事情Ⅰ 講義 2単位

外国事情Ⅱ 講義 2単位

研究指導

授業科目の内容等

講 座 名	授 業 科 目 名	授 業 内 容
日 本 言 語 文 化 学 講 座	比較言語文化学原論	日本文化と外国文化を、特に言語現象のレベルで比較考察し、文化の構造類型、異文化接触、文化の変容過程等、比較言語文化学の研究領域及び研究の基底にあるべき理念を講述する。
	言語文化交流論	異文化の接触と変容を近代及び現代の日本を中心に言語表現－文学、演劇、ジャーナリズム、日常語－のレベルで歴史的に概観し、特殊研究を例示する。
	対照表現演習Ⅰ	同じ思想内容を日本語と外国語で表現する演習を通して、日本語で文章を書く場合の表現法及び適切な文体の選択法を把握し、日本語表現能力を高めることを目指す。
	言語文化学方法論	言語表現をテキストとして、その中に社会の行動様式や思考・感情の様式を読み取ること、及び言語文化を通時的、共時的に研究する方法論を指導する。
	対照表現演習Ⅱ	近似した意味内容を持つ日本語と外国語の表現を、短文のレベルで、及びディスコースのレベルで、対照的に比較検討し、伝達性の高い表現を目指した日本語と外国語の表現演習を行う。

日 本 語 教 育 学	日本語教育学原論	第二言語教育としての日本語の教育の原理を社会学的、心理学的、教育学的な立場から分析しながら講述する。日本語教育の歴史や社会的な役割についても論述する。
	日本語運用論	日本語の発話、受容行動の実態を、語用論等の手法を土台として音声、表記、語彙、文、談話、非言語行動にわたり論述する。表現意図、場面条件、対人関係等による表現の変異に注目する。
	日本語教授法 及び実習Ⅰ (カリキュラム と指導理論)	日本語教育カリキュラム及び教授法の理論を講述し、実習を通して実践能力を身につけさせる。実習は名古屋大学総合言語センターの日本語研修コースにおいて実施する。
	日本語構造論	日本語の構造を音声、文字、語彙、文、談話にわたって講述する。構文論、意味論を中心に音韻論、文字論にも触れ、できるだけ総合的な分析、把握の仕方を旨とする。
	日本語教授法 及び実習Ⅱ (能力評価と 教材開発)	日本語能力の評価測定の実践及び教材開発技術の習得を中心的課題とする。理論的学習だけでなく、外国人学生を対象として、既に開発した教材を実際に使用してみるなど、具体的な体験を大切にする。
現 代 日 本 語 学	現代日本語学概論	社会方言を扱う位相論、地域方言を扱う方言学から出発して、社会生活の中で実際に使用されている日本語の実態を、具体例を取り上げながら分析、講述する。人類言語学的内容も扱う。
	日本語表現演習Ⅰ (文章表現)	事実を正確に伝える文章表現の訓練を行い、更に日本語教育の場で求められる適切な練習文や読解用文例などの創作活用能力を高める。
	日本語音声学	話しことばの基礎となる音声について、発話を的確に聴取し、音声記号によって記述できる能力を与える。日本語の音声に対する意識的把握力の獲得にねらいを定める。音響学的研究領域をも扱う。

講座	日本語表現演習Ⅱ (口頭表現)	発声、発音練習から出発し、日本語教員にふさわしい正確で表現力豊かな音声表現能力の訓練を行う。朗読や台詞など、高度の音声表現力も志向する。
応用	応用言語学	心理言語学、言語習得理論、言語教育理論、その他言語の応用に関する実践的理論の成果を踏まえて、言語教育のための基礎理論を追究、講述する。
言語学	コミュニケーション論	英語社会及び日本語社会における言語コミュニケーションの実際例を分析しつつ、非言語コミュニケーションとの有機的つながりを考察する。また、文章表現の社会的伝達性、コミュニケーション・ネットワークについても論ずる。
講座	言語教育工学演習	情報化社会に適応した教育効果の期待できる日本語教材の開発を目標とする。パソコン、コンパクトディスク、レーザーディスクをも使用した教材作成の実習を通して、言語教育工学の知識、能力を与える。
	対照言語学	日本語を主として英語と対照させながら、その特性を浮かび上がらせることにより、日本語教育上の問題点を明らかにする。音声、語彙、文、非言語行動の諸領域にわたって比較対照し講述する。
	対照音声学Ⅰ (日本語と英語)	日本語と英語を中心に、特に音声を取り上げ、実験音声学的手法を用いながら講述する。学習者には実験作業を課す。
	対照音声学Ⅱ (日本語と中国語)	日本語と中国語の音声を実験音声学の立場から比較対照し、中国語話者に対する日本語教育の問題点を講述する。学習者には実験作業を課す。
	言語構造論	言語学の基礎的知識を再確認するために、構造主義的な言語理論から出発して、言語学的基本事項を重点的に概観、日本語及び学習者の母語の研究の土台を作り直す。

広島大学大学院

教育学研究科教科教育学専攻

博士課程前期

国語科教育

授 業 科 目		開 設 単位数	履修単位数	
			必 修	選 択
必修科目	国語教育学講義Ⅰ	4	20	12
	国語教育学講義Ⅱ	4		
	国語教育学演習	4		
	国語教育学特別研究	4		
	国語科内容学講義Ⅰ	4		
	国語科内容学講義Ⅱ	4		
	国語科内容学講義Ⅲ	4		
	国語科内容学講義Ⅳ	4		
	国語科内容学演習	4		
	国語科内容学特別研究	4		
	日本語教育学講義Ⅰ	4		
	日本語教育学講義Ⅱ	4		
選択科目	日本語教育学演習	4		
	日本語教育学特別研究	4		
	国語学，国文学			
選択科目	日本語学，日本文学			
	上記以外の 教育学研究科開設科目			
計			32	

備考 (1) 国語教育学又は国語科内容学を主として専攻する者は、専攻領域10単位を含めて20単位を必修とする。また、日本語教育学領域を主として専攻する者は、日本語教育学領域16単位を含め20単位を必修とする。

(2) 日本語教育学領域を専攻する者は、選択科目のうち、主として日本語学及び日本文学のなかから選択履修すること。

博士課程後期

国語科教育

授 業 科 目		開 設 単位数	履修単位数	
			必 修	選 択
必修科目	国語教育学演習	4	16	4
	国語教育学特別研究	12		
	国語科内容学Ⅰ演習	4		
	国語科内容学Ⅱ演習	4		
	国語科内容学特別研究	12		
	日本語教育学演習	4		
選択科目	日本語教育学特別研究	12		
	日本語学，日本文学			
計			20	

備考 (1) 主として専攻する領域の演習4単位、特別研究12単位は必ず履修すること。

(2) 国語教育学又は国語科内容学を主として専攻する者は、2領域にわたって演習を履修すること。また、日本語教育学領域を主として専攻する者は、日本語教育学領域から16単位、選択科目から4単位を履修すること。

授 業 科 目		週 時 数	開 講 年 度 及 び 単 位 数			課 程		講義題目	授 業 内 容	担 当 教 官	備 考
			1	2	3	博 士 前 期	博 士 後 期				
国 語 科 教 育	国 語 学Ⅰ 教 育 講 義	2		4	/	○		国語教育 学研究	(本年度は開講しない)	大 槻	教科教育学専攻 (国語科教育)選 択必修専攻以外選 択
	国 語 学Ⅱ 教 育 講 義	2	4		/	○		国語教育 史研究	国語教育史上の主要 文献を講読し討究す る。	大 槻	
	国 語 学 教 育 演 習	2	2	2	/	○		国語教育 学調査研究	国語科教育実践の調 査・分析を行う。	吉 田	
		2	2	2	2		○	国語教育 学調査研究	世界各国の国語科教 育の実態について調 査・分析する。	大 槻	〃
	国 語 学 特 別 研 究	2	2	2	/	○		国語教育 学特別研究	各自専攻するテーマ を中心に調査・討究 する。	大 吉 大 槻 田	〃
		4	4	4	4		○	国語教育 学特別研究	同 上	大 吉 大 槻 田	〃
	国 語 科 学Ⅰ 内 容 講 義	2		4	/	○		国語科内 容学(国 語学領域)	(本年度は開講しない)	浮 橋	〃
	国 語 科 学Ⅱ 内 容 講 義	2	4		/	○		国語科内 容学(国 文学領域)	古典文学を中心とし た国語科内容の討究	浮 橋	〃
	国 語 科 学Ⅲ 内 容 講 義	2		4	/	○		国語科内 容学(漢 文学領域)	(本年度は開講しない)	森 野	〃
	国 語 科 学Ⅳ 内 容 講 義	2	4		/	○		国語科内 容学(漢 文学領域)	漢文学に関する知識 の習得(「文選」を使 用)	森 野	〃
	国 語 科 学 内 容 演 習	2	2	2	/	○		国語科内 容学(国 語学領域)	現代日本語について の国語科内容学的探 究	江 端	〃
国 語 科 教 育	国 語 科 内 容 学Ⅰ 演 習	2	2	2	2		○	国語科内 容学(国 文学領域)	国文学に関する文献 の調査・研究を行う	浮 橋	〃
	国 語 科 内 容 学Ⅱ 演 習	2	2	2	2		○	国語科内 容学(漢 文学領域)	漢文学における主要 な問題について考察 する。	森 野	教科教育学専攻 (国語科教育)選 択必修専攻以外選 択

授 業 科 目		週 時 数	開 講 年 度 及 び 単 位 数			課 程		講義題目	授 業 内 容	担 当 教 官	備 考
			1	2	3	博 士 前 期	博 士 後 期				
国 語 科 学 特 別 研 究	国 語 科 学 内 容 特 別 研 究	2	2	2	/	○		国語科内 容学特別 研究	各自専攻するテーマ について討究する。	浮 橋 森 野 江 端	〃
		4	4	4	4		○	国語科内 容学特別 研究	同 上	浮 橋 森 野 江 端	〃
	日 本 語 学 教 育 学 特 別 研 究	2		4	/	○		日本語教 育学研究	(本年度は開講しない)	奥 田	〃
	日 本 語 学 教 育 学 特 別 研 究	2	4		/	○		日本語教 育学研究	日本語教育史上の主要 文献を講読し、討 究する。	奥 田	〃
	日 本 語 学 教 育 学 特 別 研 究	2	2	2	/	○		日本語教 育学演習	日本語教育学に関する 内外の文献を購読、 討議する。	奥 田	〃
	日 本 語 学 教 育 学 特 別 研 究	2	2	2	2		○	日本語教 育学演習	第二言語習得上の諸 問題に関する最近の 文献を購読、討議する。	奥 田	〃
	日 本 語 学 教 育 学 特 別 研 究	2	2	2	/	○		日本語教 育学特別 研究	各自専攻するテーマ を中心に、調査、研 究、討議、報告を行う。	奥 田	〃
		4	4	4	4		○	日本語教 育学特別 研究	同 上	奥 田	〃
	国 語 学	2	4	4	/	○				小 林 (文学 部)	教科教育 学専攻 (国語科 教育)選択
	国 文 学	2	4	4	/	○				稲 賀 (文学 部)	〃
	国 文 学	2	4	4	/	○				米 谷 (文学 部)	〃
	日 本 語 学 講 義	2	4	4	/	○		日本語学 研究	日本語学に関する最近 の文献を講読討究 する。	木 坂	〃
	日 本 語 学 演 習	2	2	2	/	○		日本語学 演習	日本語史学研究上の 基本問題を追求する。	沼 本	〃
	日 本 語 学 演 習	2	2	2	2		○	日本語学 演習	日本語学に関する問題 を各自のテーマと 結びつけて検討する。	木 沼 坂 本	〃
	日 本 文 学 講 義	2	4	4	/	○			日本近代文学における 作品と作家の問題 を考察する。	相 原	教科教育 学専攻 (国語科 教育)選択
	日 本 文 学 演 習	2	2	2	2		○		近代を中心とする日 本文学を対象として、 研究法を討究する。	相 原	〃

広島大学

教育学部日本語教育学科

日本語教育学科専門教育カリキュラム

日本語教育学		単位	学期	日本語学		単位	学期
日本語教育学・日本語教育方法論・国際教育	日本語教育学概論	②	3	日本語学・日本語表現法	日本語学概論	②	2
	日本語教育学研究	2	4		日本語学研究	2	3
	日本語教育史	2	5		日本語学演習	1	4
	日本語教育研究法	2	6		日本語史	②	6
	世界の日本語教育	2	2		日本語研究史	2	7
	日本語教育課程論	②	5		日本語音声学	②	5
	日本語教育課程論演習	1	6		日本語音声学演習	1	6
	日本語教育方法論	②	6		日本語音韻論	2	7
	日本語教育評価法	2	7		日本語音韻論演習	1	8
	日本語発音・文字・語彙指導論	2	3		日本語文字・表記研究	2	5
	日本語文法指導論	②	4		日本語文字・表記研究演習	1	6
	日本語会話指導論	2	5		日本語文法研究	②	4
	日本語読解指導論	2	7		日本語文法演習	1	5
	日本語文章・表現指導論	2	8		日本語語彙論・意味論研究	2	6
	誤用分析研究	2	5		日本語語彙論・意味論演習	1	7
	誤用分析研究演習	1	6		日本語表現法研究	②	3
	日本語教育教材・教具開発研究	②	5		日本語表現法演習	1	4
	日本語教育教材・教具開発演習	1	6		日本語談話法研究	2	5
	日本語教育のための視聴覚機器演習	1	7		日本語談話法演習	1	6
	日本語教育授業研究	2	4		日本語会話表現研究	2	8
	日本語教育実地研究	1	6	合計	総単位	32	
	日本語模擬授業研究	1	7		必修単位	⑩	
合計	国際教育論Ⅰ	②	6				
	国際教育論Ⅱ	2	7				
	国際教育交流論	2	7				
	海外教育事情	2	3				
	海外子女教育研究	2	4				
		総単位数	48				
		必修単位	⑫				

言語学		単位	学期	日本文化学		単位	学期
第二言語習得論・対照言語学	応用言語学概論	②	3	日本文化学・現代日本文学	日本文化概論	②	4
	構造言語学	2	4		日本文化研究	2	5
	社会言語学	②	5		日本文化演習	1	6
	社会言語学演習	1	6		日本文化・思想史	2	6
	言語・非言語コミュニケーション研究	2	7		日本文化・思想史演習	1	7
	心理言語学	2	3		比較文化論	②	3
	第二言語習得論	②	6		比較文化論演習	1	4
	言語習得と二カ国語併用	2	7		文化摩擦論	2	7
	言語治療学	2	8		日本人論	2	7
	生成文法研究	2	5		アジア社会文化論	2	8
	生成文法演習	1	6		現代日本文学概論	②	3
	対照言語学	②	4		現代日本文学研究	2	4
	対照言語学演習Ⅰ	1	5		現代日本文学演習	2	5・6
	対照言語学演習Ⅱ	1	6		日本文学史概論	②	6
	対照言語学演習Ⅲ	1	7		日本古典文学演習	1	7
	対照言語学演習Ⅳ	1	8		世界文学と日本文学	2	3
	対照語用論研究	2	6		日本の古典芸能概説	2	5
	世界の諸言語	2	3		日本の歴史概論	2	3
	実験音声学	2	5		日本の地理概論	2	4
	実験音声学演習	1	6		日本の政治概説	2	3
言語工学	2	7	日本の科学と技術概論	2	4		
				世界の政治概説	2	5	
合 計		総 単 位	35	合 計		総 単 位	40
		必 修 単 位	⑧			必 修 単 位	⑧
				総 合 計		総 単 位	155
						必 修 単 位	③⑨

(○印は必修科目38単位、
選択必修科目18単位以上、
なお卒業必要単位128単位)

(○印は必修科目38単位,
選択必修科目18単位以上,
なお卒業必要単位128単位)

授業科目	単 位 数	担 教 官	授 業 内 容	学期	備 考
日 本 語 教育学概論	2	奥 田	日本語教育学の領域と課題及び外国語としての日本語教育の原理・内容・方法について概説する。	3	学科必修
日 本 語 教育学研究	2	奥 田	日本語教育学の原理・内容・方法に関する理論的・実践的研究を行う。	4	学科選択
日 本 語 教育 史	2	奥 田	国内・海外の日本語教育の歴史を概観する。	5	学科選択
日 本 語 教育研究法	2	岡 崎	日本語教育の新時代に対応し得る、教育方法のあり方を理論的諸領域において論ずる。	6	学科選択
世 界 の 日本語教育	2	奥 田 ほか	北米、南米、ヨーロッパ、オーストラリア、中国、韓国、東南アジア諸国における日本語教育の現状と課題について述べる。	2	学科選択
日 本 語 教育課程論	2	縫 部	日本語教育の教授・学習過程、カリキュラム、シラバス論について概説する。	5	学科必修
日本語教育 課程論演習	1	縫 部	日本語教育の教授・学習過程、カリキュラム、シラバス論について演習する。	6	学科選択
日本語教育 方 法 論	2	奥 田	日本語教育研究方法論の各自の選んだ研究課題について指導する。	6	学科選択
日本語教育 評 価 法	2	縫 部	日本語テストの種類とその作成法及び評価法について論ずる。	7	学科選択
日本語発音 文字・語彙 指 導 論	2	カッケン ブッシュ	日本語の発音・文字・語彙の指導上の問題について検討する。	3	学科選択 (国語学)
日本語文法 指 導 論	2	カッケン ブッシュ	日本語の文法指導上の問題について検討する。	4	学科必修 (国語学)
日本語会話 指 導 論	2			5	学科選択 〔本年度 は開講 しない〕 (国語学)

日本語統解 指 導 論	2	岡 崎	スキルシラバスによる日本語統解指 導の方法論、シラバス、教材について 論ずる。	7	学科選択 (国語学)
日本語文章 表現指導論	2	カッケン ブッシュ	日本語教育における作文指導の問題 について検討する。	8	学科選択 (国語学)
誤 用 分 析 研 究	2	長 友	学習者の誤用例を分析し誤用の原因 を理論的・実践的に究明する。	5	学科選択 (国語学)
誤 用 分 析 研 究 演 習	1	長 友	実際の日本語の誤用例の収集、及び 分析の方法について習熟することを目 的とする。	6	学科選択 (国語学)
日本語教育 教材・教具 開 発 研 究	2	岡 崎	日本語教育におけるマテリアル・デ ザインの理論と形式を研究する。	5	学科必修 〔本年度 に限り 6セメ に開講〕
日本語教育 教材・教具 開 発 演 習	2			6	〔本年度 は開講 しない〕
日本語教育 のための 視聴覚機器 演 習	1	水 町	日本語教育の教材試作を通し視聴覚 機器の利用法の演習を行なう。	7	学科選択
日本語教育 授 業 研 究	2	日本語教 育学科教 官 全 員	日本語の授業の多面性を理解するた めに、日本語教育学、日本語学、言語 学、日本文化学、のそれぞれの立場か ら授業研究を行う。	4	学科選択
日本語教育 実地研究Ⅰ	1	岡 崎	日本語の授業の計画、教材作成、教 室活動の基礎を実践的に指導する。	5	学科選択
日本語教育 実地研究Ⅱ	1	縫 部	日本語授業の理論的実践的指導を行 なう。	6	学科選択
日本語模擬 授 業 研 究	1	カッケン ブッシュ	日本語教育の教壇実習及びその事前 事後の指導を行なう。	7	学科選択
国 際 教 育 論 Ⅰ	2		1. 比較教育学の概念 2. 比較教育学の研究手法 3. 教育の国際比較 4. 世界の教育動向分析	5	学科必修

国際教育論Ⅱ	2			7	学科選択
国際教育交流論	2			7	学科選択 〔本年度に限り8セメに開講〕
海外教育事情	2		アジア諸国及び欧米主要国の教育事情について概観する。	3	学科選択 〔本年度は開講しない〕
海外子女教育研究	2	上原(麻)	海外成長日本人児童及び帰国児童の教育の実態・問題点について、先進国、途上国の日本人学校、補習校、帰国後の受入れ校の現状を中心に講義・討議を行う。	4	学科選択 〔本年度に限り3セメに開講〕
日本語学概論	2	木坂	日本語を世界の諸言語の1つとしてとらえ、新しい視点から日本語の特質について考察する。	2	学科必修 (国語学)
日本語学研究	2	沼本	現代日本語の音韻・文法・語彙等関にする研究の方法について考察する。	3	学科選択 (国語学)
日本語学演習	1	多和田	現代の日本語の音韻・文法・語彙に関する分析・記述の方法について演習を行う。	4	学科選択 (国語学)
日本語史	2	沼本	日本語の歴史的変遷を論述し、現代日本語の成立の背景を考察する。	6	学科必修 (国語学)
日本語研究史	2	木坂	主として外国人の日本語研究のあとを歴史的にたどりその意義について論述する。	7	学科選択 (国語学)
日本語音声学	2	町	現代日本語の音声の実態と特質について考察する。	5	学科必修 (国語学)
日本語音声学演習	1	町	日本語の音声を分析しその特質を明らかにするための実証的方法を演習する。	6	学科選択 (国語学)
日本語音韻論	2	沼本	日本語音韻論の方法を研究し日本語音韻体系の特色を明らかにする。	7	学科選択 (国語学)

日 本 語 音韻論演習	1	沼 本	日本語音韻体系の特色を明らかにする ための実証的方法を演習する。	8	学科選択 (国語学)
日本語文字 ・表記研究	2			5	学科選択 〔本年度 は開講 しない〕 (国語学)
日本語文字 ・表記研究 演 習	1	白 川	日本語の文字・表記の方法・種別な どの特質について考察演習する。	6	学科選択 (国語学)
日 本 語 文 法 研 究	2	白 川	日本語の文法の特質を明らかにし、 現代日本語文法論上の諸問題について 考察する。	4	学科必修 (国語学)
日 本 語 文 法 演 習	1	白 川	日本語の文法の特質を明らかにする ため実証的方法を演習する。	5	学科選択 (国語学)
日 本 語 語 彙 論 ・ 意味論研究	2	町	日本語の語彙・意味の特質について、 語彙論・意味論の立場から考察する。	6	学科選択 (国語学)
日 本 語 語 彙 論 ・ 意味論演習	1	町	日本語の語彙・意味の特質を明らか にするための実証的方法を演習する。	7	学科選択 (国語学)
日 本 語 表現法研究	2	木 坂	日本語の口頭表現及び文章表現の特 質を明らかにし、表現論上・文体論上 の諸問題を扱う。	3	学科必修 (国語学)
日 本 語 表現法演習	1	木 坂	日本語の口頭表現および文章表現に 関する分析・記述の方法について演習 を行う。	4	学科選択 (国語学)
日 本 語 談話法研究	2	白 川	日本語の談話活動・談話表現の特質 を明らかにし、談話分析の方法を考察 する。	5	学科選択 (国語学)
日 本 語 談話法演習	1	木 坂	日本語の談話活動・談話表現の構造 を具体的資料によって明らかにし談話 分析の方法を演習する。	6	学科選択 (国語学)

日本語会話表現研究	2	町	日本語会話表現の特質を述べ、会話表現研究の方法を考察する。	8	学科選択 (国語学)
応用言語学概論	2	城 田	言語学及びその関連領域を概観し、日本語教育との関連を考察する。	3	学科必修
構造言語学	2	城 田	構造言語学の方法による言語の分析・記述について述べる。	4	学科選択
社会言語学	2	熊取谷	社会言語学の諸領域を概観し、その課題を考察する。	5	学科必修
社会言語学演習	1	熊取谷	社会言語学の研究方法についての理解を深めるための演習を行う。	6	学科選択
言語・非言語コミュニケーション研究	2	熊取谷	コミュニケーションの民族誌学の視点から言語・非言語コミュニケーションの諸問題を考察する。	7	学科選択
心理言語学	2	細 田	言語行動の心理と発達を第二言語習得論の側面から扱う。	6	学科選択
第二言語習得論	2	細 田	第二言語習得にかかわる要因について研究する。	5	学科必修
第二言語習得論演習	1	細 田	第二言語習得について理論的、実験・調査的に考究する。	6	学科選択
言語習得と二か国語併用	2	細 田	二元語併用に伴う心理メカニズムを第二言語習得論の側面から扱う。	7	学科選択
言語治療学	2	細 田	第二言語習得に随伴する心理的諸問題とその治療について考察する。	8	学科選択
生成文法研究	2			5	学科選択 〔本年度は開講しない〕
生成文法演習	1			6	学科選択 〔本年度は開講しない〕

対照言語学	2	水 町	日本語と他の言語の差異や類似点について考察する。	4	学科必修
対照言語学 演 習 I	1	熊取谷	日本語と英語の対照研究の演習を行う。	5	学科選択
対照言語学 演 習 II	1	沼 本	古代語・現代語の両面から、日本語と中国語の対照研究の演習を行う。	6	学科選択 (漢文学)
対照言語学 演 習 III	1	城 田	日本語とロシア語の音韻・語彙について対照研究の演習を行う。	7	学科選択
対照言語学 演 習 IV	1	城 田	日本語とロシア語の文構造について対照研究の演習を行う。	8	学科選択
対照語用論 研 究	2	熊取谷	日本語と英語の語用論上の諸問題を考察する。	6	学科選択
世 界 の 諸 言 語	2	城 田 他	世界の諸言語を概観し、その特徴を考察する。	3	学科選択 (本年度 に限り 4セメ に開講)
実験音声学	2	水 町	実験音声学的方法により得られた言語の音声的特徴を日本語を中心に考察する。	5	学科選択
実験音声学 演 習	1	水 町	主に日本語の音声について実験音声学的な演習を行う。	6	学科選択
言語工学	2	水 町	言語教育・研究におけるコンピュータの利用について考察する。	7	学科選択
日 本 文 化 概 論	2	中 村	日本文化の特質、日本人の思考、行動様式等について概説する。	4	学科必修
日 本 文 化 研 究	2	中 村		5	
日 本 文 化 演 習	1	木 村		6	

日本文化・ 思想史	2	中 村		6	〔本年度 に限り 5セメ に開講〕
日本文化・ 思想史演習	1	中 村		7	学科選択
比較文化論	2	斎 藤	日本と西欧の芸術文化の比較研究を 歴史的に追求し、また美意識論的に吟 味検討する。	3	学科必修
比較文化論 演 習	1	斎 藤	芸術文化の比較学的研究の基礎づけ と方法論について演習を行う。	4	学科選択
文化摩擦論	2	斎 藤	日本とヨーロッパにおける芸術文化 の摩擦問題をとりあげその異化・同化 を検証する。	7	学科選択
日本人論	2	斎 藤 他		7	学科選択
アジア社会 文 化 論	2	嶋	アジア諸社会の社会構造を比較検討 する。 教科書：中根干枝著「社会人類学」 東京大学出版会、1987年	8	学科選択
現代日本文 学 概 論	2	相 原	明治以降現代までの日本文学の流れ を概観し、各作家の特色について考察 する。	3	学科必修 (国文学)
現代日本文 学 研 究	2	相 原	近・現代の日本文学の作家研究・作 品研究を通じて、読解・鑑賞指導のた めの研究を行う。	4	学科選択 (国文学)
現代日本文 学 演 習	1	相 原	戦後の現代文学を主軸として、作品 分析、作家論・文化論等のアプローチ の方法を追求する。	6	学科選択 (国文学)
現代日本文 学 演 習	1	相 原	日本近代文学研究法。 日本近代・現代文学を対象として本 格的な研究方法を探究する。 レポートのほか毎週全員担当となる のが関心の深い者のみの参加が望まし い。	7	学科選択

日本文学史 概 論	2	相 原	古代から近代までの日本文学の流れを追跡し、各時代の作風と歴史・文化との関わりを考察する。	5	学科必修 (国文学)
日本古典 文学演習	1	伊 井 (非常勤)	公任と同時代の文学者たち 平安時代中期文学形成の中心をなした公任について、『公任集』を読みながら当時の文学者たちとの交流の様相や、和歌・物語成立等の背景を深める。 あわせて、作品に登場する花山天皇・道長・実資・実方のかは、和泉式部・清少納言・紫式部・赤染衛門等の人物や文学活動も考察していく。 テキスト『公任集』(桜楓社, 980円)	7	学科選択 (集 中) (国文学)
世界文学と 日本文学	2	水 島	文学の交流について、象徴詩の翻訳を中心しとて考察する。	3	学科選択 (国文学)
日本の古典 芸能概説	2	原 田 (非常勤)	日本の古典芸能(能, 狂言, 歌舞伎, 茶道, 華道等)の成立と展開及びその特質について考察する。	5	学科選択
日 本 の 歴史概論	2	頼		3	学科選択 (本年度 に限り 4セメ に開講)
日 本 の 地理概論	2	中 山		4	学科選択
日 本 の 政治概説	2	今 中 他	「政治学入門」 戦後日本の政治のしくみと動きを中心にして講義を行う。 ※授業時間は木曜日・7・8時限	3	学科選択 (法学部 で開設)
日本の科学 と技術概論	2	未 定		4	学科選択
世界の政治 概 説	2	原 他		5	学科選択

愛知教育大学

教育学部総合科学課程日本語教育コース

日本語教育コース

日本語教育選修

授業科目		履修方法	学年別履修単位				
			I	II	III	IV	計
一般教育科目	人文分野 社会分野 自然科学分野 総合野分	必修	2				2
		選択	22				22
外国語科目	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	選択	6	6			12
保健体育科目	保健体育理論 保健体育実技	必修	2	2			4
専門教育科目	課程内共通科目	必修	4				4
	コース内共通科目	必修	4				4
		選択	4				4
	専攻科目	必修		10	16	2	28
		選択		12	8	8	28
	教育科目	必修			10		10
卒業研究	卒業研究	必修				10	10
	—	自由			10		10
単位数計			44	30	34	20	138
					10		

国際文化・日本語教育コース内共通科目学年別履修基準及び授業科目配当表

区分	授業科目	学年 必修 単位 選択 単位	I	II	III	IV	計	
			4				4	8
必修科目	国際関係論		国際関係論 Ⅱ 4				4	
選択科目	比較文化論		比較文化論Ⅰ Ⅱ 2				8	
			比較文化論Ⅱ Ⅱ 2					
	情報文化論		情報文化論Ⅰ Ⅱ 2					
			情報文化論Ⅱ Ⅱ 2					

日本語教育選修専攻科目学年別履修基準及び授業科目配当表

学年 必修 単位		
--	--	--

1 年生 国際関係論（必修）

1 総論

- 1) 国際関係論の今日的意義。
- 2) 分析の枠組。

2 各論

- 1) 軍備。 2) 地域紛争。 3) 南北問題。 4) 経済摩擦。 5) 人間集団の国際的移動。

3 展望

- 1) 国際的紛争管理に向けての試み。
- 2) 日本にとっての「国際化」とは。

比較文化論Ⅰ

中江兆民、夏目漱石、加藤周一、本多勝一など、近代および現代の日本人が外国文化をどのように受容し、体験し、評価したかについて講義する。

比較文化論Ⅱ

外国人の見た日本文化。シーボルト『日本』、モース『日本その日その日』、ベネティクト『菊と刀』、ブロズナハン『しぐさの比較文化』その他をとり扱う。他に梅棹忠夫の文明論、ヘルダーの言語論、ナチズムを生んだドイツ文化等々との対比で、日本文化に照射をあてる。

2 年生 日本語学概説Ⅰ（必修）

日本文法論序説。述語構造の分析を中心として現代日本語文法の基礎的事項を論じる。（プリント使用。また、概説Ⅱのテキストも参照する。参考文献は随時指示する。）（藤田）

日本語学研究Ⅰ（必修）

古代から中性・近代に至る日本語音韻・アクセントに関する文献資料を検討し、日本語史への理解を深める。（プリント使用。）（藤田）

言語学概説Ⅰ、Ⅱ（必修）

現代言語学全般に関する基礎的な事項を概説する。（英文教科書使用）（安武）

対照言語学Ⅰ（必修）

日本語と英語のシンタックスの比較対照を行う。文構造や動詞文型、テンスやアスペクト等の比較を通して対照言語学の方法を学ぶ。

使用教科書は『日英語比較講座第2巻文法』大修館書店を予定。（小宮）

日本語教育学概説（必修）

日本語教育の現状と問題点、教授法、カリキュラム、コースデザイン等について概説する。（関）

日本語学概説Ⅱ

日本語の音韻・表記・語彙を中心に基礎的事項を概説する。（テキスト：佐田智明・他『新しい国語学』朝倉書店）（藤田）

言語生活

「生活の中の言語」ではなく、「言語に関する生活全般」について概説する。特に、敬語の問題をとりあげ、非言語的側面からも考察する。(関)

日本語史

日本語の歴史的な変遷について概観する。現象面のみでなく、その根拠・原因などについても考えてみたい。(宇都宮)

心理言語学

人間の言語と頭脳との関係に関する研究の現状を概説する。(英文教科書使用)。(安武)

日本文化論

文化人類学的視点から、日本文化論に関する従来の諸説を再検討し、さらに日本人の家族観、宗教観、生死観などを個別に考察する。(前田)

日本文学史

日本近代文学史について講述する。(田沢)

漢文学

東洋学教室の「漢文学AⅠ」と同じ。

日本史概説

日本史の概説及び研究上の問題点を講義する。(西宮)

英米文化論

平成元年度英米文化選修の「イギリス文化史Ⅱ」(2年必修)と同じ。

英米文化史

イギリス文化の流れを原点にあたりながら概説する。(久田)

アメリカ文学の主要作品を読み、アメリカ文学の特質を探る。(藤平)

3年生

日本語学演習Ⅰ(必修)

動詞の意味分析を中心に意味分析の理論と方法を検討する。(テキスト：国広哲弥『意味論の方法』大修館書店)(藤田)

日本語音声学(必修)

1. 調音音声学：
 - (1)音声器官
 - (2)調音点
 - (3)調音方法
 - (4)音声の分類：母音と子音
2. 音韻論と音声表記
3. 日本語の語と文：
 - (1)アクセント
 - (2)音調
4. 言語音声学

日本語の言語音の記述・説明をなし、同時に視聴覚教材を併用して聴取・発話の訓練を課して、日本語の教授能力を高める。また、音声言語の分析・合成などの手法に関する知識・情報を授けると共に実習を行う（打田）。

日本語表現法Ⅰ（必修）

日本語における「引用」研究に関する論文を輪読し、「引用」研究の展開を跡づける。

また、現代文学作品の文体分析への「引用」研究の展開の可能性を模索する。（論文のコピーを指示に従って各自とっておくこと。）（藤田）

外国語演習Ⅰ（必修）

英語の速読速解とリスニングの向上をねらいとする。毎回短時間のテストと解説という形式ですすめてゆく。

使用教科書は「New Comets Grade III」桐原書店

「Listening Fluency」セイドー外国研究所を予定。（小宮）

現代日本の経済（必修）

企業行動の立場から現代日本経済を分析する。（越前谷）

国際関係論概説（必修）

1 総論

- 1) 国際関係論の今日的意義。
- 2) 分析の枠組。

2 各論

- 1) 軍備。
- 2) 地域紛争。
- 2) 南北問題。
- 4) 経済摩擦。
- 5) 人間集団の国際的移動。

3 展望

- 1) 国際的紛争管理に向けての試み。
- 2) 日本にとっての「国際化」とは。

日本語教育演習Ⅰ（必修）

話しことばを言語行動の観点から検討する。（越前谷）

日本語教育実習（必修）

授業分析（VTR）、授業見学（日本語教育機関）、実習授業（本学留学生を対象に）を行う。（関）

社会言語学

社会言語学の現状について全般的に概観したあと、その位置づけのもとに、言語行動論、とりわけ、最近注目をあびつつある、言語コミュニケーションにおける情報伝達構造の問題に焦点をあてて考察する。（森山）

現代日本文学論

日本言語文化概説（国際文化コース・日本文化選修）の〈後期〉に同じ。（谷口）

日本地誌

日本の農業生産地域の動向を地理学的に取り上げて講義する。(松井)

現代日本の政治

人類学的視点から、政治や社会を考察する。(前田)

海外教育事情

平成元年度教育学教室の「西洋教育史演習」(3年選択)と同じ。

日本語教育演習Ⅱ

「日本語教育文法」、なかでも文型のとらえ方を中心に演習を行う。(関)

区分	授業科目	学年		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
		必修	単位					
						10		10
必修科目	教育学					教育原理(中等) a ₄		10
	道德教育					道德教育の研究 a ₂		
	教育心理学					教育心理学 a ₂		
	発達心理学					青年心理学 a ₂		

琉球大学

教育学部総合科学課程日本語教育コース

(履修単位数)

科 目	一般教育 科 目 等	専 門 教 育 科 目					
		課程基礎 科 目	コ ー ス				合 計
			必修科目	選択科目	自由科目	卒業研究	
最低履修 単 位 数	52	12	20	28	17	4	81

課 程 基 礎 科 目		
人 間 と 言 語 日 本 語 概 論	人 間 と 自 然 情 報 科 学 概 論	社 会 と 技 術 論 文 作 成 法

日 本 語 教 育 コ ー ス	
必 修 科 目	日本語音声学 対照言語学
	日本語文法学 日本語教授法
	日本語語彙学 日本語教育教材開発研究
	日本語史 教育原理 I
	日本語文字学 教育心理学
	社会言語学
選 択 科 目	日本語史 II 日独語の対照研究
	日本語学研究史 日仏語の対照研究
	言語生活論 世界言語概説
	日本方言学 日本語表現法
	言語地理学 日本事情 I
	言語心理学 日本事情 II
	社会言語学 外国語講読 I
	比較言語学 外国語講読 II
	日本語音韻論 外国語講読 III
	日英語の対照研究 日本語教育評価法
	日韓語の対照研究 日本語教育教実習
	日中語の対照研究

課程基礎科目

☆印は新規開講予定

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 内 容
☆人間と言語	2	1-2	○言語認識のメカニズム、言語習得の過程、日本人と欧米人の認識パターンの異同、言語の本質・機能、伝達、記号論等。
☆人間と自然	2	1-2	○生命体としての人間をとりまく自然環境について、科学史的見地を含めて自然科学の諸分野からアプローチし、現代の環境問題等についてもふれる。
☆社会と技術	2	1-2	○技術の進展と社会システムの変化の関係を概説する。
☆日本語概論	2	1-2	○世界の中の日本語の特質について、その音声・文法・語彙・文字・表現等の体系的理解と理論化。
☆情報科学概論	2	1-2	○システム概念、情報と制御、コンピュータ、計算と情報化社会、情報と生体、自然と情報等。
☆論文作成法	2	1-2	○人文、社会、自然科学の各分野にわたる論文作成方法の指導。

日本語教育コース必修科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 内 容
☆日本語音声学	2	1	○音声器官のメカニズム、発音の機構、調音の方法、音声について、その単音レベル、音節レベル、単語レベル、文レベル、談話レベルの特徴を理論と実際の発音訓練を通して習得させる。
☆計量言語学	2	1-2	○コンピュータによる言語事象及び言語構造の数量化とそれによる観測値の操作の方法について概説する。
☆日本語文法学	2	2-3	○日本語の文法構造について、文の成分、文の成文となる形態論的特徴について理解させるとともに理論化させる。
☆日本語語彙学	2	2-3	○日本語の語彙構造について理論的に学習させる。基本語彙と基礎語彙、語構成、辞書、語・句・文章・談話の意味について体系的に理解させるとともに理論化させる。
☆日本語文字学	2	2-3	○日本語の表記体系の特色である漢字及び仮名の構造、送り仮名、仮名遣い、書記方法を理解させ、理論化させる。
☆対照言語学	2	2-3	○特定言語間の対照的研究の原理を理論的に理解させる。
☆日本語教授法	2	3-4	○日本語教育の目的・方法、日本語教育と言語研究との関係、外国語教授法、日本語構造の習得過程、指導方法、カリキュラムの作成方法等。
☆日本語教育教材開発研究	2	3-4	○日本語教育の教材の具体的使用方法、新しい日本語教材の開発の方法について具体的、理論的に学習させる。
教育原理 I	2	1-2	
教育心理学	2	1-2	
卒業研究	4	4	

日本語教育コース選択科目

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 内 容
言語心理学	2	1 - 2	○意味の分析、言語の学習過程、言語と思考等との問題についての理論。
☆言語生活論	2	2 - 4	○コミュニケーション理論、談話語における話し聞く能力と技術、マスコミによる伝達の特質、異文化間コミュニケーションの問題など。
言語地理学	2	2 - 4	
社会言語学	2	2 - 3	
比較言語学	2	2 - 3	
日本語史	2	2 - 4	
日本語学研究史	2	2 - 4	
日本方言学	2	2 - 4	
日本語音韻論	2	2 - 4	
日英語の対照研究	2	2 - 4	○日英両語の音形構造、文法構造、語彙構造等を比較対照して、その異同を明らかにし、かつその差異を手がかりとして両言語の分析をさらに深め、その成果を日本語教育に応用する。
☆日韓語の対照研究	2	2 - 4	○日韓両語の音形構造、文法構造、語彙構造等を比較対照して、その異同を明らかにし、かつその差異を手がかりとして両言語の分析をさらに深め、その成果を日本語教育に応用する。
☆日タイ語の対照研究	2	2 - 4	○日タイ両語の音形構造、文法構造、語彙構造等を比較対照して、その異同を明らかにし、かつその差異を手がかりとして両言語の分析をさらに深め、その成果を日本語教育に応用する。
☆日独語の対照研究	2	2 - 4	○日独両語の音形構造、文法構造、語彙構造等を比較対照して、その異同を明らかにし、かつその差異を手がかりとして両言語の分析をさらに深め、その成果を日本語教育に応用する。
☆日仏語の対照研究	2	2 - 4	○日仏両語の音形構造、文法構造、語彙構造等を比較対照して、その異同を明らかにし、かつその差異を手がかりとして両言語の分析をさらに深め、その成果を日本語教育に応用する。
☆世界言語概説	2	2 - 4	○世界の言語、アジアの言語・ヨーロッパの言語・南北アメリカ大陸の言語などの実情及び歴史を概観し、それぞれの言語の発生、系統、分類の概要を理解させる。
日本語表現法	2	2 - 4	
☆日本事情 I	2	2 - 4	○日本語の育景となっている日本の歴史、文化、社会についての概論を行ない、日本についての総合的理解を深めさせる。

☆日本事情 II	2	2 - 4	○日本の政治、経済、文化、社会、歴史についてさらに詳しく学習させ、その理解を深めるとともに理論化させる。
外国語講読 I	2	2 - 4	
外国語講読 II	2	3 - 4	
外国語講読 III	2	3 - 4	
☆日本語教育評価法	2	2 - 4	○日本語教育の評価の対象・目的・効果・方法の研究、テストの作り方。
☆日本語教育実習	2	3 - 4	○日本語教育に関する知識を集約し、指導案の作成及び実地実習を行い、テスト結果の分析の方法などについて、理論的具体的に習得させる。

香川大学

教育学部総合科学課程言語文化コース言語学日本語教育専攻

総合科学 課程	言語文化コース	言語学・日本語教育, 日本語文化 英語文化, ドイツ語文化, フランス語文化 ロシア語文化, 中国語文化	
	人間文化コース	思想, 形成, 行動, 社会, 地域, 歴史	
	情報科学コース	情報科学	
	基礎科学コース	情報化自然科学サブコース	情報化自然科学
		物質生命科学サブコース	物質生命科学
		自然史研究サブコース	自然史研究

教育内容

<言語学・日本語教育>

この分野では, 諸外国語および言語学, 日本語学に関する豊かな知識, 能力を身につけ, それを基にして, 言語に関する諸種のテーマを研究したり, 日本語と外国語の対照的研究, 日本語教育の理論や実践に関する研究などを行い, 日本語教員となるための能力を養う。

秦 隆昌 (スペイン語, フランス語などラテン系の言語を中心とした諸言語の
歴史的研究)

友沢昭江 (日本語学, 日本語教育実践論……教授法, 教材開発の研究)

平成元年度授業科目表

コース関係科目

言語文化コース

区分	授業科目	授業名	単位	形式	担当教官	標準履修学期	毎週時数	コース必修	専攻必修	備考	記録
言語学・日本語教育	言語学概論	言語学概論	4	L	秦	3・4	2	◎			
	音声学	日本語音声学	2	L	(未定)	4	2	◎			
	社会言語学	社会言語学	2						○	休講※	
	言語学特別演習	言語学特別演習	2	E	秦	7・8	2	(○)		休講	
	日本語学概論	日本語学概論	4	L	(未定)	4	4	◎			
	日本語文法論	日本語文法論	2	L		6	2	◎		休講	
	国語史講義	国語史講義	2	L	柴田	4・6	2		○		
	日本語文字・表記論	日本語文字・表記論	2	L	(未定)	6	2		○	休講	
	日本語語彙論	日本語語彙論	2						○	休講※	
	日本語学特別演習	日本語学特別演習	2	E		7・8	2	(○)		休講	
	古典語	ギリシヤ語	2	E	斉藤	1～8	2			休講	隔年開講
	〃	ラテン語	2	E	秦	1～8	2				
	選択外国語	スペイン語	2	E	〃	1～8	2			休講	隔年(非常勤)開講
	〃	韓国・朝鮮語	2	E	韓	1～8	2				
	日本語教育法	日本語教育法	4	L	(未定)	4	4		○		
	日本語教育教材教具論	日本語教育教材教具論	2	L		5	2		○	休講	
	日本語教育実習	日本語教育実習	3	P	友沢	7	2		○	休講	
	日本語教育特別演習	日本語教育特別演習	2	E		7・8	2	(○)		休講	

- (備考) 1. 当分の間、「社会言語学」は「英語学演習Ⅰ」を、「日本語語彙論」は「国語学演習Ⅰ」をもって当てる。
2. 日本語教育関連の「日本事情」には、比較文化(異文化間コミュニケーション論)、国文学特殊講義(日本古典芸能史)、日本文化史、日本社会史論を、相当する授業科目(授業名)として指定する。

日本語教育コース

区 分	最低修得 単 位 数	授 業 科 目 (授業名)	単 位
言語学・日本語学	20	言語学概論	4
		社会言語学	2
		音 声 学 (日本語音声学)	2
		日本語学概論	4
		日本語文法論	2
		国語史講義	2
		日本語文字・表記論	2
		日本語語彙論	2
日 本 語 教 育	9	日本語教育法	4
		日本語教育教材教具論	2
		日本語教育実習	3
日 本 事 情	2	異文化間コミュニケーション論	2
		日本古典芸能史	2
		日本文化史	2
		日本社会史論	2
合 計	31		

京都教育大学

総合科学課程言語文化コース日本語文化専攻

総合科学課程 95名

コ ー ス 名	専 攻	募 集 人 員
情 報 教 育 コ ー ス	情 報 数 学	10
	情 報 応 用	10
	情 報 生 活	5
	情 報 音 楽	5
社 会 文 化 コ ー ス	現 代 社 会	10
	地 域 ・ 歴 史 文 化	10
言 語 文 化 コ ー ス	日 本 言 語 文 化	5
	欧 米 言 語 文 化	5
自 然 科 学 コ ー ス	物 質 科 学 生 命 科 学 環 境 科 学	25
ス ポ ー ツ ・ 健 康 コ ー ス	ス ポ ー ツ 教 育 学 健 康 科 学	10
合 計		95

コース共通・専攻専門科目（7）言語文化コース（日本語文化専攻）

回 生	1		2	
科目 \ 学期	前	後	前	後
コ ー ス 共 通			◎情報社会論 4 ◎言語文化概論 4	
(国語学)	◎国語学概説 4		◎国文法論 4 国語音声論 4 国語学特講Ⅰ 4	
			◎日本語教育概説 4 日本語史 2	
(国文学)	◎国文学概説 4		近代文学特講 4 近代文学演習Ⅰ 2 中世文学特講 4	
(漢文学)	漢文学概説 4 漢文学演習Ⅰ 2		漢文学特講Ⅱ 4	
(書道)			基本書法 2	
(国語科教育)				
	基礎英語 2		実用英語 2	
(英文学)				
(英語学)				
(英語科教育)				
(倫理学)			日本倫理思想 4	
(美学・美術史学)				
論 文				
合 計	16		48	

備考 1. ◎印の授業科目は、指定必修単位である。

3		4		設 置 単 位	必 修 単 位	
前	後	前	後		指 定	選 択
				8	8	0
国 語 学 演 習 I 2		国 語 学 演 習 II 2		88	16	34
国 語 学 特 講 II 4		国 語 学 特 講 III 4				
日 本 語 教 育 演 習 2						
対照言語学 2	社会言語学 2					
日本語学史 2						
近 代 文 学 演 習 II 2		近 代 文 学 演 習 III 2				
近 世 文 学 特 講 4		近 代 文 学 演 習 IV 2				
		古 代 文 学 特 講 4				
漢 文 学 特 講 III 4						
	国語科教育特講 II 2			30	0	
教 育 工 学 2		論 理 と 意 味 4				
英 米 文 学 講 読 I 2		英 米 文 学 講 読 II 2				
英 文 法 I 4						
		応 用 言 語 学 4				
日 本 美 術 史 概 説 4				6	6	0
		◎卒 業 論 文 6				
38		30		132	30	34
					64	

近世文学特講		通	4	2	野々村	(不開講)
中世文学特講		通	4	2	野々村	(不開講)
古代文学特講	記紀および万葉	通	4	2	野々村	
漢文学概説	漢文学の各ジャンルについての作品を読解しながら、その特質について論述する。	通	4	2	青木	指定必修
漢文学演習Ⅰ(A)	前期は、「史記」。列伝の数編を三家注によって読解する。 後期は、「論語」。朱子の「集注」によって読解する。	通	2	2	青木	指定必修 原則として国文学科受講者用
漢文学演習Ⅰ(B)	漢文学演習Ⅰ(A)に同じ。	通	2	2	寺門	原則として国文学科以外の受講者用
漢文学特講ⅠA	未定	前	2	2		隔年開講(開講) 集中実施
漢文学特講ⅠB	未定	後	2	2		隔年開講(開講) 集中実施
漢文学特講Ⅱ		通	4	2	青木	(不開講)
漢文学特講Ⅲ		通	4	2	青木	(不開講)
国語科教育特講Ⅱ	表現教育(特に書くことを中心に)の課題、内容・方法、歴史について、理論と実践の両面から問題点本位にとりあげる。	後	2	2	位藤	
基本書法	美術科(書道)欄参照	通	2	2		
言語文化概論	言語は文化の重要な一要素であると同時に文化を映し出す鏡でもある。本講義では、言語と思考様式、宗教・性・社会階層と言語、情報社会における言語などのトピックをとりあげ、言語と文化・社会のかかわり合いを多角度から論じたい。	通	4	2	武内	
情報社会論	産業技術科学科欄参照	通	4	2		
日本語教育概説	外国人が日本語を学習する上で、どういう問題があるか、日本語の様々な側面(音韻表記、文法、語彙、言語生活など)や日本文化における、その特質をとりあげながら、日本語教育のあり方を概観する。	通	4	2	糸井	
日本語史		後	2	2		(不開講)
卒業論文		通	6	6	各教官	4回生指定必修

授 業 科 目	授 業 内 容	期 間	単 位 数	毎 週 時 数	教 官 名	備 考
国 語 学 概 説	音韻・語彙・語法・文字・方言・表現・文 体・国語学史などの諸領域を対象として国語学 の概要を述べる。 テキスト：山口明穂編『新国語概説』（くろし お出版）	通	4	2	大 塚	指定必修 音声言語及び文 章表現に関する ものを含む。
国 語 音 声 論	一般音声学的な説明をもとに、国語音声の 個々からアクセント、音韻との関係、方言音な どについて解説する。国語音韻史についても述 べる。	通	4	2	大 塚	
国 文 法 論	古典語と現代語を対照しつつ、国語の文法に ついて述べる。 テキスト：渡辺実『国語文法論』（笠間書院）	通	4	2	糸 井	
国 語 学 演 習 I	国語学の諸分野にわたるトピックスをとりあ げて研究する。 テキスト：『国語学研究法』（武蔵野書院）	通	2	2	糸 井	
国 語 学 演 習 II	狂言のことば	通	2	2	大 塚	
国 語 学 特 講 I	国語学の諸問題（演習形式による）	通	4	2	大 塚	
国 語 学 特 講 II	歴史物語の言語空間——語彙と語法。 テキスト：岩波文庫本『大鏡』など	通	4	2	糸 井	
国 語 学 特 講 III		通	4	2		（不開講）
近代文学演習 I		通	2	2		隔年開講（不開講）
近代文学演習 II	韻文学—俳句・短歌 俳句・短歌の特色を作品に即してとらえた い。この近代の二つの定型詩は、いわゆる自由 詩のあり方にも深くかかわっている。近代 の詩歌の諸問題を、定型詩の側から考えること にもなる。	通	2	2	坪 内	隔年開講（開講）
近代文学演習 III	樋口一葉「たけくらべ」研究。諸注も参考に しながら、読解を深めるために多面的にアプ ローチする。 テキスト：近代文学初出復刻「樋口一葉集」 （和泉書院）	通	2	2	出 原	隔年開講（開講）
近代文学演習 IV		通	2	2		隔年開講（不開講）
国 文 学 概 説	日本近代文学の特質	通	4	2	堀 部	指定必修 国文学史を含む
近 代 文 学 特 講	正岡子規の文学 子規は、俳句・短歌という伝統詩を再生させ、 写生文を創始して今日の文体の基礎を築いた。 明治という時代とともに生きた彼の文学には、 近代文学の草創期の若々しさにみちている。時 代と同時代の人々とのかかわりの中で、その子 規の文学の世界を考える。	通	4	2	坪 内	

東京学芸大学

教育学部国際文化教育課程日本研究専攻

国際文化教育課程

(K類) 日本研究専攻(日本文化)

学 年	学 期	科 目	基 礎 科 目				専 門 科 目								計				総 計		
			一 般 教 育 科 目		保 健 体 育 科 目	外 国 語 科 目	課 程 基 礎 科 目	共 通 専 門 科 目		専 門 外 国 語 科 目		卒 業 研 究	専 門 選 択 科 目							自 由 選 択 科 目	
																					用 意
4 年次	VIII							2	8	4		44	16		4	68	74				
	VII						2														
3 年次	VI						34	34		2	33				2			14	24	20	
	V										39										
2 年次	IV	72	24	1	6		16	8		9				11			1	18		114	
	III			1							9				11						1
1 年次	II			1	6	12		4			4				4						1
	I			1				4			4				1						
計			24	4	12	12	8	8	6	44	16	134									

(1) 開設授業科目

授業科目	授業内容	講演実	1年次		2年次		3年次		4年次		計	備考	担当
			前	後	前	後	前	後	前	後			
			I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII			
世界の中の日本	同 左	講	④								4		法学、経済、歴史、地理、国語
日本文化史	〃	〃	④								4		歴史、哲学、国語
地域研究論	〃	〃	④								4		地理、社会
計			6	6							12		

國際文化教育課程 日本研究專攻 專門選拔科目

(1) 開設授業科目

選 修	授 業 科 目	授 業 内 容	講 演 実	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		計	備 考	担 当
				前	後	前	後	前	後	前	後			
				I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII			
A	現代日本語学概論	同 左	講	④								4	★	国 語
	日 本 語 言 語 生 活	〃	〃	2								2		〃
	日 本 語 教 育 概 論	〃	〃	④								4		
	現代日本語学Ⅰ	音 声 ・ 音 韻	〃			2						2	★	国 語
	〃 Ⅱ	文 字	〃				2					2	★	〃
	〃 Ⅲ	語 法 ・ 文 章 構 成 法	〃					④		(④)		4	★	〃
	現代日本語演習Ⅰ	文 章 表 現	演			1						1	★	
	〃 Ⅱ	音 声 表 現	〃				1					1	★	
	現代日本語学特講Ⅰ	意 味 論	講						2		(2)	2	偶数年開設	
	〃 Ⅱ	語 彙 論	〃						2		(2)	2	奇数年開設	
	日本語教育法演習	同 左	演			1						1		
	言語教授方法論	〃	講				2					2		
	日 本 語 史	〃	〃						④		(④)	4	★	国 語
	日 本 語 学 史	〃	〃						④		(④)	4		〃
	日 本 語 方 言 学	〃	〃						④		(④)	4	★	〃
	社 会 言 語 学	〃	〃					2			(2)	2		〃
	言 語 学 概 論	〃	〃						④		(④)	4		
	心 理 言 語 学	〃	〃						2		(2)	2		
	群	言 語 調 査 法	〃	〃					2		(2)		2	
言 語 工 学		〃	〃						2		(2)	2		〃
評 価 法 研 究		〃	演					1		(1)		1		
教 材 開 発 研 究		〃	〃						1		(1)	1		
教 育 工 学 研 究		〃	〃					1		(1)		1		
	日 本 語 教 育 実 地 研 究	〃	〃								1	1		

日本語教育を主として履修する者は、上記A群及びB群★科目から44単位以上、日本文化を主として履修する者は上記B群及びA群★科目から44単位以上選択履修しなければならない。

早稲田大学

教育学部国語国文学科

日本語教育に関する科目の設置について

外国人のための日本語教育に従事する日本語教員に対する日本語教育能力検定試験が昭和62年度から実施されている。これに対処するため、国語国文学科学生のために、関連する科目を設置してある。希望の学生は下記により履修することができる。

	左に対応する当学科設置科目	単位	配当年	配 当 種 目	履 修 方 法
日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	国語・日本語学演習Ⅰ	2	1	国語国文学科必修科目	必 修
	国語・日本語学演習Ⅱ	2	2	〃	
	国語・日本語学演習Ⅲ	2	3	〃	
	国語・日本語学	4	3	〃	
日本人の言語生活等に関する知識・能力	国語学史・国語史(日本語学)	4	3~4	国語国文学科専門選択科目	必 修
日 本 事 情	(国語国文学科必修科目で充当される)			国語国語学科必修科目	必 修
言語学的知識能力	言 語 学	4	3~4	国語国文学科専門選択科目	必 修
日本語の教授に関する知識・能力	日 本 語 教 授 法	4	3	国語国文学科随意科目	必 修
	日 本 語 教 育 演 習	2	3~4	〃	
	日 本 語 教 育 実 習	3	4	〃	
	視聴覚教育及び実習Ⅱ	2	3~4	教育学科専門選択科目	

- (注) 1. 教員免許状(国語)を取得することが必要である。
 2. 国語国文学科専門選択科目のうち「劇文学」、「芸能研究」、「民俗学」、「書道史及美術史」を履修することが望ましい。
 3. 「日本語教授法」未履修者の「日本語教育実習」の履修は認めない。

講 義 要 項

国語・日本語学演習Ⅰ（A・B）

岩 淵 匡

中古仮名文学を資料に、仮名文の特徴について、表記・語彙・語法などの面から考えた。なお、随時、小テスト・レポートなどを課する予定である。テキストについては、おって指示する。

国語・日本語学演習Ⅱ（A・B・C）

櫻 井 光 昭

『宇治拾遺物語』をテキストとして、技術としての古典読解法による演習を行う。テキストについては、授業開始後、指示する。

なお、参考文献として下記論文を用意すること。

参考文献：桜井光昭「視覚法による古典の梗概分析の実際」（『学術研究』37号）

国語・日本語学演習Ⅲ（A・B）

鈴 木 豊

藤原定家は数多くの文献を書写し、後世に貴重な古典を伝えた。定家書写本には国語史研究の資料としても重要な情報が豊富に含まれている。授業では定家書写本の価値について考察し、そこから各自が国語史に関するテーマを設定し、報告してもらいたい。なお、開講までに国語史に関する概説書を読んでおくことが望ましい。テキストについてはおって指示する。

国語・日本語学（A・B）

岩 淵 匡

日本語とはどういう言語であるか、音韻・表記・文法・語彙などの面から、その特徴を概説し、同時に、身の回りにあるさまざまな言語現象を取り上げてみたい。また、日本語研究の現状についてもふれるつもりである。なお、随時、小テスト・レポートなどを課する予定である。テキストは、おって指示する。

国語学史・国語史（日本語学）

岩 淵 匡

日本人の言語意識の展開をたどるとともに、現実における言語意識との関係や日本語研究の成立過程についても考えたい。また、それぞれの時代に生まれてくる言語意識は、日本語の変化ともかかわれるので、それとの関連についてもふれるつもりである。テキストは、おって指示する。

言 語 学

矢 野 安 剛

言語は音声によって思考・感情を表現・伝達する手段である。伝えられる意味内容の分析（意味論）およびそれを伝える語句・文の構造・機能の分析（統語論）を中心に言語の本質を考察する。さらに発話者・受話者の関係、発話の場面、前提などの語用論的、談話分析的考察を加え、講義内容を我々の日々の言語生活に即した身近なものにしたい。

テキストは柴谷方良・他『言語の構造：意味・統語篇』（くろしお出版）

日本語教授法

北 條 淳 子

日本語学習歴のない外国人に日本語を教える場合、どのようなことが問題となるか、音声、表記、語彙、構文などについての具体的な問題を、その背景となるべき外国語教授法、現在の日本語教育事情、日本語教育の歴史などとも併せて扱う。

教材には「外国学生用 日本語教科書 初級」(早稲田大学日本語研究教育センター編)を使用する。

日本語教育演習

野 村 雅 昭

現代日本語の文字・表記について、文字の体系、文字の形、文字の機能、文字列と表記規則、漢字の機能、文字・表記の歴史などを中心に考える。授業は問答形式で進め、随時、小テスト・小レポートを実施する。

教材には『国語学研究法』(武蔵野書院)の一部を用いるが、その使用法および参考文献は教室で指示する。そのほか、まえもって『新しい国語表記ハンドブック』(三省堂、400円)を用意しておくこと。

日本語教育実習

蒲 谷 宏

このクラスは、演習形式により日本語教育の実習を行うものである。実習作業としては、日本語研究教育センターの日本語クラスの見学・教案および教材の作成・教壇実習などを予定している。その他、外国人の日本語の誤用例分析や学習理論についても実習できるように配慮したい。

なお、受講者は「日本語教授法」の単位を取得した者に限る。

視聴覚教育及び実習Ⅱ(A・B)

高 橋 勉

学校の教育課程を科学的に検討し、教育効果をあげるための視聴覚的方法が、どのように究明されてきたかを史的に考察し、あわせて伝達と理解との関連を実証的に考究する。

授業では、視聴覚資料を随時活用し理解を深め、実習では、機器の操作や教材の企画・制作・編集・整理・発表などを行う。

芦屋大学

教育学部教育学科日本語教員養成コース

日本語教員養成に関する専門科目および配当年次

授 業 科 目		配 当 年 次			
		1	2	3	4
日本語の構造に関する科目	国 語 学 概 説				4
日本人の言語・生活に関する科目	日 本 文 化 概 説	4			
日本事情に関する科目	日 本 文 化 研 究				4
	日 本 文 学 概 論			4	
言語学に関する科目	言 語 学		4		
日本語の授業に関する科目	日 本 語 教 授 法				4
	日本語教育教材・教具論				4
	日 本 語 教 育 実 習				4
計		3 2			

履修方法

- イ. 全科目を履修し、32単位取得のこと
- ロ. 教職課程合格見込のこと

修了証

卒業所要単位を充し、教職課程に合格、6に定める所定の科目を履修し合格した者に対して修了証を授与する

その他

教務委員会が日本語教育実習に不適格と判定した者は履修要件が充足していても実習は認めない

横浜国立大学

教育学部日本語教育基礎コース

日本語教育基礎コースは、外国人に対する日本語教育の教員養成のために設けられたもので、それぞれの専攻を持つ学生に、その専門の教育とあわせて、日本語教員として最低限度必要な知識・能力を習得させることを目的としている。

授業科目

教科 科目	授業科目	授業 形式	期間 単位	履修単位			履修 年次	備考・履修 上の注意	授業内容
				必修	選択 必修	選択			
日本語教育	日本語教育概論	L	全4	4			2		日本語教育についての概要
	日本語教授法講義	L	半2	2			3		
	日本語教育教材論	L	半2	2			3		
	日本語教授法演習	S	全1	1			4		
言語学・日本語学	言語学基礎講義	L	半2	2			2		言語学の基礎的な概念を概説する 言語学の最近の流れを概説する
	言語学特殊講義	L	半2		2		2,3		
	日本語基礎講義	L	半2	2			2		
	日本語文法	L	半2	2			2		日本語の音声についての基礎的知識 漢字・仮名についてその文字としての働きを考察しつつ日本語の文章表記を概説する
	日本語音声学	L	半2	2			2		
	日本語表記法	L	半2	2			2		
	日本語文法各論	L	半2	2			3		日本語の語彙、国語(日本語)辞典のあり方等について 日本語の分析方法を身につけるためのゼミ 日本語教育をめぐる諸問題(誤用分析)
	日本語語彙論	L	半2	2			3		
	日本語演習	S	全2		2		3		
比較文化	対照言語学演習	S	全2		2		3		
	日本の文化と科学	L	1	1			2,3	集中	
合 計				24	2				

授業形式：L（講義）S（演習、外国語）、E（実験、実習、実技）

期 間：全（通年開講）、半（半期開講）

- （注）1. 選択科目の2単位は国語教室で開講の「国語史」、「国語学特殊講義（現代）」で充当できる。
2. 「日本語教授法演習」は、必修科目を16単位以上修得した者に限り受講できる。
3. 「日本の文化と科学」は別途指示する他の科目で充当できる。
4. なお、日本語教育基礎コースの単位は、特に認められた場合を除き、各専攻の専門単位には数えられない。

受講資格

このコースの登録は2年次の学年初めに行う。2年次に指定されている必修科目のうち10単位以上の科目を当該年次に受講可能な学生に限り登録を受け付ける。

受講希望者は、所定の用紙に必要事項を記入し、教室代表の承認をえて、期日までに教務第一係に届け出ること。ただし、希望者多数の場合は、選考することがある。

単位修得証書

所定の授業科目のすべてを修得した者には、「日本語教育基礎コース」の単位修得証書（証書）が交付される。

大阪外国語大学

外国語学部日本語学科

日本語学科

科 目		単 位 数
一 般 教 育 科 目		36
保 健 体 育 科 目		4
外 国 語 科 目		8
専門教育科目	日本語科目 (講義・演習)	前期……………16 後期……………36
	副専攻語学 (実習)	1 年 次……………10 2 年 次……………10
	卒 業 論 文	8
	関 連 科 目	16
	関連外国語科目	自由選択
	合 計	144

注 1・2年次を前期, 3・4年次を後期と称する。

授 業 科 目				最低修得単位	履 修 年 次	単位計算基準	備 考
専 門 教 育 科 目	専 攻 科 目	日本語科目 (講義 演習)	前 期	16	原則として 1・2年次	週2時間(1回)	「授業科目表」 専攻科目の項 参 照
			後 期	36	3・4年次	通年 4単位	
	副専攻 語学 (実習)	第1年次	10	1 年 次	週2時間(1回)	通年 2単位	
		第2年次	10	2 年 次			
	卒 業 論 文		8	4 年 次		必修 卒業論文に関する規程参照	
	関 連 科 目		16	原則として 3・4年次	週2時間(1回) 通年 4単位 但し教育実習は 2週間 2単位	選 択 必 修	
	関 連 外 国 語 科 目			原則として 3・4年次	週2時間(1回) 通年 4単位 または 2単位	自 由 選 択	

〔授業科目〕

講 座	授 業 科 目	題 目	履修年次
日 本 語 学	日本語学概論 日本語史・語学史概論 日本語学研究Ⅰ,Ⅱ 日本語学特殊研究Ⅰ,Ⅱ 日本語学演習Ⅰ,Ⅱ 言語生活概論	音声学、音韻論、語彙論、文字論、 文体論、表現法、国語史、現代語 法、談話、言語生活	1年 2年 3・4年 〃 4年 3・4年
日 本 語 学 教 育 学	日本語教育学概論 日本語教育史・学史 日本語教育研究 日本語教育特殊研究Ⅰ,Ⅱ 日本語教育演習Ⅰ,Ⅱ 日本語教育実習	教育方法、教材研究、文型誤用分 析、表記発音指導、母語列指導、 基本応用	1・2年 2・3年 2～4年 3・4年 4年 3年
言 語 学	言語学概論 言語学研究Ⅰ,Ⅱ 言語学特殊研究Ⅰ,Ⅱ 言語学演習Ⅰ,Ⅱ	社会・対照・心理・指造言語、世 界の言語の例と特長、音声学、文 法論	2年 3・4年 〃 4年
日 本 文 学	日本文学概論 日本文学史 日本文学・芸能研究Ⅰ,Ⅱ 日本文学・芸能特殊研究Ⅰ,Ⅱ 日本文学演習Ⅰ,Ⅱ	近代・古典文学史、古典芸能、現 代文学、古代文学、作家作品論、 芸術論	2年 2・3年 3・4年 〃 4年
日 本 文 化 学	日本文化学概論 日本文化史 日本文化研究Ⅰ,Ⅱ 日本文化特殊研究Ⅰ,Ⅱ 日本文化演習Ⅰ,Ⅱ	思想史、宗教史、美術史、民俗学、 人類学、文化交流史、外国人の日 本研究、現代日本社会	2～4年 3・4年 〃 〃 4年
比 較 語 学 ・ 文 化 学	比較語学文化学概論 比較語学研究 比較文化学研究 比較語学演習Ⅰ,Ⅱ 比較文化学演習Ⅰ,Ⅱ	コミュニケーション、異文化の接 触、地域学、比較学、アイデティ ティー論	2～4年 3・4年 〃 4年 〃

※講座の特色

日 本 語 学 学科の基幹講座で、現代語の構造を中心に、語史・理論など体系的な知識を研究する。

日本語教育学 日本語学の教育・応用面に関する理論と実際を研究する中心的講座で、基礎と実習を体得する。

言 語 学 日本語学専門としての必要な言語学の理論と諸言語の特徴をかえりみ、日本語を国際的・客観的に研究する講座。

日 本 文 学 世界の中の日本文学としてその諸相・特色をとらえ、日本語による美の表現の実態を多角的に研究する講座。

日本文学 異文化としての日本文化理解に有用な、日本人の文化事情を多角的に追求する日本研究の講座。

比較語学・文化学 外国語・副専攻語などを活用し、対外比較対照研究を通じてその本質に迫ると共に、日本語学を総括する位置にある講座。

専門教育科目

課程	講座	科目番号	授業科目	題 目	種別	教官名	毎週 時数	単 位	備 考
前 義	日本語学	1001	日本語学概論	日本語学概論	講義	小矢野	2	4	1年必修 集中講義
	日本文学	1002	日本文学概論	日本の思想	"	子安		4	
	日本語教育学	1003	日本語教育学概論	日本語教育学概論	"	大倉	2	4	2年必修
		1004	日本語教育学 特殊研究	教材の研究	"	小林		4	2年集中講義
	言語学	1005	言語学概論A	言語理論	"	小泉	2	4	2年選択 必修
		1006	言語学概論B	言語理論	"	小泉	2	4	
期 習	副専攻語学 下記の外国語のうち、いずれか一つの外国語について、 1年次に5科目(10単位)、2年次に5科目(10単位)の 計10科目・20単位を副専攻語学として修得しなければならない。 (中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、 フィリピン語、ヒンディー語、ウルドゥー語、タ イ語、ベトナム語、ビルマ語、アラビア語、スワ ヒリ語、ペルシア語、英語、ドイツ語、デンマー ク語、スウェーデン語、フランス語、イタリア語、 イスパニア語、ポルトガル語、ロシア語。)				実習		10	10	1年必修
					"		10	10	2年必修
後 講 義	日本語学	1007	日本語史、日 本語学史概論		講義	北	2	4	
		1008	日本語学研究Ⅰ	辞書史研究	"	北	2	4	
		1009	日本語学研究Ⅱ	語用論研究	"	小泉	2	4	
		1010	日本語学演習Ⅰ		演習	北	2	4	
		1011	日本語学演習Ⅱ	現代日本語文法	"	小矢野	2	4	
		1012	漢文学		講義	北	2	4	
	日本文学	1013	日本文学概論	近代文学概説	"	西垣	2	4	
		1014	日本文学史	近世文学	"	小矢野	2	4	
		1015	日本文学・ 芸能研究Ⅰ	芥川龍之介の短篇演習	"	西垣	2	4	

後 期	演 習	日本語 教育学	1016	日本文学・ 芸能研究Ⅱ	日本文学の比較文学的研究	"	村 上	2	4	第1期集中講義 第2期
			1017	日本文学演習Ⅰ	『古今和歌集』〈序文〉考	演習	尾 上	2	4	
			1018	日本文学演習Ⅱ	翻 訳 の 諸 問 題	"	村 上	2	4	
			1019	日本語教育学 研 究 Ⅰ	日本語の音声と音韻	講義	角 道	2	4	
			1020	日本語教育学 研 究 Ⅱ	教育方法の研究	"	大 倉	2	4	
			1021	日本語教育学 演 習 Ⅰ	教 材 の 研 究	演習	山 本	2	4	
			1022	日本語教育学 演 習 Ⅱ	教 材 の 研 究	"	大 倉	2	4	
			1023	日本語教育学 特 殊 研 究	教 材 の 研 究	講義	小 林	2	4	
			言語学	1024	言語学研究Ⅱ	意 味 論 研 究	"	林 博	2	
		1025		言 語 学 特 殊 研 究 Ⅰ	言語学的論理学	"	林 博	4	4	
		1026		言語学演習Ⅰ	語 彙 機 能 文 法	演習	小 泉	2	4	
		日 本 文化学	1027	言語学演習Ⅱ	談 話 分 析	"	林 博	2	4	
			1028	日本文化学研究Ⅰ	日 本 思 想 史	講義	子 安	2	4	
			1029	日本文化学演習Ⅱ	日 本 人 の 一 生	演習	奥 西	2	4	
		講 義 ・ 演 習	比 較 語 学 ・ 文 化 学	1030	比較語学概論	対照研究の基礎概念	講義	三 原	2	
1031	比較語学研究			日英語句構造の比較	"	三 原	2	4		
1032	比 較 語 学 特 殊 研 究			日英語文法の比較	"	三 原	2	4		
1033	比較語学演習			外 書 講 読	演習	三 原	2	4		
1034	比較文化学概論			比 較 文 化 論 概 説	講義	奥 西	2	4		
1035	比較文化学演習				演習	頓 宮	2	4		
実 習	日本語 教育学		1036	日本語教育実習	教 育 実 習	実習	小林・山本他		3	

講義内容要旨

日本語学概論（日本語学概論）

小矢野 教 官

日本語学の研究対象である「音声・音韻」「文字・表記」「語彙」「文法・敬語」「文章・文体」「方言」「言語生活」を取り上げて、学習・研究の導入の役割をはたすように概説する。なかでも、「語彙」「文法」に重点をおく。

受講者は主体的に講義に参加し、それぞれの関心の対象をしぼっていくように心がけること。

テキスト：『国語学研究法』北原保雄・徳川宗賢・野村雅昭・前田富視・山口佳紀

(武威野書院)

日本文化学概論（日本の思想）

子 安 講 師

前期は日本思想史上の主要な人物を中心に、その思想をめぐっての講義を予定している。

後期は時代を近世江戸時代に限定して、儒学と国学についての概説を予定している。

テキスト：『日本思想史読本』古田・子安編（東洋経済新報社）

日本語教育学概論（日本語教育学概論）

大 倉 教 官

日本語教育学の成立基盤を概説したうえで、日本語教育の理念、目的、内容、方法ならびに学習者論について述べるとともに、研究の動向とその課題についても説く。

日本語教育史も概観する。

言語学概論 A・B（言語理論）

小 泉 教 官

多様な言語伝達の社会にあっては、言語を客観的に考案することが必要である。そこで、構造言語学から生成文法に至る言語理論とその分析方法を紹介する。内容は、言語学の研究対象、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、比較方法に及ぶ。

テキストとして、小泉保著『教養のための言語学コース』（大修館書店1984）を用いる。

日本語史・日本語学史概論

北 教 官

語史研究の主眼は、通時的立場によって時間的変遷の有法を説明しなければならないが、と同時に共時的立場からの研究によって、語史を明らかにする必要を考える。

テキスト：『新編国語史概説』春日和男編（有精堂）

日本語学研究 I（辞書史研究）

北 教 官

本邦最古の国語辞書である倭名鈔は、最も素性の明らかな辞書である。本書について従来の説を批判しながら、諸問題を究明していく。

テキスト：『倭名類聚鈔』古活字版二十巻本 源順（勉誠社）

日本語学研究 II（語用論研究）

小 泉 教 官

最近は、意味論から分立した語用論が独自の理論体系を組み立てている。語用論全般にわたり概説するとともに日本語への適用を考えてみる。講義内容は、意味分析、直示、推意、前提、発語行為に及ぶ。

日本語学演習 I

北 教 官

British Museum 所蔵本 ESOPONO FABVLAS の影印本を使用する。ローマ字本の本書は、口語文献としての価値は大きく、仮名文献の及ばぬ国語史的事実の解明に役立てる。

テキスト：『天草本伊曾保物語』1593年イエズ会天草学林刊（勉誠社文庫 3）

日本語学演習 II（現代日本語文法）

小矢野 教 官

現代日本語の文法の中の重要なトピックについて、先行の業績をふまえたうえで、問題を解決する方法を考察する。受講者は担当するトピックについて十分に調査し、考察して

報告することが義務づけられる。担当者以外の受講者も積極的に演習に参加しなければならない。

テキスト：『ケーススタディ 日本文法』寺村秀夫・鈴木泰・野田尚史・矢澤真人
(桜楓社)

漢文学

北 教 官

漢字の起源、漢文法、漢字音韻史及び、日本語と漢語の諸問題を扱う。

テキスト：『漢語と日本語』藤堂明保著（秀英出版）

日本文学概論（近代文学概説）

西 垣 講 師

小説を読む意味、並びに近代文学の史物展開についての講義。

テキストは講義中に指示。

日本文学史（近世文学）

小矢野 教 官

井原西鶴の『好色一代男』の講読を通して江戸前期の社会・文化のありさまを知り、西鶴の文章における語法・文体および先行文学との関連をさぐる。

テキスト：『日本古典全書 井原西鶴集（一）』藤村作校註。田崎治泰補訂（朝日新聞社）

参考書：『岩波古辞典』大野晋・作竹昭広・前田金五郎編（岩波書店）

日本文学・芸能研究Ⅰ（芥川龍之助の短篇演習）

西 垣 講 師

芥川の短篇を演習形式で研究する。

テキスト：『偷盗・戯作三昧』芥川龍之助（芥川龍之助全集第1巻・第2巻筑摩文庫版）

日本文学・芸能研究Ⅱ（日本文学の比較文学的研究）

村 上 講 師

日本文学の作品を比較文学の視点から研究する。まず、比較文学の方法について概説し、続いてその方法を用いて個々の作品を検討する。明治期の演劇、能、浄溜瀧などを、とりあえず取り上げる予定。

日本文学演習Ⅰ（『古今和歌集』〈序文〉考）

尾 上 教 官

言語をどう使うかはどう生きるかだという考えがある。この考えの内には、無論人間は精神だという規定性が含まれている。又（意味たる）言語は、人間存在の意味とその出所を同じくするという前提が踏まえられている。そこでは、自然、言語は文学となる。但し、こういった言語観乃至文学観は今日一般的でない。それなら一般的でない理由は奈辺に存しよう。我が国では、伝統的に言えば、文学の創作乃至享受は、己れを知る問題の中で行なわれてきた。自己の自覚の問題は、徹底して言えば、形面上学の問題と化す。国文学が特に中世「道」に結びついたのはその事である。これは、一つには、仏教思想の影響による。だが、しかし、日本語の性格それ自体に由来するとも考えられるのであって、この事を『古今和歌集』〈序文〉は深く考えさす。国際化の時代にあって、自国の文学の研究はいかなる意義そして意味をもつのだろうか。何にしろ、学生各自がいかなる問題に対しても、主体的に思考する方法と根拠を身につける事が演習という授業の最終目標である。自国の文学研究は、この点でこそ、真に存在理由を発揮するものである。

テキスト：『古今和歌集』（岩波文庫）

日本文学演習Ⅱ（翻訳の諸問題）

村 上 講 師

翻訳の研究は比較文学の方法の大きな柱であるが、実際に作品を分析してみると、この方法が異文化間の文学的方法の違い（あるいは同一性）、価値観の違い、風俗習慣の違いなどをいかに明らかにしていくかを追究する。

日本語教育学研究Ⅰ（日本語の音声と音韻）

角 道 教 官

日本語の母音、子音、アクセントなどについて音声と音韻（音素）の観点から考察する。次に外国人の日本語の発音を記述し、正しくない発音の原因を探り、矯正する方法を検討する。標準語のみならず方言についても考察するので、受講者は自分の母語を内省し記述する力を養ってもらいたい。テキストはとくに指定しないが、参考文献は必要に応じて紹介する。

日本語教育研究Ⅱ（教育方法の研究）

大 倉 教 官

日本語教育に取り入れられた外国語授法の流れをふりかえり、その長短を論じながら、教育方法の今後の課題を考える。

日本語教育学演習Ⅰ（教材の研究）

山 本 教 官

既存の日本語教材に見られる文型をもとに日本語教育文法のすがたを観察し、学習者に応じた指導内容の適性化の理念、方法などについて考える。

日本語教育学演習Ⅱ（教材の研究）

大 倉 教 官

日本語学習者の誤用例の分析を通じて、母語別の教材や教育方法の開発を目標とする実践的課題に取り組む。

日本語教育学特殊研究（教材の研究）

小 林 教 官

教育実習に必要な知識を習得する。

特に教材に見られる特徴を検討し、教材のあり方について講義する。

言語学研究Ⅱ（意味論研究）

林 博 講 師

語彙素・意義素の問題、語レベルの意味構造、文レベルの意味構造、生成文法における意味の扱い、など意味論の各分野を広く概説する。但し、語用論の分野は別の授業で取り上げられる予定なので扱わない。また、（記号）論理学は別に独立して取り上げる予定である。教科書は用いないが、参考書は授業中に適宜指示する。

言語学特殊研究Ⅰ（言語学的論理学）

林 博 講 師

（記号）論理学はともすれば無味乾燥で、自然言語の記述に向かないと感じられることもある。しかし言語学にとって必要不可欠の部門でもある。本授業では、できるだけ自然言語を念頭に入れて、論理学を考えていきたい。

テキスト：*Elements of Formal Semantics-An Introduction to Logic for Students of Language* John N. Martin (Academic Press)

言語学演習Ⅰ（語彙機能文法）

小 泉 教 官

最新の言語理論は、統語論を主題として、いくつかの支派に分かれて進展しているが、

とくに「語彙機能文法」を取り上げ、その基本的な考え方を考察してみる。テキストとしては、P. Sells: Lectures on Contemporary Syntactic Theories (CSLI 1985) の内 Lexical-Functional Grammar の章を演習の題材とし、外国語文献を読みこなす実力を養成する。

日本文化学研究 I (日本思想史)

子 安 講 師

「岩波講座・東洋思想」の『日本思想』1、2 をテキストとして、同書所載の論文を読みながら、日本思想史上の諸問題を考察する。

テキスト：岩波講座・東洋思想・15、16 巻『日本思想』1、2 (岩波書店)

日本文化学演習 II (日本人の一生)

奥 西 教 官

日本人が一生の間に経験する儀礼、即ち通過儀礼を、外国のそれとの比較をも含めて、様々な角度から調べることによって日本文化の一端の理解を深める。演習であるから、履修者は与えられた課題を調べ、発表しなければならない。その方法等については授業で指導する。

比較語学概論 (対照研究の基礎概念)

三 原 教 官

1980年代に統率・束縛理論 (GB 理論) と呼ばれる理論が登場して初めて、生成文法研究は普遍文法の観点から個別言語を検討するための十分な理論を獲得したと言える。本講義では、GB 理論の立場から言語の対照研究を行うための基礎概念について詳説する。

比較語学研究 (日英語句構造の比較)

三 原 教 官

統率・束縛理論 (GB 理論) の観点から日英語句構造を比較検討する。主なトピックは次のようなものである。X-bar 理論、階層的言語と非階層的言語、日本語動詞句の問題、Stowell の句構造不用論、Fukui (MIT 博士論文) の日本語句構造に関する提案、その他。

なお、GB 理論の基礎概念については「比較語学概論」で講義するので、そちらもあわせて受講することが望ましい。

比較語学特殊研究 (日英語文法の比較)

三 原 教 官

テキストとして「日英語比較講座第二巻：文法」(1980年、大修館)を用いる。演習的要素を大幅に取り入れ、理論的枠組みにはあまりとらわれず言語現象そのものについてのディスカッションを中心に授業を進めたい。テキストは各自入手のこと。

テキスト：日英語比較講座第二巻『文法』國廣哲彌 (大修館)

比較語学演習 (外書講読)

三 原 教 官

テキストとして、Bernard Comrie: Language Universals and Linguistic Typology (1981年、Basil Blackwell, Oxford) を用い、言語類型論の立場から、普遍文法的特質・個別文法的特質 (パラミター) を抽出する試みについて検討する。本年度は、方法論、語順、主語、格表示、関係詞節を扱った章を読む予定。テキストは各自入手のこと。

テキスト：Language Universals and Linguistic Typology Bernard Comrie
(Basil Blackwell)

比較文化学概論（比較文化論概説）

奥 西 教 官

比較文化の方法を具体例を紹介しながら概述する。年度末にレポートを課す。

比較文化学演習

頓 宮 講 師

比較文化の目的の一つは、自国の文化の理解を深めることである。

文化で捉えられる側面は多岐に渡るが、ここでは主として「ことば」及び「宗教」の点から文化の比較を試みる。適宜配布するプリント等を基に授業を進めていく。

日本語教育実習（教育実習）

小 林 他 教 官

日本語教育の実際を習得する。実習は、担当科目の準備、教室作業、反省のための授業を含み、指導教官による模範授業の見学を通して、教材と教具の研究、問題作成と評価のあり方も学習する。

テキスト等はプリントを配布する。

東京外国語大学

外国語学部日本語学科

以下の説明において日本語学科の日本語・日本文化専攻第一（日本人学生）は「J 第一」、日本語・日本文化専攻第二（外国人留学生）は「J 第二」という。

卒業必要単位一覧表（J 第二を除く）

期 別	履修年次			必要単位数	卒業単位最低修得数			備 考
前期（第一・二年次学生）	一般教育科目等	一般教育科目			人文	4単位	36単位	
					社会	4単位		
					自然	4単位		
		外国語科目			初 級		4単位	(注) 参照
					上 級		4単位	
		保健体育科目	保健体育講義		2単位			
	体育実技		2単位					
	専門教育目	専攻語学科目		第1年次	12単位			
				第2年次	12単位			
		専門語学科目事情講義		第1,2年次	4単位			
後期（第三・四年次学生）					語学文学専修課程履修者	国際関係専修課程履修者	第3年次に進級した際選択必修する。	
	専門教育目	専攻語学科目	後期2年間のうちに修得 最終年次に修得	36単位	28単位			
		専修科目		20単位	28単位			
		卒業論文		8単位	8単位			
	合 計				140単位	140単位		

(注) 外国語科目「英語」については、特に初級・上級の区別がないので「英語」を履修する者は、最低8単位履修すること。「英語」以外の語学については、初級・上級を継続履修すること。

専攻語学科目及び修得単位数

学 科	講 座	授 業 科 目	最低修得単位数								
			前 期			後 期					
			第 1 年	第 2 年		語学文学 専修課程			国際関係 専修課程		
			必修 単位	必修 単位	計	必修 単位	選択 必修 単位	計	必修 単位	選択 必修 単位	計
日 本 語 学 科	日 本 語 学 第 一	日 本 語	12	12	24						
		日 本 語 学 概 論									
		日 本 語 音 声 学									
		日 本 語 史				4			4		
		日本語学特殊研究Ⅰ									
		日本語学特殊研究Ⅱ									
		日本語学特殊研究Ⅲ									
		日本語学演習Ⅰ									
		日本語学演習Ⅱ					20	36		12	28
		日本語学演習Ⅲ					(24)			(16)	
	日 本 文 学 専 攻 学 第 二	日 本 文 学 概 論									
		日 本 文 学 史									
		日本文学特殊研究Ⅰ									
		日本文学特殊研究Ⅱ									
		日本文学演習Ⅰ									
		日本文学演習Ⅱ									
	言 語 学	言語学特殊研究Ⅰ				4			4		
		言語学特殊研究Ⅱ									
		言語学演習Ⅰ									
		言語学演習Ⅱ									

	日 本 文 化	日 本 文 化 概 説										
		日本文化特殊研究Ⅰ										
		日本文化特殊研究Ⅱ										
		日本文化研究演習Ⅰ										
		日本文化研究演習Ⅱ										
	日 本 事 情	日 本 事 情 概 説	4		4							
		日本事情特殊研究Ⅰ										
		日本事情特殊研究Ⅱ										
		日本事情研究演習Ⅰ										
		日本事情研究演習Ⅱ										
	日 本 語 教 育	日本語教育学概論				4			4			
		日本語教育学 特 殊 研 究 Ⅰ										
		日本語教育学 特 殊 研 究 Ⅱ										
		日本語教育学演習Ⅰ										
		日本語教育学演習Ⅱ										
		卒業論文演習				4(0)			4(0)			
		(関 連 科 目)										
		漢 文 学 概 論										
		漢文学特殊研究										
		書 道Ⅰ (書写)										
		書 道Ⅱ										

専修科目及び修得単位数

講 座	授 業 科 目	最 低 修 得 単 位 数					
		語学文学専修課程			国際関係専修課程		
		必修単位	選択必修 単 位	計	必修単位	選択必修 単 位	計
言 語 学	言 語 学 概 論 比 較 言 語 学 日 本 語 学 古 典 語 学 言語学特殊研究						
音 声 学	音 声 学 概 論 実 験 音 声 学 音 声 学 生 理 学 音 声 学 特 殊 研 究						
文 学	文 学 概 論 比 較 文 学 日 本 文 学 美 芸 演 術 劇 学 文学史論						
哲 学	哲 学 概 論 思 想 教 理 学 宗 教 理 学 論 心 教 育 学						
史 学	日 世 地 誌 本 界 理 誌 史 学 史 学 史 学		16 (20)	20		24 (28)	28
社 会 学	社 会 学 概 論 社 会 人 類 理 学 文 化 人 心 理 学 社 会 心 理 学 新 民 族 学						
政 治 学	政 治 思 想 史 政 治 理 論 政 治 過 程 論 政 治 比 較 政 治 学						

法 律 学	民 商 法 経 行 労 国 国 際 私 法 法 法 法 法 法 法 法					
経 済 学	経 済 史 経 済 理 論 経 済 学 史 経 済 体 制 論 国 際 経 済 論 経 済 政 策 社 会 政 策 財 政 学 金 融 計 算 学 統 計 学					
経 営 学	経 営 管 理 論 労 務 管 理 論 財 務 管 理 学 会 計 学 マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 論 産 業 論 貿 易 論 保 險 論 経 済 英 語					
国 際 関 係 論	国 際 関 係 概 論 国 際 関 係 論 国 際 政 治 史 国 際 機 構 論 地 域 研 究 Ⅰ 地 域 研 究 Ⅱ 地 域 研 究 Ⅲ					
	卒 業 論 文 演 習	4(0)			4(0)	

備考 () 内の数字は卒業論文を作成しない者及び専攻語学科目について卒業論文を作成する者の修得すべき単位数を示す。

学科	講座	授 業 科 目	講 義 題 目	単位	教 官 名	備 考
日 本 語 学 科	日 本 語 学 第 一	日 本 語 学 概 論	日 本 語 学 概 論	4	湯 本	専修科目 共通授業
		日 本 語 史	日 本 語 史 概 説	4	小 杉	
		日本語学特殊研究Ⅰ	日 本 語 音 声 学	4	志 部	
		日本語学特殊研究Ⅱ	日 本 語 構 文 論	4	工 藤	
		日本語学特殊研究Ⅲ	木版本『源氏物語』講読	4	小 杉	
		日本語学演習Ⅰ	待 遇 表 現 の 諸 問 題	2	窪 田	
		日本語学演習Ⅱ	現 代 日 本 語 研 究	2	湯 本	
		日本語学演習Ⅲ	日 本 語 文 法 演 習	2	工 藤	
	日 本 語 学 第 二	日 本 文 学 概 論	日 本 文 学 概 論	4	林 (達)	64年度開講 専修科目 共通授業
		日 本 文 学 史		4		
		日本文学特殊研究Ⅰ	昭 和 文 学 の 諸 問 題	4	国 松	
		日本文学特殊研究Ⅱ	古 今 和 歌 集 の 研 究	4	村 尾	
		日本文学演習Ⅰ	日 本 近 代 文 学 演 習	2	国 松	
		日本文学演習Ⅱ	古 典 文 学 演 習	2	村 尾	
	言 語 学	言語学特殊研究Ⅰ	記 述 言 語 学 の 方 法	4	松田(徳)	
		言語学特殊研究Ⅱ	意 味 と 論 理	4	松田(徳)	
		言 語 学 演 習 Ⅰ	音 韻 論	2	松田(徳)	
		言 語 学 演 習 Ⅱ	日 英 擬 音 ・ 擬 態 語	2	尾 野	
	日 文 本 化	日 本 文 化 概 説	1920～30年代の「農村 問題をめぐる動向」	4	沼 田	

学科	講座	授 業 科 目	講 義 題 目	単位	教 官 名	備 考
日 本 語 学 科	日本文化	日本文化特殊研究Ⅰ	日本宗教の指導者と民衆	4	島 園	
		日本文化研究演習Ⅰ	日本農村の社会的変容	2	沼 田	
	日本事情	日本事情概説	近代日本思想史	4	成 田	
		日本事情特殊研究Ⅰ	農 地 政 策 史	4	沼 田	
		日本事情研究演習Ⅰ	戦時期日本の精神史	2	成 田	
	日本語教育	日本語教育学概論	日本語教育学概説	4	窪 田	
		日本語教育学特殊研究Ⅰ	日本語の文の特徴	4	近 藤	
		日本語教育学演習Ⅰ	教 材 研 究	2	窪 田	
		日本語教育学演習Ⅱ	外国語教育理論と 日本語教育	2	佐久間	
		卒業論文演習	現代日本語の研究と教育	4	窪 田	
			対 照 研 究	4	松田(徳)	
			日 本 近 代 文 学	4	国 松	
			日 本 語 学	4	湯 本	
			日 本 語 文 法	4	工 藤	
			日本事情・日本文化	4	成 田	
		(関連科目) 漢文学特殊研究	日本漢文学の諸問題	4	村 尾	(注) 3. 参照
		(関連科目) 書 道 Ⅰ (書写)	書写指導の実践と理論	2	塚 本	昭和63年度開講 (隔年講義)

日 本 語 学 科

講 義 概 要

基礎教育科目

日本地理基礎 成 田 龍 一

日本事情を考察するうえで必要となる基本的な事柄について講義をする。

日本の産業構造や風土の特徴のほか戦後史についてもふれる。

日本文学基礎 国 松 昭

日本の近代の社会的背景から、近代文学の外面的特色を概説し、その上で、坪内逍遙、二葉亭四迷……と、近代文学の代表的作家とその代表的作品を順次紹介していく。

テキスト：日本語学科（国松） 『日本文学入門 近代文学編』 1～3部

日本史基礎 沼 田 京 子

・明治維新から15年戦争にいたる日本近代の歴史を概観し、「近代化」への歩みを把握する。

日本語学基礎 工 藤 浩

・日本語学のおおよその枠組を概観する。

・音韻論，語彙論，文法論等に関する基本的なものの見方，考え方を身につける。

古文基礎 小 杉 商 一

日本語・日本文学・日本事情を専攻する学生として必要とする古文解釈の力をつけるために、古典文法を中心とした授業をする。

古典辞典さえあれば、古典を現代語に訳すことができるようになることを目的とする。

テキスト：東京外国語大学日本語学科編『古文基礎』（改訂版），『古典文法問題集』

日本語学第一

日本語学概論（日本語学概論） 湯 本 昭 南

主として、下記のテキストによりながら、日本語文法の概説をするが、必要に応じていくらかの補足をする予定。

テキスト：鈴木重幸 『日本語文法・形態論』 むぎ書房 1,800円

日本語史（日本語史概説） 小 杉 商 一

奈良時代，平安時代，院政・鎌倉時代の日本語を文法・音韻・表記の面を中心として概観する。

日本語・日本文化専攻第2（外国人留学生）で受講する者は、「古文基礎」の単位を取得した者に限る。

テキスト：佐藤喜代治 『国語史・上』 桜楓社 1,800円

日本語学特殊研究Ⅰ（日本語音声学） 志 部 昭 平

- (1) 調音音声学の基礎
- (2) 日本語音声学概観
- (3) 外国語音との対照——主に朝鮮語を事例として

日本語学特殊研究Ⅱ（日本語構文論） 工 藤 浩

- ・日本語構文論の対象と方法について概観する。
- ・講義中に指定する参考図書・論文はかなりの数になるだろう。
- ・講義資料はコピーする。

日本語学特殊研究Ⅲ（木版本『源氏物語』講読） 小 杉 商 一

日本語・日本文学・日本事情を専攻する学生にとって、活字以前の資料が読めることは望ましいことであろう。本講座では木版本の読み方に習熟することを目的の一つとして研究する。あわせて、古典の日本語を、語法を中心として研究する。

日本人学生と共学の授業であるので、受講者は「古文基礎」の単位を取得した者に限る。

テキスト：稲賀敬二編 『首書源氏物語・若紫』 和泉書院 1,300円

日本語学演習Ⅰ（待遇表現の諸問題） 窪 田 富 男

主として敬意表現に焦点を当て、参加者の問題解決にウエイトをおく。講義も折りまぜるが、各自が問題意識をもって授業にのぞむこと。

参考書：日本語学科編「資料集 一敬語と敬語意識一」

野元菊雄「敬語を使いこなす」 講談社新書、480円

南不二男「敬語」 岩波新書 480円

日本語学演習Ⅱ（現代日本語研究） 湯 本 昭 南

現代日本語の語彙と文法の基本的な諸問題のうちから、参加者の関心などを考慮した上で、テーマをきめ、講読と資料の収集、分析とをおこなう。

日本語学演習Ⅲ（日本語文法演習） 工 藤 浩

- ・テーマを一つか二つぐらいにしばりこむ。
- ・参加者が分担して、基本文献の講読・紹介と調査資料の収集とを行なう。（前半）
- ・資料の分析にもとづいて研究発表する。（後半）

日本文学概論（日本文学概論） 林 達 也

本年は、近世初期の散文を素材として、近世文芸が形成されていく過程を見ると同時に、そこに影響をおよぼした過去の諸作品にも目を配り、日本の古典文芸の傾向をも見ていくことにしたい。教材は、教場で配布する。

日本文学特殊研究Ⅰ（昭和文学の諸問題） 国 松 昭

伊藤整あたりからはじめて、戦時下の文学を考えていきたいと思っている。今年こそ、特定の作家に終始するのではなく、多少広く取り上げるようにしたい。

なお、Ⅱ第二の学生は、「日本文学基礎」を履修したものに限る。

日本文学特殊研究Ⅱ（古今和歌集の研究） 村 尾 誠 一

『古今和歌集』の四季歌を読む。日本の四季の美しさをうたう折々の歌を楽しみながら、古典和歌に関するさまざまな問題に言及していきたい。

テキスト：小町谷照彦訳注 『古今和歌集』（旺文社文庫） 旺文社 480円

日本文学演習Ⅰ（日本近代文学演習） 国 松 昭

- ・学生の発表とそれにもとづく質疑応答を中心とする。
- ・大正末期から昭和初期あたりの作品という範囲に限る。
- ・参加者は、少くとも1回の発表と、1回の責任質問担当役をしなければいけない。
- ・くわしくは最初の時間に説明する。

日本文学演習Ⅱ（古典文学演習） 村 尾 誠 一

鴨長明の『発心集』を読む。仏教説話に分類される作品だが、「中世奇人伝」とでも呼びたいくらいに、奇矯な魅力に富んだ人物が登場する。この作品を楽しみながら、古典散文の読み方を演習する。

テキスト：三木紀人校注 『方丈記 発心集』（新潮日本古典集成） 新潮社 2,100円

言 語 学

言語学特殊研究Ⅰ（記述言語学の方法） 松 田 徳一郎

テキスト：ライオンズ著 近藤達夫訳 『言語と言語学』 岩波書店 3,400円

言語学特殊研究Ⅱ（意味と論理） 松 田 徳一郎

限量化と限量型式をとりあげる。

テキスト：クワイン著 杖下隆英訳 『現代論理入門』 大修館 1,200円

言語学演習Ⅰ（音韻論） 松田 徳一郎

トルベツコイの音韻論を180ページ「5韻律的特徴」から読み続ける。

テキスト：トルベツコイ著 長嶋善郎訳 『音韻論の原理』 岩波書店 4,700円

言語学演習Ⅱ（日英擬音・擬態語） 尾野 秀一

日英擬音・擬態語の比較対照研究

テキスト：尾野秀一 『日英擬音・擬態語活用辞典』 北星堂書店 3,200円

日 本 文 化

日本文化概説（1920～30年代の「農村問題」をめぐる動向） 沼田 京子

。1920～30年代に農村を舞台に展開した諸運動（農民運動，農政運動，農村文化運動等）を取りあげ，それらが何を課題とし，何を達成しようとしたかについて検討する。

日本文化特殊研究Ⅰ（日本宗教の指導者と民衆） 島 蘭 進

日本の宗教史の中から，いくつかの宗教運動指導者を選び出し，彼らが民衆に強い影響力を及ぼすことができたのはなぜかを考える。それを通して，日本人の宗教意識の特性についても考えていきたい。

テキスト：宗教社会学会 『教祖とその周辺』 雄山閣出版 2,800円

日本文化研究演習Ⅰ（日本農村の社会的変容） 沼田 京子

。都市化・工業化にともない，戦前から戦後にかけて，日本農村がどのように変容していったかを検討する。同時に変容の基底にある連続性についても考えていきたい。

。テキストは開講時に指示する。

日 本 事 情

日本事情概説（近代日本思想史） 成田 龍一

。日本における思想史研究の成果と問題点を紹介したのち，明治以降の思想史を講義する。今年度は多分，明治期から大正初期あたりまでとなろう。

。思想家の思想を軸としつつも，ひろく精神状況といったものにもふれる予定である。

日本事情特殊研究Ⅰ（農地政策史） 沼田 京子

。農村社会の変動を踏まえながら，小作立法や自作農創設が現実的課題となる1920年代以降，農地改革を経て現代に至る農地政策の流れを検討する。参考文献は適宜紹介する。

日本事情研究演習Ⅰ（戦時期日本の精神史） 成 田 龍 一

・15年戦争下の思想がどのようなものであったかを、思想家にとどまらず、ひろく国民の精神状況に目をくばりつつ考察する。

戦争が日本人に、どのように影響を与えているかを思想——精神の面から探ってみる。

テキスト：鶴見俊輔 『戦時期日本の精神史』 岩波書店

日 本 語 教 育

日本語教育学概論（日本語教育学概説） 窪 田 富 男

日本語教育の目的・内容・方法について概説する。（外国語教授法の流れ、日本語教育の歴史と現状、日本語の扱い方、教師論、教材論などに触れる。）

特定のテキストはないが、下記の参考書は必ず読むこと。また、教科書はできるだけ多く揃えたり、目を通しておくこと。

テキスト：石田敏子 『日本語教授法』 大修館 2,200 円

参 考 書：リヴェース（天満訳）『外国語学習のスキル』 研究社 3,000 円

日本語教育学特殊研究Ⅰ（日本語の文の特徴） 近 藤 安 月 子

日本語教育の立場から、日本語の文の基本的な特徴について考える。

下記テキストを考慮中。詳しくは開講後教室で指示する。

テキスト：久野 暉『日本文法研究』 大修館

日本語教育学演習Ⅰ（教材研究） 窪 田 富 男

既成の教科書の長所・短所を見極めながら、望ましい教科書・教材について考える。各種の教科書に触れる予定であるが、次の2冊は購入しておくこと。

・国際交流基金 『日本語初歩』 凡人社 1,900 円

・Osam & Nobuko Mizutani: *Introduction to Modern Japanese*

ジャパントイムズ社 3,300 円

日本語教育学演習Ⅱ（外国語教育理論と日本語教育） 佐久間 勝 彦

外国語教育・日本語教育に関する資料を読む。

卒業論文演習（現代日本語の研究と教育） 窪 田 富 男

日本語教育に関連する分野（日本語研究をふくむ）で卒論を執筆する者を対象とする。

卒業論文演習（対照研究） 松 田 徳一郎

卒業論文演習（日本近代文学） 国 松 昭

卒業論文演習（日本語学） 湯 本 昭 南

現代日本語に関する論文を執筆する学生を対象とする。

日本語学概論と日本語学演習をすでに履習したものに限る。

卒業論文演習（日本語文法） 工 藤 浩

日本語の文法に関する卒業論文を書く者を対象とする。

卒業論文演習（日本事情・日本文化） 成 田 龍 一

日本事情・日本文化で卒業論文を書く学生を対象とする。

講座外科目

日本語教授法（日本語教授法の理論と実際） 窪 田 富 男

望ましい日本語教育の内容・方法等について検討する。既存の教科書のいくつかについては、その内容・構成等について既に知っていることを前提とする。

テキスト：M. フィノキアロ，C. ブラムフィット「言語活動中心の英語教授法」

(M. Finocchiaro & C. Brumfit, *The Functional-Notional Approach : From Theory to Practice*, Oxford Univ. Press, 1983)

大修館 2,700 円

関 連 科 目

漢文学特殊研究（日本漢文学の諸問題） 村 尾 誠 一

古代・中世における日本漢文学のいくつかの問題を考察する。教職希望者を主な対象とした講義なので、できるだけ多くの漢文を実習的に読む機会となるようにもしたい。

書 道 I（書写）（書写指導の実践と理論） 塚 本 宏

1. 書写教育の現状と今後のあり方について考え、書写の実技力、指導力を習得する。
2. 実技は毛筆書写を中心として、硬筆、刻字、拓本などを加味し、理論は書写の基本事項に文字学、書道史を加える。そして全体を実技7割、理論3割を目標としたい。

テキスト：加藤達成監修，書写書道教育教材研究会編集 『大学書写・書道教育』

第一法規 1,900 円

外国語学部日本語学科

專門教育科目

授業科目の名称		授業を行う年時	単位数又は回数			履修年次				備考
			必修	選択	自由	1年	2年	3年	4年	
日本語学専攻	日本語学概論	2	4				4			(3年次以上履修) 必修13科目 46単位以上 選択9科目 34単位以上 (3年次以上履修) (") ("

日本語教師養成科目

授業科目の名称		授業を 行う年	単位数又は 時間数			履修年次				備考
			必修	選択	自由	1年	2年	3年	4年	
日本語 教師 養成 科目	日本語学概論	2	4				4			必修7科目 24単位以上 選択1科目 4単位以上
	日本語音声学	3		4						
	日本語語彙論	3	4					4		
	日本語文法論	3	4					4		
	日本語文字・ 表記概説	2		4						
	日本語史	4	4						4	
	日本語教授法 概論	3	4					4		
	日本語教育									
	教材・教具論	4	2						2	
	日本語教育 測定・評価法	4		2						
	日本語教育 実習	4	2						2	
	計									28 単位以上

(英米語学科・中国語学科の学生については、日本語教師養成のための履修科目のうち2科目8単位まで専門科目の選択科目の単位に含むことができる。)

講義要項

言語と文化

鈴木孝夫

人間の使うことばと、広い意味での文化はどのように関係するのか、日本語と外国語はどこがどのように違うのか、日本人は自分たちの言語である日本語を、どのようなものと考えているのか、そして最近ようやく始まった日本語の国際普及をどう考えて行くのか、英語がよく世界語と言われることの意味とはどんなものかなどについて講義する。

(教科書)

鈴木孝夫「ことばと文化」昭和49年、岩波新書、480円

〃 「ことばの人間学」昭和56年、新潮文庫、360円

(参考文献)

鈴木孝夫『閉された言語・日本語の世界』昭和50年、新潮選書830円

〃 『武器としてのことば』昭和60年、新潮選書、1,050円

人間の言語の音声上のしくみ、語彙や文法のしくみ、世界の言語の分布、言語の変化の様子などについて講義する。

（教科書） 未定

（参考文献） 未定

日本語文章表現法

伊藤 芳 照
椎名 和 男
草場 裕

日本語で文章を表現する際の表記上、構文上の約束事を理解し、類義語の意味・用法の違いを認識することにより、伝達性の高い文章の書き表し方を考える。適宜プリントを配布する。

比較文化論

熊谷文枝

国際化時代の今日、外国人の日本に対する関心は着実に高まっている。その情勢のもとでの若者に必要とされる能力のひとつは、まず日本を客観的に理解し、異文化との比較において、その同一性及び相違を把握し、自分の意見を明確に国際語で表現できることといえよう。それは、国際人の条件のひとつともいえる。そこで、本講では、異文化時代のコミュニケーションを、日本文化とアメリカ文化を比較対照させつつ考察する。

（教科書）

我妻洋「日本人とアメリカ人ここが大違い」1985

ネスコ（日本映像出版株）／文芸春秋 720 円

小松達也「英語で日本を話そう」1986 サイマル出版会 1,500 円

（参考文献）

図書として 熊谷文枝「マージナライゼーションの青春」1985

Ymca 出版 1,200 円

小松達也「英語で話そう」サイマル出版会 1,400 円

石川島播磨重工広報部編「ザ・ニホンゴ」1985

学生社 980 円

D. バーンランド「日本人の表現構造」1986 サイマル出版会 1,400 円

B. クリッシャー「住んでみた日本」

サイマル出版会 1,300 円

J. コンドン「異文化間コミュニケーション」

サイマル出版会 1,700 円

対照言語学

安 藤 浩

日本語を意識化し客観的に捉える姿勢を身につけることを目的として、

1. タイ語の文字、発音、文法、語彙の全般にわたって概観し、その文化特性に基づく発想法、表現形式との関連を探り、日本語と対照する。
2. タイ語を母語とする学習者による誤用例について、その原因を探り匡正法を考える。

(教科書)

プリント

日本史

村 山 光 一

この「日本史」では、原始から現代にいたる歴史をできるだけ多面的に、かつ総合的に考察してゆきたい。そこで、本年度はまず原始・古代の歴史を講説する。その際、①国際関係（特に東アジアの）と国内問題とのかかわり、②一般民衆の生活、③各時代の文化の特徴の三点については特に留意して話を進めるつもりである。なお、本講義の中では、史料にもとづいて諸君とともに歴史を考えることもしてみたい。

(教科書)

教科書は使用しない。

(参考文献)

講義の際適宜指示する。

日本文化論

井之口 章 次

日本人は日本文化論が好きで、おびただしい数の書物が出まわっている。そういうものに眼を配ることも必要であるが、単なる評論に終わることなく、何かに焦点をあてて見つめてみたい。

大きな転機を迎えた農業について、主に近世に刊行された「農書」や、その後の農業技術の近代化などを考える。スライドを多用するほか、博物館見学によって実物に接することにした。

(教科書)

筑波常治・「日本の農書」1987・中央公論社（中公新書）・540円

〈日本近代文学と古典〉をテーマに講義する。明治期以降の近代文学は、西洋との交流によってそれまでと区分され、伝統の断絶が自明のように見なされてきた。しかし、日本人の美意識や風土が変わらない以上、通底するものもあるはずである。そこで、古典の影響の強い芥川龍之介・谷崎潤一郎等の諸篇を取り上げながら、原典との比較を試み、そこに辿れる共通認識と彼等の独創性を考察する。

（教科書）

講義で指示する。

（参考文献）

「日本近代文学大系・芥川龍之介／谷崎潤一郎」（昭45～46、角川書店、1,300～1,600）

「吉田精一著作集」全25巻（昭54～56、桜楓社、各1,800～2,800）

南山大学

外国語学部日本語学科

日本語学科学生は、教養科目を52単位以上、専門教育科目を92単位以上、合計144単位以上をそれぞれ指定の年次に履修しなければならない。

日本語学科学生は、専門教育科目のうち、必修科目48単位、選択科目、自由科目をあわせて44単位以上、履修しなければならない。

日本語学科に開設する専門教育科目と、その単位数および履修年次は、下記のとおりとする。

日本語学科専門教育科目

必修科目

日本語学概論 (2)	1	日本語教育概論 (2)	1
日本語学基礎演習 (2)	2	日本文化基礎演習 (2)	2
日本文化概論 (4)	2	キリスト教思想Ⅰ (2)	2
現代日本語の構造Ⅰ (4)	3	現代日本語の構造Ⅱ (4)	3
日本語史 (4)	3	外国語教育方法論 (4)	3
日本文学 (4)	3	キリスト教思想Ⅱ (2)	3
演習Ⅰ (4)	3	演習Ⅱ (4)	4
日本語教育実地研究 (4)	4		

計48単位

選択科目

日本語資料研究 (1) (4)	2	日本語資料研究 (2) (4)	2
日本文化研究 (4)	2		
外書講読 (日本語学) (4)	2	外書講読 (日本語教育) (4)	2
外書講読 (日本文化) (4)	2		
国際英語Ⅰ (4)	3		
日本語特殊講義 (1) (4)	3・4	日本語特殊講義 (2) (4)	3・4
日本語特殊講義 (3) (4)	3・4	日本語特殊講義 (4) (4)	3・4
日本語教育特殊講義 (1) (4)	3・4	日本語教育特殊講義 (2) (4)	3・4
日本文化特殊講義 (1) (4)	3・4	日本文化特殊講義 (2) (4)	3・4
国際英語Ⅱ (4)	4		

計44単位

自由科目

外国語学部 他学科開講専門教育科目
他学部 開講専門教育科目

講義概要

- 4101 日本語学概論 (必・1年次・2単位・前期) 駒井 明
言語学的視点から日本語を研究・分析する方法とその結果を概観し、日本語教育にとって、どのような知識・研究が必要かを考察する。
- 4111 日本語教育概論 (必・1年次・2単位・後期) 加藤 俊一
外国語教育としての日本語教育の歴史的変遷から現状と問題点を概観し、将来の日本語教育のあるべき姿と日本語教師に求められる知識と教養について考察する。
- 4201 日本語学基礎演習 (必・2年次・2単位・前期) 坂本 正
日本語教育に必要な文法とは何かを考察し、日本語教育への応用を考えながら、研究・討議する。
- 4206 日本文化基礎演習 (必・2年次・2単位・後期) 土田 友章
今年度は、世阿弥の『風姿花伝』を用い、中世日本文化を思想的に展望する。テキストには、『日本思想史大系24 世阿弥・禅竹』を使用し、ほかに英語訳も参照する。
- 4211 日本文化概論 (必・2年次・4単位・通年) J. Swyngedouw
国際化社会の到来や、それに対する日本の貢献を念頭に置きながら、とくに外国人の理解をうながす方向で、現代日本人の文化構造を支えている基本的価値体系を概観する。
- 4501 日本語資料研究(1) (選・2年次・4単位・通年) 丸山 徹
日葡辞書
16世紀後半から17世紀にかけて来日したイエズ会宣教師の残した日葡辞書について、その作成された背景を考えながら、共に学ぶ。
- 4511 日本文化研究 (選・2年次・4単位・通年) 土田 友章
今年度は、中世から近世にかけての思想史・文化史を概観する。外国語(主として英語)による研究・紹介も含めて、基礎的な文献に親しむと同時に、方法論・視座を検討する。
- 4521 外書講読 (選・2年次・4単位・通年) 阿部 泰明
In this course we will read several articles selected from various linguistic books such as (1) *Linguistics: An Introduction to Language and Communication*, (2) *The Structure of the Japanese Language*, and (3) *English & Japanese in Contrast*. Articles written for students with little linguistic background will be selected.
We will use both English and Japanese in class: the class will be conducted bilingually. Students will be encouraged to use English for writing and speaking in class. Materials will be xeroxed and distributed.

4522 外 書 講 読 （選・2 年次・4 単位・通年）

伴 紀 子

外国語教育と第2言語習得に関する英語文献を読み、読解力の基礎を養うとともに、外国語としての日本語の教育についての理解を深める。又、同時に外国語教育学用語をその理論的枠組みの中でとらえられるようにする。

4523 外 書 講 読 （選・2 年次・4 単位・通年）

伴 紀 子

異文化間コミュニケーションを図るにはまず自国の文化について理解していなければならない。日本の文化の諸相について書かれた英文テキストを講読し、その姿を眺め、英語で説明出来る能力を養う。

姫路獨協大学

外国語学部日本語学科

外国語学部・日本語学科 専門教育科目一覧表

区分	2年次から開講	単位 数	3年次から開講	単位 数	4年次から開講	単位 数	備 考		
	授 業 科 目 名		授 業 科 目 名		授 業 科 目 名				
専 門 教 育 科 目			日本語文献講読Ⅰ	6			必修科目 計26単位	必修科目・ 選択科目を合わせて合計56単位以上を修得すること	
					日本語文献講読Ⅱ	4			
	日本語学概論	4							
	日本文学概論	4							
			演 習	4	演 習	4	Bグループ 必修		
			第二外国語演習（英語）	2	第二外国語演習（英語）	2			
			日本語表現研究Ⅰ－1	2			2 単位以上 必修		計6単位以上 選択必修
			日本語表現研究Ⅰ－2	2					
			日本語表現研究Ⅰ－3	2					
			日本語表現研究Ⅱ－1	2			2 単位以上 必修		計20単位以上 選択必修
			日本語表現研究Ⅱ－2	2					
			日本語表現研究Ⅱ－3	2					
			日 本 語 史	4			8 単位以上 選択必修		
			日本語学特別研究	4					
			日本文学各論	4					
			日本文学特別研究	4					
			日本文化論	4					
			日本文化Ⅰ	4					
			日本文化Ⅱ（政治）	4					
			日本文化Ⅲ（経済）	4					
			日本文化特別研究	4					

〔備考〕 印は必修科目

日本語学科Aグループは外国人及び長期外国滞在外者、日本語学科Bグループは国内高等学校卒業者を対象とする。

◎ 日本語学科の専門教育科目は、共通専門教育科目(17ページ参照)を含み、必修科目及び選択科目を合わせて合計76単位以上を修得しなければならない。

外国語科目

日本語 I - A

小出詞子、吉田金彦、尾崎明人、
古藤友子、長谷川啓、木川行央

この講座は、日本語を母語としない学生（留学生、及び帰国学生）に、大学の講義がとれるようにバランスのとれた能力〔話し（会話）・聞き（聴解）・読み（読解）・書き（作文）〕をつけることを目的とする。毎年入学時に能力試験を行い、その結果により次のようにクラス分けをする。

【I - A - a】〔28単位（2単位×14）通年〕 + 〔7単位（1単位×7）〕

1. 全くの初心者を対象とし、10月に開講する。

2. この講座を

I - A - a - 1 … 理解

I - A - a - 2 … 読み書き

I - A - a - 3 … 話し方

I - A - a L L

に分ける。

3. 2学期終了後は、I - A - bの2学期目に合流する。

【I - A - b】〔14単位（2単位×7）〕

1. この講座は原則として4月に開講する。

2. この講座を受講するには、基礎的能力（基礎分型、基礎語彙3,000ぐらい、漢字1,000ぐらい）を具えていることを前提とする。

3. この講座を理解、話し方、読み書き／作文に分ける。

注：帰国学生は、話しことばは十分できることを前提として、読み書き、語彙、慣用句などの習得につとめること。

日本語 I - B 〔8単位（2単位×4） 通年〕

小出詞子、吉田金彦、真継伸彦、
古藤友子、長谷川啓、木川行央

この講座は、日本語を母語とする学生を対象とする。

1 年 次

1 年次学生は次のように 4 科目に分けて行う。

I - B - a (文法を中心とする時間)

吉 田 金 彦

現代日本語の文法的な面を、基礎的な所から学習・反省し、従来の偏向した部分を批判し、日常生活とこれからの日本語教育に役立つよう訓練する。また、英語・中国語との対比にも関心を向けさせ、現代日本語の慣用表現の特徴や、外国人の文法上の誤用、悪用の傾向があることに気付かせ、日本語の修辞上の良否についても自覚させる。正確で美しい日本語の文法とは何であるかを考え、習得させる。

使用テキスト：鈴木康之 『日本文法の基礎』（三省堂）

I - B - b (文字を中心とする時間)

真 継 伸 彦

現代日本語の文字の面を中心に、現状を考察・学習してゆく。漢字・仮名の構造、その略字体、ローマ字・外来語の表記法、送り仮名・振り仮名などの諸問題についても現在における問題点を考え、基礎研究の一部に進行してゆく。正しい表記法とは何か、文字の合理的整備、運用などについて反省し、訓練する。

使用テキスト：真継伸彦「青春とは何か」（岩波ジュニア新書）

I - B - c (音声を中心とする時間)

木 川 行 央

現代日本語の発音・音声・アクセント・イントネーションの方面を中心として、音声言語の面に注目してその正確な基礎的知識を学び、奇麗で正確な日本語の標準語音とは何であるかを考え、体得する。外国語音との差異、日本国内における方言音なども参考に取り上げる。随時、対話・会話・座談・発表などをさせ、朗読などを行い、音声言語についての豊かな感覚を養う。

使用テキスト：天沼、大坪、水谷 『日本音声学』（くろしお出版）

I - B - d (対照)

小 出 詞 子

日本語を客観的にとらえるために、英語との対照研究に基づいて問題点を考える。外国語としての日本語を認識させるため、日本語教材をテキストに選ぶ。

使用テキスト：小出詞子 『日本語・にほんご・にっぽんご』（開拓社）

2 年 次

2 年次学生は次のように 4 科目に分けて行う。

I－B－e（文法と音声を中心とする時間）

吉田金彦、小出詞子

1 年次において学習した日本語 I－B－a.c の習得に基づいて、それぞれの日本語文法並びに日本語音声の知識をさらに深め広げ、かつ、文法と音声との関連するところ、それぞれの特徴を徹底的に考察し、専門的な研究へのアプローチとなるよう学習する。1 年次の学習体験を基礎とするから、1 年次の使用テキストも随時参考書として併用する。

使用テキスト：〈文法〉 徳田政信 『近代文法図説』（明治書院）

〈音声〉 随時指示する。

I－B－f（文字・仮名遣いを中心とする時間）

真 継 伸 彦

1 年次に学習した日本語 I－B－b の体得と反省に基づいて、さらに文字・仮名遣い等を中心とする方面の日本語について、広く深く研究し実践する。1 年次に学習し残した面を取り上げ、専門的研究へのアプローチとなるよう考察する。

使用テキスト：『夏目漱石評論集』（中央公論、日本の名著42）

I－B－g（作文を中心とする時間）

長谷川 啓

1 年次において学習し実践した日本語 I－B－c の成果・向上に基づいて、その方面の補完作業としての意識を担う時間である。より高度の作文実践力を養い、将来の学術論文作成、社会における各種実用文、並びに文芸作品執筆の練習到達など、並びにその批判研究を行う。

使用テキスト：随時指示する。

I－B－h（対照）

古 藤 友 子

日本語を客観的にとらえるために、中国語との対照研究に基づいて問題点を考える。

クラスでは、現代中国語の音声、文字、語彙、構文等について、日本語との対照という観点から、そのポイントを学習する。また、中国の社会や文化の特徴についても言及し、中国及び中国語に対する関心を喚起する。

使用テキスト：『ドリル式中国語テキストⅠ』（くろしお出版）

参考書：図書館配備の指定書（参考文献リストは開講時に配付する）

專門教育科目

[illegible]

教科書：吉田 … 中本正智 『日本語の原景』（金鶏社）

小出 … 隨時指示する。

日本語学科生専門の日本語学の概論として、今最も重要にしてかつ必要な基礎的であり、また普遍的な日本語についての特質を考察する。すでに学習してきたところの日本語 I-B とアレンジするもので、日本語を内側からと外側からの両面より研究する立場に分かれる。

日本文学概論 [4単位 通年] 沖 塩 徹 也

文芸とは何か、作者の創作及び読者の鑑賞活動の両面から、その本質を探ってゆく。特に「時間」とか「現実性」について考える。各論としては、小説、詩、戯曲、評論、随筆の特質を把握する。さらに具体的な探究として、日本文学展望をかねた十篇。現在では翻訳作品も重要な位置を占め、愛読せられてもいるので、世界文学展望をかねて十篇。これらを鑑賞してゆきたい。

ノート講義（ただし、自著『日本文芸学序説』が間に合えば、それを教科書とする予定。）

参考書については講義中に指示する。

日本文学概論 [4単位 通年] 長谷川 啓

日本文学とは何かを考察する。今年は明治時代以降の文学にしぼり、小説を中心に、俳句・短歌・詩・評論・戯曲等のジャンルを取り上げながら、身体・性・社会・制度・文化・自然といった角度から言語表現の本質に迫ってゆきたい。

特に男性中心のパラダイムを問い直すフェミニスト・クリティシズムの視点から、近代文学の記述のありようを検討し、これまで軽視されがちだった女性文学に照明をあててみたいと思っている。

テキストには『短編女性文学近代』（桜楓社）を引き続き使用する他、東西の文学論や漱石・晶子・朔太郎等々の作品を扱うが、この点については講義中に適宜指示することにした。

明海大学
外国語学部日本語学科

● 専門教育科目

授業科目の名称	
日 本 語 学	日 本 語 表 現 法
	日 本 語 学 概 論
	日 本 語 研 究 法
	日 本 語 史 概 説
	日 本 語 音 声 学
	日 本 語 文 法 論 I
	(形態論)
	日 本 語 文 法 論 II
	(構文論)
	日 本 語 文 法 論 III
	(古典文法)
	言 語 学 概 論
	対 照 言 語 学
	社 会 言 語 学
	日 本 語 教 授 法 概 論
	日 本 語 教 材 研 究
	日 本 語 教 授 法 特 講
	日 本 語 教 授 法 演 習
日 本 文 学	日 本 語 演 習 I
	(文法論)
日 本 文 学	日 本 語 演 習 II
	(語彙論・意味論)
日 本 研 究	日 本 文 学 概 論
	日 本 文 学 史
	日 本 思 想 史
国 際 研 究	日 本 文 化 論
	日 本 経 済 論
	比 較 文 化 論
	異文化コミュニケーション I
	(バーバル)
	異文化コミュニケーション II
	(ノンバーバル)
	中 国 事 情
	英 米 事 情
	ヨ ー ロ ッ パ 事 情
	マ ク ロ 国 際 経 済 論 (一部のみ)
	ア メ リ カ 経 済 論
	ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論 (一部のみ)
	中 国 経 済 論 (一部のみ)
	東 南 ア ジ ア 経 済 論 (一部のみ)
	多 国 籍 企 業 論 (一部のみ)
	社 会 主 義 経 済 論 (二部のみ)

(一、二部共通)

1 年生 専門教育科目

○印は必修科目

	授 業 科 目		授業担当者		第 一 部				第 二 部			
					外国語学部			経済学部	外国語学部			経済学部
	J-F 番号	名 称	氏 名	J-F 番号	日本 語	英 米 語	中 国 語		日本 語	英 米 語	中 国 語	
日 本 語 学 科	102	日 本 語 学 概 論	武井 睦雄	0041	④							
			山口 仲美	0040					④			
	155	日 本 語 特 別 演 習	アトコ・ 7ルフィンソ	0042	2				2			
			小堀 郁夫	0043	2				2			
			福地 務	0101	2				2			
			佐々木文彦	0102	2				2			

2 年生 専門教育科目

○印は必修科目

	授 業 科 目		授業担当者		第 一 部				第 二 部			
					外国語学部			経済学部	外国語学部			経済学部
	J-F 番号	名 称	氏 名	J-F 番号	日本 語	英 米 語	中 国 語		日本 語	英 米 語	中 国 語	
日 本 語 学 科	103	日 本 語 研 究 法	豊田 豊子	0045	④				④			
	104	日 本 語 史 概 説	山口 仲美	0040	④							
			林 四郎	0046	④				④			
	106	日 本 語 文 法 論 I	谷光 忠彦	0044	④				④			
	109	言 語 学 概 論	福井 玲	0100	④				④			
	127	日 本 文 学 概 論	塚田 晃信	0004	4							
	128	日 本 文 学 史	塚田 晃信	0004	4				4			
	133	日 本 経 済 論	阿部 照男	0108	4				4			
	137	比 較 文 化 論	中村俊亀智	0005	④							
	138	異文化コミュニケーション I	金岡 秀友	0107	4				4			

専門教育科目

(科目コード) 科 目 名 単 位 担当者氏名 (担当者 コード)	授 業 概 要
(102) 日 本 語 学 概 論 4 単位 武 井 睦 雄 (0041)	1. 授業概要 「日本語」とはどのような言語か、それをさまざまな視点からとらえつつその輪郭を明らかにし、さらに、その歴史的な推移のあとを概観する。また、研究の対象として把握されるべき「日本語」が内包する諸問題につき検討を加え、あわせて、その背景として存在する諸要素につき言及する。 なお、当面とくに教科書を指定することはせず、講義中に随時参考文献名を示し、必要に応じ、参照するものとする。
(102) 日 本 語 学 概 論 4 単位 山 口 仲 美 (0040)	1. 授業概要 「はな(花)」と発音してみてください。どの人の発音も、よく耳をすますと、少しずつ違っています。でも、みんな間違いなく、「花」と聞きとっています。なぜでしょうか。 こんな日常の身近な問題を考えることからはじめ、音声や音韻、文字、語彙、文法といった日本語の問題を考えて行きたいと思います。 2. テキスト 書 名 国語学研究法 著 者 名 北原保雄ほか4名 出版社名 武蔵野書院
(155) 日本語特別演習 2 単位 アントニオ・アルフォンソ (0042)	1. 授業概要 母国語及び第二言語としての日本語研究法。日本国内と海外で教える際の教授面の比較。日本語教授法の現状。文化的、社会言語学的側面。専門職としての日本語教育。目標並びに将来への展望。 2. テキスト 書 名 Japanese A Basic Course 著 者 名 ALFONSO / NIIMI 出版社名 Sophia University L.L. Center of Applied Linguistics

<p>(155)</p> <p>日本語特別演習</p> <p>2単位</p> <p>小堀 郁夫</p> <p>(0043)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>日本語を学ぼうとする外国人に対して、日本人の国語教科書をそのまま使うわけにはいかない。それでは外国人学習者にどのような教材が必要なのか。言語的教材である教科書、特に入門期レベルの教科書について、次のような項目に従って見ていきたい。</p> <p>① 学習目的と学習レベルによる教材</p> <p>② 教材と指導法（特に入門期レベルを中心として）</p> <p>③ 教科書の構成・内容について何種類かの教科書を取りあげ、その指導上の留意点等について検討してみる。</p> <p>2. テキスト</p> <p>①書 名 日本語教科書ガイド</p> <p>著 者 名 国際交流基金編</p> <p>出版社名 北星堂書店</p> <p>②書 名 日本語教材リスト</p> <p>著 者 名 凡人社</p> <p>出版社名 凡人社</p>
<p>(155)</p> <p>日本語特別演習</p> <p>2単位</p> <p>福地 務</p> <p>(0101)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>外国人に日本語を教えるためには、普段はほとんど意識していない日本語を、一步離れて客観的にみる能力が必要とされる。このコースでは、日本語に関する知識を得ることに努めると同時に、私たち自身そして私たちの身の回りで、日本語がどのように使われ、話されているかを観察したり、時には外国人の日本語を例にとりあげたりして、より客観的に日本語を見る目、聞く耳を養うことを目的とする。</p> <p>2. テキスト</p> <p>下記のものを主要なテキストにする。それ以外は授業の時に指示する。</p> <p>書 名 日本語の文法（上）（下）（日本教育指導参考書4）</p> <p>著 者 名 国立国語研究所編</p> <p>出版社名 大蔵省印刷局</p>
<p>(155)</p> <p>日本語特別演習</p> <p>2単位</p> <p>佐々木 文彦</p> <p>(0102)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>日本語の文法についての基礎的な勉強をしていきます。それを通してあなたがなぜ言葉の研究を志すのかという動機を明らかにしていくことが、本演習の最大の目標です。ある決まった知識を身につければそれでよいというのではなく、日本語を話し、日本語で考え、そしてその日本語を研究しようとしているあなた自身に目を向けていくということを常に意識する時間にしていきましょう。</p> <p>2. テキスト</p> <p>特に指定しません。</p>

<p>(103)</p> <p>日本語研究法</p> <p>4単位</p> <p>豊田 豊子</p> <p>(0045)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>日本語のネイティブ・スピーカーである私たちは、毎日無意識のうちに日本語を話しています。しかし、なぜそう言うのかと考えると、自分で話しているのに、分からないことがいっぱいです。例えば、何かを聞かれて答えるとき、「分かりません」「分かります」または、「知りません」「知っています」と言いますね。なぜ「知る」の肯定のときだけ「知っています」と「ている」がつくのでしょうか。「知ります」では変ですね。こんな日本語の身近な問題を取り上げ、どうしてそうなるのか研究してみます。みんなが考察に参加する形式で授業を進めますから、出席を重視します。</p> <p>2. テキスト</p> <p>テキストは講義のときに指示します。</p>
<p>(104)</p> <p>日本語史概説</p> <p>4単位</p> <p>山口 仲美</p> <p>(0040)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>われわれは、小学校に入るとすぐに五十音図を教えられる。あの五十音図は、いつ頃、どのようにして生れてきたのか？ いろは歌は、どうか？ われわれの今書いている漢字かな交り文は、どうか？ こんな疑問を持ったことが、あるだろうか。</p> <p>この講義では、現在のわれわれの言語生活を基点にして、日本語の歴史の話をしたいと思う。</p> <p>2. テキスト</p> <p>書 名 国語史資料集 ― 図録と解説 ―</p> <p>著 者 名 国語学会編</p> <p>出版社名 武蔵野書院</p>
<p>(104)</p> <p>日本語史概説</p> <p>4単位</p> <p>林 四郎</p> <p>(0046)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>古代から現代まで、各時代の日本語の姿を、代表的文献によって、ひととおり眺める。①これまで、国語史家によってとらえられている、国語史上の主な話題の展望。②古事記を代表とする文献から知られる、漢字で記された古代日本語のありさま。③祝詞・宣命に見られるテニヲハの意識。④今昔物語集に見られる漢字仮名まじり文の始まり。⑤平安朝仮名文字文学作品の文体。⑥中世軍記物の和漢混淆文。⑦「つれづれ草」の文章史上の意味。⑧江戸時代初期小説の簡潔文体。⑨江戸時代小説文章の変遷（井原西鶴、上田秋成、滝沢馬琴、柳亭種彦）。⑩江戸時代の話しことばがわかる作品。⑪明治普通文の文体。⑫言文一致文体の誕生。⑬昭和の日本語。</p> <p>2. テキスト</p> <p>使用せず。</p>

<p>(106)</p> <p>日本語文法論Ⅰ</p> <p>4単位</p> <p>谷 光 忠 彦 (0044)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>本講座は形態論を中心に日本の文法学説の基本的な考え方を講述する。特定の文法学説にとらわれず、なるべく多くの学説を紹介するが、殊に重要な橋本文法、山田文法、時枝文法を中心とするつもりである。</p> <p>2. テキスト</p> <p>プリントによる。</p>						
<p>(109)</p> <p>言語学概論</p> <p>4単位</p> <p>福 井 玲 (0100)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>言語学の様々な分野（音韻論・形態論・文法論、通時言語学・共時言語学）について我々の身近にある題材を用いてわかりやすく概説する。</p> <p>2. テキスト</p> <p>テキストは用いず、必要な資料・参考文献等はその都度プリントとして配布する。</p>						
<p>(127)</p> <p>日本文学概論</p> <p>4単位</p> <p>塚 田 晃 信 (0004)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>日本文学の歴史にとって、花鳥風月の美学は、欠かすことのできないものであった。その美学を、もろもろの古典文学作品の中に確認し、伝統と創造の意義を学ぶこととしたい。</p> <p>2. テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>書 名</td><td>花鳥風月のこころ</td></tr> <tr> <td>著 者 名</td><td>西田正好</td></tr> <tr> <td>出版社名</td><td>新潮社</td></tr> </table>	書 名	花鳥風月のこころ	著 者 名	西田正好	出版社名	新潮社
書 名	花鳥風月のこころ						
著 者 名	西田正好						
出版社名	新潮社						
<p>(128)</p> <p>日本文学史</p> <p>4単位</p> <p>塚 田 晃 信 (0004)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>長い歴史を持つ日本の文学は、それぞれの時代の社会や人々の心情を反映して、すぐれた成果を挙げて来た。ここでは、上代から江戸時代末まで、いわゆる古典文学をとり上げ、実際に作品に触れながら、多面的に考えることとしたい。</p> <p>2. テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>書 名</td><td>日本古典読本</td></tr> <tr> <td>著 者 名</td><td>秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男 編</td></tr> <tr> <td>出版社名</td><td>筑摩書房</td></tr> </table>	書 名	日本古典読本	著 者 名	秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男 編	出版社名	筑摩書房
書 名	日本古典読本						
著 者 名	秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男 編						
出版社名	筑摩書房						

<p>(133)</p> <p>日本経済論</p> <p>4単位</p> <p>阿部照男</p> <p>(0108)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>日本経済論の直接の目的は、日本経済の現状理解と将来展望を行うことにある。しかし、そのためには、日本経済がこれまでたどった足跡を知らなければならない。我々は、先ず、明治以降戦前の日本経済の状況と特質を知ることから始める必要がある。講義は、日本経済を絶えず世界経済の中に位置づけるという観点を堅持しつつおよそ次のような順序でおこなう。1 近代資本主義体制の成立と変遷。2 日本経済の近代化とその矛盾。3 第2次大戦終了と現代経済の形成。4 戦後日本経済の諸改革。5 戦後日本経済の復興過程。6 日本経済の高度成長過程。7 国際通貨危機とオイルショック。8 世界不況と貿易摩擦。9 日本経済の「虚業」化。10 NIE Sの台頭と世界経済の新動向。</p> <p>2. テキスト</p> <p>書 名 生産的労働と不生産的労働</p> <p>著 者 名 阿部照男</p> <p>出版社名 新評論</p>
<p>(137)</p> <p>比較文化論</p> <p>4単位</p> <p>中村俊亀智</p> <p>(0005)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>異なる文化をどう学び、それをどう自分のものにしていったか。そのなかでどのような比較文化論がうみだされたか。この講義ではいくつかの自伝を紹介しながら、工業化社会の文化とそれ以前の文化との出会い、文化的にみたヨーロッパ北・南、ヨーロッパと北米、先進文化圏としての欧米文化と日本文化の自立などについて考える。とくに人類学者、芸術家、建築家、デザイナーたちの自伝をとりあげる。</p> <p>2. テキスト</p> <p>参考書はその都度指示する。</p>
<p>(138)</p> <p>異文化コミュニケーション I</p> <p>4単位</p> <p>金岡秀友</p> <p>(0107)</p>	<p>1. 授業概要</p> <p>ヨーロッパにおいて、ギリシャ哲学とキリスト教とが、今日に至るまで、彼らの共通で基本的な考えとなった如く、アジア全域においてその役割りを果たしたのは、仏教とインド哲学とであった。西アジアを除くアジア全域は、かくてアジア全域に共通のコミュニケーションを持つと同時に、それぞれの地域に特徴的な文化との接触 — アカルチュレーションを起こしたのであった。歴史的・地域的に考察を加えて行きたい。</p> <p>2. テキスト</p> <p>書 名 インド哲学史概説</p> <p>著 者 名 金岡秀友</p> <p>出版社名 佼成出版社</p>

専門教育科目

部	学 部	学 科	必 修	選 択	修 得 単 位
第 一 部	外国語学部	日本語学科	26単位	必修 2単位 58単位	86単位
		英米語学科	32単位	54単位	86単位
		中国語学科	28単位	58単位	86単位
	経済学部	経済学科	28単位	必修20単位 38単位	86単位
第 二 部	外国語学部	日本語学科	26単位	必修 2単位 58単位	86単位
		英米語学科	28単位	58単位	86単位
		中国語学科	28単位	58単位	86単位
	経済学部	経済学科	28単位	必修20単位 38単位	86単位

麗澤大学
外国語学部日本語学科

●日本語学科教育課程モデル

一般教育科目	28(24)単位
外国語科目	12(8)単位
保健体育科目	4単位
基礎教育科目	4(12)単位

専攻科目 (各学科)	42 単位	基礎言語学講義 日本文化概論 現代日本語講読 古典日本語演習 現代日本語演習 現代日本事情 研究入門科目	前期 専門教育科目 42 単位	専門教育科目 88 単位
	18 単位	第1群科目〔上級演習〕 第2群科目〔語学・文学研究科目〕 文化・地域研究科目	後期 専門教育科目 46 単位	
	28 単位	第3群科目〔比較文化研究科目〕 国際関係研究科目 経済経営研究科目 第4群科目〔その他の関連科目〕		

※日本語を第一言語としない学生について必修単位数が異なる場合は()で表示。計136単位

	コード	授 業 科 目 名	単位	年次	学期	区分	担 当 者	備 考
日 本 語 学 科 前 期 専 門 教 育 科 目	40110	基礎言語学講義Ⅰ	2	1	1	講	北村 甫教 授	
	40210	基礎言語学講義Ⅱ	2	1	2	講	北村 甫教 授	
	40310	基礎言語学講義Ⅲ	2	2	1	講	坂本比奈子助教授	
	40410	基礎言語学講義Ⅳ	2	2	2	講	高橋 太郎教 授	
	40120	日本文化概説Ⅰ	2	1	1	講	大塚 真三教 授	
	40320	日本文化概説Ⅱ	2	2	2	講	美和 信夫教 授	
	40130	現代日本語講読Ⅰ	2	1	1	講	松本 哲洋講 師	
	40230	現代日本語講読Ⅱ	2	1	2	講	坂本比奈子助教授	
	40430-1	現代日本語講読Ⅲ	2	2	1	講	生方 徹夫教 授	
	40430-2				1	講	岩見 照代助教授	
日 本 語 学 科 前 期 専 門 教 育 科 目	40340	古典日本語演習Ⅰ	1	★ 2	1	演	安藤 靖治助教授	
	40440	古典日本語演習Ⅱ	1	★ 2	2	演	安藤 靖治助教授	
	40151	現代日本語演習ⅠA	1	★ 1	1	演	高橋 太郎教 授	
	40152	現代日本語演習ⅠB	1	★ 1	1	演	大坪 一夫講 師	
	40153	現代日本語演習ⅠC	1	★ 1	1	演	戸田 昌幸助教授	
	40251	現代日本語演習ⅡA	1	★ 1	2	演	高橋 太郎教 授	
	40252	現代日本語演習ⅡB	1	★ 1	2	演	大坪 一夫講 師	
	40253	現代日本語演習ⅡC	1	★ 1	2	演	戸田 昌幸助教授	
	40351	現代日本語演習ⅢA	1	★ 2	1	演	松本 泰丈講 師	
	40352	現代日本語演習ⅢB	1	★ 2	1	演	坂本比奈子助教授	
	40451	現代日本語演習ⅣA	1	★ 2	2	演	松本 泰丈講 師	
	40452	現代日本語演習ⅣB	1	★ 2	2	演	坂本比奈子助教授	
	40501	現代日本事情A	1	1	1	演	小野 博司教 授	
	40502	現代日本事情B	1	1	2	演	長谷川教佐講 師	
	40503	現代日本事情C	1	2	1	演	山崎 益吉講 師	
	40504	現代日本事情D	1	2	2	演	高 巖講 師	
	40600	言語学研究入門	4	2	1	講	黒川 洋教 授	
	40700	日本文学研究入門	4	2	2	講	岩見 照代助教授	
	40800	日本地域研究入門	4	2	通	講	桜井 良樹講 師	

	コード	授業科目名	単位	年次	学期	区分	担当者	備考
日本語学科 後期専門教育科目	第 一 群 科 目	40901 日本語上級演習 A	1	※3・4	休講	演		
		40902 日本語上級演習 B	1	※3・4	休講	演		
		40903 日本語上級演習 C	1	※3・4	休講	演		
		41001 対照言語学演習 A	2	※3・4	休講	演		
		41002 対照言語学演習 B	2	※3・4	休講	演		
		41003 対照言語学演習 C	2	※3・4	休講	演		
		41004 対照言語学演習 D	2	※3・4	休講	演		
		41101 日本語教育演習 A	1	※3・4	休講	演		
		41102 日本語教育演習 B	1	※3・4	休講	演		
		41201 言語学上級演習 A	1	※3・4	休講	演		
日本語学科 後期専門教育科目	第 一 群 科 目	41202 言語学上級演習 B	1	※3・4	休講	演		
		41301 日本文学上級演習 A	1	※3・4	休講	演		
		41302 日本文学上級演習 B	1	※3・4	休講	演		
		41401 日本文化上級演習 A	1	※3・4	休講	演		
		41402 日本文化上級演習 B	1	※3・4	休講	演		
		41403 日本文化上級演習 C	1	※3・4	休講	演		
		41404 日本文化上級演習 D	1	※3・4	休講	演		
		41501 日本事情上級演習 A	1	※3・4	休講	演		
		41502 日本事情上級演習 B	1	※3・4	休講	演		
		41601 上級特別演習 A	1	※3・4	休講	演		
		41602 上級特別演習 B	1	※3・4	休講	演		
		41603 上級特別演習 C	1	※3・4	休講	演		
		41604 上級特別演習 D	1	※3・4	休講	演		
		41605 上級特別演習 E	1	※3・4	休講	演		
		41606 上級特別演習 F	1	※3・4	休講	演		

		コード	授業科目名	単位	年次	学期	区分	担当者	備考
日 本 語 学 科 目 後 期 専 門 教 育 科 目	第 二 群 科 目 A	41700	言語学概論	4	※3・4	休講	講		
		41800	日本語学概論	4	※3・4	休講	講		
		41900	日本語史	4	※3・4	休講	講		
		42001	日本語学特殊研究A	4	※3・4	休講	講		
		42002	日本語学特殊研究B	4	※3・4	休講	講		
		42101	日本語教育 特殊研究A	4	※3・4	休講	講		
		42102	日本語教育 特殊研究B	4	※3・4	休講	講		
		42201	言語学特殊研究A	4	※3・4	休講	講		
		42202	言語学特殊研究B	4	※3・4	休講	講		
		42300	日本文学概論	4	※3・4	休講	講		
		42400	日本文学史	4	※3・4	休講	講		
		42501	日本文学特殊研究A	4	※3・4	休講	講		
		42502	日本文学特殊研究B	4	※3・4	休講	講		
		42600	漢文学	4	※3・4	休講	講		
	第 二 群 科 目 B	42800	日本語教授法	4	※3・4	休講	講		
		42810	特別研究 ゼミナールA	4	※★3	休講	講		
		42910	卒業研究A	4	※★4	休講			
		43000	日本文化史概論	4	※3・4	休講	講		
		43100	日本の宗教思想研究	4	※3・4	休講	講		
		43201	日本文化特殊研究A	4	※3・4	休講	講		
		43202	日本文化特殊研究B	4	※3・4	休講	講		
		43300	異文化コミュニケーション論	4	※3・4	休講	講		
		43400	日本歴史研究	4	※3・4	休講	講		
		43500	現代日本政治 社会研究	4	※3・4	休講	講		
		43600	現代日本経済 経営研究	4	※3・4	休講	講		
		43701	現代日本事情 特殊研究A	4	※3・4	休講	講		
		43702	現代日本事情 特殊研究B	4	※3・4	休講	講		
		43820	特別研究 ゼミナールB	4	※★3	休講	講		
		43920	卒業研究B	4	※★4	休講			

日本語学科前期専門教育科目

40110	基礎言語学講義Ⅰ	2 単位	1 年次	1 学期	北村 甫 教授
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： フィールド言語学Ⅰ

内 容： フィールド言語学 field linguistics では、対象言語についての情報を、その言語の研究者あるいは教師、その言語についての参考書などの文献から得るのではなく、その言語を母（国）語 mother tongue とする話し手の言語行動や音声を直接観察したり、その話し手と対話することによって収集していく。この場合の話し手をインフォーマント informant という。具体的な方法は、研究目的によって異なるが、ここでは話し言葉の構造を把握するための情報の収集・分析の方法を取り上げ、担当者自身、学生諸君をそれぞれの話す言語・方言のインフォーマントとみたちて収集・分析を実演しながら、その方法を学習する。

フィールド言語学Ⅰでは音声情報、Ⅱでは文法情報に重点を置き、Ⅰ、Ⅱを通して、言語の構造を明らかにする記述言語学の基本的概念や重要術語が理解できるようにしたい。

教科書：教科書は使用しないが、必要な資料もプリントして随時配布する。

40210	基礎言語学講義Ⅱ	2 単位	1 年次	2 学期	北村 甫 教授
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： フィールド言語学Ⅱ

内 容： 「基礎言語学講義Ⅱ」は「基礎言語学講義Ⅰ」の継続。

40310	基礎言語学講義Ⅲ	2 単位	2 年次	1 学期	坂本比奈子助教授
-------	----------	---------	---------	---------	----------

題 目： 対照言語学

内 容： 対照言語学の目的と方法について学ぶ。内容の概略は次のようである。

1. 言語の対照研究の歴史
2. 対照分析の理論
3. 対照分析の手順
4. 外国教育と対照分析

教科書：『日英語比較講座 3 巻意味と語彙』 大修館書店

指定図書：『構造的意味論——日英両語対照研究』 国広哲彌 三省堂

40410	基礎言語学講義Ⅳ	2 単位	2 年次	2 学期	高橋太郎教授
-------	----------	---------	---------	---------	--------

題 目： 文法調査法

内 容： 文法の研究法について講義する。あわせて資料の収集、整理についての技術にもふれ、可能ならば調査実習も行なう。

教科書：『日本語研究の方法』 むぎ書房

40120	日本文化概説Ⅰ	2 単位	1 年次	1 学期	大塚真三教授
-------	---------	---------	---------	---------	--------

題 目： 日本文化の諸相

内 容： 芸能、芸道といわれることや、庭園、建築、絵画などの日本芸術、さらに年中行事、生涯行事などを略説しながら、日本文化の伝統の現象と精神を確かめる。

それによって内外学生ともに、日本を理解し、国際的に日本を活用する力を身につけられるようにする。

教科書：ノート方式による。

40320	日本文化概説Ⅱ	2 単位	2 年次	2 学期	美和信夫教授
-------	---------	---------	---------	---------	--------

題 目： 身辺の日本文化

内 容： 衣食住や風俗習慣など現代日本人の身辺の生活上の諸相を通して、日本文化、日本人に関する理解をすすめる。プリントによる資料を読みながらすすめる予定。

40130	現代日本語講読Ⅰ	2 単位	1 年次	1 学期	松本哲洋講師
-------	----------	---------	---------	---------	--------

題 目： 現代対講読Ⅰ

内 容： 『話しことばと日本人——日本語の生態——』を読む。現在、実際に話されている日本語の「話しことば」に焦点を当て、ことばが果してい

る役割を考え直し、その「ことば」の裏にある日本人の思考及び行動様式を探る。

教科書：『話しことばと日本人——日本語の生態——』 水谷修 創拓社 ￥1,200

40230	現代日本語講読Ⅱ	2 単位	1 年次	2 学期	坂本比奈子助教授
-------	----------	---------	---------	---------	----------

題 目： 現代文講読Ⅱ

内 容： 言語活動や社会活動を含めた文化には、すべて意識されることがないが、独自のパターン・構造があることを理解し、異文化に触れたときに、ショックをうけたり拒否反応を起こす仕組みを解明し、異文化理解の一助となることを狙いとして授業をすすめる。

教科書：『ことばと文化』 鈴木孝夫 岩波新書

指定図書：『日英語比較講座』第4巻（文化と社会） 大修館

『ことばとイメージ』 川本茂雄 岩波新書

『記号論への招待』 池上嘉彦 岩波新書

40330 ⁻¹ -2	現代日本語講読Ⅲ	2 単位	2 年次	1 学期	生方徹夫教授 岩見照代助教授
---------------------------	----------	---------	---------	---------	-------------------

題 目： 現代文講読

〔生方徹夫〕

内 容： 日本人の目に触れても、看過しやすい日本語文の表現、言いまわしがある。さらに古代からの伝承をふまえたもの、現代の事象をふまえたものもある。それらを外からの目としてキャッチしたとき、内と外からの協同による現代日本語の解釈または相互理解（表出と受容）が生ずる。

方法としては、読み方や語句・内容について、各自が調べてくる事前学習を重視する。そのため、分担方式を取り、各自の分担部分の発表から授業は始まる。なお、クラス全員は発表者に対する質問の義務を有する。

教科書：『風俗学』 多田道太郎 （ちくま文庫） ￥400

〔岩見照代〕

内 容： 日本近代文学史の出発を実質的になった『破戒』を講読する。明治とい

う時代がその背景なので、今では埋もれてしまった言葉も出てくるが、
 “日本”を理解するためにも、ぜひ挑戦してほしい作品である。受講生
 に読解させることもあるので、十分に準備して講義に臨むこと。

教科書：『破戒』 島崎藤村 新潮社

40340	古典日本語演習Ⅰ	1 単位	2 年次	1 学期	安藤靖治助教授
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： 「竹取物語」読講

内 容： 竹取物語を読む。今日の物語研究は、きわめて活発な状況を呈していることは周知のとおりで、その方法も〈語り〉・〈空間〉・〈時間〉・〈話型〉・〈視点〉・〈異境〉・〈本文〉(テキスト)・〈本文相互関係〉・〈引用〉・〈表現構造〉等々と、まことに多彩である。そこで、この「物語の出で来はじめの祖(おや)」(源氏物語・絵合巻)として知られる竹取物語を、上記の今日的な物語研究の状況にも配慮しつつ、一方、この物語の特色ともされる、たとえば中国の神仙譚に新しい様式を加え、昔話を宮廷の貴族向きの物語に変形し、日本の伝奇文学の源流となった、というあたりの基礎的な確認作業から今年度は出発したい。古語辞典は必携である。

教科書：『日本古典文学全集』 竹取物語・伊勢物語 片桐洋一 他 小学館
 大和物語・平中物語

指定図書：『古語辞典』(角川新版) 久松潜一・佐藤謙三 角川書店

『日本文学要説』 春田宣 編 秀英出版社

40440	古典日本語演習Ⅱ	1 単位	2 年次	2 学期	安藤靖治助教授
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： 「伊勢物語」講読

内 容： 歌物語として知られる伊勢物語を読む。この物語は一人の男性を主人公として、恋と友情とを主題とした作品である。「昔男ありけり」で始まる段が多いことでも明らかなように、一つの昔物語でもあった。また、竹取物語と並び、物語文学の源流に位置している。作品に流れる時間は、大体、奈良の古京の記憶がまだ消えやらぬ平安京の初めの頃の物語として書かれ、古今和歌集でいえば、読み人知らずの歌の時代から六歌仙の活躍する頃までということになる。物語の主人公は、一見して在原業平

(六歌仙の一人)とわかるように書かれていて、本文中の和歌も主に彼および彼の周囲の人々の作歌を上手に使っている。歌物語といわれるゆえんである。授業では、いずれにしても和歌を心として純愛に生きた主人公のすがた、その生き方を凝視する精神として味読したい。

教科書：「古典日本語演習Ⅰ」と同じ。

40151	現代日本語演習ⅠA	1 単位	1 年次	1 学期	高橋太郎教授
-------	-----------	---------	---------	---------	--------

題 目： 文法Ⅰ

内 容： 現代日本語文法について講義をすすめながら、その理解を深めるために、問題または個別的な分析を課する。

教科書：プリント

40152	現代日本語演習ⅠB	1 単位	1 年次	1 学期	大坪一夫講師
-------	-----------	---------	---------	---------	--------

内 容： 我々は、日本語の話しことばにあるイメージを持っている。そのイメージがはたして現実の日常用いられている日本語を正しく反映しているのか、それとも我々の日本語についての直観が現実の日本語とは異なるのかを知る基礎を作ることを目的とする。そのために外国人の話す日本語を観察し、なぜある言い方が日本語らしく、なぜある言い方が日本語らしくないのかを考える。それぞれ発音、文法、場面との関係での適切性といったレベルに分けて授業を進める。

日本人学生と外国人学生でペアを作り、外国人学生がどこまで日本人らしく話せるようになったかによって成績をつける。

40153	現代日本語演習ⅠC	1 単位	1 年次	1 学期	戸田昌幸助教授
-------	-----------	---------	---------	---------	---------

題 目： 文字・表記法Ⅰ

内 容： 欧米言語の文字・表記が比較的単純であるのに対し、日本語の文字・表記は特異な姿をしているといわれている。そこで、現代日本語の用字法と表記法について、その成立課程を踏まえながら、その特徴を分析する。

○文字の知識 ○日本語の表記法 ○日本語の表記の基準 ○文字の

指導法 ○その他

教科書：『表記』 国際交流基金 凡人社

『公用文の書き表し方の基準』 文化庁 第一法規

40251	現代日本語演習Ⅱ A	1 単位	1 年次	2 学期	高橋 太郎 教授
-------	------------	---------	---------	---------	----------

題 目： 文法Ⅱ

内 容： 「現代日本語演習Ⅰ A」の継続で、両方あわせて日本語の文法を概観する。

教科書：プリント

40252	現代日本語演習Ⅱ B	1 単位	1 年次	2 学期	大坪 一夫 講師
-------	------------	---------	---------	---------	----------

内 容： 「現代日本語演習Ⅰ B」の継続。

40253	現代日本語演習Ⅱ C	1 単位	1 年次	2 学期	戸田 昌幸 助教授
-------	------------	---------	---------	---------	-----------

題 目： 文字・表記法Ⅱ

内 容： 「現代日本語演習Ⅰ C」の継続。

40351	現代日本語演習Ⅲ A	1 単位	2 年次	1 学期	松本 泰丈 講師
-------	------------	---------	---------	---------	----------

題 目： 文構造Ⅰ

内 容： 文の意味構造の問題にアプローチする準備段階として、文の組み立てる材料である単語の組み合わせ（連語）の構造を記述した論文を読むことから授業にはっていく。連語の記述は、『日本語文法・連語論（資料編）』に主要な論文が集められているが、そのなかでも代表的な、奥田靖雄「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」を中心に記述の方法を学ぶことにする。

40352	現代日本語演習Ⅲ B	1 単位	2 年次	1 学期	坂本 比奈子 助教授
-------	------------	---------	---------	---------	------------

題 目： 語彙・意味Ⅰ

内 容： ことばの意味にかかわる問題を、語彙のレベルで学習し、また意味の構造分析を実地に練習する。

1. 語彙の意味単位
2. 語彙の構造
3. 構造分析の方法
4. 語彙の分類
5. 意味の記述

教科書：『ことばの意味——辞書に書いてないこと』 柴田武(他) 平凡社

指定図書：『岩波講座日本語』第9巻(語彙と意味) 岩波書店

『日本文法研究』 久野暁 大修館書店

『意味論の方法』 国広哲彌 三省堂

40451	現代日本語演習Ⅳ A	1 単位	2 年次	2 学期	松本泰丈講師
-------	------------	---------	---------	---------	--------

題 目： 文構造Ⅱ

内 容： 自動詞述語文における主語と述語との関わりを中心に、具体的に文の意味構造の問題を検討する。演習Ⅲ A「文構造Ⅰ」で学んだ連語の構造の扱いを踏まえるが、Ⅱのほうは、実際に資料(用例)を集めて分類・記述していく作業を行なう。そのなかで、主語と述語に関わる諸問題にも、できるかぎり網羅的に触れていく予定である。

40452	現代日本語演習Ⅳ B	1 単位	2 年次	2 学期	坂本比奈子助教授
-------	------------	---------	---------	---------	----------

題 目： 語彙・意味Ⅱ

内 容： 語彙分析を実地に行ないつつ、意味の諸相に対する理解を深める。前半は、テキストの実例を検討して、これでよいか考える。後半は、自力で分析をやってみる。

教科書：『ことばの意味——辞書に書いてないこと』 柴田武(他) 平凡社

指定図書：『ことばの意味——辞書に書いてないこと』2、3 柴田武(他) 平凡社

40501	現代日本事情 A	1 単位	1 年次	1 学期	小野博司教授
-------	----------	---------	---------	---------	--------

題 目： 日本の地理と風土

内 容： 日本の地理の概要を以下の項目に従って講義する。特に留学生には重要な地名を地図とともに記憶させる。

1. 日本の自然
 - ア. 日本の地形の成り立ち イ. 日本の気候
2. 日本の産業と経済
 - ア. 高密度社会日本 イ. 拡大する都市圏
 - ウ. 工業列島の形成 エ. エネルギー・交通・通信
 - オ. 農山漁村の近代化 カ. 国土計画の歩み
3. 日本の暮らしと文化
 - ア. 日本文化の東西 イ. 暮らしの変化と人間の行動
 - ウ. 日本の食生活 エ. 盆と正月

教科書として下記の地図帳を使用するほか、教材としてプリントを配布する。

教科書：『現代地図帳』（1989年版） 二宮書店 ￥1,300

40502	現代日本事情 B	1 単位	1 年次	2 学期	長谷川教佐講師
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： 現代日本の社会と政治

内 容： この授業では、現代日本の社会や政治の諸側面についての概観を行ない、現代日本の現状と問題点についての理解を深めることを目指す。

主な内容は、以下のとおりである。

1. 人口と社会構成
2. 家族
3. 農村社会
4. 都市社会
5. 産業化と職場の変化
6. 大衆社会
7. 社会病理
8. 経済開発と社会開発
9. 政治構造
10. 今後の日本社会

教科書：『現代日本社会論』 福武直 東京大学出版会

ただし日本語を第一言語としない学生は、以下の翻訳を利用することができる。

Tadashi Fukutake "Japanese Society Today" Tokyo Univ. Press
 宋明順 訳 【現代日本社會論】 茂昌図書有限公司

40503	現代日本事情 C	1 単位	2 年次	1 学期	山崎益吉講師
-------	----------	---------	---------	---------	--------

題 目： 現代日本経済・産業

内 容： 今日、日本の一人あたりの GNP はアメリカをも凌ぐようにさえた。

経済大国日本の原動力は何か。戦後日本経済、とくに高度成長時代の日本経済を分析することによって、この課題にせまってみたい。とくに今年は、日本経済の原動力となっている儒教との関係について、できる限り遡って追求し、アジア・ニースとの関係はこれをどう進めていったらいいのかを考えてみたい。単なる日本経済賛美論では困ると思うからです。すなわち、日本経済の根底を流れているエートスは何かを追求したいと考えるからである。そうすることによって、世界経済における日本経済の位置づけはどうかということも合せて追求できればと考えている。

40504	現代日本事情 D	1 単位	2 年次	2 学期	高 巖 講 師
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： 世界の中の日本

内 容： 戦後日本の歴史を概観するとともに、現在の日本が抱える問題を政治経済の視点から見ていくことにする。また、日本の国際化という観点から世界の動きも逐次追っていききたい。

指定図書： *The Japanese Today*, E. O. Reischauer, Harvard Univ. Press

40600	言語学研究入門	4 単位	2 年次	1 学期	黒川洋教授
-------	---------	---------	---------	---------	-------

題 目： 言語のフィールド・ワーク、その実践的方法の基礎

内 容： 未知（ないし既知）の言語を、生きた現場で観察・記述し、分析し、構造化する所謂フィールド・ワーク（現地調査）の実践的方法の基礎について、その大筋を明らかにする。あわせて、そこで直面するであろう基本的な課題への対処法について考える。

- 1) オリエンテーション
- 2) フィールド・ワークの目的と方法論上の特質
- 3) 旅立ちまでの諸準備
- 4) インフォーマントや媒介言語の選択と使用上の問題点
- 5) 言語記述（記録）と分析の具体的諸方法
- 6) その他、予想される諸困難への基本的対処法
- 7) むすび——まとめ、今後の課題

教科書：プリント教材（英語・日本語など）

補助教材：『現代言語学20章——ことばの科学』 G.ユール 大修館書店

¥2,600

40700	日本文学研究入門	4 単位	2 年次	2 学期	岩見照代助教授
-------	----------	---------	---------	---------	---------

題 目： 日本文学研究入門

内 容： 日本文学を通史としてとりあつかうのではなく、ひとつひとつの作品を徹底的に検討するなかで、“文学を研究する”とはどういうことなのかを考える。（扱う作品は未定、追って揭示する。）

40800	日本地域研究入門	4 単位	2 年次	通年	桜井良樹講師
-------	----------	---------	---------	----	--------

題 目： 日本近現代史

内 容： 明治維新前後から第2次世界大戦の高度成長期までの政治過程（外交・経済政策も含む）を題材として、以下の3つの内容で授業を進める。（1）最近論争となっている事件を中心に日本近現代史の概観を講義する。（2）国民や立場による歴史認識の違いを手懸かりに、歴史とは何かについて考える。（1）（2）を通じて各人なりの同時代認識を深めたい。（3）歴史学研究入門として、文献・史料調査および論文の書き方などを学ぶ。

教科書：『日本現代史』 藤村道生 山川出版社 ¥1,800

神奈川大学

外国語学部日本語教員養成課程

日本語教員の資格

現在の日本語教員養成は、(1)大学に日本語学科を設置し、そこを卒業した者を認定する (2)大学に日本語教育副専攻の講座を設け、その単位を修得した者を認定する (3)各種学校等における日本語教員養成課程を修了した者を認定する、の3つの方法で行われている。本学での日本語教員養成課程は、このうちの(2)に該当するものである。

カリキュラムの内容は別表のようになっており、このカリキュラム表は、文部省から昭和60年5月にでた「日本語教員の養成等について」の大学の学部・日本語教育副専攻の標準単位に準拠しており、合計50単位以上科目が用意され、うち30単位が必修である。ただ、教職科目、社会教育及び学芸員課程との共通選択科目があり、30単位程度で修得可能である。

本課程修了者には、本学が発行する「日本語教員養成課程修了証」(仮称)が授与されるが、このことが直ちに日本語教員として活躍する場が得られるということではない。資格取得のために設けられた講座である。

「日本語教育実習」について

- (1) 日本語教育実習は、原則として4年次生を対象に実施する。
- (2) 日本語教育実習は、必修科目22単位、選択必修科目8単位(日本文化及び日本文学の系列から1科目4単位、教職科目のうち1科目4単位)を修得済みの者でなければ履修できない。
- (3) 実習の詳細についてのガイダンスは4月(予定)に実施する。ガイダンスに無断で欠席した場合は履修を認めない。

一般的注意事項

- (1) 必修科目のうち「教育原理」、「教育心理学」を教職課程において修得済みの者は、履修する必要はない。
- (2) 必修科目の修得単位は、卒業に必要な単位には算入されない。

日本語教員養成課程に関する科目

		文部省「日本語教員の養成等について (60.5.30)」 日本語教育施策の推進に関する調査研究 会報告から考えられる科目及び単位並びに 大学の学部・日本語教育副専攻の標準単位				
日本語教員に必要な知識・能力		科 目 名	単位	標準単位	本 学 開 講 科 目 名	
I	日本語の構造に関する 体系的、具体的な知識	日本語学（概論、語彙・ 意味を含む）	4	12	○日本語学Ⅰ（概論、語彙・意 味を含む）	
		日本語学（音 声）	2		○日本語学Ⅱ（音 声）	
		日本語学（文字及び表記）	2		○日本語学Ⅲ（文字及び表記）	
		日本語学（文体及び文法）	2		○日本語学Ⅳ（文体及び文法）	
		日 本 語 史	2		○日 本 語 史	
II	言語学及び日本人の言語 生活等に関する知識・能力	言 語 学 概 論	4	6	○言 語 学 概 論	
		言 語 生 活 論	2		○対 照 言 語 学 英語・スペイン語・中国語	
		対 照 言 語 学	2			
III	日 本 事 情	日 本 事 情 概 論	2	1	○日 本 事 情 概 論	
IV	日本文化に関する 知識・能力	日 本 文 化 概 論	4		日 本 史(教職) 日 本 文 化 史 民 俗 学	○選択必修 4単位
		日 本 文 化 史	4			
V	日本文学に関する 知識・能力	日 本 文 学 概 論	4		日本文学特殊講義Ⅰ 日本文学特殊講義Ⅱ	
		日 本 文 学 史	4			
VI	日本語の教授に関する 知識・能力	日 本 語 教 育 法	4	9	○日 本 語 教 育 法	
		日本語教育教材教具論	2		○日本語教育教材教具論	
		日本語教育評価法	2		○日本語教育評価法	
		日 本 語 教 育 実 習	2		○日 本 語 教 育 実 習	
VII	教職に関する基本的 知識・能力	教 育 原 理	4		教 育 原 理	○選択必修 4単位
		教 育 心 理 学	4		教 育 心 理 学	
単 位 合 計			(56)	28	54 (○38) ○印は必修科目を示す	

日本語学Ⅰ（概論，語彙・意味を含む） 2年次 4単位 教授 高野 繁 男

本講義は、日本語教員養成課程の「日本語Ⅰ」（必修）で、日本語概論・日本語の彙論・日本語の意味を内容とする。

前期は日本語学概論，後期は日本語の語彙・意味論を講義・演習する。前者では、主として現代日本語の特色と、日本語の国際化に対応するための問題点を概観・検討する。また、後者では、現代の日本語の基本語彙を中心に外国語と対応させ、語彙の構造と意味について検討する。

＜使用書＞ プリント（実費） 講義で指示する。

日本語学Ⅱ（音声） 前期 2年次 2単位 講師 金田 章 宏

本講義は、日本語教員養成課程の「日本語Ⅱ」（必修）として開講されている。従って、ここでは、主に実用的な面から音声学を扱っていく。生きている日本語の音声的特性をただしく認識するとともに、日本語の標準的な発音や音韻体系を学習し、外国人に対する教授法を身につける。

＜使用書＞ プリントを使用。

日本語学Ⅲ（文字及表記） 後期 3年次 2単位 講師 金田 章 宏

本講義は、日本語教員養成課程の「日本語Ⅲ」（必修）で、日本語の文字・表記を内容とする。外国人にとって、日本語学習のうち、この文字・表記は、もっとも困難なものである。日本語の文字・表記を体系的に捉えながら、とくに、表音表意文字である漢字の、現代日本語における位置づけについて考えてみたい。

＜使用書＞ 「にっぽんご?」 【むぎ書房】

日本語学Ⅳ（文体及文法） 後期 4年次 2単位 助教授 氏 家 洋 子

日本語の構造についてその体系を概観し、特色を知る。また、日本人が生活する上で現実にその言葉をどう使っているのかについて考える。

＜使用書＞ 講義時に指示する。

＜参考書＞ 寺村秀夫 【日本語の文法（上）（下）】 【大蔵省印刷局】

日本語史 前期 4年次 2単位 助教授 氏 家 洋 子

日本人が既存の言葉をどのように変えてきたかを見ることで日本列島に生活する人達の精神文化の流れを読み取っていく。

＜使用書＞ 講義時に指示する。

＜参考書＞ 「日本語の歴史」（1巻～8巻） 【平凡社】

言語学概論 2年次 4単位 講師 松 本 幹 男

1 言語学と関連諸科学 2 言語とは 3 世界の言語 4 言語類型論 5 言語研究史
6 比較言語学 7 構造言語学 8 生成変形文法

＜参考書＞ そのつど教室で指示する。

対照言語学（英語）

前期 3年次 2単位

助教授 深澤 俊昭

日本語と英語の言語構造の違いを、主として音声の観点から分析して記述する。これを通じて、そこから、

1 英語を母国語とする者が、日本語を学ぶ際に出会う、潜在的な問題点を導き出す。

2 同様に、日本語を母国語とする者が、英語を学ぶ際に出会う、潜在的な問題点を導き出す。

以上を通じて、日本語教育、英語教育における、現場での指導及び教材作成等の理論的わく組みを提供する。

＜使用書＞ 追って指示する。

対照言語学（スペイン語）

前期 3年次 2単位

講師 木村 政康

授業時間数が限られているので、スペイン語と日本語の相違点、類似点を、音声を中心に比較考察し、どのように日本語教育の現場で実践応用していくのか検討する。なお、必要に応じて、日西両言語の比較だけでなく、その他の欧米語やアジア言語を母語とする学習者の日本語の誤用についても考察していきたい。

＜参考書＞ 木村匡康 「スペイン語の発音矯正」 【上智大学聴覚言語障害研究センター】

木村匡康ほか 「日本語の発音指導」 【凡人社】

対照言語学（中国語）

前期 3年次 2単位

教授 那須 清

中国語を日本語と比較対照して考察する。日本語は大量の文字と語彙を中国語から借用し、文化面で大きな影響を受けている。全く系統の異なる二言語間の借用がいかに行われているかを知り、文化交流の状況もあわせて見ていきたい。

＜使用書＞ 開講時に指示する。

日本語教育教材教具論

後期 3年次 2単位

助教授 氏家 洋子

1 日本語教育の教材教具にはどんなものがあり、それぞれどんな特性をもつか。

2 その教材を現実を使う場合にはどのような教え方が可能であり、また、必要か。

3 1、2の考察を通して、教育者が既成の教材教具を補い、また、新しく作っていくにはどうするか。

等について検討する。

＜使用書＞ 講義時に指示する。

＜参考書＞ 木村宗男 「日本語教授法—研究と実践—」 【凡人社】

日本語教育法

3年次 4単位

助教授 氏家 洋子

日本語学習の初心者が日本語という記号の体系に慣れていくことに始まり、その言葉に含まれた日本人の精神文化を習得していくに至る迄をどう教えることが必要なのかについて考える。

＜使用書＞ } 講義時に指示する。

＜参考書＞ }

日本語教育実習

前期 4年次 2単位

教授 小池 栄一

助教授 氏家 洋子

助教授 上條 雅子

教育実習の実務的指導を行う。

「教育実習についての講義」の発展として実習校へいく前の諸連絡、学外者による特別講義、教育実習期間中の指導（研究授業の指導を含む）、実習終了後の総括的指導などについて、教室における授業形態または研究室における個別指導の形態で実施する。

日本語教育評価法

後期 4年次 2単位

助教授 氏 家 洋 子

- 1 日本語教育の評価のしかたにはどんなものがあり得るか。
- 2 それを作成していく上での留意点は何か。
- 3 テストの結果などに対してどんな見方が成り立ち得るか。

等につき考える。

〈使用書〉 } 講義時に指示する。
〈参考書〉 }

日本事情概論

前期 2年次 2単位

助教授 氏 家 洋 子

日本社会の成立・歴史を検討することから始め、日本の精神文化と社会が世界全体の中でどう位置づけられるかについて考える。

〈使用書〉 } 講義時に指示する。
〈参考書〉 }

日本文学特殊講義Ⅰ

3年次 4単位

助教授 日 高 昭 二

日本近代文学の諸相について考えます。日本の近代小説の主題や方法を、読者論的な立場に立っていくつか見直し、小説の歴史に対する思考および批評の実践を深めることとします。また近代詩歌の韻律や構成などについても探求することとします。なおテキストは追って指示します。

日本文学特殊講義Ⅱ

3年次 4単位

教 授 佐 野 正 巳

『今昔物語』と『万葉集』鼓笑歌（言語遊戯）を読む

序章 驚きの文学 万葉集、日本霊異記との比較

第一章 小説としての今昔物語

1) テーマ 2) 素材 3) 構成 4) 描写

第二章 今昔物語の描写

1) 自然描写

2) 人間描写 心理、行動、本能

3) 社会描写 貴族社会、受領社会、武士社会、僧侶社会、庶民社会等

第三章 表現と文章

ユーモア（喜劇的構想における、人間描写における、物云いにおける）

〈使用書〉 授業時に指示する。

日本史（教職）

2年次 4単位

講 師 沼 田 誠

教職のための日本史であることを考慮して、通史的に各時期を検討する予定である。しかし、日本史全般にわたる概説ではなく、対象を農業や土地制度の側面に置いて、その節目となると思われる時期をとりあげて、その歴史的意味を考えることにしたい。

その際、1 史料に即して、そこから何を読みとることができるのか、2 そのことによって、どのように歴史を見直すことができるのか、を十分に留意するつもりである。なお、史料はできる限りプリントにして講義中に配布する予定である。

〈使用書〉 特に指定しない。

〈参考書〉 講義中に随時指示する。

民俗学 2年次 4単位

助教授 香月 洋一郎

主に以下のテーマに即して具体的に述べていく。

- ・慣習と制度
- ・習俗と時代
- ・山村と海村

日本文化史 3年次 4単位

講師 藤田 敏明

日本の「文化」とは、どのやうな「ものごと」であるのか、現代に生きてゐる日本人として、我々はそれをどのやうに受け継いで行けばよいのか（それとも、継がなくてもよいのか）、過去・現在の、多種多様なテキスト（基本的には「ことば」に関連するもの）を参考にしつつ、自分の頭で考へをまとめる、という講義にしたい。参考書は講義時に指示するが、相当多量にする予定。

教育原理 2年次 4単位

教授 村田 泰彦

講師 入江 直子

本講義は、主として中学校と高等学校の教育を対象とするが、そのほか社会教育課程・学芸員課程・日本語教員養成課程の履修者に必要な教育の基本問題についても十分考慮してすすめる。

その主要内容項目は、教育の本質（目標・目的・人間像など）、教育の内容（教育課程・教科書など）、教育の方法（授業過程・生活指導・教育評価など）、学校の経営と管理、生涯学習、教育改革などである。

なお、年に数回、レポートの提出を求めるほか、平常点を重視し、定期試験は行わないので注意されたい。

教育心理学 2年次 4単位

教授 小池 栄一

現代の教育心理学は社会のあらゆる領域で、より広い人間形成の過程を科学的に解明するために研究されている。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 教育心理学（概念・研究領域・研究） | 2 成長と発達（発達段階・発達課題） |
| 3 学習の心理（学習理論・動機づけ） | 4 人格の心理（適応・人格検査） |
| 5 測定と評価（知能検査・学力検査） | 6 教授の心理（教科指導・教授方法） |
| 7 学級の心理（学級集団・教師の心理） | 8 生活指導の心理（非行・相談心理） |

基礎科目なので広範にわたりトピックを取り上げる。内容を聴き考えてもらわなければ無意味なので出席を重視する。レポートも課し平常学習期間内で評価する。

＜使用書＞ 教師養成研究会 『新教育心理学』 [学芸図書]

＜参考書＞ 小池栄一ほか 『入門心理と教育』 [東通社]

教育心理学 2年次 4単位

教授 渡邊 恵子

教育における諸々の決定や教師の日常の行動は、それが意図・意識されているか否かは別にして、心理学的理論により解釈可能である。本来、教師は理論に裏づけされた理念に基づき教育にあたることが要求されている。本講では、教師として必要な心理学的理論の基本的理解を目標とし、具体的な教育事象を教育心理学的に分析・考察する。主な内容は、発達、教授・学習、集団、測定・評価、生活指導である。

主要領域については、年数回レポートおよび小テストを課す。レポート作成については、希望者には個人指導をする予定。

なお、本講の受講者は、一般教育科目の「心理学」を受講済みであることが望ましい。

＜使用書＞ 加藤、塚田編 『図説 教育心理学入門』 [建邦社]

＜参考書＞ 随時指示する。

関西外国語大学

外国語学部日本語教員養成（課程）

日本語教員養成（課程）に関する履修の取扱

I. 履修要件（受講資格）

- 1 各学年の終了時、TOEFL テストの得点が500点以上であること。
- 2 各学年の終了時、学業成績が優秀であること。

II. 履修方法

- 1 日本語教員養成に関する専門科目および配当年次

別 表(3)

授 業 科 目			配当年次単位数				必 要 単位数
			1	2	3	4	
日本語の構造 に関する科目	必修	日 本 語 学 概 論		4			12
		日 本 語 学 I（音声・語い）		4			
		〃 II（文法・意味）			4		
日本人の言語 に関する科目	選択 必修	言 語 学 I		4			4
		日 英 対 照 言 語 学				4	
		日 本 語 教 育 法 I				4	
日本語の教授 に関する科目	選択 必修	〃 II			4		10
		日 本 語				4	
		日 本 語 教 育 実 習				2	
日本事情に関 する 科 目	選択	日本学研究 I（文 学）		4			4
		〃 II（コミュニケーション）		4			
		〃 III（経営・経済）			4		
		〃 IV（政治・社会）			4		
		〃 V（宗教・事情）			4		
		日 本 思 想 論			4		
		考 古 学			4		
		日 本 文 化 史			4		
合 計							30

2 履修方法

- (1) 日本語学に関する専門科目の単位数

必 修	12単位
選択必修	14単位
選 択	4単位以上
計	30単位以上
- (2) 本学が定める「教職課程」を合格（見込）していること。

Ⅲ. 日本語教育実習履修要件

1 日本語演習

4年次に本学が併設する留学生別科に於て実習を行う。実習期間は2週間とし、実習後論文を提出しなければならない。また、3年次終了時に下記の要件を充足していること。

- (1) 別表(3)の専門科目中、3年次までの専門科目を合格していること。
- (2) 卒業所要単位数のうち、未履修の単位数が20単位をこえないこと。
- (3) 学業成績が下記基準に達していること。

一般教育科目等の平均が 75点以上

専門必修、選択科目の平均が 80点以上

別表に定める専門科目の平均が 80点以上

2 その他

- (1) 実習委員会が不適格と判定した者は、履修要件を充足していても実習は認めない。
- (2) 別表(3)に定める科目については再試験は行わない。
- (3) 聴講による履修方法など実施要領については別に定める。

獨協大学

外国語学部

外国語学部共通自由科目（新）（昭和60年度以降入学者）

部 門	科 目	単 位	担 当 教 員	備 考
言 語	概 論	日 本 語 表 現 法	4 大 熊 五 郎	
		日 本 語 教 授 法	4 井 口 厚 夫	
		日 本 語 学 概 論	4 中 西 家 栄 子	
		日 本 語 文 法 論	4 金 田 一 秀 穂	
		日 本 語 音 声 学	4 新 屋 映 子	
		日 本 語 教 育 概 論	4 伊 豆 山 敦 子	
		日 本 語 史	4 守 屋 三 千 代	
		対 照 言 語 学	4 小 島 幸 枝	
	各 論	言 語 学 特 殊 講 義 A 1	4 中 西 家 栄 子	本年度休講
		2	神 尾 昭 雄 和	
		言 語 学 特 殊 講 義 B	2 宗 宮 好 和	本年度休講
		日 本 語 学 特 殊 講 義 A	4 井 口 厚 夫	本年度休講
		日 本 語 学 特 殊 講 義 B	2	本年度休講

日本語表現法

大 熊 五 郎

テキスト：角川書店編『新しい常用漢字の書き表し方』角川書店

およそ、次のことを行う予定である。

1. パブリック・スピーキング
2. 文章では、叙事文・読書報告・論説・説明文・公文文など。

授業の進め方は、大体、講義、文章（スピーチの原稿）の執筆・推敲・清書、その発表またはスピーチの実演と評価等である。ただし以上のことは、受講者の実態に応じて変更することがある。なお常用漢字の練習等も行いたい。

定期試験は、前期・後期とも行わない。単位の認定は、一定の回数以上の出席、指定の方法による実習・実演の達成度その他による。

日本語教授法

井 口 厚 夫

最初の授業で指示する。

日本語教授法

中 西 家 栄 子

最初の授業で指示する。

日本語学概論

金 田 一 秀 穂

母語として、自己のうちにある日本語を客体化し、共時的に分析していく。語彙と意味の面を中心にする予定である。

日本語文法論

新 屋 映 子

テキスト：未定

我々はふだん無意識に話したり聞いたりしているが、言語を使って相互理解ができるのは、そこに単語があり、文法があるからである。では我々は日本語のどんな単語を、どんな文法によって、どんな文に仕立てているのか。これまで学生が中学校や高校で学習してきた文法とは違った目で、身近な日本語のしくみを考え直してみたい。

日本語音声学

伊豆山 敦 子

テキスト：教師用日本語教育ハンドブック⑥「発音」国際交流基金

日本語の音声に関する一般的基礎知識を習得し、また、その音声教育の実践面も学ぶ。それは日本語教育・外国語教育ともに有用であろう。

日本語教育概論

守 屋 三千代

テキスト：未定

日本語教育において、どのような知識や能力が必要とされるのか、外国語教育、及び、言語学、日本語学の立場から概説する。

日 本 語 史

小 島 幸 枝

日本語音韻史を講義する。

言語学特殊講義A－2

宗 宮 好 和

テキスト：参考図書はその都度指定する

前期には音韻論、統語論、意味論、語用論の概略を講義する。後期には、名詞表現、間接引用、様相などの個別テーマを考える。参加者自身にもレポート発表をしてもらいます。

言語学特殊講義A－1

神 尾 昭 雄

テキスト：なし

現在の語用論において関心を集めている話題をいくつか選び、講義する。教科書は使用せず、参考書ならびに参考論文を講義の進度に合わせて教室で紹介する。

日本語学特殊講義A

井 口 厚 夫

テキスト：寺村秀夫（編）『ケーススタディ日本文法』桜楓社（1987）

「窓があいている」と「窓があけてある」はどう違うのか。このような使い分けは日本語を母国語として育った者なら誰でも日頃意識せずに行っていることであるが、外国人留学生や労働者、帰国子女が増える中で、このような違いを意識して教えるための日本語の文法知識が日本人にも必要になりつつある。

この講義では従来の伝統的な国語学とは違った観点から「日本語」を改めて観察しなおしていく。現代語の文法を中心に扱うが、音声・言語生活なども併せて触れていくつもりである。学生の積極的な参加を望む。

各期末試験に加えてレポートを課す。

大阪大学

文学部日本学科日本語教育学講座

日本語教員養成課程（コース）の履修について

日本語教員養成に関して文部省が示した学部主専攻課程、同副専攻課程、大学院修士課程Aコース、同Bコースにおける標準的な教育内容は、次に示す表の通りである。将来、日本語教員になるためには、この表に従って所定の単位を履修することが望ましい。

なお、主専攻とは、この課程で用意する授業を中心に学びつつ卒業のために必要な単位を修得する課程をいい、副専攻とは、他の授業を中心に学びつつ、一方、この課程で用意する授業を併せて学び、卒業のために必要な単位を修得する課程をいう。Aコース・Bコースとは、大学院生のためのコースであって、前者は学部主専攻課程を修了したもの、後者はそれ以外のものを対象とする。

本学部日本学科および大学院日本学専攻その他で開講される各講義題目の備考欄に示すローマ数字は、この表に対応するものである。したがって、各課程・コースを履修しようとするものは、その点に留意すること。

内容		課程（コース）	主 専 攻	副 専 攻	A コース	B コース
I - (1)	日本語の構造に関する体系的、具体的な知識		18	10	4	11
I - (2)	日本人の言語生活等に関する知識・能力		4	2	}	}
II	日本事情		4	1		
III	言語学的知識・能力		8	4	7	5
IV	日本語の教授に関する知識・能力		11	9	9	10
計			45	26	24	28

（表中の数字は最低修得単位を示す）

科目 番号	授 業 科 目		担当教官	講義題目および内容の概略	毎週 授業 時数	単 位	備 考
217	現代日 本語学	普 通 講 義	寺 村 教 授 徳 川 教 授 佐 治 教 授	日本語学概論 日本学科学語系に進むものに対して導 入となる諸問題を扱う。	2	4	なるべく2 年次に聴講 すること。 I - (1)
218	現代日 本語学	特 殊 講 義	寺 村 教 授	現代日本語文法研究 日本語の構文と意味の関連の諸問題を、 諸外国語と対照しながら考える。	2	4	I - (1)
219	現代日 本語学	演 習	寺 村 教 授	現代日本語学文献研究 現代日本語の言語学的研究に関する論 文等を輪読し、討論を通じて卒業論文を 考える。	2	4	I - (1)
220	現代日 本語学	特 殊 講 義	仁田助教	日本語文法と日本文法研究史 日本語文法の概要と明治以後の日本文 法研究史を概観する。	2	4	I - (1)
221	現代日 本語学	演 習	"	動詞の語彙論・統語論 動詞の語彙論的な個性と動詞の統語的 な性格を考える。	2	4	I - (1)
222	現代日 本語学	特 殊 講 義	玉 村 講 師	日本語の語彙 日本語の語彙の基本事項について考察 する。	2	2	第 1 学 期 I - (1)
223	現代日 本語学	特 殊 講 義	渡 辺 講 師	叙法副詞の研究 叙法副詞の意義と用法の分析を通して、 心と言葉のかかわりあいを探る。	集中	2	第 1 学 期 I - (1)
224	現代日 本語学	特 殊 講 義	石 綿 講 師	日本語の機械処理 日本語のコンピュータ処理における言 語学的な諸問題について解説する。	集中	2	第 1 学 期 Ⅲ
225	現代日 本語学	特 殊 講 義	徳 川 教 授	日本音声学 日本語の音声について考究する。	2	2	第 2 学 期 I - (1)

226	社 会 言語学	特 殊 講 義	"	日本の方言研究 諸研究文献の輪読と討論。(継続)	2	4	I - (2)
227	社 会 言語学	演 習	徳 川 教 授	社会言語学入門 社会言語学に関する基礎的な問題を扱う。	2	2	第 1 学 期 Ⅲ
228	社 会 言語学	特 殊 講 義	真田助教授	日本の社会言語学 日本における社会言語学的な研究の流れを検討し、将来の展望を論じる。	2	4	I - (2)
229	社 会 言語学	演 習	"	方言の動態に関する調査研究 フィールドワークで得たデータについての分析、討議。	2	4	I - (2)
230	現代日 本語学	特 殊 講 義	森 山 講 師	現代日本語学の諸問題 文の文法と文を越えた文法に関する諸問題を考察する。	2	4	I - (1)
231	社 会 言語学	特 殊 講 義	鈴木(孝) 講 師	言語・文化・社会に関する諸問題 日本人の言語(国語)観、国際語と外国語教育、文化意味論、人称代名詞の構造など。	集中	2	第 2 学 期 Ⅲ
232	対 照 言語学	特 殊 講 義	大河内講師	日本語と中国語の対照研究 語彙論、文法論を中心に日中語の距離を測りたい。受講生は中国語ができること。	2	2	第 2 学 期 Ⅲ
233	言語学	特 殊 講 義	井 上 講 師	言語の普遍性と個別性(日・英語を中心に) 生成文法に基づき言語の普遍性に関わる原理と個別性を扱うパラメータについて論じる。	集中	4	Ⅲ
234	日本語 教育学	演 習	佐 治 教 授 郡 司 講 師	日本語教育実習 日本語教授の実際に即して、教科書、教材、副教材、練習問題など検討・研究していく。	4	1	第 1 学 期 Ⅳ

235	日本語 教育学	特 殊 講 義	佐 治 教 授	日本語文型の研究 日本語教育の基礎の一つである文型の 問題を、教科書等を資料として研究して いく。	2	4	N
236	日本語 教育学	特 殊 講 義	奥田(邦) 講師	日本語教育学の諸問題 日本語教育の原理・内容・方法につい て、国内外の文献をとり上げながら考え る。	集中	2	第 1 学 期 N
237	日本語 教育学	特 殊 講 義	山 本 講 師	日本語教授法 主として、初級レベルの日本語の教授 法を扱う。	2	2	第 2 学 期 N

東北大学

文学部日本語学科

日本語教育学専攻

日本語教育学専攻は、昭和64年度に設置され、65年度から3年次進学者を受け入れる予定である。

この専攻は、具体的には、現今の日本の国際的な立場から緊要とされている外国人に対する日本語教師の養成のため設置されるものであるが、本学の場合は、単なる教員養成のためだけでなく、日本語学・言語学・言語文化学等の学問を土台にした日本語教育学として、研究の推進とその実用化を計るものである。すなわち、外国人に対する日本語の教授について、具体的にその内容・方法・技術・教材等を研究検討するとともに、新しい学問としての日本語教育学の理論と学問体系の構築を目指すのである。

この学問は、まず、現代日本語についての、世界に通用する客観的、合理的分析、次に、学習者の母国語と日本語を対比した場合の相違点・共通点の認識、そして、外国文化と対比した日本文化の特質の把握、外国人への日本事情の説明等を目指すもので、かなりの国際性と幅広い視野を要求する。

卒業生はまだ出していないが、外国で仕事をする場合は、その国の学校等における第二外国語としての日本語の教師、政府機関・企業等における日本語指導ないし日本語使用にかかわる職種、国内で仕事をする場合は、外国人留学生の日本語教師、滞日外国人や外国からの転校生の日本語指導等が卒業後の進路として考えられる。

学 科	専 攻	収 容 定 員
日 本 語 学 科	言 語 学	1 5
	国 語 学	1 5
	日 本 語 教 育 学	1 5

専門教育科目

概論は1科目以上、講読は進学しようとする後期課程の学科・専攻に応じて指定している2科目を含めて3科目以上、計4科目以上を選択履修すること。

学科・専攻別の指定講読及び履修要望授業科目

学科	専攻	指 定 講 読 【2講読】 () は履修要望授業科目
日 本 語 学 科	言 語 学	・英語講読A・英語講読Bのうち1講読 ・ドイツ語講読A・ドイツ語講読Bのうち1講読 ・フランス語講読A・フランス語講読Bのうち1講読 ・中国語講読
	国 語 学	国語講読Aと国語講読B
	(日本語教育学)	(国語講読A・国語講読B, 英語講読A・英語講読B, ドイツ語講読A・ドイツ語講読B, フランス語講読A・フランス語講読B, 中国語講読のうちから2講読)

文学、国文学、中国文学、英文学、英語学、ドイツ文学、
フランス文学
日本語学、国語学、日本語教育学
哲学、倫理学、美学、西洋美術史、宗教学、宗教史、
印度学、仏教史、中国哲学
社会学、行動科学、心理学
史、国史、東洋史、西洋史、日本思想史、東洋、日本
美術史、考古学

日本語学科

[illegible]

この規程は、平成二年四月一日から施行する。
平成元年度以前に入学した者の課程
科目数及び履修方法及び入學規定による。

文教大学

文学部日本語日本文学科

日本語教員養成コース（１級）

	科 目	単 位	受講年次	備考（開講学科）
日 本 語	日 本 語 学 概 論	4	1	日本語日本文学科
	日本語学基礎演習	2	1	〃
	日本語学演習Ⅰ	2	2	〃
	日本語学講義Ⅰ	4	2	〃
日 本 事 情	日 本 語 史	4	2	〃
	日 本 事 情	4	2	基礎教育科目
日本語教育	日本語教育概論	4	2	日本語日本文学科
	日本語教育法Ⅰ	4	3	〃
	日本語教育法Ⅱ	4	3	〃
	日本語教育法Ⅲ	4	4	〃
	日本語教育法Ⅳ	4	4	〃
	対 照 言 語 学	4	2	〃

上欄の12科目44単位は全て必修科目です。

日本語教員養成コース（２級）

	科 目	単 位	受講年次	備考（開講学科）
日 本 語	日 本 語 学 概 論	4	3	中国語中国文学科
日 本 事 情	日本語学講義Ⅰ	4	2	日本語日本文学科
	日 本 事 情	4	2	基礎教育科目
日本語教育	日本語教育概論	4	2	英米語英米文学科 中国語中国文学科
	日本語教育法Ⅰ	4	3	〃
	対 照 言 語 学	4	2	〃

上欄の6科目24単位は全て必修科目です。

講義概要

【共通基礎教育科目】

日本語表現法 4単位（通年）

森 島 久 雄 他

- (1) 言語表現の意義、日本語表現の特徴などを考察する。
- (2) 近代の文章研究を行なう。
- (3) さまざまな文章表現の演習を行なう。
- (4) その他

比較文化論 4単位（通年）

国 松 夏 紀

欧米及び韓国・中国の人々によって書かれた日本（人とその文化）論をいくつか検討することによって、彼我の文化的差異とその基盤を明らかにする。

テキスト 『外国人による日本論の名著』佐伯彰一・芳賀 徹編 中央公論社（中公新書）

文 学 概 論 4単位（通年）

石 原 武

文学の〈成り立ち〉と、〈不思議さ・面白さ〉を、言葉という生きものの挙動を追って、小説、詩、劇などのジャンルについて考える。

テキスト 『English Literature』Larner, Lawrence 英宝社

参 考 書 『新しい文学のために』大江健三郎 岩波新書

言 語 学 4単位（通年）

南 不二男

世界の諸言語の分布を概観したあと、ことばのいろいろな側面——音声、語彙、文法、表記、言語行動、歴史的変遷など——についての研究方法およびその成果を、日本語の事例を多用しながら概説する。

日 本 事 情 4単位（通年）

遠 藤 織 枝

日本語教育を目指すものに不可欠な要素である日本人の国際化について考える。また、日本語を国語としてでなく、数多くある言語のひとつとして外から客観的に眺める視点を獲得し、そこから日本語の国際化の必要性和可能性を考えていきたい。

人間行動の理解 4単位（通年）

稲 越 孝 雄

文学は人間行動の理解の方法である。本講では人間が人間を理解する方法として、先ず言語以前の感覚や知覚を通しての人間の理解をとりあげる。次に人間が他者に自己を伝える方法としての書情・動作、サインランゲージの問題をとりあげながら、主として感情伝達を中心にしながら、相互理解に触れる。なるべく文学作品にも言及する。

【専門教科目】

日本文学概論 4単位（通年）

田口和夫 他

日本文学の特質、その研究方法について、具体例をあげて講義する。

テキスト 『日本の心日本の説話』（一）説話研究会 大修館書店

日本語学概論 4単位（通年）

山口雄輔 他

これまでの研究の成果を踏まえて、日本語がどのような言語であるかを、音韻・文字・語彙・文体・言語生活・方言などの分野にわたって概説する。なお、文法については「日本語学講義Ⅰ」で体系的に講ずるつもりであるので、本時では、敬語法などに簡単に触れるにとどめる。

テキスト 『国語学要論』福島邦道 笠間書院

参考書 『国語学』築島裕 東京大学出版会

漢文学概論 4単位（通年）

加藤 敏

漢字・漢語の特質と変遷について基本的な理解をめざす。また漢文の構造と訓読法を概説し、漢詩文の表現の特色を明らかにして漢文読解の基礎力を養う。

日本文学基礎演習 2単位（通年）

平田澄子

百人一首の古注釈をテキストとして演習を行なう。古注釈の本文を正確に読解し、さらに個々の注釈を比較・検討することによって和歌の解釈・鑑賞の変遷について考察を進める。また百人一首の中世から近世における享受のあり方などについて各歌ごとに検討する。

日本文学基礎演習 2単位（通年）

松沢信祐

自然主義文学の濫觴となった藤村の「破戒」を、半年ほどで読みあげてみたい。各グループで演習形式により、研究し、発表する。

テキスト 『破戒』島崎藤村 新潮文庫

日本語学基礎演習 2単位（通年）

大石初太郎

敬語論・敬語の本質・はたらき、敬語の組織・きまり、敬語の正誤等、敬語の問題全般にわたって討究し、敬語についての認識を固めさせたい。学生の発表・討議を中心として進める。

テキスト 『敬語』（ちくま文庫）大石初太郎 筑摩書房

日本語学基礎演習 2単位（通年）

山口雄輔

『紫式部日記』をきめ細かく読みながら、中古語法の基礎力を養う。演習は文法を中心に進めるが、表現や文体の問題も考察し、異本間の比較も試みつつ、問題意識を高めるようにしたい。古語辞典（出版社は自由）を必ず携行すること。

テキスト 『日本古典文学大系枕草子・紫式部日記』校注 秋山虔他 岩波書店

参考書 『紫式部日記全注釈上・下』萩谷朴 角川書店

漢文学基礎演習 2単位（通年）

加藤 敏

『論語』『孟子』『老子』などによる講読演習を行ない、漢文の読解力を身につけることをめざす。また中国古代思想・中国古典のわが国に及ぼした影響についても考察する。

他は後に教室で指示する。

テキスト 『標注論語集註』渡辺末吾 武蔵野書院

書 道 I 2単位 (通年)

氷田作治・米本美雪

漢字を中心として実技を行う。楷書および行書の基礎基本から出発し、硬筆と毛筆との運筆上の関連と差異について理解を深める。さらにその代表的古典の臨書を行う。さらに漢字の草書・隸書・篆書について概略を研究し、現在使用している常用漢字の実生活に役立てたい。

テキスト 別途指示する。

参考書 『文字の書き方 (講談社学術文庫)』藤原 宏・氷田光風 株式会社講談社
『筆順と字形のポイント』氷田光風 光村教育図書出版株式会社

日本文学史 I 4単位 (前期・後期)

田 口 和 夫

日本文学史の特質、その主要な思潮について考える。

テキスト 別冊国文学『日本文学研究必携』(雑誌79秋) 市古貞次 学燈社

日 本 語 史 4単位 (通年)

高 崎 みどり

日本語の変遷を、文章という言葉の最大単位でたどってゆく。主として平安時代を中心として、語彙・語法・修辭法等の種々の角度から、竹取物語・伊勢物語から源氏物語を経て、大鏡までを見てゆく。

参考書 『平安朝文章史』渡辺 実 東大出版会

日本文学演習 I 2単位 (通年)

松 沢 信 祐

明治・大正・昭和の代表的な作家15人の代表作品を中心に、作品研究と作家研究を、演習形式で行いたい。

テキスト 『近代小説』分銅惇作編 東京堂出版

日本文学演習 I 2単位 (通年)

平 田 澄 子

近世の戯曲中、近松門左衛門の時代浄瑠璃をいくつか取り上げ演習を行なう。演習を通して浄瑠璃文の特色や、その作品の拠り所となる題材、先行作品とのかゝわりなどについて考察し、近世演劇、近世文化などへの理解を深めたい。

日本語学演習 I 2単位 (通年)

大 石 初太郎

現代語助詞の研究・現代語助詞の総説から始まり、個々の助詞の接続・働きを討究する。学生の発表と討議を中心として進める。

参考書 『日本文法大辞典』松村 明編 明治書院
『現代語の助詞・助動詞』国立国語研究所編 秀英出版

日本語学演習 I 2単位 (通年)

高 崎 みどり

現代日本語の文法・語彙・言語生活などについて、研究する。研究の基本的方法を身につけたのち、自分で問題点を発見し、調査し、追究してゆく力がつくようにしたい。

日本文学講読 I 4単位 (通年)

小 泉 満 子

白樺派の代表的作家である有島武郎と志賀直哉の、それぞれの代表作『或る女』と『暗夜行路』を対比的に読み、日本の近代の特質の一端に触れる。

テキスト 『暗夜行路』志賀直哉 角川文庫

日本語学講義Ⅰ 4単位（通年）

山口雄輔・近藤 豊

文語文法の体系的・基本的な事項について、語史的考察も加えつつ大要を説く。そこで学んだ文法事項を、古文解釈にどう適用するか、問題点を含む用例の検討も怠らないようにしたい。

テキスト 『国語法概説』杉崎一雄 有精堂

参考書 『国語史概説』今泉忠義 白帝社

漢文学講読 4単位（通年）

加藤 敏

唐代の詩を読み、漢詩文の表現に対する認識を深め、その特質と変遷について考える。

テキスト 『唐詩新鈔』近藤春雄 武蔵野書院

他は後に教室で指示する

国語科教育研究 4単位（通年）

森島久雄

次年度開設の「国語科教育法」の序論的講義。今日の中学校・高等学校の国語科授業の実際や具体的な教材を踏まえつつ、国語科教育の前提、本質、理念、内容（構造）、方法などを明らかにする。実際の教材研究や授業研究も随時、取り入れてゆく。

テキスト 『増補現代国語教育序説』森島久雄 教育出版

書道Ⅱ 2単位（通年）

水田作治・阿部綾雄

現在最も多く使用されている仮名についての基礎基本から、平安中期の仮名古筆について実技と研究をする。平仮名とともに変体仮名もあわせて研究し、現代使用されている仮名文字を書く上に役立てるようにしたい。

テキスト 別途指示する。

参考書 『高野切三種』二玄社編集部 株式会社二玄社

日本語教育概論 4単位（通年）

遠藤織枝・山下暁美

日本語教育の現状と問題点を、学習者の側から国内・国外の各地域での実態や、学習する目的、要求水準、階層などに分けて考えてみる。また、教育する側としては、どのような資質・知識・技術が求められているかを知り、それに対処するための準備段階として、どのような心構えと方法が必要かを考える。

テキスト 『日本語教育入門用語集』『日本語教師読本』編集部 アルク

対照言語学 4単位（通年）

杉田 洋

日本語、英語など、受講者がよく知っている言語を主としてとりあげ、次のような諸点について比較・対照研究の成果を、清く、正しく、明るく、易しく紹介し、あわせて将来の専門的研究への指針を与える：言葉の仕組み（発音、語句、文法、意味など）、言葉の習い方、言葉の使い方、言葉の移り変わり、言葉と文化、言葉と生活。楽しく、ためになる「宿題」を課する。

テキスト とくになし。参考文献はその都度紹介、指定する。

卒業研究（通年）

田口和夫

4年次卒業研究の基礎をつちかうため、視野を広くするとともに、さまざまな研究の方法について考える。

卒業研究 (通年)

山口 雄 輔

卒業研究に要求される主体性・独自性を獲得するために発想法の学習から出発する。関連論文の探し方、資料の扱い方、カードの操作法など、学ぶべきことは少なくない。ときに演習形式をとりつつ、3年次では、方法論を具体的に身につけることに目標を置くが、読むべき参考文献のリストの作成ぐらいは済ませておきたい。願わくは、生涯研究の端緒とならんことを。

卒業研究 (通年)

南 不二男

現代日本語の諸側面——音韻、語彙、文法、待遇表現、方言など——を概説しながら、その研究上の基本概念をおよび問題点のいくつかについて論じる。

卒業研究 (通年)

森島久雄・甲斐雄一郎

本格的な卒業論文執筆に入る前提として、以下の研究を行う。

- ①国語教育に関する各種論文の講読・討論。
- ②国語教育の領域別指導についての研究。
- ③国語教育史の概観。
- ④各種教材研究。

卒業研究 (通年)

氷 田 作 治

書写・書道についての研究部門を、大きく専門的部門とその教育部門とに分けられる。専門的部門には、表現技能・書道史・書論等の分野に分けられる。書写・書道の教育はそれらの総合から論じなければならない。書写・書道の全般的な内容から一方向を定めて研究を進めていく。どこまでも文字文化に対する教養を深めるようにしたい。

テキスト 追って指示する(研究方向に従って)

卒業研究 (通年)

松 沢 信 祐

近代文学の文学理論や評論を、原文を中心に読んでみたい。演習発表形式をとりたい。

テキスト 『展望近代の評論』 双文社

卒業研究 (通年)

高 崎 みどり

各自が自由に選択したテーマについて、文献リスト作成、資料選定などから始めて、周辺分野や関連分野への広がり、日本語学の中での位置づけ、など、自らのテーマをより明確に認識してゆくことをめざす。深く広い勉強が必要となろう。

卒業研究 (通年)

平 田 澄 子

卒業研究に古典分野を選ぶ者にとって必要な基礎的知識・理解を深めることを前期の目的とし、講義形式をとる。後期は演習形式でそれぞれの研究テーマに従った発表をしながら古典研究において現在問題となっているさまざまな疑問に対応していく。

卒業研究 (通年)

加 藤 敏

中国の漢詩文、日本漢文について、それぞれ自らが興味のあるテーマを選定し、これまでの学習・研究の総括として創造的な研究を行ない、卒業論文にまとめることをめざす。また、論文をまとめる際の方法等についても修得する。

日本文学講読Ⅱ 4単位（通年）

田 口 和 夫

『つれづれ草』研究。影印によって『つれづれ草』を読み、その表現を考究することによって、新しい解釈を考える。

テキスト 『つれづれ種』上・下 『徒然草』吉田幸一・大西善明・三木紀人編

笠間書院講談社（学術文庫）

参 考 書 『徒然草全注釈』上・下 安良岡康作 角川書店

日本文学史Ⅱ 4単位（通年）

松 沢 信 祐

日本近代文学史を、文学思潮の流れを軸に、巨視的・体系的・理論的にとらえて行くものである。もちろん、個々の作品を読む必要は多いにあるが、何よりも大きな流れをつかみたい。各グループの発表形式をとってゆく。

テキスト 『近代日本文学思潮史』長谷川 泉 至文堂

日本語学講義Ⅱ 4単位（通年）

南 不二男

現代日本語の文法、とくに文の構造について概説する。とくに、述語の部分の構造と、述語以外の諸成分との関係の分析に重点をおいて述べる。

日本文学演習Ⅱ 2単位（通年）

小 泉 満 子

日本文学基礎演習、日本文学演習Ⅰをふまえて、本演習では近代日本文学の研究方法をめぐる多彩な方法論を、それぞれの論文や評論に即して検討し学んでいく。

日本語学演習Ⅱ 2単位（通年）

高 崎 みどり

現代語の性格を種々の角度から考えてゆく。演習参加者が全員で一つのテーマを調べ、議論するという方法で、今のことばの断面を切りとって見てゆきたい。

中国文学史 4単位（通年）

加 藤 敏

古代から近代に至る中国文学の流れを概説する。特にその時代やジャンルを代表する作品については演習形式で読解し、理解を深めたい。テキストは開講後に指示する。

国語科教育法 4単位（通年）

森 島 久 雄

中学校・高等学校国語科教育の理念・内容を考察し、実際の教材研究を通して、理解・表現その他の指導方法を身につける。なお、この講義はこれまでの一般教養・教職・専門を総合するものであり、国語科教師としての人間的資質の形成を目指すものである。

テキスト 『増補現代国語教育序説』森島久雄 教育出版

書 道 Ⅲ 2単位（通年）

永田作治・阿部綾雄

漢字および仮名交り文を主とし、生活上の必要な実用書式全般にわたり、なお書道鑑賞書式と必要な事項について実習を行う。

テキスト 別途指示する。

書 道 IV 2単位（通年）

拓植昌汎・磯野浩之・氷田作治

国語科学習指導要領（小・中学校）書写指導についての概要。

学年別漢字配当を考慮しながら、常用漢字を中心として楷書および行書について、硬筆、毛筆の関連を計りながら指導法をあわせて実習を行う。さらにこれらに調和する仮名（片仮名も含む）についても実習を行い、日常生活における一般書式（実用書式・鑑賞書式）についての概説と実習も行う。

テキスト 別途指示する。

参 考 書 『筆順と字形のポイント』氷田光風編書 光村教育図書出版KK

『文字の書き方』藤原 宏・氷田光風 講談社

日本語教育法Ⅰ（基礎Ⅰ） 4単位（通年）

近 藤 功

日本語の音声、表記、語彙の特質をふまえたうえで、日本語教育は外国語教育であるという観点に立ち、導入、練習、定着がいかなる方法で行われるのが効果的であるかを考える。

テキスト 『音声と音声教育』水谷 修・大坪一夫 文化庁（日本語教育指導参考書）

『表記』改訂版富田隆行・眞田和子 国際交流基金

（教師用日本語教育ハンドブック）②

『語彙』浅野百合子 国際交流基金（教師用日本語教育ハンドブック）⑤

日本語教育法Ⅱ（基礎Ⅱ） 4単位（通年）

遠 藤 織 枝

外国語としての日本語を教えるための、日本語の文法を、特に助詞・助動詞を中心とした文型の面からみて、国文法と比較しながら考える。主として、表現意図との関連で、類似の助詞や文型の異同と区別に関する知識の習得を目的とする。

テキスト 『教師用日本語教育ハンドブックⅢ・文法Ⅰ』 国際交流基金

参 考 書 『日本語教育事典』 大修館書店

学習院大学

文学部国文学科日本語教育系

国 文 学 科

◎専門教育科目は国文学系と日本語教育系とに分れる。学生は志望に基づき、それぞれの履修規定に従って、必修単位を履修しなければならない。

◎61年度以前の入学者は、国文学系の履修規定による。

日本語教育系

I 専門教育科目として履修を必要とする授業科目および単位数は次のとおりである。(合計97単位以上)

a. 必修科目および単位数 (77単位)

授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
国 語 学 概 論	4	2～4	
国 語 史 概 説	4	2～4	
国 文 法	4	2	
国 語 学 講 義 I	4	1	
国 文 学 講 義 I	4	1	
国 文 学 講 義 II	4	2～4	
現代日本語研究 I	4	2～4	
現代日本語研究 II	4	2～4	
現代日本語研究 III	4	2～4	
現代日本語研究 IV	4	2～4	
対 照 言 語 学	4	2～4	
国 語 学 演 習	4	2～4	(近世以前の言語に関するもの)
国 文 学 演 習	4	2～4	
言 語 学 概 論	4	2～4	各学科共通科目
基 礎 演 習 I	2	1	} 漢字の書き取りを含む
基 礎 演 習 II	2	2	
日本語教授法 I	4	2～3	
日本語教授法 II	4	3～4	
日本語教授法 III	3	4	実習を含む
作 品 研 究	6	4	
計	77		

b. 選択科目および単位数（5科目20単位以上）

1. 次表の3系列にわたり3科目12単位以上選択

授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
国文学史概説Ⅰ	4	2～4	
国文学史概説Ⅱ	4	2～4	
国文学史概説Ⅲ	4	2～4	
日本史概説	4	2～4	} 史学科授業科目
日本史特殊講義	4	2～4	
日本政治過程論	4	2～4	} 法学部授業科目
日本政治思想史	4	2～4	
日本政治外交史	4	2～4	
日本経済史	4	2～4	} 経済学部授業科目
日本経営史	4	2～4	
日本経済論	4	2～4	
現代日本語研究Ⅴ	4	2～4	心理学科・法学部授業科目
現代日本語研究Ⅵ	4	2～4	
中国文学講義	4	2～4	
社会心理学	4	2～4	
特殊講義 （文化人類学）	4	2～4	法学部授業科目
思想史講義	4	2～4	} 哲学科授業科目
美術史講義	4	2～4	
比較芸術学講義	4	2～4	
比較文化論講義	4	2～4	各学科共通科目
神話学講義	4	2～4	
文化史特殊講義	4	2～4	} 博物館に関する特設科目
民俗学特殊講義	4	2～4	

Ⅱ 第1年次必修の国語学講義Ⅰ、国文学講義Ⅰ、基礎演習Ⅰ以外の専門教育科目は第2年次からでなければ履修できない。

Ⅲ 「日本語教授法Ⅲ」の履修にあたっては、履修する年の4月に行う実習説明会に出席した後、所定の手続により実習履修費を納入し、同時に『実習履修申込書』を提出しなければならない。

講義題目および担当者

国語学概論（日本語の研究分野）

教授 田 中 章 夫

テキストによって、日本語の音韻・文字・表記・語彙・文法・文体・方言など、種々の分野の研究を概観する。

〔テキスト〕和田利政・金田弘「国語要説」秀英出版

国語史概説

教授 土 井 洋 一

古代語から近代語への流れを、特徴的な事象を通じて概説する。

国 文 法

教授 大 野 晋

日本語の古典語の文法の大要を講義し、あわせて現代日本語に通じる日本語の骨格を解説する。

〔テキスト〕日本文法（古典篇）角川書店 大野著

国語学講義ⅠB（国語学の基礎知識）

教授 土 井 洋 一

日本語とはどんな言語であるか、また、国語学とはどういう学問であるか、などについて解説し、基礎知識の習得を計る。

国語学講義ⅠC（現代日本語の文法）

教授 田 中 章 夫

現代日本語の文法と表現について、各自のテーマを決めて考察する。

〔テキスト〕未定

現代日本語研究Ⅰ（日本語音声学）

講師 上 野 善 道

一般音声学をふまえて日本語の音声について講ずる。各地の方言を含む日本語の音声を聴き取り、発音できるように訓練する。頭の中で理論的に理解するだけでなくとどまらず、実際に運用できる技術をも身につけることを目的とする。独習はしにくい分野であるので、できるだけ欠かさずに出席することが望ましい。

〔テキスト〕川上泰『日本語音声概説』（桜楓社）

現代日本語研究Ⅱ（文章論研究）

講師 永野 賢

文章の構造を語学的に分析・究明する文法論的文章論につき、理論的・実証的に解説する。とりわけ、助詞・助動詞が文の骨格の構成にいかに関与するか、また、文が連続して一編の文章が構成される際に助詞・助動詞がいかなる役割を果たすかについて考察する。このような文章論的観点から、現代口語における助詞・助動詞の機能（意味・用法）を概観し、現代日本語研究における文法上の新たな問題点を掘り起こそうとするものである。

〔テキスト〕永野賢『文章論総説』（朝倉書店）

現代日本語研究Ⅲ（日本語の構文）

教授 大野 晋

日本語の「文」の基本的構造を説明し、そこに見られる型式によって、現代日本語の新聞、小説その他の文章を分析する。

現代日本語研究Ⅳ（日本語の語彙）

教授 田中 章夫

日本語の語彙について、その意味的構造・語種の構造・位相的な特徴などを考察し、さらに、語彙の数量的性格や基本語彙の問題などにも触れる。

〔テキスト〕プリント配布

現代日本語研究Ⅴ（文体研究）

教授 田中 章夫

日本語の文章のスタイルを概観し、文体と接続表現の関係などを中心に考察する。

〔テキスト〕プリント配布

現代日本語研究Ⅵ（集中）（方言の研究）

講師 徳川 宗賢

日本語の地域差を材料として、どのような研究が行われうるかを、先学の諸業績を通じて考える。

講義日程：平成元年9月8日（金） 1～4限

9日（土） 1～2限

11日（月） 1～4限

12日（火） 1～4限

13日（水） 1～4限

14日（木） 1～4限

12月22日（金） 1～4限

23日（土） 1～2限

対照言語学（ヨーロッパ語と日本語）

教授 下 宮 忠 雄

対照言語学（contrastive linguistics）は同系または異系の2言語を比較・対照して類似点・相違点をさぐり、当該言語の特性を浮き出すことを目的とする。日本語の特性はヨーロッパの言語と比較することによって、より鮮明に描き出され

基礎演習ⅠA（短篇小説読解）

講師 紅 野 謙 介

小説をどのように読むか。基本的に読み方は自由だけれども、批評・研究を進める上では一定のゲームの規則を知る必要がある。その規則を自覚化することを通して自分たちのそれまでの読み方を支配していた様々な制約や規範が見えてくるはずだ。とりあえず日本の「小説の神様」と言われた志賀直哉、その批判者でもあった太宰治の小説を対象とする。参加者は全員、作業と発表が課せられる。

〔テキスト〕志賀直哉「清兵衛と瓢箪・網走まで」（新潮文庫）

太宰治「晩年」（新潮文庫）

基礎演習ⅠB（森鷗外）

講師 高 橋 博 史

鷗外の歴史小説を読む。作品を読み込み、論ずるための基本的な姿勢を体得することを旨とする。

〔テキスト〕授業時に指示する。

基礎演習ⅠC（『三四郎』を読む）

講師 山 本 芳 明

夏目漱石の『三四郎』という作品をいろいろな角度から徹底して読みこむことによって作品分析の基本を学び文学作品の読みの可能性をさぐっていきたい。

〔テキスト〕夏目漱石『三四郎』新潮文庫

基礎演習ⅠD

教授 大 野 晋

広く文学を読む上でのいろいろな問題、ことばを学ぶ上での手続きなどの初歩的なことを練習する。また、よい日本語を書くための練習も併せ行いたい。

〔テキスト〕夏目漱石「こころ」、その他

基礎演習ⅡA

教授 木 村 正 中

古写本に習熟することを目的とする。あわせて古典読解の基本的な知識を身につけるようにする。

〔テキスト〕萩谷朴編『影印本・土佐日記』（新典社）

基礎演習ⅡB

助教授 佐々木 隆

変体仮名と漢字諸形の習得のために、影印本を読んでいく。また、その途中で出て来るはずの疑問にいかに対処すべきかということも考える。

〔テキスト〕高野本『平家物語』〈一〉（笠間書院）

基礎演習ⅡC

講師 我妻 多賀子

変体平仮名の演習を行う。古文に読み慣れることが、変体仮名習得のためにも、きわめて大切なことと思われるので、できるだけ多くの教材を取り挙げることにしたい。よってテキストは、解説の手引きとして「字典かな」を用いる外、適宜コピーする。

〔テキスト〕「字典かな一出典明記」笠間書院

基礎演習ⅡD

教授 土井 洋一

写本のプリントを用い、変体仮名の習得を通じて、古典の研究に必要な基礎知識を養う。

〔テキスト〕「字典かな」（笠間書院）

日本語教授法Ⅰ（外国語としての日本語—学習上の問題点）

講師 宮崎 茂子

「高くて買いません」これはよくある外国人の誤用例である。一方、「高いから買いません」「高くて買えません」は文法的におかしいところはない。

外国人に日本語を効果的に教えるには、彼らの学習上の問題点を知らねばならない。それには日本人がふつうは気付いていない日本語の語法を知る必要がある。本授業では、日本語の文法初め、音声、表記等をあらためて外側から見直す。

〔テキスト〕“Japanese for Busy People”（講談社インターナショナル）

ただし、指示するまで各自購入しないでください。

日本語教授法Ⅱ（日本語教育の実際）

講師 宮崎 茂子

日本語教育の現場の諸問題を総括的に、しかし具体的に講義し、演習・見学も交えて授業をすすめ、次の実習にそなえる。

- ・ 教案、教室内指導法、ドリル、テスト、音声教育、文字教育等日本語教育の実際
- ・ 教科書、教具、視聴覚教材の紹介
- ・ 近年の外国語教授法の紹介
- ・ 多様な学習者に対するコースデザイン

なお、受講生は、教授法Ⅰをすでに、あるいは平行して受講していることが望ましい。

〔テキスト〕「日本語教授法」（桜楓社）

3月下旬出版予定

言語学概論

講師 小沢 重男

言語とは、如何なるものなのか。こゝから講義を説き始め、言語の性質、特徴、言語と文化、言語と社会等の関係を考察し、合わせて言語の変化、言語の系統にまで及ぶ。言語一般、外国語学習に興味のある学生諸君の聴講をのぞむ。

〔テキスト〕入門言語学 ゼンイン言語学（金星堂）

松蔭女子学院大学

文学部国文学科日本語教育コース

日本語教育コースは、必修科目38単位、選択必修科目III群より4単位以上、IV群より4単位以上、V群より8単位以上、VI群より4単位以上、VII群より4単位以上、VIII群より2単位以上、IX群より4単位以上、選択科目（各学科共通専門教育科目を含む）より17単位以上を修得すること。

授業科目一覧表

系列	授業科目	単位	週時間	担当者	優先 年次	開講 区分	備 考
必修科目	国語学講読Ⅰ丁	2	2	高山 善行	1	通年	38単位必修
	国語学講読Ⅱ丁	2	2	下田美津子	2	〃	
	国語学講読Ⅲ	2	2	坂本 勉	3	〃	
	国文講読Ⅴ丁	2	2	喜多川恒男	1	〃	
	国文講読Ⅵ丁	2	2	根来 司	1	〃	
	現代日本語概論	4	2	坂本 勉	1	〃	
	国語学概論	4	2	浅見 徹	2-4		
	国語史	4	2	辻田 昌三	2-4		
	言語学演習Ⅰ	2	2	坂本 勉	3-4	前期	
	言語学演習Ⅱ	2	2	坂本 勉	3-4	後期	
	日本語教授法	2	2	下田美津子	2-3	前期	
	日本語教材論	2	2	下田美津子	2-3	後期	
	卒業研究	8	2		4	通年	
選択必修科目	III 日本文学史Ⅰ	4	2	片岡 利博	2-4	通年	4単位以上
	日本文学史Ⅱ	4	2	上條 彰次	2-4	〃	
	IV 近代文学史	4	2	青木 稔弥	2-4	通年	4単位以上
	中国文学史	4	2	高橋庸一郎	2-4	〃	
	日本文化史Ⅰ	4	2		2-4	〃	
	日本文化史Ⅱ	4	2		2-4	〃	
	日本文化史Ⅲ	4	2	阿部 泰郎	2-4	〃	
	日本文化史Ⅳ	4	2	西岡 陽子	2-4	〃	

系列	授 業 科 目	単 位	週 時 間	担 当 者	優 先 年 次	開 講 区 分	備 考
選 択 必 修 科 目	V 群 国語学特殊講義Ⅰ	4	2	清水 彰	3-4	通年	8 単位以上
		4	2	大鹿 薫久	3-4	〃	
	国語学特殊講義Ⅱ	4	2	前田 均	2-3	〃	
	国語学特殊講義Ⅲ	4	2	大鹿 薫久	2-3	〃	
	VI 群 国語学第Ⅰ演習Ⅱ	4	2	下田美津子	3	通年	4 単位以上
		4	2	坂本 勉	3	〃	
	VII 群 社会言語学特論Ⅰ	4	2	前田 武彦	3-4	通年	4 単位以上
	社会言語学特論Ⅱ	4	2		3-4	〃	
	比較文明論	4	2	中田 睦子	3-4	〃	
	VIII 群 対照言語学講読Ⅰ	2	2	長谷川信子	2-4	通年	2 単位以上
	対照言語学講読Ⅱ	2	2		2-4	〃	
	対照言語学講読Ⅲ	2	2		2-4	〃	
	IX 群 英 会 話	2	2	A. E. Jackson	2	通年	4 単位以上
		2	2	K.A.Watts	2	〃	
	英 会 話	2	4		1	後期	
	英 作 文	2	2		1	通年	
	中 国 語 会 話	2	2	原田松三郎	2-4	〃	
	ス ペ イ ン 語 (会話を含む)	2	2			〃	
	日本語文法教授法	2	2	下田美津子	2-3	前期	
	日本語音声教授法	2	2	下田美津子	2-3	後期	
選 択	日本語教育実習	1		下田美津子 坂本 勉	3-4	通年	
	漢文講読Ⅰ 甲	2	2	大谷 雅夫	1	〃	
		2	2	大谷 雅夫	1	〃	
		2	2	上條 彰次	1	〃	
		2	2	福島 理子	1	〃	
	国文講読Ⅰ 丁	2	2	毛利 正守	2	〃	
	国文講読Ⅳ 丁	2	2	松原 秀江	2	〃	
	漢文講読Ⅱ 丁	2	2	川上 恭司	2	〃	
	国文講読Ⅱ 甲	2	2	片岡 利博	3	〃	
		2	2	清水婦久子	3	〃	
	国文講読Ⅲ 甲	2	2	青木千代子	3	〃	
		2	2	青木千代子	3	〃	
	国文学特殊講義Ⅰ	4	2	浅見 徹	3-4	〃	
	国文学特殊講義Ⅱ	4	2	上條 彰司	3-4	〃	
		4	2	根来 司	3-4	〃	

科目	国文学特殊講義Ⅲ	4	2	信太 周	3-4	〃	'89年度不開講	17単位以上 (選択必修科目 の余剰単位及び 各学科共通専門 教育科目を含む)
		4	2	寺島 樵一	3-4	〃		
	国文学特殊講義Ⅳ	4	2	秋本 鈴史	3-4	〃		
		4	2	大高 洋司	3-4	〃		
	国文学特殊講義Ⅴ	4	2	陳 舜臣	3-4	〃		
		4	2	田中 励儀	3-4	〃		
	漢文学特殊講義	4	2		3-4	〃		
	書道Ⅰ	2	2	鳥居 和美	1	〃		
		2	2	花田 仁人	1	〃		
	書道Ⅱ	2	2	鳥居 和美	2-4	〃		
	書道Ⅲ	2	2	花田 仁人	2-4	〃		
	書道Ⅳ	2	2	花田 仁人	2-4	〃		
	書道Ⅴ	1	2	花田 仁人	3-4	後期		
	書道史	2	2	鳥居 和美		集中		

系列	授業科目	単位	週時間	担当者	優先 年次	開講 区分	備 考
選択 科目	*美術史	4	2	清水 芳子	2-4	通年	2クラス開講 2クラス開講 「中国語Ⅰ・Ⅱ」を修得した者 「中国語Ⅰ・Ⅱ」を修得した者
	文学概論	4	2	陳 舜臣	3-4	〃	
	文章表現法	4	2	陳 舜臣 喜多川恒男		〃	
	中国語Ⅰ	2	2	南部 稔		〃	
	中国語Ⅱ	2	2	原田松三郎		〃	
	中国語Ⅲ	2	2	高橋庸一郎		〃	
	中国語Ⅵ	2	2	南部 稔		〃	
	*日本服飾史	2	2	岩崎 雅美		後期	
	*食生活史	2	2	高谷とし子		前期	
	英文学史	4	2	社本 時子		通年	
	米文学史	4	2	松平 陽子		〃	
	*イギリス文化	4	2	社本 時子	2-4	〃	
							'88年度以前入学生用 「英米文化特殊講義Ⅰ」を履修
日本語 教育関係	*現代日本語概論	4	2	紙谷 栄治	1	通年	
	*日本語教授法	2	2	下田美津子	2-3	前期	
	*日本語教材論	2	2	下田美津子	2-3	後期	
	*国語学特殊講義Ⅱ	4	2	前田 均	2-4	通年	
	*社会言語学特論Ⅰ	4	2	前田 武彦	3-4	〃	
	*対照言語学講読Ⅰ	2	2	長谷川信子	2-4	〃	

- (注) 1. 余剰単位：各系列に示されている最低必要単位数を超えて取得した単位。
2. 中国語Ⅲ、Ⅳは、'87年度(昭和62年度)以前入学生の中国語Ⅱに相当する。従ってこの中国語Ⅱの既修得者は、中国語Ⅲ、Ⅳを履修できない。
3. 87年度入学生が「イギリス文化」(英米文学科の「英米文化特殊講義Ⅰ」)を修得した場合、「英国文化史」で認定される。
4. 日本語教授法、日本語教材論は英米文学科の場合は卒業必要単位には入らない。

授 業 内 容

国語学講義Ⅰ（丁） （通年 週2時間 2単位） 高山 善 行

現代語文法の諸問題

日常、われわれが話したり書いたりしている言葉の使い方のなかから、ふだんは気づかない「法則性」を探り出す。参考文献の講読と各自興味あるテーマについての発表。

教科書：プリント使用

参考書：「ケーススタディ日本文法」寺村秀夫・鈴木泰・野田尚史・矢澤真人編（桜楓社）

国語学講義Ⅱ（丁） （通年 週2時間 2単位） 下 田 美津子

日本語教育概論

日本語教育全般にわたる様々な問題を取りあげ、その問題に関する文献を講読する。問題は日本語の言語的な側面だけではなく、日本語をとりまく社会的な問題にまで及ぶ予定。

教科書：プリント使用

国語学講義Ⅲ （通年 週2時間 2単位） 坂 本 勉

現代日本語文法

最近の言語学の成果をふまえた上で、現代日本語の文法に関する諸問題を考察する。各自が日本語に対して意識的に考える態度を持ち、積極的に講義に参加されることを希望します。

教科書：益岡隆志「命題の文法－日本語文法序説－」（くろしお出版）

久野暁「日本文法研究」（大修館）

国文講義Ⅴ（丁） （通年 週2時間 2単位） 喜多川 恒 夫

大正期の文芸

テキスト『大正の文芸』所収の詩・小説・評論各数編を選んで、受講生の予習・発表を中心として精密な読解をすすめ、かつ大正期文芸の特色をも把握する。

教科書：「大正の文芸」坂上博一・網野義紘編（双文社出版）

国文講義Ⅵ（丁） （通年 週2時間 2単位） 根 来 司

平安女流日記を講読するが、夢に生き夢を追い続けた作家菅原孝標の娘の更級日記を主に考究していく。

教科書：菅原孝標娘著「更級日記」＜新潮日本古典集成＞秋山虔校注（新潮社）

漢文講義Ⅰ（甲）（乙） （通年 週2時間 2単位） 大 谷 雅 夫

漢文の基礎より始め、多様な漢文作品を多読する。プリント使用。

教科書：西田・福島共著「漢文語法便覧」（中央図書）

漢文講読Ⅰ（丙）（通年 週2時間 2単位）

上 條 彰 次
福 島 理 子

中国文学と日本の詩人たち

女流を含む、中国及び日本の漢詩人達の作品をとりあげ、日本文学における美意識や文学観の源泉を探る。

教科書：プリント使用

現代日本語概論（通年 週2時間 4単位）

坂 本 勉

言語研究の基礎

言語（コトバ）を研究するために必要とされる基本的な概念・方法論を考察する。言語学における諸問題を概観することによって、「日本語」をひとつの研究対象として捉える態度を身につけることを目的とする。

教科書：プリント使用

国語学概論（通年 週2時間 4単位）

浅 見 徹

国語における体系というものを、音韻・文字・文法・語彙の各面より眺め、その本質を、諸外国語との対比からする特徴づけによって具体化していくよう考えたい。

国語史（通年 週2時間 4単位）

辻 田 昌 三

日本語の歴史について、音韻、文法、文字、語彙等、上代よりの基礎的な事項を講義する。

教科書：松村明著「国語史概説」（秀英出版）

日本語教授法（前期 週2時間 2単位）

下 田 美津子

日本語教育の現状を概説した後、誰を対象に、何を、どう教授するか、それぞれの場合を実際に則しつつ学習する。また、文法、文字（表記）、音声などの具体的な教授法についても、VTRなどの視聴覚教材などを利用して講義する。

教科書：プリント使用

日本語教材論（後期 週2時間 2単位）

下 田 美津子

前期の日本語教授法に続く講義となる。多様化してきた日本語教育の教材を紹介し、それぞれの特徴と効果を概説する。また、既存の教材を使用する際の留意点、あるいは新たな教材を作成する際の注意点など、実際に教材を使用するうえでの問題点を指摘する。

教科書：プリント使用

言語学演習Ⅰ（前期 週2時間 2単位）

坂 本 勉

理論言語学

言語のレベルを「音」・「文」・「意味」の三つに分け、それぞれ、「音韻論」・「統語論」・「意味論」の諸理論を考察する。

教科書：プリント使用

言語学演習Ⅱ (後期 週2時間 2単位)

坂本 勉

応用言語学

言語の実態を考察するための手がかりとして、社会言語学(方言学等を含む)、心理言語学(言語習得、言語処理など)、文体論などの応用言語学の諸問題を取りあげる。

教科書：プリント使用

国語学特殊講義Ⅰ (通年 週2時間 4単位)

大鹿 薫 久

文法用語再考

文法を考える上で基本的な用語について、その概念規定と適用の妥当性を丹念に考察してみる。この作業を通して、文法現象の整理に近づくこと(ある程度の統一的な解釈並びに説明が可能になること)を目標にしたい。

国語学特殊講義Ⅱ (通年 週2時間 4単位)

前田 均

日本語音声学

自分の日本語の発音の内省、教育上必要な模範的な発音の習得、外国人日本語学習者の発音上の誤りの把握に役立たせるため、一般音声学・日本語音声学の両方にわたって講義する。内容は日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち、「音声」の分野に対応させる。前後期とも試験期間中に試験実施。

教科書：川上素著「日本語音声概説」(桜楓社)

文化庁「日本語教育指導参考書1 音声と音声教育」水谷修・大坪一夫編

(大蔵省印刷局)

プリント使用

参考書：城生佑太郎著「改訂 音声学」(アポロン音楽工業)

服部四郎著「音声学」(岩波書店)

国語学特殊講義Ⅲ (通年 週2時間 4単位)

大鹿 薫 久

国語語彙論

日本語の語彙について、さまざまな角度から考えてみる。語彙そのもののさまざまな性質や構造はもちろん、ことばという現象に対する語彙論的な把握の特質や限界についても考察する。

教科書：「ケーススタディー 日本語の語彙」森田良行他編(桜楓社)

日本語文法教授法 (前期 週2時間 2単位)

下田 美津子

日本語教育の現場において、文法や基本文型がどのように教えられているのか、実際の教科書に則しながら概説する。特に文法教授上の基本的な視点と、それぞれの文法項目の問題点を明らかにし、学習者のレベル別の具体的な方法について講義する。

教科書：下田・鈴木・長谷川著 *Spoken Japanese*. AKP 同志社留学センター(凡人社刊)

プリント使用

日本語音声教授法 (後期 週2時間 2単位) 下 田 美津子
日本語音声学の基本的事項を復習しながら、それを日本語の教育現場でどのように生かしていくか、様々な具体例に則しての教授法を考えていく。
教科書：プリント使用

日本語教育実習 (通年 週2時間 1単位) 下 田 美津子
坂 本 勉
前期は、各自分担して教育実習の模擬クラスをする予定。できればL.L.実習も行いたい。
後期は、授業見学、留学生のチューターなどを教育現場での実習とする予定。

現代日本語概論 (通年 週2時間 4単位) 紙 谷 栄 治
現代日本語の音韻・文法・語彙・表記・方言の概略をのべるとともに、それぞれの歴史的な変遷についてもとりあげる。
教科書：紙谷栄治著「国語学資料集」

日本語教授法 (前期 週2時間 2単位) 下 田 美津子
日本語教育の現状を概説した後、誰を対象に、何を、どう教授するか、それぞれの場合を実際に則しつつ学習する。また、文法、文字(表記)、音声などの具体的な教授法についても、VTRなどの視聴覚教材などを利用して講義する。

日本語教材論 (後期 週2時間 2単位) 下 田 美津子
前期の日本語教授法に続く講義となる。多様化してきた日本語教育の教材を紹介し、それぞれの特徴と効果を概説する。また、既存の教材を使用する際の留意点、あるいは新たな教材を作成する際の注意点など、実際に教材を使用するうえでの問題点を指摘する。

国語学特殊講義Ⅱ (通年 週2時間 4単位) 前 田 均
日本語音声学
自分の日本語の発音の内省、教育上必要な模範的な発音の習得、外国人日本語学習者の発音上の誤りの把握に役立たせるため、一般音声学・日本語音声学の両方にわたって講義する。内容は日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち、「音声」の分野に対応させる。前後期とも試験期間中に試験実施。
教科書：川上葵著「日本語音声概説」(桜楓社)
文化庁「日本語教育指導参考書 1 音声と音声教育」水谷修(大蔵省印刷局)
参考書：城生佑太郎著「改訂音声学」(アポロン音楽工業)
服部四郎著「音声学」(岩波書店)

社会言語学特論Ⅰ (通年 週2時間 4単位) 前 田 武 彦
コミュニケーション行動研究
例えば、言い訳をする、謝罪する、など、日常生活における言語行動の諸相を分析し、理解するために、コミュニケーション行動一般に関する理論とモデルを概観していく。
教科書：プリント使用

対照言語学講読Ⅰ (通年 週2時間 2単位)

長谷川 信 子

日英語の文法比較

英語圏向けの日本語教師・学習者用参考書を系統立てて読み、(平易な英文で書かれている)

日英語の類以・相違点、特性等を、各語の統語的全体像や言語の普遍性に触れつつ考えてゆきたい。

教科書: Seiichi Makino・Michio Tsutsui, *A Dictionary of Basic Japanese Grammar*.
(Japan Times)

昭和女子大学

文学部日本文学科日本語教育

授 業 科 目			担 当	学 年								開講 中心 年次	履修 可能 範囲	備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				単位		単位		単位		単位				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
日 本 語 教 育	異文化間コミュニケーション概説Ⅰ	山田	②	②							1	◎	☆	開設単位： ①無印は必修 ②○印は選択科目 ③★印は前・後期同一内容 履修範囲： ①無印は本学科学学生のみ ②○印は同系統学生のみ ③★印は他学科生履修可 ④×印は本年度開講せず
	異文化間コミュニケーション概説Ⅱ	山田		②	②						1	◎	☆	
	異文化間コミュニケーション演習	山田			①	①	①	①			2	◎		
	対 照 言 語 研 究 A	高見沢					①	①	①	①	3	◎	☆	
	対 照 言 語 研 究 B	伊藤博					①	①	①	①	4	◎		(本年度後期のみ開講)
	日本語教育言語分析法研究	伊藤博			①	①	①	①			2	◎	☆	(本年度後期のみ開講)
	日本語文法論(対照研究)	山田			①	①	①	①			2	◎		
	日本語表現法研究Ⅰ	伊藤博			①	①	①	①			2	◎		(本年度後期のみ開講)
	日本語表現法研究Ⅱ	山田					①	①	①	①	3	◎		
	日本語教育概説Ⅰ	山田	②	②							1	◎	☆	
	日本語教育概説Ⅱ	山田		②	②						1	◎	☆	
	日本語指導法概説Ⅰ	西川剛			②	②					2	◎	☆	
	日本語指導法概説Ⅱ	西川剛				②	②				2	◎	☆	
	外国語・第二言語教育概説	伊藤博					②	②	②	②	3	◎	☆	(本年度後期のみ開講)
	日本語指導法ⅠA(音声)	高見沢			①	①	①	①			2	◎	☆	
	日本語指導法ⅠB(書写)	戸田佑	①	①	①	①					1	◎		
	日本語指導法ⅠC(文法)	戸田佑			①	①					2	◎		
	日本語指導法ⅡA(会話・聴解)	伊藤博			①	①	①	①			3	◎	☆	(本年度後期のみ開講)
	日本語指導法ⅡB(作文・読解)	伊藤博			①	①	①	①			3	◎	☆	(本年度後期のみ開講)
	日本語教育教材・教具論	戸田佑				①	①				2	◎		
	外国語・第二言語習得過程論	西川剛					①	①	①	①	4	◎	☆	
	日本語教育コースデザイン論	西川剛					①		①		4	◎	☆	
	日本語教育評価法	西川剛						①		①	4	◎	☆	
	日本語教育指導法演習	西川剛							①	①	4	◎	☆※	

注1. ☆: 日本語教育の基礎科目であるので履修することが望ましい。

2. ※: 教育実習を含む。関係科目の履修後受講することが望ましい。

3. この他にも、基礎通論の「言語学」、「表現学」、国語学の諸科目、国語国文学演習ⅡA国語学演習(調査研究法)、国語国文学科の「日本語学ⅠB(文字論)」などを関係科目として履修することが望ましい。

講 義 概 要

1086 異文化間コミュニケーション概説Ⅰ

助教授 山田 泉

我が国がおかれた状況を考えると、今後市民レベルでの「国際化」がますます進展し、恒常化していくと思われる。

異文化間の対人接触で、相手の文化を理解し自分の文化を正しく伝えていく方途を探り、併せて日本語教育のあり方を考える。

☞ 1. 「国際化」 2. 文化 3. コミュニケーション 4. 文化の差異 5. ノンバーバル・コミュニケーション 6. 文化摩擦 7. 異文化相互理解

1087 異文化間コミュニケーション概説Ⅱ

助教授 山田 泉

日本語教育の目的は、学習者もっている価値観・行動様式・社会システムに対する認識と日本社会・日本人のそれとの差異を養成する能力を養成することと言える。文化の差異をもった者同士のコミュニケーションにおける問題を探り、併せて指導法について考える。

☞ 1. インターカルチュラル・コミュニケーション 2. 文化差と個人差 3. ノンバーバル・コミュニケーション 4. 異文化(不)適応 5. カルチャー・ショック 6. 異文化相互理解 7. 日本語・日本事情教育

1088 異文化間コミュニケーション演習

助教授 山田 泉

現在、我が国が直面している異文化接触上の問題の幾つかについて概観しつつ、それらが日本文化とどのように関係しているかを考える。また、関係事例によるケーススタディ(調査・分析・考察まで行う)を行い報告書にまとめる。

〔課題図書がある。〕

☞ 1. 文化の差異 2. 日本人 3. 日本社会 4. 日本文化 5. 母文化・異文化 6. 在日外国人 7. 中国帰国者 8. 自己表現 9. 異文化適応 10. 異文化共存 11. 第三の文化

1089 対照言語研究A

講師 高見沢 孟

外国人に対する効果的な日本語教育を行うためには、その学習者の母語と日本語の対照研究は必須である。本間には、その表現に対してある共通認識がある。ここで講義では日米両語の比較を通して日本語の特質を探り、あわせて、英語国民に対する日本語教育において発生する諸問題を検討する。プリントと参考図書。

☞ 1. 日本語の特質 2. 日本語学習の困難点 3. 母語の干渉 4. 音声 5. 日本語らしさ 6. 語順 7. 基本文型 8. テンズとアスペクト 9. 主語 10. 助詞 11. 動詞の種類 12. 待遇表現

1090 対照言語研究B

講師 伊藤 博文

外国人とのコミュニケーションにおいては、発生する問題は単に文法的音声的なものだけではない。実際の言語行動運用を、コミュニケーションの観点から日本と欧米とを比較し、検討したい。

☞ 1. 言語行動運用 2. 非言語行動 3. 発話意図 4. 中間言語 5. コミュニケーション 6. 文化的背景

1091 日本語教育言語分析法研究

講師 伊藤 博文

日本語の諸要素(文法、音声、表記、語彙等)について、母国語としての見方と外国語としての見方の差異を検討し、習得順序、学習者に役立つ分類法、教育者としての分析法を考えたい。

☞ 1. 品詞分類 2. 品詞の機能 3. 国語 4. 外国語としての日本語 5. 教科書分析 6. 学習順序 7. 漢字・カナの修得

1092 日本語文法論(対照研究)

助教授 山田 泉

前期は日本語の文構造を述部と補語の関係でとらえ、特に日本語の動詞の問題についてその幾つかを考える。後期は外国人の文レベルでの誤用を例に文法指導上の問題点を考える。前・後期とも主に中国語・英語と日本語を対照し進める。

☞ 1. 日本語口語文法 2. 構文論 3. 文構造 4. 述語(部) 5. 補語 6. 格 7. 動詞 8. 助詞 9. 誤用(分析) 10. 文法指導

1093 日本語表現法研究Ⅰ

講師 伊藤 博文

ここでは、通論として、日本語の様々な表現法を概観し、表現形の運用と、特定の場面・文脈における表現形の機能について考察する。

☞ 1. 表現法 2. 表現の運用 3. 表現の機能 4. 表現意図 5. 場面 6. 文脈 7. 社会言語 8. 文字化

1094 日本語表現法研究Ⅱ

助教授 山田 泉

日本語によるコミュニケーション活動中に現れた言語素材を「表現」とすると、ある表現の送り手と受け手の間は、その表現に対してある共通認識がある。ここで、それをルール化し、談話及び機能という観点から分析し、日本語指導上考慮すべき点を考える。

☞ 1. 文法と表現法 2. 表現形 3. 場面(シチュエーション) 4. 文脈(コンテキスト) 5. 談話(分析) 6. 機能(分析) 7. 言語表現 8. 非言語コミュニケーション要素 9. 送り手と受け手 10. 文化情報 11. 日本語教育

1095 日本語教育概説Ⅰ

助教授 山田 泉

国の内外で日本語を学ぶ人々が激増しており、手日本語教師の供給が逼迫していると言われる。しかし日本語教師に求められる資質・能力は高く、逆に職業としての日本語教育現場は働きやすいよう整備されているとは言えない。日本語教育とは何か、現状を概観する。

● 1.日本語教育 2.学習者と教師 3.国内における日本語教育 4.海外における日本語教育 5.日本語教育能力検定試験 6.日本語教育と関連領域

1096 日本語教育概説Ⅱ

助教授 山田 泉

日本語教師に求められる資質・能力にはどんなものがあるか、また、それらを養成するにはどうしたらよいかを考える。

さらに、多様な日本語教育に対応するため教師としてどうあったらよいかを考える。

● 1.日本語教師 2.日本語の構造 3.日本語の運用 4.日本事情 5.言語学 6.教授法 7.異文化間コミュニケーション 8.学習目的と指導法

1097 日本語指導法概説Ⅰ

講師 西川 寿美

放送大学のVTR等を通じて、日本語教育の実際に馴染むことを目標とする。その中から、日本語教師になるために今後、何を学んでいかなければならないかを各自に自覚していてもらいたい。課題図書有り。

● 1.コースデザイン 2.学習者のニーズ 3.初級の指導 4.文型 5.授業計画 6.言語項目の分析 7.中・上級の指導 8.プロジェクトワーク 9.日本語教育の多様性

1098 日本語指導法概説Ⅱ

講師 西川 寿美

いくつかの代表的教授法について、その裏にある言語学、学習心理の理論的背景および、教材、教授の実際を概観する。それを通じて、外国語学習、教授のさまざまな側面を認識してもらいたい。テキスト使用。

● 1.Audio-Lingual Approach 2.The Natural Approach 3.Total Physical Response 4.Cognitive Approach 5.Silent way 6.Comprehension Approach 7.Humanistic Approach 8.Suggestopedia

1099 外国語・第二言語教育概説 講師 伊藤 博文

現在に至るまで言語の様々な教授法が提唱されてきたが、各々の背景、長所、短所または問題点、その教授法に必要な条件、教材等を考察する。また、学習者心理の観点から、効果的な授業をするために教師として心得ておくべきことも考えたい。

● 1.直接法 2.Audiolingual Approach 3.Grammar. Translation Method 4.CLL 5.Communicative Approach 6.Silent Way 7.Natural Approach 8.Sagest Pedia 9.TPR 10.学習者中心のカリキュラム

1100 日本語指導法ⅠA（音声） 講師 高見沢 孟

日本語の音声の特徴を一通り紹介した上で、それらが外国人に対する日本語教育ではどのように扱われ、いかなる指導が行なわれているかを解説する。オーディオテープやVTRによって教室活動の実例を示し、音声指導や会話指導の方法論と技法を検討する。

● 1.発音 2.聴き取り 3.音声 4.母音と子音 5.音楽 6.音節 7.リズム 8.アクセント 9.イントネーション 10.通じる日本語 11.学習困難な音 12.コミュニケーション

1101 日本語指導法ⅠB（書写） 講師 戸田 佐和

4種の文字（平仮名、片仮名、漢字、ローマ字）を使う日本語の表記について各々がどのような機能をもち、特徴があるかを整理する。その上で外国人に対する書写指導法を考えてみたい。

● 1.日本語表記の特徴 2.文字の機能 3.音声と表記 4.仮名遣い・送り仮名 5.和語・漢語 6.仮名指導法 7.漢字指導法

1102 日本語指導法ⅠC（文法） 講師 戸田 佐和

日本語教育における文法指導は国語教育のそれと同じでいいのだろうか。授業では身近な言語事実からきまりを見い出す作業を通して外国人に対する文法指導を考える。

● 1.基本文型 2.品詞 3.主語・主題 4.活用 5.テンス・アスペクト 6.ヴォイス

1103 日本語指導法ⅡA（会話・聴解）

講師 伊藤 博文

音声・文法の具体的な知識を前提として、教室活動の実例を紹介し、分析する。さらに、その考えられる問題点、考慮すべき点を考える。

● 1.言語行動 2.非言語行動 3.音声 4.発音 5.聞き取り 6.場面 7.自然な日本語

1104 日本語指導法ⅡB（作文・読解）


講師 伊藤 博文

書写・文法の具体的な知識を前提に、実際に使われている教材を分析し、望ましい指導内容、効果的な方法を検討する。

● 1.教科書 2.原稿用紙 3.誤用分析 4.表記 5.フィード・バック 6.読解指導 7.作文指導

1105 日本語教育教材・教具論 講師 戸田 佐和


外国語教授法のいろいろ／教育目標／初級及び中級の教授内容／教科書概観／対象別による教科書比較／補助教材の使い方／教具／視聴覚教材の利用

 1.外国語教授法 2.教育目標 3.教授内容 4.教科書概観 5.教科書比較 6.補助教材 7.教具 8.視聴覚教材

1106 外国語・第二言語習得過程論

講師 西川 寿美


主に第二言語としての英語の習得過程を扱った研究を紹介し、第二言語習得研究の現状、アプローチの仕方と、第二言語習得に関わるいくつかの内的要因、外的要因を概観する。

 1.The Acculturation Model 2.Accommodation Theory 3.Discourse Theory 4.The Monitor Model 5.The Variable Competence Model 6.The Universal Hypothesis 7.Language Environment 8.Personality 9.Age 10.Contrastive Analysis 11.Error Analysis

1107 日本語教育コースデザイン論

講師 西川 寿美


学習者のニーズを反映したコースデザインのあり方とその具体的手順を考察した後、日本語教育で採用されているいくつかのシラバスを紹介・分析し、その理念を考えたい。テキスト使用。

 1.コースデザイン 2.ニーズアナリシス 3.アプティチュード 4.レディネス 5.シラバス 6.カリキュラム 7.フィードバック

1108 日本語教育評価法

講師 西川 寿美


教育的評価のあり方と、その種類・手順について考察する。ハンドアウト使用。

 1.コースデザイン 2.テスト 3.信頼性 4.妥当性 5.フィードバック 6.コンサルティング 7.記録 8.授業分析 9.統計的処理

1109 日本語教育指導法演習

講師 西川 寿美

日本語教育現場の授業見学、実際の授業を想定した指導案の立案、模擬授業の実施等、実践体験を通して、日本語教育の実務内容を理解する。関係基礎科目の履修後、受講することが望ましい。

 1.授業見学 2.授業計画 3.指導案 4.導入 5.練習 6.教材作成 7.テスト 8.フィードバック 9.コースデザイン 10.授業分析

聖心女子大学

文学部日本語教員課程

日本語教員課程必修科目

	単位数		各単位数	備 考	対象学年
日本語の構造 に関する科目	18	日本語学概論 (国語学概論)	4		2・3
		日本語学演習 (国語学演習)	2		2～4
		日本語の文法	4		2・3
		日本語学特講 (国語学特講)	4		2～4
		文章表現法 (国語表現法)	4		2・3
日本人の言語 生活等に関する科目	4	日本語史概説 (国語史概説)	4		2～4
日本事情に関する科目	4	日本文化論 その他	4	複数の指定科目 中から1科目選択	2～4
言語学に関する科目	8	言語学概論	4	外国語外国文学	2～4
		対照言語学	4	科内の同種科目 を選択することも可	2～4
日本語教授法 に関する科目	10	日本語教授法Ⅰ	4		2
		日本語教授法Ⅱ	4		3
		日本語教育実習	2	2週間	4
外国語	8	3年次	4	どの外国語でも	3
		4年次	4	よいが、級別又は 種別について未 履修のもの	4
合 計	52		52		

() 内は旧名称。既修の学生については、() 内の科目でよい。

現在のところ、社会的に共通化した免許制度は行われていないので、課程修了者には、大学卒業を前提として、本学において修了認定証が与えられる。

標準カリキュラム

	単位数	2年次	3年次	4年次
日本語学概論	4	◎		
日本語学演習	2		○	
日本語の文法	4	◎		
日本語学特講	4		○	
文章表現法	4	◎		
日本語史概説	4		○	
日本文化論その他	4			○
言語学概論	4	○		
対照言語学	4		○	
日本語教授法Ⅰ	4	◎		
同Ⅱ	4		◎	
日本語教育実習	2			○
外国語3年次	4		○	
同4年次	4			○

◎は、日本語教育実習を行う前に必ず履修すべき科目を示す。

系列	授 業 科 目	担 当 者	単 位	週 時	対 象 学 年	備 考
日 本 語 学	1. 日本語学概論	阪田 雪子	4	2	2, 3	㊦
	2. 日本語史概説	山口 佳紀	4	2	2, 3	㊦
	3. 日本語の文法	阪田 雪子	4	2	2, 3	
	4. 文章表現法 A	山口 佳紀	4	2	2, 3	㊦ 国語国文学専攻生以外 の場合は、国 語科教員免許 状取得希望者 および日本語 教員課程登録 者に限る
	5. 文章表現法 B	間宮 厚司	4	2	2, 3	㊦ 同上

講 義 内 容
<p>1. 音韻・文字・文法・語彙の各分野にわたって日本語の姿を見ていくことにより、日本語研究の基礎をつくる。</p> <p>2. 上代から現代に至る日本語の変遷を通観して、基礎的な事実を知るとともに、言語史を動かす要因は何かを考える。</p> <p>3. 母語として無意識に使っている日本語を改めてながめなおし、日本語を客観的に把握、分析できるようになることを目標とする。</p> <p>4. 日本語の言語表現は、いかにあるべきか。文章による表現を中心として、理論を考え、実践をはかる。国語科教員免許状取得希望者および日本語教員課程登録者を主な対象とする。</p> <p>5. 使用語彙を豊かにし、日本語を自在に運用出来るようになるための訓練を様々な形で行なう。実際に色々な文章を書いてもらい、「書く」ことを通して、「考える」ことを深めたい。国語科教員免許状取得希望者および日本語教員課程登録者を主な対象とする。</p>

系列	授 業 科 目	担 当 者	単位	週時	対象学年	備 考
日 本 語 学	1. 日本語学特講 I (古典語研究)	山口 明穂	4	2	2, 3, 4	国語国文学専攻生以外の場合は、日本語教員課程登録者に限る
	2. 日本語学特講 II (現代語研究)	佐久間勝彦	4	2	2, 3, 4	
	3. 日本語学演習 I (大和物語)	山口 佳紀	2	2	2, 3, 4	同上
	4. 日本語学演習 II	沖森 卓也	2	2	2, 3, 4	同上
	5. 日本語学演習 III (日本語文法の諸問題)	古田 啓	2	2	2, 3, 4	同上
	6. 日本語学演習 IV (近代日本語の記述的分析)	清水 康行	2	2	2, 3, 4	同上
	7. 日本語学演習 V	山田 進	2	2	2, 3, 4	同上
	8. 研究法演習 VII	山口 佳紀	2	2	4	
	9. 研究法演習 VIII	阪田 雪子	2	2	4	
	10. 研究法演習 IX	山田 進	2	2	4	

講義内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典語の特徴と、現代語へ移り来る過程とを考え、日本語をとらえる。 2. 外国人日本語学習者の音声資料や日本語教材（教科書）を材料に、日本語の音声表現について考える。余裕があれば、発声・発音など音声表現の実技面の練習も行いたい。 3. 『大和物語』は、『伊勢物語』と並ぶ歌物語の代表的作品であるが、その割に言語面の研究が進んでいない。本年度は、これを取り上げて、平安時代語の諸問題について考える。 4. 『万葉集』を通して、7・8世紀ごろの日本語について考察する。どの巻を取り上げるかは、受講者と相談の上決定する。 5. ハとガなど、現代日本語文法の諸問題について考える。先行研究のうのみではなく、自覚的に日本語を分析する態度が身につけば幸いである。 テキスト 寺村秀夫 野田尚史 鈴木 泰 矢澤真人 編『ケーススタディ日本文法』（桜楓社） 6. 若松賤子訳『小公子』（1890—92発表、1897単行本刊行）の読解・分析を中心に、近代日本文章語の諸問題について考えていく。 7. 生成文法にもとづく文の分析方法を検討する。発表者・参加者ともに相当量の文献を読むことが要求される。 8. 日本語史の研究手法について考え、卒業論文の作成に役立てる。 9. 日本語学（現代語）の研究手法について考え、卒業論文の作成に役立てる。 10. 言語学（現代日本語・対照言語学）の研究手法について考え、卒業論文の作成に役立てる。

系列	授 業 科 目	担 当 者	単位	週時	対象学年	備 考
そ の 他	1. 言語学概論	山田 進	4	2	2, 3	
	2. 対照言語学	山田 進	4	2	3, 4	
	3. 日本語教授法 I (日本語教育の 現状と教授法)	阪田 雪子	4	2	2	日本語教員課 程登録者に限 る
	4. 日本語教授法 II (外国語教授理論と 日本語教育の実際)	佐久間勝彦	4	2	3	日本語教授法 I を履修済みの 者に限る
	5. 日本語教育実習	阪田 雪子	2	2	4	所定の 5 科目 を履修済みの 者に限る ※
	6. 中国文学史	黒須 重彦	4	2	2, 3, 4	㊦ 隔年講義
	7. 中国文学講読	黒須 重彦	4	2	2, 3, 4	㊦
	8. 書道 A	柳下 昭夫	4	2	2, 3, 4	㊦ 国語国文学 専攻生以外の 場合は、国語 科教員免許状 取得希望者に 限る
	9. 書道 B	柳下 昭夫	4	2	2, 3, 4	㊦ 同上
	10. 日本文化論	山崎 渾子	4	2	2, 3, 4	

※「日本語教育実習」を行う者は、3 年次までに「日本語学概論」「日本語の文法」「文章表現法」「日本語教授法 I」「同 II」を履修しておかなければならない。

講	義	内	容
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語を研究するときに必要となる基本的な事項および考え方を習得することをめざす。原則として毎回課題を与え、レポート提出を求める。 2. 対照研究の諸分野を概観した上で、シンタクスを中心に対照分析の方法を検討する。自宅学習として相当量の文献（主として英文）を読むことが要求される。 3. 何をどのように教えるのか、国語教育とのちがいは何かを理解することを目的とするが、特に、入門期を中心に教育内容・各種の教授法などからその問題点を考える。 4. 代表的な外国語教授理論を確認することから始め、日本語教育における、主として「話しことば」の教育内容・教授法・教材などから、その問題点について考える。 5. 実際に授業を行う際の具体的な作業について考える。（5月中に模擬授業を行う。）適宜、日本語教育機関の授業参観を行う。 6. 中国文学の特質を考えつつ、その文学の概略史を辿る。特に日本文学との比較を考慮していく。 7. 中国唐代伝奇小説を読む。杜子春・道服記等を読み、伝奇小説の中国文学史上における位置と役割を考え、同時にわが国にどのように受容されたかをも考える。 8. 小学校、中学校の国語科書写の領域と高等学校芸術科書道の学習内容について概略を説明し、楷書及び行書と、それらに調和したかなを取り上げ、書写指導の基礎基本を実技を中心に実習する。その際、指導法をも加味して取り扱い、教員としての指導力をも身につけるように配慮する。 9. 書道Aに同じ。 10. 日本史を通して、異文化に接した日本人の体験を中心に、文化的触発、人間観、世界観の変化について考えてみる。 			

梅花女子大学

文学部日本語教員養成コース

日本語教員養成コース修了証明書取得のための課程

1. 証明書の発行

本コースは文部省施行予定の「日本語教員能力検定試験」の合格をめざすもので、コース修了者には本学学長名での「日本語教員養成コース修了証明書」の授与を行う。

2. 修了証明書授与の条件

- (1) 本学を卒業して学士の称号を有すること。
- (2) 次の表に示す最低単位(42単位)を修得した者であること。

	科 目	単 位	履修年次	備 考
1	現代日本語学概論	4	1	
	日 本 語 史	4	1・2	
	日 本 語 学 1	4	3・4	(注) 1
	日 本 語 学 2	2	3・4	(注) 2
2	言 語 生 活	2	2	(1期)
3	日 本 の 生 活	2	2	(1期)
4	社 会 言 語 学	4	2	(注) 3
	対 照 言 語 学	4	2	(注) 3
5	日本語教育法(評価)	4	3	
	日本語教材・教具論	2	4	
	日 本 語 教 育 史	4	4	
	実 習	2	4	
6	オールイングリッシュ	2	2	(注) 4
7	教 育 原 理	4	2	
	教 育 心 理 学	2	2・3	(1期)

(注) (1) 日本語学1は、国語学特講(日本語学1)を受講する。従って日本文学科学学生は専門科目の特講として、他学科の学生は共通専門選択科目として、卒業に必要な単位とすることができる。

- (2) 日本語学2は、国語学演習(日本語学2)を受講する。従って日本文学科学生は専門科目の演習として、卒業に必要な単位とすることができる。
- (3) 「社会言語学」「対照言語学」は隔年開講で、選択必修とする(その年度に開講されている方を履修すればよい)。また、この単位は共通専門選択科目(言語学概論)として、卒業に必要な単位とすることができる。
- (4) 日本文学科・児童文学科の学生は本コースのために設けられたものを履修し、英米文学科の学生は当該学科において履修したオーラルイングリッシュの単位をもってこれにふりかえることができる。
- ※ このほかに、「国語学特講(国語表現法)」、「英語学概論」、「書道Ⅰ」を履修しておくことがのぞましい。

日本語教員養成コースに関する専門科目

	授 業 科 目	単 位	週時間数	年次	担 当 者	備 考
必	現 代 日 本 語 学 概 論	4	2	1	紙 谷	前期 後期
	日 本 語 史	4	2	1・2	米 川	
	日 本 語 学 1	4	2	3・4	※	
	日 本 語 学 2	2	2	3・4	※	
	言 語 生 活	2	2(1期)	2	渋谷	
	日 本 の 生 活	2	2(1期)	2	渋谷	
	日本語教育法(評価)	4	2	3	※	
	日本語教材・教具論	2	2	4	※	
	日 本 語 教 育 史	4	2	4	※	
	実 習	2	2	4	※	
	オーラルイングリッシュ	2	2	2	Swan	
修	教 育 原 理	4	2	2	福西(信)	教育専門科目と
	教 育 心 理 学	2	2(1期)	2・3	佐久間	共通
選択必修	社 会 言 語 学	4	2	2	渋谷	隔年交互に開講
	対 照 言 語 学	4	2	2	本年度 開講せず	一科目必修

※は、62年度入学生が当該年次となる年度に順次開講する。

鹿児島女子大学

文学部日本語教員養成副専攻課程

日本語教員養成副専攻課程科目表

授 業 科 目	単 位 数	履修 方法	必 修	選 択	備 考
日 本 語 学 概 説	4	講義	4		国語学概説で読み替える。
日 本 語 の 音 声	2	"	2		
日本語の語いと意味	2	"	2		国語学演習 I 又は英語学概論で読み替える。
日 本 語 の 文 法	2	"	2		
日 本 語 の 表 現	2	"	2		文章表現法で読み替える。
日 本 事 情	2	"	2		
言 語 学 概 論	2	"	2		
対 照 言 語 学	2	"	2		英文法概論でも読み替えられる。
日 本 語 教 育 概 論	2	"	2		
日 本 語 教 授 法 I	4	講義 演習	4		
II	4	"	4		
日 本 語 教 育 実 習	1	実習	1		
比 較 文 化 論	2	講義	2	4	
視 聴 覚 教 育 I	2	"	2		
教育心理学特講 II	2	"	2		
比 較 教 育 概 論	2	"	2		
小 計	37		33		

授業科目	区分	単位	開講期	必修 の別	授業者	講義内容	履修基 準年次	備 考
日本語学概説	講義	4	通年	必	糸 井	201「国語学概説」で読み替える。	自 由	
日本語の音声	講義	2	前期	必	瀬戸口	203「日本語の音声」で読み替える。前期から受講のこと。	自 由	
日本語の語彙と意味	講義	2	前期	必	瀬戸口 小 城	205「国語学演習1」又は309「英語学概論」で読み替える。	自 由	
日本語の文法	講義	2	前期	必	糸 井	202「日本語の文法」で読み替える。	自 由	
日本語の表現	講義	2	前期	必	瀬戸口	204「文章表現法」で読み替える。前期から受講のこと。	自 由	
日本事情	講義	2	後期	必	四 本 服 部 伊佐山 林	日本語の学習者を指導するために必要な日本の歴史・地理・法律・文芸について概説する。	自 由	
言語学概論	講義	2	集中 講義	必	徳 川		自 由	元年度休講 隔年講義
対 照 言 語 学	講義	2	後期	必	新 内	日本語と英語、日本語と中国語の対照研究。	2, 3, 4 年	312「英文法概論」でも読み替えられる。
日本語教育概論	講義	2	前期 後期	必	新 内	日本語を母語としない人々に対する日本語教育について概説する。	自 由	前期・後期講義 内容同じ
日本語教授法Ⅰ	講義 演習	4	通年	必			3, 4 年	元年度休講

授 業 科 目	区分	単位	開講期	必選 の別	授業者	講 義 内 容	履修基 準年次	備 考
日本語教授法Ⅱ	講義 演習	4	通年	必			3,4年	元年度休講
日本語教育実習	実習	1	通年	必			3,4年	元年度休講
比 較 文 化 論	講義	2	前期 後期	選必	新 内	104「比較文化論」を参照	自 由	前期・後期講義 内容同じ
視 聴 覚 教 育 Ⅰ	講義	2	後期	選必	國 屋	414「視聴覚教育Ⅰ」を参照	2 年	
教育心理学特講Ⅱ	講義	2	後期	選必	水 元	449「教育心理学特講Ⅱ」を参照	自 由	
比較教育概論	講義	2	後期	選必	二 見	508「比較教育概論」を参照	自 由	

岐阜女子大学
文学部日本語教員養成コース

日本語教員養成コースに関する専門科目

学科目・授業科目	単 位 数				開講年次 の 学期	開 講 単 位								備 考
	④	②	②	②		1 年		2 年		3 年		4 年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
日 本 語 学 I	④	4			1		2	2						「国語学概論」及び「国語表現学」と内容が同じ。 「国語学講義Ⅰ(音声)」と内容が同じ。 「国語学講義Ⅱ(文法)」の前期と内容が同じ。 「国語学講義Ⅰ(文字表記)」と内容が同じ。
日 本 語 学 II	②	2			2			2						
日 本 語 学 III	②	2			3					2				
日 本 語 学 IV	②	2			3					2				
日 本 語 史	②		2		3					2				「国語学講義Ⅱ(日本語史)」と内容が同じ。 ◎2科目中、1科目以上2単位以上選択必修 「国語学講義Ⅱ(言語生活)」と内容が同じ。 「言語学Ⅰ」と内容が同じ。 ◎3科目中、2科目以上4単位以上選択必修「国語学講義Ⅱ(日本語史)」と内容が同じ。
言 語 生 活 論	②		2		3						2			
言 語 学 概 論	②		2		2			2又は2						
対 照 言 語 学	②		2		3					2				
日 本 語 学 史	②		2		3						2			
日 本 事 情 概 論	1	1				3					1			左記科目国文・英文の専門科目と内容が同じ。 ◎5科目中、1科目以上2単位以上選択必修
日 本 文 化 史	④		4		3					2	2			
国 文 学 概 論	④		4		1	2	2							
国 文 学 史 I	④		4		1	2	2							
国 文 学 史 II	④		4		2			2	2					
社 会 思 想 史	②		2		3					2又は2				
日 本 語 教 育 法	4	4			3					2	2			
日 本 語 教 材 教 具 論	2	2			3						2			
日 本 語 教 育 評 価 法	2	2			4							2		
日 本 語 実 習	1	1			4							1		
教 育 原 理	④	4			3					2	2			教職専門科目と内容が同じ。
教 育 心 理	④	4			3					2	2			教職専門科目と内容が同じ。
中 国 語 演 習	2			2	3					1	1			

- 注 1. ○印の単位は、国文・英文及び教職専門科目の単位と同じである。
2. 日本語教員養成専門科目は、卒業に必要な単位に算入できない。
3. 外国語(英語・フランス語・中国語等)の十分な学力が必要とされる。
4. コース履修者は、上記の科目を1年次～4年次までの間に適宜履修すること。

日本語教員養成に関する専門科目

日本語学Ⅰ	単位 前2・後2	住谷 芳幸
文学部国文学科「国語学概論」と内容が同じ		
日本語学Ⅱ	単位 半期2	高松 政雄
文学部国文学科「国語学各論」と内容が同じ		
日本語学Ⅲ	単位 前2	長田 久男
文学部国文学科「国語学講義Ⅰ」と内容が同じ		
日本語学Ⅳ	単位 前2	高瀬 正一
文学部国文学科「国語学講義Ⅴ」と内容が同じ		
日本語史	単位 前2	住谷 芳幸
文学部国文学科「国語学講義Ⅱ」と内容が同じ。		
言語生活論	単位 後2	住谷 芳幸
文学部国文学科「国語学講義Ⅳ」と内容が同じ		
言語学概論	単位 半期2	高瀬 正一
文学部専門科目「言語学」と内容が同じ		
対照言語学	単位 半期2	曾我真知子
文学部英文学科専門科目と内容が同じ		
日本語学史	単位 前2	高瀬 正一
文学部国文学科「国語学講義Ⅲ」と内容が同じ		

日本事情概論

3・4年 単位 前1

藤川 正数

日本のこと、あるいは日本的なことを概観する。国際的な視野に立って日本の地理・歴史・文化等の特殊性と世界的な普遍性とを理解して、日本語学習に役立てようというのがさし当たりの目標である。

1. 日本の地理
2. 日本の歴史
3. 日本の文化
4. 日本の風土
5. 文化と言語

〔教科書〕

プリント使用

〔指定図書〕

黄遵憲の〈日本国志〉

藤川正数著

桜美林大学国際文化研究所発行

日本文化史

単位 前2・後2

杉山 博文

文学部国文学科専門科目と内容が同じ

国文学概論

単位 前2・後2

増田 澄子

文学部国文学科専門科目と内容が同じ

国文学史 I

単位 前2・後2

文学部国文学科専門科目と内容が同じ

国文学史 II

単位 前2・後2

根岸 正純

文学部国文学科専門科目と内容が同じ

社会思想史

単位 半期2

鈴木 洋昭

文学部専門科目と内容が同じ

日本語教育法

2・3年 単位 前2・後2

吉村侑久代

(前期) 日本語教育と国語教育の違い、日本人なら誰でも日本語教師になれるのか等を導入に、これから日本語教師になろうとする人々のための具体的な指導法、教師の心構え、さらに日本語教育の歴史・外国語教授法の概要にふれる。

(後期) 前期で学んだ指導法を実際に教室内で模擬クラスを作って教授法を具現化する。

〔教科書〕

前期 日本語教授法

石田敏子著

大修館書店

後期 にはんごのきそⅠ (本冊かんじかなまじり版)

財団法人海外技術者研修協会

にはんごのきそⅠ 教師用指導書

財団法人海外技術者研修協会

日本語教材教員論 3・4年 1単位分(集中) 小林 以久

日本語教育のための教材・教具について概観する。

また、中国語を母国語とする日本語学習者を対象とした教材・教具や、日本語教育についても触れる予定である。

〔教科書〕

プリントを用意する。

日本語教材教員論 3・4年 1単位分(集中) 吉村 信久代

日本語教育における教材・教具の種類と、学習者に応じた教材教具の使い方を考察する。

〔教科書〕

日本語教授法 石田敏子著 大修館書店

〔参考書〕

日本語教科書ガイド 国際交流基金編 北星堂書店

中国語演習 3年 単位 前1・後1 大野小次郎・木田弥三旺

1、2年次に学習した程度の語い・文体を使った会話・作文などを更に練習しながら、「中国語語法」のまとめを行ない、日中両国語の特徴・異同に注目したい。

後期には手紙・論文・新聞などを読み、やや程度の高い「講読・作文」の演習を予定している。

前後期を通じて「劇映画・記録映画」のビデオ観賞、中国人留学生・研修生との交流を通じて「なま」の中国語に接し、併せて国際感覚を養いましょう。

〔教科書〕

簡明中文課本 山下輝彦著 白水社

〔参考書〕

中国語入門Q&A 101 相原 茂他著 大修館書店

日本語実習 4年 単位 1

夏期 実施予定

教育原理 単位 前2・後2 高橋 正司

教職専門科目と内容が同じ

教育心理学 単位 前2・後2 内田 照彦

教職専門科目と内容が同じ

筑紫女学園大学

文学部日本語・日本文学科日本語教員養成副専攻課程

(日本語教員養成副専攻課程の修了)

日本語・日本文学科、英語学科において日本語教員養成副専攻課程修了

証書を受けるためには、別表第三に定めるところにより、所定の単位を修得しなければならない。

日本語教員養成副専攻のための教育内容

	本学で開講する科目	単位数	最低修得単位数	備考
日本語の構造に関する科目	日本語学概論	4	10	本学で開講する科目、単位は別表第一による
	日本語文法論	4		
	日本語音韻論	4		
	日本語学演習Ⅰ(古代)	4		
	日本語学演習Ⅱ(近世)	4		
日本人の言語生活等に関する科目	日本語史	2	2	英語学科の「現代日本文法」は「日本語文法論」と読み替える
	日本語表現演習	4		
日本事情	日本事情	2	1	
言語学的知識能力	言語学概論	4	4	
	対照言語学	4		
	方言学概論	4		
日本語の教授に関する科目	日本語教育法Ⅰ(教材論・教具論)	4	9	英語学科の「日本語表現法」は「日本語表現演習」と読み替える
	日本語教育法Ⅱ(教授法・評価法)	4		
	日本語教育実習	2		
外国語・外国事情等に関する科目	英語表現法	4	4	
	英会話	4		
	フランス語又はドイツ語又は中国語(外国語科目)	4		

日本語表現演習

秋 田 義 昭

いくつかの古典文学を資料として、国語・国文学的研究法によりアクセント、表現の特色、俗語、歌詞などについての検証を行い、表現についての理解を深める一助としたい。

日本語学概論

秋 田 義 昭

言語と民族、人種と言語という観点から国語（日本語）を定義付け、言語事実の本質をソシュールの言語理論に求め、詳細な批判を加える。さらに、言語の共時的（横）研究と通時的（縦）について講義を進め、国語（日本語）そのものを具体的に概観したい。

対照言語学

中 村 良 廣

言語学・応用言語学の基本的概念の理解をめざすとともに、対照言語学の方法論を学びその技術を習得することを目的とする。特に音声・意味・構造の面に焦点をあて、日本語と英語の比較・分析をおこなう。さらに、言語と異文化間コミュニケーションとのかかわりについても観察する。授業は講義・ディスカッションを中心に進めレポートの提出も予定している。

日本語学演習Ⅰ（古代）

小 野 望

上代・中古・中世の時代の中から、日本語学に関するテーマを自由に選び演習する。いずれの題材においても、現代に至る日本語の流れの中に占める位置について、常に念頭に置きながら考察を進める。

日本語教育法Ⅰ（教材論・教具論）

井 手 恒 雄

まず総論として、日本語・日本文学の教育における教材論・教具論の意義とその重要性について考え、次に応用編として外国人に対して普通に日本人の自然美に対する態度の特殊性と言われている課題について語るときに必要な教材・教具を揃え、そのうえでこの課題に対する解答を得たい。教科書：『新古今和歌集』（岩波文庫）。参考書：松田修『古今・新古今和歌集の花』同『源氏物語の花』（国際情報社）。

東京家政学院大学

人文学部日本文化学科

日本文化学科専門教育科目

授業科目	単位数	必修・選択単位数		履 修 年 次				備 考
		必修	選択	1	2	3	4	
日本文化論Ⅰ	2	2		○				
日本文化論Ⅱ	2	2			○			
日本の社会と教育Ⅰ	2		2	○				
日本の社会と教育Ⅱ	2		2	○				
日本思想史Ⅰ	2	2				○		
日本思想史Ⅱ	2		2			○		
日本の宗教	2		2			○		
日本社会史	2		2		○			
江戸の文化	2	2				○		
東京の文化	2		2			○		
日本思想・文化研究	2		2				○	
民俗文化	2		2				○	
考古学	2	2				○		
考古学演習	1		1			○		
東洋の生活と文化Ⅰ	2	2			○			
東洋の生活と文化Ⅱ	2		2		○			
西洋の生活と文化Ⅰ	2	2			○			
西洋の生活と文化Ⅱ	2		2		○			
西洋の生活と文化Ⅲ	2		2			○		
東洋文化史	2		2			○		
文化交流史論	2	2				○		
近代の生活と文化	2		2			○		
比較文化論	2	2					○	
国際理解教育	2		2				○	

授業科目	単位数	必修・選択単位数		履修年次				備考
		必修	選択	1	2	3	4	
日本語	文章表現法	2	2	○				
	日本語概論	2	2		○			
	日本語の歴史	2	2			○		
	日本語研究Ⅰ	2		2			○	
	日本語研究Ⅱ	2		2			○	
	日本語音声学	2	2			○		
	日本語教育法	2		2			○	
	日本語学演習	2		2			○	
日本文学	書道史	2		2		○		
	日本文学史	2	2		○			
	日本芸能史	2		2		○		
	江戸の文学	2	2			○		
	東京の文学	2	2			○		
	日本文学特殊講義Ⅰ	2		2		○		
	日本文学特殊講義Ⅱ	2		2			○	
	日本文学特殊講義Ⅲ	2		2			○	
	日本文学研究Ⅰ	2		2			○	
	日本文学研究Ⅱ	2		2			○	
	漢文学講読	2	2		○			
	漢文学研究	2		2		○		
	古代文学演習Ⅰ 散文	1		1	○			
	古代文学演習Ⅱ 韻文	1		1		○		
	中世文学演習	1		1	○			
	近世文学演習	1		1	○			
	近代文学演習Ⅰ 散文	1		1		○		
	近代文学演習Ⅱ 韻文	1		1		○		

授業科目		単位数	必修・選択単位数		履修年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
日本文化演習	表現演習Ⅰ音声	2	2		○				
	表現演習Ⅱ儀礼	2	2			○			
	表現演習Ⅲ演劇	2		2			○		
	書道演習Ⅰ楷書 (実技を含む)	2	2		○				
	書道演習Ⅱ行草 (実技を含む)	2		2		○			
	書道演習Ⅲ仮名 (実技を含む)	2		2			○		
	書道演習Ⅳ総合 (実技を含む)	2		2				○	
	卒業研究・制作	4	4					○	

授業科目概要

文章表現法 講義 2単位 福井 貞助

文章の形態および修辞について講述する。

文章表現法 講義 2単位 細 窪 孝

日記や手紙、記録、報告や説明、さらには創作など、すぐれた文章や作品に学ぶことを前提としながら、表現上の一定のきまりや慣習を理解し、話し手の思想・感情の伝達が的確に行われるようにしたい。このことは、これからのレポートや論文作成の上でぜひ習得しておかなければならないことである。

文章表現法 講義 2単位 石 崎 公 子

本講は受講者の文章表現力を養うことを主眼とする。そのために、すぐれた文章を味読し、実際に手紙文、意見文、エッセイなどを書いてもらう。また今後のために、レポートや論文作成に当り知っておくべき知識や方法を学ぶことも重視する。

日本語概論 講義 2単位 渡 辺 富美雄

日本語を構成している音韻及び語彙、語法等について、歴史的な変遷に基づいて、組織的、系統的に考察をするとともに、現在の各地域に行われている地域共通語の現状について具体的に研究を進め、日本語の特質を解明する。

日本語の歴史 講義 2単位 渡辺 富美雄

上代、中古、中世、近世等の時代区分に従って、文献資料を中心に、日本語の特質を明らかにしながら、変遷過程について通時的な考察を加え、現代の文法体系について解明する。

日本語研究Ⅰ 演習 2単位 熊倉 千之

平安時代の語法を中心に、日本語の本質を音韻とその意味、助詞・助動詞の用法、物語の文体などを分析することによって検討する。日本語が情意的な和歌・物語文学を生み、日記・随筆といったジャンルを形成する基底となるのは、話し手の視点であり、ものの見方であることを論究する。

日本語研究Ⅱ 演習 2単位 渡辺 富美雄

日本語における音韻及び語彙、語法等について、研究課題を中心に、調査研究等に基づいて実証的に研究を進め、問題点を明らかにする。

日本語音声学 講義 2単位 渡辺 富美雄

日本語における各地域の音声現象、すなわち、アクセント及びイントネーションや言葉の抑揚等の特徴について、実証的に研究を進めるとともに、日本語の音声、音韻等の体系的な特質を明らかにする。

日本語教育法 講義 2単位 熊倉 千之

外国人に日本語を教える際に、特に注意を要する日本語の本質に関わる諸相、例えば日本人の時間空間意識、和語の意味や統語法などにみられる日本人の考え方を考察し、学習者の母国語、学習目的などの条件にみあった教授法を考える。又、教科書の撰択、視聴覚教材、教場での教え方の技術などについて検討する。

日本語学演習 演習 2単位 渡辺 富美雄

日本語学の文献資料に基づいて、資料のもつ課題を分析的に解明し、その特質を実証的に研究をする。

書道史 講義 2単位 鈴木 和昭

中国・日本の書の歴史を通して各時代を背影に生きた著名な書作家の古筆を理解鑑賞する。「書の真の美とは何か」をも併せて追求する。

専門教育科目の構成と履修単位数及び履修上の注意事項

日本文化学科及び工芸文化学科何れの学科とも各専門教育科目を履修する以前に「学部共通専門教育科目」を履修しておくこと。

日本文化学科は、学部共通専門教育科目のうち必修科目6単位、専門教育科目の必修科目40単位及び学部共通専門教育科目、専門教育科目の選択科目から26単位の外、卒業研究・制作4単位を含め計76単位

二松學舎大学

文学部日本語教員養成課程

日本語教員養成課程カリキュラム

分野	科 目 名	必修 単位	選択 単位	配当 学年	備 考
日 本 語 学	日本語学①(概論、語彙・意味を含む)	4		2	
	日本語学②(音声)	2		2前	
	日本語学③(文体及び文法)	2		2後	
	日本語学④(文字及び表記)	2		3前	
	日本語学史	2		3後	
	日本語史	2		4前	
	小 計	14			
言 語 学	※言語学概論	4		3	
	対照言語学①(英語)		2	3	2単位選択必修
	対照言語学②(中国語)		2	3	
	対照言語学③(韓国語)		2	3	
	韓国語 ㉔		2	1	「対照言語学③」 受講者必修
	韓国語 ㉕		2	2	
日 文 化 本 学	比較言語学		4	4	
	小 計	6			
	日本事情概論	2		3	
日 本 語 教 育	※国文学概論	4		3	
	小 計	6			
	日本語教授法	4		2	
日 本 語 教 育	日本語教育教材教具論	2		3前	
	日本語教育評価法	2		4後	
	日本語教育実習	2		4前	
	日本語教育史		2	3	
	小 計	10	2		
教 職	※教育原理		4	1	4単位選択必修
	※教育心理学(青年心理学代替不可)		4	2	
	小 計	4			
単 位 合 計		40			

※印は関連科目・専門科目・教職科目と共通

1. 本課程の修得単位は、教職課程と同様卒業に必要な単位数に算入しない。
2. 日本語教員としての資格に必要な単位数は16科目、40単位以上を修得すること（ただし教職課程履修者は14科目、32単位）
3. 本課程の履修は2年次からとし、履修者は登録された者に限定する。登録は2年次に行う。
4. 3年次の「対照言語学③（韓国語）」をとる者は、「韓国語①・②」を必修とする。

本課程は学年進行で65年度にすべてが完成する。本課程の修了者には、本学が発行する「日本語教員養成課程修了証」（仮称）を授与する。これは日本語教員として必要な単位を修得した者即ちその教員資格ありと本学が認定するものである。教職課程でのような「教員免許状」は設けられていないが、別に「日本語教員能力検定試験」（財団法人日本国際教育協会主催）がある。この試験は教員になるための必須条件ではないが、合格圏にはいるレベルは最低限必要である。

「日本語教育実習」について

1. 日本語教育実習は、4年次生を対象に実施する。
2. 日本語教育実習は、必修科目26単位、選択必修科目6単位（対照言語学①～③から1科目2単位、教職科目のうち1科目4単位）を修得済みの者でなければ実習を許可しない。

一般的注意事項

必修科目のうち「言語学概論」、「国文学概論」、選択必修科目のうち「教育原理」または「教育心理学」を修得済みの者は、履修する必要はない。

◇ 日本語教員養成課程

授業科目	担当者	必修	選択	学年	クラス数	教授概要(補説)	テキスト名	教科書No
日本語学①	林 謙太郎	4		2	2	日本語教育の概要を解説したあと、主として日本語の語彙について演習する。	「ケーススタディ日本語の語彙」 森田・村木・相澤 編 桜楓社	194
日本語学② (前期)	林 謙太郎	2		2	1	日本語の音声および音韻について、その基本的事項を学ぶ。随時、外国人が犯しやすい発音の誤りにも触れていく。	「発音」(教師用日本語教育ハンドブック⑥) 今田滋子 凡人社	195
	渡邊了好	2		2	1	日本語教授の観点より、日本語音声の特徴について述べる。	「発音」(教師用日本語教育ハンドブック⑥) 今田滋子 凡人社	195
日本語学③ (後期)	林 謙太郎	2		2	1	助詞・助動詞を中心として、日本語教育のための文法を学ぶ。	「文法Ⅰ」 鈴木 忍 凡人社 「文法Ⅱ」 飯田實子・倉持保男 凡人社	196 197
	渡邊了好	2		2	1	日本語教授の観点より、日本語の文法(主に動詞・助動詞・助詞)及び文体の特徴について述べる。	「文法」Ⅰ、Ⅱ (教師用日本語教育ハンドブック③④) 国際交流基金	198
日本語学④ (前期)	林 謙太郎	2		3	1	かなづかい・送りなが・漢字の用法等についての実践的知識を学ぶ。	「文字・表記の教育」 (日本語教育指導参考書14) 国立国語研究所	199
	渡邊了好	2		3	1	日本語教授の観点より、日本語の表記法について検討する。	「文字・表記の教育」 (日本語教育指導参考書14) 国立国語研究所	199
日本語学史 (後期)	林 謙太郎	2		3	1	日本語と外国語との接触によって生み出された日本語研究の歴史をたどる。		
	渡邊了好	2		3	1	日本語、日本文化が他の言語、他の文化と接触する過程で生まれた日本語研究の業績を検討する。	授業時に指示する。	
日本語史 (前期)		2		4		2年度開講		

授業科目	担当者	必修	選択	学年	クラス数	教授概要(補説)	テキスト名	教科書№
対照言語学 ① (前期)	野上 明		②	3	2	まず、対照言語学とは何かということ、比較言語学・歴史言語学との関係をおおして考え、次に、日本語及び英語の体系と運用を対照する。更に、それぞれの言語行動・言語生活の対照も行う。	授業時に指示。	
対照言語学 ② (集中)	野村 邦近		②	3	1	日中両国語を音韻・語法・語彙の面から比較しつつそれぞれの特徴をつかむ。		
対照言語学 ③ (後期)	渡邊 了好		②	3	1	日韓両語の構造を対照し、韓国語を母語とする学習者の日本語学習上の諸問題を分析する。	授業時に指示する。	
韓国語 ④	渡邊 了好			2	1 2	韓国語入門。発音の訓練より韓国語によるコミュニケーションへ。	授業時に指示。	
韓国語 ⑤	渡邊 了好			2 3	1 1 (兼・中)	韓国語によるコミュニケーションの訓練を行う。 対照言語学受講のための準備を行う。	授業時に指示する。	
比較言語学			4	4		2年度開講		
日本事情 概論 (集中)	松田 存	2		3	1	海外における日本の芸能の交流史を明らかにしたい。	能にみる日本の芸術 (開講の際に指示)	
日本語 教授法	林 謙太郎	4		2	1	教科書やビデオ教材等を使って、現場ですぐに使える教授法をめざす。	「日本語教育の方法」 田中 望 大修館書店	201
	渡邊 了好	4		2	1	各種ビデオを通して実際の授業を紹介しつつ日本語教授上の諸問題を検討する。国外で日本語を教授するときの問題点にもふれる。	「日本語教育の方法」 田中 望 大修館書店	202
日本語教育 教材教具論 (前期)	林 謙太郎	2		3	1	日本語教育に利用される教材・教具を作成し、演習する。		
	渡邊 了好	2		3	1	日本語学習に利用する教材・教具を実際に企画・作製して演習を行う。	授業時に指示する。	

授業科目	担当者	必修	選択	学年	クラス数	教授概要(補説)	テキスト名	教科書№
日本語教育 評価法 (後期)		2		4		2年度開講		
日本語 教育実習 (前期)		2		4		2年度開講		
日本語 教育史 (前期)	武田 祈		2	3	2	日本語及び日本語教育の歴史的な把握と理解につとめ、日本語教育の問題点を明らかにする。		
言語学概論	松村一登	4			3	「関連科目」参照 平成元年度科目名：言語学		
国文学概論	山崎正之 青山忠一 松本寧至	4		3	3	「文学部共通専門科目」参照		
教育原理	中村重康		④	1	2	「教職課程」参照		
教育心理学	中村重康		④	2	2	「教職課程」参照		

※ 平成元年度のみ「韓国語④」は沼南校舎通年開講のほか千代田校舎で夏期集中授業も開講。

梅光女学院大学
文学部日本語教員養成副専攻課程

学 部	学 科	授 業 科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
文学部	日本文学科 英米文学科 英米語学科	日本語教員養成副専攻 課程に関する科目			最低修得 単 位 数
		日本語の構造に関する 科目			
		日 本 語 概 説		4	} 10
		日 本 語 学 演 習		2	
		日 本 文 法		4	
		日 本 語 学 講 義 I		4	
		日本人の言語生活等に 関する科目			
		日 本 語 史		4	} 4
		日 本 語 表 現 法		4	
		日本事情に関する科目			
		日 本 事 情		2	} 2
		近 代 文 学 史		2	
		日 本 文 化 史		4	
		言語的知識・能力に 関する科目			
		言 語 学 概 論		4	} 4
		社 会 言 語 学		4	
		対 照 言 語 学		4	
		英 語 学 概 論		4	
		日本語の知識・能力に 関する科目			
		日 本 語 教 育 法 I		2	} 10
		日 本 語 教 育 法 II		2	
		日 本 語 教 育 法 III		2	
		日 本 語 教 育 法 IV		2	
		日 本 語 教 育 法 演 習		2	

学 則
第9条 日本語教員養成副専攻課程修了証を受けるためには、本学の定
める日本語教員養成副専攻課程に関する科目および単位を取得
しなければならない。

日本語教員養成専攻 課程に関する科目内容

授業科目	単 位			担 当 者	履習学年	履習方法	講 義 内 容 (概 略)
	必	選	選必				
日本語概説	4			岡 野 信 子	I	通 年 週 2 時間	日本語の、音声・文字・語彙・表現法を概説する。基礎的な知識を得させるとともに、日本語のよき使用者、考察者たらしめとする自覚を育てたい。
日本語学演習	2			岡 野 信 子	II	通 年 週 2 時間	現代語を対象として、前期は表現法、後期は語彙を中心に演習を進める。教室内の演習とともにフィールドワークをおこなわせて、ことばの蒐集法、考察法、整理法を体得させ、開拓させたい。
日本文法		4		岡 野 信 子	II	通 年 週 2 時間	日常の書きことば、話しことばの中に通っている法則性が発見できるようになることを目標に授業をおこなう。後期には、古典語法と近代語法との比較にまで授業を進めたい。
日本語学講義 I		4		小 野 望	IV	通 年 週 2 時間	従来の日本語研究史上重要な業績をとりあげ、日本語研究の対象、方法について考察する。
日本語史	4			小 野 望	III	通 年 週 2 時間	現代日本語の具体的事象をもとに、そこからさかのぼって現代に至るまでの推移を見る。言語の内部要因のみならず、文化史・社会史的要因との相関をも考えてみたい。
日本語表現法			4	占 部 良 彦	I	通 年 週 2 時間	日本文学、外国語・外国文学を問わず、その研究に日本語による文章表現力の習得・錬磨は必須の課題である。この観点の下に、作文実作指導とその添削を中心に指導を進め、筆力の向上に努める。文章を書く喜びを伝えるのが、一番の狙いである。
近代文学史	2			鶴 谷 恵 三	I	前 期 週 2 時間	明治・大正に焦点を据え、近代文学の流れを概観する。節目となる作品をその都度講読して行く予定で、副読本の使用も考えている。

授業科目	単 位			担 当 者	履習学年	履習方法	講 義 内 容 (概 略)
	必	選	選必				
日本文化史		4		木 下 尚 子	Ⅲ	通 年 週 2 時間	奈良時代～平安時代を中心に、生活復元を行う。当時の庶民、貴族の日常生活の様子、海外の文物の流入と受容、人々の意識の表現、土地の開発、災害などについて、具体的資料を示しながら講義を行う。歴史的事実・歴史像のつくられ方を理解してほしい。
言語学概論		4		高 路 善 章	Ⅲ	通 年 週 2 時間	音韻論、形態論、統語論、意味論に関する基本的な理論を学習し、言語学とはどのような学問であるかを考えてみたい。余裕があれば言語修得論や社会言語学についても触れたい。
英語学概論		4		松 崎 透	Ⅲ	通 年 週 2 時間	教科書、河井「英語学リーダー」により講義を行うので、中、大辞典を活用すること。
日 本 語 教 育 法 Ⅰ		2		田 尻 英 三	Ⅱ	前 期 週 2 時間	日本語教育の基礎的な事項、特に外国人に教える時に問題となる音声・音韻・文字の問題について説明する。
日 本 語 教 育 法 Ⅱ		2		田 尻 英 三	Ⅱ	後 期 週 2 時間	日本語教育の基礎的な事項、特に外国人に教える時に問題となる文法・表現の問題について説明する。

福岡大学

人文学部日本語教員養成課程

福岡大学日本語教員養成課程に関する規程

第1条 本学の日本語教員養成課程（以下「課程」という。）の履修に関しては、学則に定めるもののほか、この規程による。

第2条 この課程を履修できる者は、人文学部の学生に限るものとする。

第3条 人文学部の学生は、所定の手続を経て、別表に定める授業科目を履修することができる。

第4条 この課程を履修し、別表の履修要件による必要な単位（34単位以上）を修得した者には、本学所定の認定証を授与する。

第5条 この課程を履修する者は、所定の期間内に、別に定める受講料を納入しなければならない。ただし、この課程の授業科目が当該学科に開講している授業科目と同一である場合、その授業科目の受講料を免除する。

第6条 この課程の授業科目の履修により修得した単位は、当該学科の卒業に必要な単位数に算入しない。ただし、その授業科目が当該学科に開講している授業科目と同一である場合は、卒業に必要な単位数に算入する。

第7条 この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和64年4月1日から施行し、昭和63年度以降の人文学部の入学生に適用する。

日本語教員に必要な知識・能力	本学における授業科目	単位	配当年次	要件	必要単位	授業科目を設置している学部・学科
日本語の構造に関する体系的具体的な知識	日本語学概論	4	2	必修	12単位 以上	日本語日本文学科 英語学科 独語学科 仏語学科
	日本語学特講Ⅰ	4	3-4	2科目 以上 選択		日本語日本文学科
	日本語学特講Ⅱ	4	3-4			
	日本語学特講Ⅲ	4	3-4			
	日本語学特講Ⅳ	4	3-4			
日本人の言語生活等に関する知識・能力	日本語史	4	2	必修	4単位	日本語日本文学科 英語学科 独語学科 仏語学科
日本事情に関する知識	日本文学概論	4	1	1科目 以上 選択	4単位 以上	人文学部の各学科 (歴史学科を除く)
	日本文学史	4	1			日本語日本文学科
	日本思想史	4	3-4			歴史学科 日本語日本文学科
	日本文化史	4	3-4			人文学部の各学科
言語的知識・能力	言語学概論	4	2	1科目 以上 選択	4単位 以上	人文学部の各学科 (歴史学科を除く)
	英語学概論	4	1 2			英語学科
	独語学概論	4	3			独語学科
	仏語学概論	4	3			仏語学科
	比較言語学研究	4	3-4			日本語日本文学科
日本語の教授に関する知識・能力	日本語教育法Ⅰ	2	2	必修	10単位	日本語日本文学科
	日本語教育法Ⅱ	2	2	必修		
	日本語教育法Ⅲ	2	3	必修		
	日本語教授法演習	4	4	必修		
計	19科目(70単位)				34単位 以上	

盛岡大学

文学部日本文学科

1. 専門教育科目一覧表

区分	授 業 科 目	単 位 数		毎 週 授 業 時 数								備 考	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
		必	選	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 教 育 科 目	日 本 語 概 論	4		2	2								
	日 本 文 法 概 論	4				2	2						
	日 本 語 史		4					2	2			「日本語教員」必修	
	日本語学特殊講義		4					2	2				
	日 本 語 表 現 法	4		2	2								
	日 本 語 学 演 習	2								2	2		
	日本文芸講読Ⅰ		④	2	2							8 単位以上選択必修	
	日本文芸講読Ⅱ		④			2	2						
	日本文芸講読Ⅲ		④					2	2				
	日本文芸講読Ⅳ		④							2	2		
	日本文芸演習Ⅰ		②			2	2					4 単位以上選択必修	
	日本文芸演習Ⅱ		②					2	2				
	日本文芸演習Ⅲ		②			2	2						
	日本文芸演習Ⅳ		②					2	2				
	東北郷土文学研究Ⅰ		②	2								4 単位以上選択必修	
	東北郷土文学研究Ⅱ		②		2								
	文学遺跡調査		②				2	2					
	漢 文 学 講 読		④				2	2					4 単位以上選択必修
	中 国 文 学 史		④						2	2			
	言 語 学 概 論		4						2	2			「日本語教員」必修
	日英比較表現論		4				2	2					「日本語教員」必修
	日本語研究外書講読		2								2		「日本語教員」必修
	日 本 事 情		2								2		「日本語教員」必修
	卒業論文・卒業試験		6										

2. 教職に関する専門教育科目一覧表

区 分	授 業 科 目	単 位 数	毎 週 授 業 時 数								備 考	
			1 年		2 年		3 年		4 年			
			必	選	前	後	前	後	前	後		前
教 職 に 関 する 専 門 教 育 科 目	国 語 科 教 育 法	4						2	2			
	書 道 科 教 育 法	4						2	2			
	日 本 語 教 授 法	2								2		「日本語教員」必修
	教 育 原 理	4				2	2					
	教 育 心 理 学	4						2	2			
	青 年 心 理 学	4				2	2					
	日 本 教 育 史	2						2				
	西 洋 教 育 史	2						2				
	道徳教育の研究	2				2						
	教 育 実 習	2								2		
	計	30				6	4	10	6	4		

【履修方法】

- (1) 必修科目 44単位
- (2) 選択必修科目 20単位
- ① 日本文芸講読Ⅰ～Ⅳから 8単位以上
- ② 日本文芸演習Ⅰ～Ⅳから 4単位以上
- ③ 東北郷土文学研究Ⅰ～Ⅱ及び文学遺跡調査から 4単位以上
- ④ 漢文学講読、中国文学史から 4単位以上
- (3) 選択科目 12単位以上

琉球大学

法文学部文学科日本語教育副専攻

授業科目と履修方法

必修 選択 別	科目 番号	授業科目	単 位	週 時 間	学 期	授 業 内 容	備 考
必修	文日101	日本語学概説Ⅰ	2	(2-0)	前	(注1)参照。	必修合計 23 単位
	文日102	日本語学概説Ⅱ	2	(2-0)	後	(注2)参照。	
	文日201	日本語学概説Ⅲ	2	(2-0)	前	(注3)参照。	
	文日202	日本語学概説Ⅳ	2	(2-0)	後	(注4)参照。	
	文日301	日本語学特講	2	(2-0)		(注5)参照。	
	文日303	日本語史	2	(2-0)		(注6)参照。	
	文日305	日本事情	2	(2-0)	前	多数の講師の合同授業とする。	
	文日307	日本語教材研究Ⅰ	2	(2-0)	前	日本語教育の教材について知識を養う。	
	文日308	日本語教材研究Ⅱ	2	(2-0)	後	"	
	文日401	日本語教授法Ⅰ	2	(2-0)	前	日本語の教授法について学ぶ。	
	文日402	日本語教授法Ⅱ	2	(2-0)	後	"	
	文日403	日本語教育演習	1	(0-2)	後	日本語教育の実習、見学等を行う。	
選択 必修 科目	文言221	言語学概説Ⅰ	2	(2-0)	前	言語の研究に関する重要な諸相、すなわち体系的組織としての言語の特質、感通伝達手段としての役割、言語記述の諸方法などを概観する。	2科目4単位 以上必修
	文言222	言語学概説Ⅱ	2	(2-0)	後	文言221の連続。	
	文言232	言語学概説Ⅲ	2	(2-0)	後	言語学を研究するための理論的知識の修得及び音声分析の实地訓練。	
	文言334	社会言語学	2	(2-0)	後	各種社会機構内における言語の役割を概観する。	
	文言336	応用言語学	2	(2-0)	後	言語学によって明らかにされた言語体系の特色をその記述をもとにして、外国語教育やその他の分野に応用する。	

文書331	特殊言語研究 I	2	(2-0)	前	印欧語族以外の特定言語の構造の組織的研究。
文書332	特殊言語研究 II	2	(2-0)	後	文書331の連続。
文書434	日英両語比較研究	2	(2-0)	後	日英両語の音韻、文法、語彙等を比較し英語学 習上及び指導上の問題点を考察する。
文書313	中国語概説 I	2	(2-0)	前	中国語についての基礎知識を養う。
文書314	中国語概説 II	2	(2-0)	後	"

(注1)「文書113 日本語概説I」で読み替える。(注3)「文書121 国語学概説I」で読み替える。

(注2)「文書114 日本語概説II」で読み替える。(注4)「文書122 国語学概説II」で読み替える。

(注5)「文書141 国語学特講I」「文書143 国語学特講III」「文書125 音声学I」

「文書126 音声学II」の4科目の内、何れか1科目で読み替える。

(注6)「文書142 国語学特講II」「文書144 国語学特講IV」「文書127 古典文法I」

「文書128 古典文法II」の4科目の内、何れか1科目で読み替える。

必修 選別	科目 番号	授業 科目	単 位 数	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
選	文書113	日本語概説 I	2	(2-0)	2~3	前又は後	音韻、文法、語い、表記法など日本語の構造に関する体系的、具体的な知識を養う。	
"	114	" II	2	(2-0)	2~3	"	"	
必	121	国語学概説 I	2	(2-0)	2~3	"	国語学についての基礎知識を養う。	
"	122	" II	2	(2-0)	"	"	"	
選	125	音声学 I	2	(2-0)	2~3	"	音声学・音韻論について理解し研究する。	
"	126	" II	2	(2-0)	2~3	"	"	
"	127	古典文法 I	2	(2-0)	2~3	"	国文法について理解を深める。(基礎)	
"	128	" II	2	(2-0)	2~3	"	" (応用)	
"	141	国語学特講 I	2	(2-0)	3~4	前又は後	国語の特殊な事項について考究する。	
"	142	" II	2	(2-0)	3~4	"	"	
"	143	" III	2	(2-0)	3~4	"	"	
"	144	" IV	2	(2-0)	3~4	"	"	

筑波大学

第二学群日本語・日本文化学類

履修の要領

(1) 卒業に必要な授業科目および単位数

本学類の学生が卒業するために必要な授業科目および単位数は表1および表2のとおりである。本学類で開講する授業科目は開設授業科目一覧を参照すること。

国語科教員免許状の取得を希望するものは教員免許の教科に関する専門科目に対応する開設授業科目一覧表を参照すること。

表1

科目区分	単位数	1 年 (単位数)	2 年 (単位数)	3 年 (単位数)	4 年 (単位数)
基礎科目	13	必修 現代日本語研究概論 3 日本語の歴史概論 2 日本語教育研究概論 2	日本の歴史概論 2 日本の文学概論 2		
		選択 文化基礎論 (2) 必修 コンピュータ言語学概論 (2) のうち 2 国際教育概論 (2) から 2			
専攻科目	43.5	必修 言語学概論 3 現代日本語研究Ⅰ 3 29	対照言語学研究 3 社会言語学研究 2 日本人の伝統的思維 2 現代日本社会の構造 2	現代日本語研究Ⅱ 2 Ⅲ 2 Ⅳ 3 異文化間教育 3 日本語教育法 3	日本語教育法実習 1
		選択 必修 14.5	J11, J12, 及び J13 で始まる授業科目(専攻科目、関連科目 A で指定された必修授業科目および、関連科目 A として選択する授業科目を除く)並びに卒業論文(6)のうちから選択		
関連科目 A	34	必修 17.5	現代日本語研究Ⅴ 3 Ⅵ 3 Ⅶ 2	日本語学史Ⅲ 2 日本語教育研究Ⅳ 2 日本語教育研究Ⅴ 2	
		16.5	現代日本語研究Ⅰ特講Ⅰ 日本語教育 Ⅵ特講Ⅰ 研究Ⅱ演習Ⅰ.5		
関連科目 B	12	日本語・日本文化学類が指定する授業科目のうちから選択するもの 日本語・日本文化学類の専攻科目、基礎科目、及び、関連科目 A として履修した授業科目(共通科目を除く)のうちから選択するもの			

J51 (基礎科目)

授 業 科 目	履修年次	単位
現代日本語研究概論	1	3
日本語の歴史概論	1	2
日本語教育研究概論	1	2
日本の歴史概論	1	2
日本の文学概論	1	2
文化基礎論	1	2
コンピュータ言語学概論	1	2
国際教育概論	1	2

J11 (日本語)

授 業 科 目	履修年次	単位
対照言語学研究	2・3	3
対照言語学演習	3・4	1.5
社会言語学研究	2・3	2
社会言語学演習	3・4	1.5
言語学概論	1	3
コンピュータ言語学研究Ⅰ	2～4	3
コンピュータ言語学研究Ⅰ演習	2～4	1.5
日本語教育法	3	3
日本語教育法実習	4	1
日本語処理演習	2・3	1.5
現代日本語研究Ⅰ (音声・音韻)	2・3	3
現代日本語研究Ⅱ (文字表記・語彙)	2・3	2
現代日本語研究Ⅲ (意味)	2・3	2
現代日本語研究Ⅳ (文法・文体Ⅰ)	2・3	3
現代日本語研究Ⅴ (文法・文体Ⅱ)	2・3	3
現代日本語研究Ⅵ (談話文法・文章論)	2・3	3
現代日本語研究Ⅶ (言語生活)	2・3	2
現代日本語研究Ⅰ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅰ特講	3・4	1

授 業 科 目	履修年次	単位
現代日本語研究Ⅱ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅱ特講	3・4	1
現代日本語研究Ⅲ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅲ特講	3・4	1
現代日本語研究Ⅳ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅴ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅵ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅵ特講	3・4	1
現代日本語研究Ⅶ演習	3・4	1.5
現代日本語研究Ⅶ特講	3・4	1
現代日本語研究実習Ⅰ	3・4	1
現代日本語研究実習Ⅱ	3・4	1
日本語工学研究	2・3	2
日本語工学研究演習	3・4	1.5
日本語工学研究特講	3・4	1
日本語の歴史Ⅰ (音韻史・表記史)	2・3	3
日本語の歴史Ⅱ (語彙史)	2・3	3
日本語の歴史Ⅲ (文法史)	2・3	3
日本語の歴史Ⅳ (言語生活史・ 敬語史・方言発達史)	2・3	3
日本語の歴史Ⅰ演習	2～4	1.5
日本語の歴史Ⅱ演習	2～4	1.5
日本語の歴史Ⅲ演習	2～4	1.5
日本語学史Ⅰ (近世以前)	2・3	2
日本語学史Ⅱ (近代)	2・3	2
日本語学史Ⅲ (現代)	2・3	2
日本語教育研究Ⅰ (歴史・政策・組織)	2～4	3
日本語教育研究Ⅱ (教授理論)	2～4	3
日本語教育研究Ⅲ (授業論・授業分析)	2～4	3
日本語教育研究Ⅳ (教材研究・教材開発)	2～4	2
日本語教育研究Ⅴ (評価研究)	2～4	2
日本語教育研究Ⅰ演習	2～4	1.5
日本語教育研究Ⅱ演習	3・4	1.5
日本語教育研究Ⅲ演習	2～4	1.5
日本語教育研究Ⅳ演習	2～4	1.5
日本語教育研究Ⅴ演習	2～4	1.5
卒業論文	4	6

J12 (日本文化)

授 業 科 目	履修年次	単位
現代日本文化の思想	2・3	2
現代日本文化の思想演習	2～4	1.5
文化交流論	2・3	2
世界文学と日本文学	2・3	2
宗教と芸能	2・3	2
日本文学の歴史	2・3	2
日本文学の歴史演習	2～4	1.5
日本文学とその特質	2・3	2
日本文学とその特質演習	2～4	1.5
日本人の伝統的思維	1・2	2
日本人の伝統的思維演習	3・4	1.5
日本の社会組織概説	2・3	3
日本の政治過程概説	2・3	3
近代日本の国際関係	3・4	2
日本産業と国際市場	3・4	2
日本経済の発展概説	2・3	3
日本の科学と技術概説	2・3	3
日本のマスメディア	3・4	2
東洋文化の摂取と変容	2・3	2
欧米文化の摂取と変容	2・3	2
比較近代化論	2～4	2
比較近代化論演習	3・4	1.5
日本の古典芸能	3・4	2
現代日本研究Ⅰ	2・3	2
現代日本研究演習Ⅰ	3・4	1.5
現代日本研究Ⅱ	2・3	2
現代日本研究演習Ⅱ	3・4	1.5
現代日本研究Ⅲ	2・3	2
現代日本研究演習Ⅲ	3・4	1.5
現代日本研究Ⅳ	2・3	2
現代日本研究演習Ⅳ	3・4	1.5
日本文化研究実験実習Ⅰ	2～4	1
日本文化研究実験実習Ⅱ	2～4	1
日本文化研究実験実習Ⅲ	2～4	1
卒業論文	4	6

J13 (海外教育)

授 業 科 目	履修年次	単位
異文化間教育	2	3
異文化間教育演習	2～4	1.5
異文化間教育特講	3・4	3
国際理解教育	3	3
国際理解教育演習	2～4	1.5
国際理解教育特講	3・4	3
比較学校教育論	2・3	3
比較学校教育論演習	2～4	1.5
比較学校教育論特講	3・4	3
比較教育思潮論	2・3	3
比較教育思潮論演習	2～4	1.5
比較教育思潮論特講	3・4	3
教育人類学	2・3	3
海外子女教育	3・4	3
日本の教育	1・2	3
海外教育事情Ⅰ(中国)	3・4	3
海外教育事情Ⅰ(中国)演習	3・4	1.5
海外教育事情Ⅱ(韓国)	3・4	3
海外教育事情Ⅱ(韓国)演習	3・4	1.5
海外教育事情Ⅲ (アジア・アフリカ・中近東)	3・4	3
海外教育事情Ⅲ演習 (アジア・アフリカ・中近東)	3・4	1.5
海外教育事情Ⅳ(中南米)	3・4	3
海外教育事情Ⅳ(中南米)演習	3・4	1.5
海外教育事情Ⅴ(欧米)	3・4	3
海外教育事情Ⅴ(欧米)演習	3・4	1.5
国際教育実習Ⅰ	3	1
国際教育実習Ⅱ	3	1
卒業論文	4	6

(2) 専門科目履修に際し留意すべきこと

●日本語

本学類では日本語教員になるための基本的知識および訓練は必修科目で行うように計画されている。したがって選択科目を選ぶに際しては、個人の将来構想や興味、適性等に応じて、少数の

分野としては、現代日本語、言語学、日本語教育、日本語の歴史、コンピュータ言語学などがあり、対象としては、音声・音韻、文字表記、語彙、文法・文体、意味、談話、文章、言語生活などがある。

選択の方法としては、分野を選び、その中でいろいろの対象を学習、研究するのも一つの方法であり、また、対象を選び、それに関して、いろいろの分野で学習、研究するのも一つの方法である。

前者をとれば、例えば現代日本語の分野を選ぶとすれば、現代日本語研究の各科目（現代日本語研究Ⅰ－Ⅵ講義、演習、特講のうち必修で履修したものを除く）を選択するようなことが考えられる。

後者なら、例えば、文法に関して、現代日本語研究Ⅳ、Ⅴ講義、演習、特講、対照言語学研究演習、日本語の歴史Ⅲ、日本語教育Ⅳ、日本語工学研究、演習、特講などで必修として履修していないものを選ぶようになる。

卒業論文を提出する場合も、分野および対象をしぼることになる。

● 日本文化

日本文化を学習するには、日本語についての基礎的な理解をふまえ、J12（日本文化）に関する授業科目のみならず、比較文化学類の日本研究をはじめ、人文学類、社会学類等の関連授業の選択が望まれる。選択に際しては、思想、文学、文化と社会等、各人の興味と関心に基づき系統的に学習するように努力すべきである。その際、実験学習に関する科目は、知的理解を問い直す場となるものだけに、大切にすることが望まれる。また、講義と演習は系統的にとらねばならない。

選択に際しては、現代社会との関わりにおいて、思想、文学、文化、技術、社会等の歴史的ありかたを理解するように務め、卒業論文として勉強の成果をまとめることが望まれる。そのためには、演習等で自学自習の訓練を身につけ、自己の考えたことを他人に伝えることが出来るように学習することをなすべきである。かつ、何を学びたいのかについて、講義や演習の場で自らに問いかけることは、学ぶべき内容を豊かなものとするうえでの基本的な態度であるだけに、如何なる選択をなすにしてもつねに心に掛けておくべきことといえよう。自学自習する心を大切にしていれば選択をしてほしい。

● 海外教育

日本語と日本文化についての基礎的な理解をふまえ、国際教育についての幅広いそして系統的な学習をしていただきたい。第1学年では国際教育概論（基礎科目）、日本の教育、第2学年では異文化間教育（必修科目）、教育人類学、比較教育思潮論、第3学年では国際理解教育、比較学校教育論、海外教育事情、その他、第4学年では海外教育事情、その他が履修できるように教

育課程が用意されている。

国際教育に関する授業科目は、本学類のほかに、人間学類教育学主専攻でも開設されているので、それを利用することもできる。

4年間の学習の成果は卒業論文にまとめることが望ましい。

授業科目の概要

基礎科目

科目番号	授 業 科 目	単 位 数	標準 履修 年次	担 当 教 官	授 業 概 要
J51 1101	現代日本語概論	3	1	草 薙 裕 湯 澤 質 幸 野 田 尚 史	世界の言語の中での日本語の位置、その研究の流れ、音韻、語彙、文法などについて、日本語教育とのかかわりをかえりみつつ講義する。
J51 1201	言語学概論	3	1	高 田 誠	言語を研究する学問である言語学について、考え方、方法論、発展の歴史等その全体像について述べる。英語のほか、ドイツ語、フランス語についても若干の能力のあることが望ましい。
J51 1301	日本語教育概論	3	1	石 田 敏 子	外国人に対する日本語教育の諸問題を、対象・学習目標・学習段階・言語技能等の違いに応じて整理し、教授法や教材について検討する。
J51 2101	日本の歴史概論	3	1	大 濱 徹 也	日本人の生活と文化を歴史的に概観し、主として、近現代社会における生活文化の諸相を検討する。

日 本 語

科目番号	授 業 科 目	単 位 数	標準 履修 年次	担 当 教 官	授 業 概 要
J11 0111	現代日本語Ⅰ	3	1～3	湯 澤 質 幸	「現代日本語概論」、「言語学概論」をふまえて日本語音韻、また、表記について講義を進める。
J11 0112	現代日本語演習Ⅰ	1.5	2～4	大 坪 一 夫	外国人の日本語学習者の発声した音声、資料を調音音声学、音響音声学等の面から分析し、記述し、それが何を原因としているかを考察する。また、その考察を基にして、正しい日本語の発声の指導法を考える。
J11 0121	現代日本語Ⅱ	3	1～3	塩 澤 和 子	現代日本語の語彙に関して講義を行う。特に、書きことば、話しことばなどに関して実際の資料を用いて分析を行う。

科目番号	授 業 科 目	単 位 数	標準 履修 年次	担 当 教 育	授 業 概 要
J11 0122	現代日本語演習Ⅱ	1.5	2～4	坪 井 美 樹	表記法をめぐる様々な問題について考える。
J11 0131	現代日本語Ⅲ	3	1～3	野 田 尚 史	日本語の文法において重要な問題である品詞、格助詞、活用、テンス、人称制限、アスペクト、受動態、副詞的成分などを順に取り上げ、それらを文法的に分析する能力を養う。
J11 0132	現代日本語演習Ⅲ	1.5	2～4	野 田 尚 史	話しことばの文法をテーマとし、学生の発表と討論を中心に授業を進める。はじめに話しことばを文字化した資料を作り、それを基に、話しことばに特徴的に現れる終助詞、省略、言い誤りなどを文法的に分析する。
J11 0141	現代日本語Ⅳ	3	2～4	砂 川 有 里 子	現代日本語の分析と記述の方法を、構文論的な側面から考察する。
J11 0142	現代日本語演習Ⅳ	1.5	2～4	砂 川 有 里 子	現代日本語の意味と構文について、英語と対照するなかで考える。
J11 0151	現代日本語Ⅴ	3	2～4	佐久間 まゆみ	現代日本語の文章・談話の構造の基本的な分析方法を学ぶ。特に、接続表現・指示表現・提題表現・文末表現・反復と省略表現等を手掛かりに、連文や段落のような文を超える単位のしくみと働きについて考察する。
J11 0152	現代日本語演習Ⅴ	1.5	2～4	佐久間 まゆみ	文章論や談話文法に関する代表的な論文を読み、有効な分析観点と問題の所在を探る。実際に種々の文章・談話資料を分析し、表現や理解の方法について検討する。
J11 1111	日本語史Ⅰ	3	1・2	坪 井 美 樹	日本語の歴史の変遷を通観する。テキストは、開講時に指示する。
J11 1112	日本語史演習Ⅰ	1.5	2～4	湯 澤 質 幸	日本語の歴史を知る上で有用な文献を読む。本年度は、中古期のかん文学作品を取り上げ、変体かなを学ぶ。
J11 1121	日本語史Ⅱ	3	2～4	湯 澤 質 幸	日本語史研究上注目すべき論文を読み進めながら、日本語の史的研究の在り方や方法などを考える。
J11 1122	日本語史演習Ⅱ	1.5	2～4	坪 井 美 樹	中世末期の言語資料であり、かつ貴重な日本語教育史の資料でもあるキリシタン文献（天草版エソゴ物語）を読む。

科目番号	授 業 科 目	単 位 数	標 準 履 修 年次	担 当 教 官	授 業 概 要
J11 2111	日 本 語 学 史 I	3	2・3	坪 井 美 樹	近世以前における日本語研究のあり方を考える。テキストは、開講時に指示する。
J11 2121	日 本 語 学 史 II	3	2・3	野 田 尚 史	明治時代から現代までの日本語研究の流れを文法研究を中心に概観する。山田、松下、橋本、時枝をはじめとする伝統的な国語学の研究だけでなく、最近の国内・国外におけるさまざまな研究にも目を向けたい。
J11 3111	言 語 学 I	3	2・3	竹 沢 幸 一	母語である日本語に対する直観（内省）を出発点として、他言語との比較を混えながら、どうしたら人間のことばの構造（直観の裏側に潜む言語能力）に体系的にアプローチ出来るかを考える。生成文法入門。
J11 3112	言 語 学 演 習 I	1.5	3・4	竹 沢 幸 一	主に日英語の比較を通して、言語構造の普遍的及び個別的側面について理論的に考えると共に、言語構造に関する議論を具体的データからどのように組立てるかを学ぶ。（文献は日英語半々）
J11 3121	言 語 学 II	3	2・3	高 田 誠	二つ以上の言語をつきあわせて、その細部にわたる異同を論じる対照言語学について、方法論を中心に全体像を述べる。日本語を中心に、ドイツ語、フランス語、英語等を例に用いる。
J11 3122	言 語 学 演 習 II	1.5	3・4	高 田 誠	対照言語学的研究について、先行研究を検討しつつ、その方法論を考察し、各人の設定したテーマについて、日本語と外国語との対照研究を行う。先行研究は、ドイツ語圏のものが多い。
J11 3131	言 語 学 III	3	2・3	高 田 誠	言語と社会とのかかわりを通して、広く言語を見ようとする社会言語学について、内外の諸研究を検討しつつ、その概要を把握する。
J11 4111	日 本 語 教 育 I	3	1・2	石 田 敏 子	主要な外国語教授理論や教授法を紹介し、日本語教育への導入の可能性について検討する。また、これらの理論や教授法の背景について考察する。
J11 4112	日 本 語 教 育 演 習 I	1.5	3・4	堀 口 純 子	日本語教育におけるコースデザインとシラバスについて、さまざまな角度から分析する。
J11 4121	日 本 語 教 育 II	3	2・3	堀 口 純 子	教師と学習者のインターアクションの分析を通して授業の在り方を検討し、より効果的な指導方法について考える。

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	担当教官	授業概要
J11 4122	日本語教育演習Ⅱ	1.5	3・4	砂川 有里子	外国語教育のための教材研究に関する文献の講読、日本語教材の分析、日本語教材の作成などの作業を行う。
J11 4131	日本語教育Ⅲ	3	2・3	砂川 有里子	外国語としての日本語教育では何を教えないといけないか、また、そのための教材はどのように作ればよいのかを、各種の教科書を分析するなかで考える。
J11 4141	日本語教育Ⅳ	3	2・3	石田 敏子	日本語教育用試験の作成・実施上の問題点を考察し、よりよい外国人の日本語能力診断法について考える。
	日本語教育演習Ⅲ	1.5	3・4		
J11 4202	日本語教育実習	1.5	4	石田 敏子 大坪 一夫 佐久間 まゆみ 砂川 有里子 堀口 純子	クラス方式による日本語教育を、観察とカリキュラム作成、教材作成、実習を通して実践する。
J11 5111	コンピュータ言語学Ⅰ	3	1・2	草 薙 裕	日常言語をコンピュータで処理するための基礎的技術を概説し、自然言語処理上の言語学的問題の検討を行う。
J11 5112	コンピュータ言語学演習Ⅰ	1.5	2~4	草 薙 裕	日常言語の処理のための LISP の使い方を訓練する。('言語学概論'及び'コンピュータ言語学Ⅰ'の既習者あるいは、同時履習者に限る。)
J11 5121	コンピュータ言語学Ⅱ	3	2・3	荻野 綱男	カナ漢字変換の話題を中心に、コンピュータが日本語をどのようにして処理するのかを考察する。
J11 5122	コンピュータ言語学演習Ⅱ	1.5	3・4	荻野 綱男	パソコンを使って、日本語データの処理を行う。プログラミング言語 PASCAL の解説から、日本語関連の課題、各自の課題の発表を行う。('言語学概論'と'コンピュータ言語学Ⅱ'の既習者または、同時履習者に限る。)
J11 5131	コンピュータ言語学Ⅲ	3	2・3	草 薙 裕	言語をコンピュータで処理するには、言語のどんなところに着目し、どのように問題を解決すべきかを考察する。

科目番号	授 業 科 目	単 位 数	標準 履修 年次	担 当 教 官	授 業 概 要
J11 5132	コンピュータ言語学 演習ⅢA	1.5	3・4	草 薙 裕	日本語処理のコンピュータ・プログラムをLISPで作製し、実際の日本語文の処理を行いながら、日本語処理の問題を考察する。('コンピュータ言語学Ⅲ'の既習者に限る。)
J11 5142	コンピュータ言語学 演習ⅢB	1.5	3・4	荻 野 綱 男	それぞれの学生の興味に合わせながら、日本語処理に関連した話題を扱う。学生の発表が中心になるので、各自が主体的に取り組むことが要求される。(コンピュータ言語学関連授業の既習者に限る。)
J11 6103	日本語実験実習	1	2・3	高 田 誠	field workを中心に、日本語の方言について実際の姿を求める。調査地域は茨城県北、時期は夏を予定している。集中授業ではあるが、準備、整理のため定期的に時間をとる予定。
J11 7111	日本語特講Ⅰ	3	2-4	石 綿 敏 雄	日本語の意味の問題を扱う。話題としては、意味の分析、類義語、動詞句の分析、意味と世界のとらえ方、(誤用文の原因となる)語の意味用法のずれ、借用語の意味のずれ、など。
J11 7121	日本語特講Ⅱ	3	2-4	荻 野 綱 男	日本における「言語生活」の研究を概観し、その特徴や意義・方法論・研究課題などについて講義する。
J11 7131	日本語特講Ⅲ	3	2-4	湊 吉 正	一般言語学的観点から特徴的とみられる日本語の言語体系上の諸問題について、受講生諸君と共に考察を進めていきたい。
	日本語特講Ⅳ	3	2-4		
J11 9901	日本語・日本文化研究	3	4	関 係 教 官	卒業研究にかかわる講義を行う。
J11 9902	日本語・日本文化研究 演習	1.5	4	関 係 教 官	卒業研究にかかわる指導を行う。

国際基督教大学

教養学部語学科日本語教育プログラム

コースの内容

「大学要覧」などを参照にしてほしいが、次に主専攻のための概略を記す。

基礎科目：言語学入門、日本語学概論のほかに、言語学概論、コミュニケーション概論、フランス語、中国語、ドイツ語、日本文学概論、日本史、コンピュータなどの中から18単位

専攻科目：日本語史概論、日本語構文論、日本語教授法（見学、模擬実習を含む）、日本語文体論、日本語論文の書き方、日本語の歴史、日本語古典講読、日本語学講読、日本語学特別研究などの中から24単位以上＋6単位（語学科のほかの分野からでもよい）＝30単位

日 本 語 学	日本語史概論	3
	日本語論文の書き方	3
	日本語講読 I	3
	〃 II	3
	日本語古典講読 I	3
	〃 II	3
	日本語構文論	3
	日本語構文の問題	3
	日本語文体論	2
	日本語の歴史 I	3
	〃 II	3
	〃 III	3
	日本語に関する諸問題	2
	日本語学講読	3
	外国語としての日本語教授法 I	3
	〃 II	3
	日本語学特別研究 I	3
	〃 II	3

日 本 語 学

日本語学専修学生は、基礎科目に日本語学概論を含めなければならない。専攻科目 30 単位のうち、24 単位以上を日本語関係の科目から履修し、6 単位は語学科の他の分野から履修してもよい。日本語教授を目指すものは、日本語史概論、日本語構文論、外国語としての日本語教授法Ⅰ－Ⅱを履修しなければならない。

LJa 100 J 日本語学概論 3 単位

現代日本語の構造を、音韻、形態、構文の面から考察し、この分野での重要な論文を講読する。外国語として日本語を教える場合の問題点に特別に注意を払う。

第 1, 2 学期

LJa 201 日本語史概論 3 単位

8 世紀から現代までの日本語を音韻、文法、その他についてその変遷を概観する。

第 1 学期

LJa 210 J 日本語論文の書き方 3 単位

レポートや論文の書き方。とくに資料の配置、考え方のまとめ方、明確な表現、正しい書き方に重点をおく。

第 1 学期

LJa 211, 2 J 日本語講読Ⅰ, Ⅱ 3, 3 単位

日本語専修の外国人学生のための科目で、本を読む際のスピードと、理解度を高める。上級日本語Ⅱまたは日本語特別教育Ⅲを既修のこと。

第 1, 2 学期

LJa 213, 4 J 日本語古典講読Ⅰ, Ⅱ 3, 3 単位

古い時代の日本語および漢文の読解力を増すための講読。日本語の歴史的研究に興味を持つ学生を対象とする。

第 3, 1 学期

LJa 320 J 日本語構文論 3 単位

日本語の構造の分析に応用できる方法と前提の研究。
日本語学概論を既修のこと。

第 3 学期

LJa 321 J 日本語構文の問題 3 単位

現代日本語の問題点を研究する。日本語学概論を既修のこと。

第 2 学期

LJa 322 J 日本語文体論 2 単位

現代日本語の文体を研究する。

第 3 学期

LJa 330, 1, 2 J 日本語の歴史Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ 3, 3, 3 単位

8 世紀以後現代にいたるまでの標準日本語の歴史を概観する。とくに 16 世紀以後の近代および現代日本語に重点をおく。日本語学概論、日本語史概論を既修のこと。

第 1, 2, 3 学期

LJa 333 J 日本語に関する諸問題 2 単位

日本語およびアルタイ語、マライ・ポリネシア語、朝鮮語などの系統研究。音韻変化や語彙および構文の比較研究が行なわれる。日本語学概論、日本語史概論を既修のこと。

第 3 学期

LJa 370 J 日本語学講読 3 単位

日本語に関する論文を選定して、講読し、討議する。
日本語学概論を既修のこと。

第 3 学期

LJa 390～1 J 外国語としての日本語教授法Ⅰ－Ⅱ 3－3 単位

日本語教授の目的および方法の研究。ICU における日本語教育プログラムの見学と実習が行なわれる。英語国民に日本語を教えようとしている学生のための科目で、担当教員の受講許可を要する。日本語学概論を既修のこと。

第 2－3 学期

LJa 392, 3 J 日本語学特別研究Ⅰ, Ⅱ 3, 3 単位

日本語の特定分野に関して専門的研究を行なう。担当教員の受講許可を要する。

上智大学

比較文化学部日本語・日本文化学科日本語言語学コース

学部基礎科目		英作文Ⅰ・Ⅱ(必修)(左記科目は一般教育科目として振替えることができる) 演説法
学科基礎科目		日本文化史Ⅰ・Ⅱ 日本思想史Ⅰ 日本文学概論 日本の社会構造論 (以上5科目必修) △印は日本語を母国語としない場合、▲印は日本語を母国語とする場合の 選択必修とし、入学時の日本語習熟度により8~20単位を履修。
選 択 科 目	基礎比較科目	(日本語・日本文化科目群) (下記科目群より9科目履修) 現代日本文化論 日本本史 日本思想史Ⅱ 日本の文学 日本の文学演習 日本の政治演習 日本の政治演習 日本の美術演習 日本の美術演習 日本の宗教演習 日本の宗教演習 日本の経営論演習 日本の経営論演習 日本の社会構造論演習 日本の社会構造論演習 日本の考古学 日本の伝説Ⅰ 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ △日本語Ⅶ △日本語Ⅷ 集中日本語Ⅰ 集中日本語Ⅱ △集中日本語Ⅲ △集中日本語Ⅳ △集中日本語Ⅴ 日本語特別講座Ⅰ 日本語特別講座Ⅱ 日本語特別講座Ⅲ 日本語特別講座Ⅳ ▲日本語特別講座Ⅴ ▲文章表現法Ⅰ ▲翻訳Ⅰ ▲翻訳Ⅱ 古典日本語Ⅰ 古典日本語Ⅱ 漢書 日本語学概論 日本語学特論 日本語学史特論 言語学概論 応用言語学 日本語教授法A・B
	総合比較科目	比較歴史学演習 比較文学演習 国際関係論 比較政治学演習 比較美術史特講 比較宗教史特講 比較経済学演習 比較経営学演習
	その他の選択科目	比較文化学部開講の専門教育科目 他学部開講の専門教育科目

JAPANESE STUDIES

Minimum requirement: 60 credits

The Japanese Studies concentration is an interdisciplinary program designed to provide a broadly based, cohesive approach to Japanese language, society, and culture.

It consists of two parts: language training and non-language courses.

I. LANGUAGE TRAINING COURSES

(compulsory for the concentration)

1. For non-native speakers of Japanese
 - a) Modern Language requirement (8 cr): Japn 111, 112
 - b) For the concentration (16 cr): Japn 211, 212, 321, 322, 373 or 375, 374 or 376
2. For native speakers of Japanese
For the concentration (8 cr): Japn 354, 355

II. NON-LANGUAGE COURSES

In consultation with, and with the approval of, the Faculty, each student will decide on a coherent program of courses related to Japanese language and culture according to his/her personal goals.

The balance of credits needed to complete the concentration is:

- a) 44 credits for non-native speakers of Japanese
- b) 52 credits for native speakers of Japanese

LINGUISTICS

The course numbers in the parentheses correspond to the previous Bulletin of Information 1986-1987. The new numbers will be effective in Spring 1987.

For those students who intend to concentrate on Japanese linguistics or teaching Japanese as a second language, the following courses are available. In order to declare the Japanese linguistics concentration, the students are required to take Ling 201 (or 301) and Ling 210.

201 (320)	JAPANESE STRUCTURE A course designed to help students to obtain a better understanding of its phonological, morphological, and syntac-semantic characteristics of Japanese. Also, the uniqueness of the Japanese orthographic systems will be discussed. It is recommended that non-native speakers of Japanese would utilize this course to summarize their knowledge of the mechanism of Japanese language communication. Not open for those who took previous Ling 404. Prerequisite: At least the second year proficiency of Japanese	4 cr
210 (201)	INTRODUCTION TO LINGUISTICS A course designed to give students a general introduction to the historical and theoretical background of linguistics as a scientific discipline up to the most recent developments. The course will cover various aspects of linguistic research including phonetics, phonology, morphology, syntax-semantics, discourse structure, and pragmatics. A comparison of the structures of English and Japanese in all these aspects will be attempted	4 cr

- 301 INTRODUCTION TO JAPANESE LINGUISTICS 4 cr**
(405) A course designed to introduce the fundamental knowledge of Japanese linguistics. Salient characteristics of the language are explained to the students through the study of its grammar, historical background, and dialectology. Topics such as the origin of the Japanese and its morpho-phonemic characteristics are also discussed.
Prerequisite: Ling 201 or 210
- 310 APPLIED LINGUISTICS 4 cr**
(301) This is a course to introduce some of the recent developments in the fields of psycholinguistics and sociolinguistics. Discussion of the problems in language acquisition and learning, including second language acquisition is emphasized. Discussion of the theories of foreign language teaching is also included.
Prerequisite: Ling 210 or 301.
- 351 JAPANESE MORPHOPHONEMICS 4 cr**
(407) The course starts with the discussions and analyses of the basic phonetic and phonemic structures of Japanese. Then, its morpho-phonemic structure will be presented according to Samuel Martin's work. Generative phonology of Japanese will be presented according to James McCawley's work toward the end of the term. In addition, the theoretical foundations of Japanese dialectology will be introduced.
Prerequisite: Ling 210 or 301
- 410 SYNTAX-SEMANTICS 4 cr**
(401) The syntactic-semantic structure of Japanese will be introduced according to the most recent development in linguistic theories. Japanese discourse structure and pragmatic characteristics will also be discussed in detail.
Prerequisites: Ling 201, 301
- 411 SEMANTICS AND ORTHOGRAPHY 4 cr**
The semantic structure of Japanese will be discussed from the componential semantic features of its lexical structure up to the discourse level. In relation to its lexical structure, the characteristics of the Japanese orthographic system will be discussed.
Prerequisite: Ling 410
- 430 HISTORY OF THE JAPANESE LANGUAGE 4 cr**
(350) The history of the Japanese language up to 1868 will be presented through the discussions and the A-V aids in terms of the following periodization: (1) Origin and Pre-Historic Age, (2) Pre-Nara and Nara Period, (3) Heian Period, (4) Kamakura and Muromachi Period, and (5) Edo Period. The structure of the language of each period will be discussed in terms of its source, phonology, morphology, and syntax-semantics.
Prerequisite: Ling 301
- 431 HISTORY OF JAPANESE LANGUAGE: SEMINAR 4 cr**
(408) Based upon the diachronic periodization of Japanese as discussed in Ling 430, representative works of each period will be read and philological significance of these reading materials will be discussed in the course.
Prerequisite: Ling 430

450	JAPANESE TEACHING METHOD A	4 cr
(403)	A course designed to prepare the students for teaching Japanese as a second language. The course work consists of two divisions of lectures-discussion and class-observation and practice-teaching utilizing audio-visual aids. <i>Prerequisites:</i> Ling 301, 310	
451	JAPANESE TEACHING METHOD B: SEMINAR	4 cr
(409)	This is an advanced seminar in which the most recent theoretical and technical developments in foreign language teaching, in general, and in Japanese language teaching, in specific, will be discussed. <i>Prerequisite:</i> Ling 450	
452	PRACTICUM IN JAPANESE LANGUAGE TEACHING	4 cr
	(Tutorial practice)	
460-470	TOPICS IN JAPANESE LINGUISTICS	4 cr each
461	JAPANESE DIALECTOLOGY	4 cr

同志社女子大学

学芸学部日本語日本文学科

履修科目表

1 年次科目

	科 目	期間 時間	単位	担 当 者	備 考
必	日本文学基礎演習	通2	2	藤本 徳明 楠橘 開 中川 成美 高桑 法子 安森 敏隆 吉海 直人	前期古典、 後期近代、 またはその逆 の組み合わせ で行う。
修	日本文学史Ⅰ	通2	4	藤本 徳明	
	日本語概説	通2	4	村木新次郎	
	日本語教育論	通2	4	畠 弘巳	
自由 選択	ワードプロセッサ	半2	1	小林 弘美	

2 年次科目

	科 目	期間 時間	単位	担当予定者	備 考
必	日本語学基礎演習	通2	2	小林 賢章 村木新次郎 沼田 善子 吉野 政治	前期古典、 後期近代、 またはその逆 の組み合わせ で行う。
修	日本文学史Ⅱ	通2	4	安森 敏隆	
	日本文化史	通2	4	臘谷 寿	
	漢文講読	通2	4	本間 洋一	
選 択	日本語文法概説	通2	4	沼田 善子	8単位履修 すること
必 修	日本語研究Ⅰ	通2	4	畠 弘巳	
	日本文学講義Ⅰ	通2	4	吉海 直人	
	日本文学講義Ⅱ	通2	4	安森 敏隆	

3 年次科目

	科 目	期間 時間	単位	担当予定者	備 考
選 択 必 修	日 本 語 史	通 2	4	吉野 政治	16単位履修 すること * *
	日 本 語 研 究 Ⅱ	通 2	4	村木新次郎	
	日 本 語 教 授 法	通 2	4	畠 弘巳	
	日本語教材論・評価法	通 2	4	丸山 敬介	
	言 語 学 概 説	通 2	4	信原 修	
	日英語対照研究	通 2	4	N. Teele	
	日中語対照研究	通 2	4	中山 文	
	日 本 語 演 習 Ⅰ	通 2	2	小林 賢章	
	日 本 語 演 習 Ⅱ	通 2	2	沼田 善子	
	日本文学講読Ⅰ	通 2	4	吉海 直人	
	日本文学講読Ⅱ	通 2	4	中川 成美	
	日本文学演習Ⅰ	通 2	2	藤本 徳明	
修	日本文学演習Ⅱ	通 2	2	高桑 法子	
	文 化 交 流 史	通 2	4	宮澤 正典	4 単位履修 すること
	日 本 女 性 史	通 2	4	落合恵美子	
自由 選択	外 書 講 読	通 2	4	小泉 利久	
	書 道	半 2	2	本間 洋一	教職課程 必修

* 対照言語研究を選択するものは2科目より1科目を選択するものとする。

4 年次科目

	科 目	期間 時間	単位	担当予定者	備 考
選 択	卒 業 研 究 (日本文学・上代) (日本文学・中古) (日本文学・中世) (日本文学・近世) (日本文学・近代) (日本文学・近代) (日本語学・古典) (日本語学・現代) (日本語学・現代) (日本語教授法) (日本漢文学)	通 2	4	寺川真知夫 吉海 直人 藤本 徳明 廣瀬千紗子 安森 敏隆 高桑 法子 小林 賢章 村木新次郎 沼田 善子 畠 弘巳 本間 洋一	4 単位履修 すること
	日本語教授法演習Ⅰ (理 論)	通 2	2	畠 弘巳	4 単位履修 すること
	日本語教授法演習Ⅱ (実 習)	通 2	2	丸山 敬介	
	日本文学特殊研究Ⅰ (古 典)	通 2	4	寺川真知夫	
	日本文学特殊研究Ⅱ (近 代)	通 2	4	安森 敏隆	
修	中 国 文 学 論	通 2	4	本間 洋一	4 単位履修すること
	西 洋 文 化 論	通 2	4	小林 章夫	
	比 較 文 化 論	通 2	4	内藤 高	
	日 本 の 思 想	通 2	4	荻野恕三郎	4 単位履修すること
	日 本 民 俗 学	通 2	4	山路 興造	
	比 較 宗 教 論	通 2	4	武 邦保	

○日本語教員養成課程に関する参考説明

日本語教育能力検定試験実施要項	対応する本学開講科目	(単位)	(年次)
1・1日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	(必印は必須科目)		
◇日本語概論	A日本語概説	4必	1
1 世界の中の日本語	B日本語学基礎演習	2必	2
2 日本語の特質(音声、語彙、意味、文法、文体、文字、表記、言語生活等)	C日本語研究Ⅰ	4	2
	D日本語研究Ⅱ	4	3
◇音声	E日本語文法概説	4	2
1 発音等、2 音声記号等、3 音節等、4 アクセント等、5 イントネーション等	F日本語演習Ⅰ	2	3
	G日本語演習Ⅱ	2	3
◇語彙 ◇意味 ◇文法 ◇文体 ◇文字 ◇表記			
1・2 その他日本語に関する知識			
◇言語生活	H日本語史(言語生活)	4	3
◇日本語史			
2 日本事情(古典と文芸を含む)	I日本文学諸科目	*	
◇歴史・地理◇現代日本事情	J日本文化史	4必	2
	K関連科目諸種	*	
3 言語学的知識・能力	L言語学概説	4	3
◇言語学概論◇社会言語学	D日本語研究Ⅱ		
◇対照言語学	M日英語対照研究	4	3
◇日本語学史	N日中語対照研究	4	3
	O外書講読	4	3
4 日本語の教授に関する知識・能力	P日本語教育論	4必	1
◇教授法	Q日本語教授法	4	3
◇教育教材・教具論	R日本語教授法演習Ⅰ	2	4
◇評価法	S日本語教授法演習Ⅱ	2	4
◇実習	T日本語教材論・評価法	4	3

(A～Tを全部履修した場合、62単位。主専攻単位は45単位)

本学開設科目は1・1計22単位、1・2計4単位、2計4(諸科目のプラス・アルファがある。)単位、3計16単位、4計16単位となり、総計62単位は、主専攻に必要な45単位を大きく上まわる。

主専攻基準単位は、1・1より18、1・2より4、2より4、3より8、4より11の計45単位を履修するものとする。(日本語教授法主専攻で卒業研究を行う者は、1・1<日本語の構造>に関するものを研究するものとする。)副専攻基準単位は、1・1より10、1・2より2、2より1、3より4、4より9の計26単位を履修するものとする。

科 目 内 容

日本文学基礎演習 藤本 徳明

中世の説話文学を中心に、軍記物語、歌論、御伽草子や、中古説話、近世草子類などの中から共通するモチーフの流れを追ひ、高校時代とは異なる大学独自の文学研究や学習の方法を体得する。

楠橋 開

影印本を用いて、定家歌論（『近代秀歌』他）を読み、古典和歌研究の基礎を学ぶとともに、古典文学一般を学ぶための基本的態度とその方法について考える。

中川 成美

大正から昭和前期の文学作品を読む。1920年から30年にかけて、日本の文学は大きな変革を遂げつつあった。時代背景をふまえつつ、なるべく多くの作品にあたりたい。また、文学研究の方法、作品の読みとはどういうことかなど、文学そのもののあり方について、共に考えてみたい。

高桑 法子

作品研究の方法を実践的に身につけることを目的に、明治の作家をとりあげる。樋口一葉、永井荷風、夏目漱石らの作品を対象に、時間、空間、人物の観点から検討し、合わせて参考文献の用い方を学ぶ。

安森 敏隆

梶井基次郎、中野重治、野間 宏、石川 淳、三島由紀夫、安部公房、大岡昇平、安岡章太郎、福永武彦、椎名麟三、島尾敏雄らの小説を読むことにより、現代文学の動向について検討し、高校時代とは異なる大学独自の文学研究の方法を体得する。

吉海 直人

歌物語の最高峰たる『伊勢物語』を影印本で読む。活字化され、校訂されたテキストではなく、句読点も清濁もない本文を用いることにより、一字一句を丹念に検討することの大切さを学んでもらいたい。

日本文学史Ⅰ 藤本 徳明

古典日本文学史の概要を講ずる。古代より近世にいたる、主に散文文学の潮流を把握、関連する資料や研究法を紹介、文学の社会的背景や文化的基盤にも言及する。

日本語概説 村木新次郎

現代日本語の音声・語彙・文法における諸問題と日本人の言語生活を取りあげる。話しことばと書きことばの構造を概説し、日本語の体系について講じる。ことばを客観的に観察できるような能力をやしなうために必要とされる、言語学上の基礎知識があたえられる。日本語は英語をはじめとする印欧語や中国語とくらべてどのような特徴をもつか、日本語を外国人に教える場合にどのような点が問題になるかといったことにも言及する。

テキスト 安藤貞雄「英語の論理・日本語の論理」(大修館書店)
森田良行ほか編「ケーススタディ日本語の語彙」(楼楓社)

日本語教育論 畠 弘巳

外国人に日本語を教えるための準備的なコースである。日本語を教える具体的な技術より日本語教育に対する姿勢、心構えを中心に講義していく。具体的には、国内・国外における日本語教育の現状と問題点、日本の国際化と日本語教育、国語教育・英語教育と日本語教育、主要日本語教育教材の紹介、主要日本語教授法の紹介日本語教師の資質と条件、外国人から見た日本語の特徴、日本文化と日本語などについて概論的に説明する。

ワードプロセッサ 小林 弘美

日本語ワープロは急速に普及しつつある。このコースでは、パーソナルコンピューターとワープロソフト「一太郎Ver.3」を用いて、文字入力の練習から文書作成の基本的技術や知識を習得する。

お茶の水女子大学

文教育学部日本語教育基礎コース

下記のうちから26単位以上を修得

○ 専攻科目（必修）	12	○ 専攻科目（選択）	10
日本語学概論	4（国語学概論と振り替え）	日本文法論	4（国語法概説と振り替え）
言語学概論	4	日本語表現法	4（国語表現法と振り替え）
日本語教育法Ⅰ	4	日本語史	4（国語史概説と振り替え）
○ 専攻科目（選択必修）	4		
日本語学講義演習Ⅰ（前期）	2	日本語学特殊講義	4
日本語学講義演習Ⅱ（後期）	2	近代日本文学史	4
日本語教育法演習（通年）	2	日本語教育法Ⅱ	4
日本語教育実習	2		

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
日本語教育法Ⅰ	水 谷	Ⅲ・Ⅳ	外国語としての日本語教育の方法の基本についての講義と演習。言語教育方法論、教材、基本文型、基本語彙、音声、教室作業、評価など。教科書：水谷著「An Introduction to Modern Japanese」他。
日本語教育法Ⅱ	水 谷	Ⅲ・Ⅳ	外国語としての日本語教育の方法中、学習者の母語との比較、言語行動、教材作成法などに重点をおいて講義と演習を行う。教科書：水谷信子「日英比較話しことばの文法」、O & N. Mizutani "Nihongo Notes 1"
日本語教育法演習	水 谷	Ⅲ・Ⅳ	外国語としての日本語教育の方法について、教案作成、模擬授業、授業見学、VTRを用いての授業方法研究に重点をおいて演習を行う。教科書等は教室において指示する。日本語教育法Ⅰ履修者に限る。
日本語学講義演習Ⅰ	平 田	Ⅲ・Ⅳ 前	音声言語の基本を、実習を通して学ぶ。
日本語学講義演習Ⅱ	平 田	Ⅲ・Ⅳ 後	同 上
日本語学特殊講義	平 田	Ⅱ・Ⅲ	日本語音声学を中心に、日本語教育を視野において実習をまじえて音声言語を考える。教科書：文化庁「音声と音声教育」

拓殖大学

日本語教員資格認定講座

1. 日本語教員資格認定科目配当表

科目名	単位	科目名	単位
日本語学概論	4	日本語文法特殊研究	4
日本語史(前期)	2	日本語音声学(前期)	2
日本語学史(後期)	2	日本語方言論(後期)	2
日本語文法(I)	4	※日本語教授法	4
日本語文法(II)	4	※日本語教育実習	2

※日本語教授法、日本語教育実習は2年次以降から履修すること。

2. 受講上の注意

- (1) 資格認定を受けるためには、上記全科目の他に下記(2)の科目を受講し、試験に合格しなければならない。
- (2) 本講座の開講科目は、それぞれ所属学科の卒業所要単位とは関係のない自由選択科目となるが、次の科目は併用できる。
 - 国文学……………一般教育科目(人文科目)
 - 言語学概論……………外国語学部関連科目
 - 教育原理……………教職課程科目
 - 教育心理学・青年心理学……………教職課程科目
- (3) 受講科目は通常の履修手続を必要とする。

天理大学

日本語教員養成課程

日本語教員養成に関する科目

群	選別	授 業 科 目	単位	履修年次	専攻関連科目との関係	修得単位数	備 考
A	必修	言語学	4	2~4	国文学科, 外国語学部 外国語学部	16単位	
		音声学	4	2~4			
		日本文学	4	2~4			
		日本文化史	4	2~4			
	選択必修	外国史	各4	2~4	外国語学部	4単位以上	
各国研究		各4	1~4				
		地域研究	各4	3~4	外国語学部	4単位以上	
		海外事情	4	2~4			
B	選択必修	英語特講	各2	3~4		4単位	注1④参照 注2参照
		朝鮮語	各2	2~4	文・外国語学部	8単位	注1④参照 注2参照
		中国語	各2	2~4	文・外国語学部		
		ドイツ語	各2	2~4	全学部		
		フランス語	各2	2~4	全学部		
		ロシア語	各2	2~4	宗教学科, 外国語学部		
		イスパニア語	各2	2~4	宗教学科, 外国語学部		
		インドネシア語	各2	2~4	宗教学科, 外国語学部		
C	必修	日本語概説	4	1		16単位	注3参照
		日本語学1	2	2			注4参照
		日本語学2	2	3			
		日本語学3	2	2			
		日本語学研究	2	3			
		日本語学演習	2	4			
		言語の対照研究	2	3			
D	必修	教育原理	3	2~3	体育学部	11単位	
		教育心理学	3	2~4	体育学部		
		日本語教育法・教授法	3	3			
		日本語教育実習	2	4			
英語特講履修者……合計55単位以上							
英語特講以外の各国語履修者……合計59単位以上							

注1. ④ 英語を「外国語に関する科目」として履修する場合は、外国語科目(8)に英語特講(4)を加えて12単位。ただし、英語特講(各2)は、教科「英語」に関する科目の英会話(各2)をもって、これにかえることができる。

⑤ 英語以外の外国語を「外国語に関する科目」として履修する場合は、外

国語科目(4)に外国語部門の同一外国語(8)を加えて12単位。

- 注2. 外国語学部にあつては、専攻外国語をもって「外国語に関する科目」12単位にかえることができる。
- 注3. 日本語概説(4)は、課程に関する科目の登録規制の定めにかかわらず1年次から履修することができる。
- 注4. 日本語学演習(2)の登録は、日本語教育実習(2)を登録または修得した者に認める。

日本語教育実習について

(1) 受講資格——教育実習登録規制

日本語教育実習の受講資格は、つぎの「日本語教育実習受講判定基準」により、課程研究室で総合的に選考のうえ適格と判定された者に与えられる。

- ① 最終年次生で、課程修了見込みの者。
- ② 「日本語教員養成に関する科目」のうちからつぎの科目を修得している者。

言語学(4)、音声学(4)のうちいずれか1科目

日本文化史(4)、日本文学(4)のうちいずれか1科目

日本語概説(4)、日本語学1(2)、日本語学2(2)、日本語学3(2)、教育原理(3)、日本語教育法・教授法(3)の計8科目

(2) 日本語教育実習の実施

日本語教育実習は、課程研究室の企画のもとに、本大学「別科日本語課程」において、5・6月頃に実施する。終了後には、同実習に関する論文(400字詰10枚程度)を提出しなければならない。

日本語教員の資格取得について

日本語教員の資格を取得しようとする者は、本大学で開設されている「日本語教員養成課程」(以下「課程」という)を履修しなければならない。

本大学を卒業し、4に定めた課程修了に必要な科目単位を修得した者には、修了証書が授与される。

なお、聴講によって課程修了に必要な科目試験に合格した者には、資格取得証明書が交付される。

慶応義塾大学

国際センター日本語教授法講座

開講科目と講義概要

近年、外国人の日本語学習が世界的に盛んになるにつれて、すぐれた日本語教員を求める声も増大しつつある。現在、外国人に対する日本語教育は一つの専門分野として確立されており、単なる日本語運用能力以上に、日本語に関する言語学的素養及び教授法の知識が要求されている。当国際センターはかかる要望に応えて、本塾教職員ならびに本塾大学大学院在学学生及び修了者を対象として、本講座を設置するものである。

基礎科目

日本語学 I (前期)	}	教授 熊沢 精次
日本語学 II (後期)		

前期は日本語の音声・音韻および表記について教育上問題となる点を重点的に取りあげ、後期は語彙に関する諸問題を扱う。

日本語学 III (後期)	講師 平高 史也
---------------	----------

初級教科書で扱われる主要な文型を概観する。テキストや参考書は授業中に指示する。

日本語教授法概論 (前期)	教授 長谷川 恒雄
---------------	-----------

1. 外国語教育としての日本語教育の特質
2. 日本語教育の歴史的概観と現況
3. 日本語教育の対象と教授法
4. 指導計画
5. 関連領域

日本語表現法 (前期)	教授 斎藤 修一
-------------	----------

現代日本語の書きことばと話しことばにおける表現の諸形式をとりあげ、それらと表現意図との関係を論ずる。書きことばについては新聞等の文章の分析を通じて文章構成法の原則を、また、話しことばについては放送等の文章の分析を通じて朗読法の原則を講ずる。

日本語教育と日本文化 (後期)	教授 長谷川 恒雄
-----------------	-----------

言語教育を行う際に出てくる文化の問題とは何か。これは研究者によりその意味するところが異なり、教育をする場所、教授法の変化に伴い問題の意味も変わる。それらを整理しつつ、言語教育とはなにを

するべきものなのかを考える。また、日本文化・日本事情を外国人に教える際に生ずる問題にも触れていく。

言語の対照研究 I (前期)

商学部教授 伊 丹 レイ子

通常言語獲得は幼時に行われるが、第二言語又は外国語の習得は稀に平行して、大方は後年に追加される。追加とはバイリンガル(二ヶ国語の獲得と保有)の問題のあることを示唆する。この講義では、母国語が英米語である者を対象にして日本語を教える時の教授法の特質性を、両語の地域的、歴史的また文化的な背景をふまえながら、音声・音韻・語彙・語法・文章論の全般にわたって比較対照する。人間が言語を獲得する際の普遍性と、日英各語習得のプロセスの特異性の対照分析もあわせて行う。

言語の対照研究 II (後期)

教授 野 沢 素 子

日本語と学習者の母国語(主に英語・中国語)を誤用例を分析しながら比較対照し、その関連・相違を音声と音韻、語彙と意味、文法、発想と表現の全般にわたって概観し、学習者の困難点を探る。

専 門 科 目

日本語教授法各論 I (前期)

教授 倉 持 保 男

外国人に日本語を教授する際の一般的な問題点及び、具体的な指導事項について検討する。後者は特に文末表現の陳述機能をめぐる指導上の問題点を取り上げる。

日本語教授法演習 I (前期)

教授 野 沢 素 子

日本語の音韻・音声・アクセント・音調の全般にわたって概観し、学習者の母国語(主に英語・中国語)との比較をふまえながら音声指導上の諸問題を論じる。

日本語教授法各論 II (後期)

教授 倉 持 保 男

中級教材を素材として、文法指導・意味指導上の問題点を取り上げて検討を加える、概ね講義形式をとるが、随時演習の形式を取り入れて行なう。

日本語教授法演習 II (後期)

教授 斎 藤 修 一

基礎科目の「日本語表現法」の内容に沿って演習を行う。

日本語教授法演習 III (前期・後期)

国際センター専任教員

教授法の実践として、国際センター日本語科において、30時間前後の教育実習を行なう。

日本語教授法演習 IV (前期・後期)

国際センター専任教員

修了論文指導。

履 修 方 法

1. 受講者は原則として基礎科目・専門科目の全ての科目を履修しなければならない。
2. 専門科目は基礎科目を6科目(12単位)以上修得した後でなければ受講できない。
3. 従って、受講者が全科目を履修するためには最低2年を要する。但し、5年を越えないことを原則とする。(休学期間は除く)
4. 1年次において、「言語の対照研究Ⅰ,Ⅱ」を除く基礎科目を、2年次において、「言語の対照研究Ⅰ,Ⅱ」及び「日本語教授法各論Ⅰ,Ⅱ」「日本語教授法演習Ⅰ,Ⅱ」を、3年次において、「日本語教授法演習Ⅲ,Ⅳ」を受講することを、履修の規準とする。
5. 「日本語教授法演習Ⅲ」つまり教育実習は、原則として基礎科目6科目(12単位)以上及び専門科目2科目(4単位)以上を修得し、且つこれらの科目の成績評価の半数以上がAでなければ受けられない。
6. 「日本語教授法演習Ⅳ」(修了論文指導)は他の科目に先立って受講することは出来ない。

講 座 の 修 了

1. 本講座は、原則として5年以内に修了しなければならない。(休学期間は除く)
2. 本講座を修了するには、定められた基礎科目・専門科目の全ての単位を修得し且つ修了論文の審査に合格しなければならない。
3. 修了論文の提出資格は、「日本語教授法演習Ⅳ」を修得した者に与えられる。
4. 「日本語教授法演習Ⅳ」を修得してから3学期を経過した後に、修了論文を提出しようとする者は、改めて「日本語教授法演習Ⅳ」を受講しなければならない。
5. 修了論文の提出に当っては、提出しようとする学期の受講手続き期間内に論文提出申告書を提出しなければならない。
6. 修了論文の提出期限は、前期は7月21日、後期は2月5日とする。
7. 本講座を修了した者には修了証を授与する。

募 集 人 員

約10名

出 願 資 格

本塾教職員ならびに本塾大学大学院在学生及び修了者

		履修欄	科目名	講師	曜日・時限
前期	基礎科目		日本語学Ⅰ	熊 沢	月・5 (4:20～5:50)
			日本語教授法概論	長谷川	水・5 (4:20～5:50)
			言語の対照研究Ⅰ	伊 丹	月・4 (2:40～4:10)
			日本語表現法	斎 藤	木・5 (4:20～5:50)
	専門科目		日本語教授法各論Ⅰ	倉 持	金・5 (4:20～5:50)
			日本語教授法演習Ⅰ	野 沢	水・5 (4:20～5:50)
			日本語教授法演習Ⅲ(実習)		
			日本語教授法演習Ⅳ(論文)		
後期	基礎科目		日本語学Ⅱ	熊 沢	月・5 (4:20～5:50)
			日本語学Ⅲ	平 高	木・5 (4:20～5:50)
			日本語教育と日本文化	長谷川	水・5 (4:20～5:50)
			言語の対照研究Ⅱ	野 沢	火・5 (4:20～5:50)
	専門科目		日本語教授法各論Ⅱ	倉 持	金・5 (4:20～5:50)
			日本語教授法演習Ⅱ	斎 藤	木・5 (4:20～5:50)
			日本語教授法演習Ⅲ(実習)		
			日本語教授法演習Ⅳ(論文)		

東海大学

留学生教育センター日本語教育学課程

授業科目・単位数

授 業 科 目		授 業 形 態	学 年、学 期、時 間 数 (毎 週)						備 考
			単 位 数	1 年 次		2 年 次			
				前	後	前	後		
基 礎 科 目	日本語教育学通論	講義	4	2	2			文学部専門教育科目 文学部日本文学科 専門教育科目	
	日本語学 I	講義	2	2					
	日本語学 II	講義	4	2	2				
	日本語学 III	講義	2		2				
	日本語教授法概説 I	講義	2	2					
	日本語教授法概説 II	講義	2		2				
	言語学概論	講義	4						
	国語学概論	講義	4						
	日本事情概論	講義	4	2	2			外国人学生必修	
専 門 科 目	外国語研究	講義	4			2	2		
	日本語教授法 I	講義	2			2			
	日本語教授法 II	講義	2				2		
	日本語教授法研究 I	講義	2			2			
	日本語教授法研究 II	講義	2				2		
	日本語教授法研究 III	講義	2				2		
	日本語学演習 I	演習	1			1			
	日本語学演習 II	演習	1				1		
	日本語教育実習	実習	1			集中			
単 位 数		41 (外国人学生は45)							

履修方法

- 1) 言語学概論及び国語学概論は学部における開講科目を修得することによって本課程における修得と認定する。
- 2) 専門科目は、原則として、すべての基礎科目を修得したあとで、受講することが望ましい。
- 3) 日本語教育実習の履修は、原則として、すべての基礎科目単位を修得して、その半数以上がAの成績評価を受けた者でなければならない。
- 4) 受講を認められた者は下記の期間内に登録料（初年度のみ）と受講料を添えて履修申告票を提出すること。

課程修了

本課程に2年間以上在籍し、基礎科目8科目、24単位（外国人学生にあつては、その他に日本事情概論4単位）専門科目9科目17単位のすべてを修得し、修了論文の審査に合格した者に課程修了証書を与える。本課程の受講を認められた者は「日本語教育学課程専修生」と称する

募集要項

1)定員 20名

2)受講資格 大学院(修士課程、博士課程)在学者及び学部卒業者

5. 講義内容

基礎科目(1年次)

日本語教育学通論(日本語教育史)(前期)

三澤 茂

日本語を母語(第一言語)としない人々に対する日本語教育の歴史を、言語の対外的民族政策としての属領地における言語対策および言語の文化的政策としての日本語の国外普及対策の両面から概観し、その問題点を講述する。

また、日本語教育をも含めた言語教育を異文化接触の観点からとらえ、その問題点を紹介する。

1. 日本の異文化統治における日本語教育
2. 南北アメリカに居住する日系移民に対する日本語教育
3. 来日留学生、研修生、難民、中国帰国者等に対する日本語教育
4. 海外の日本語教育機関における日本語教育
5. 言語教育と異文化接触

日本語教育学通論(教授法の変遷)(後期)

平高史也

外国人に対する日本語教育を外国語教育の枠組みの中で考えると、英語をはじめとするいろいろな外国語の教育で用いられている教授法からも学ぶところが多いことがわかる。事実、現在に至るまで日本語教育は英語教育から大きな影響を受けている。本講義では、日本語教育との関連を考慮しながら、19世紀から現代までの外国語教授法の歴史を概観する。授業は、適宜、ゼミナール形式をおりまぜて進める予定である。

参考図書

1. A. P. R. Howatt : A History of English Language Teaching, Oxford UP.
2. Jack. C. Richards/Theodore S. Rodgers: Approaches and Methods in Language Teaching, Cambridge UP.

日本語学 I (前期)

宮城幸枝

初めは日本語だけにとらわれず、一般的に音声学と音韻論の基礎的事項について講じる。ついで調音音声学の立場から音声の分類、調音法、記述の方法等について具体的に上げる。一方的な講義に偏らないように、実際に発音したり、観察・記述したりする練習を取り入れながら進める。日本語については、個々の音声、アクセント、プロミネンス、イントネーション等について順次取り上げ、その音声学的特質について考える。

特に日本語を外国語として学ぶ様々な母語の学習者にとって問題となる音声等については、実際の発話資料(録音テープ)を用い、何故そのような問題が起こるのかを考え、正しい発音に導く方法を探る。

日本語学 II (通年)

森田富美子

日本語教育における文法の特色のひとつに「コミュニケーションの手段として、実際に日本語を運用するための規範を示す実用的文法」ということがあげられる。このような文法研究の立場から、文型(構文の型、表現の意図と文の形)、語法(動詞、助動詞、補助動詞、形式名詞の用法等)の問題を取り上げる。

日本語学 III (後期)

下瀬川 慧子

日本語学習の出発点である初級教科書の多くは使用語数が1000語ほど、表記はローマ字あるいはひらがなで分かち書きである。一方、一般日本人が日常用いる文章の語数は、新聞を例にとるなら、約47000語。そして漢語が半分近くを占めるその文章には、句読点以外に切れ目がない。この両者の間の差をできるだけ迅速に埋めて、学習者が一人立ちして文章中の語を特定し漢字の読み方を知り意味をつかむための技術を身につけさせるのが、日本語教師の務めの大きな部分を占める。この科目では、それをするために教師の側の持つべき基本的知識としての語

彙量と基本語・語構成・意味・語種、そして漢字とその指導法を取り上げる。

日本語教授法概説 I (前期)

柴田俊造

外国人に対する日本語教育とは何かということについて、日本人に対する国語教育の場合と比較しながら考え、現在行われている日本語教育と日本語教師像を概観する。

テキスト：木村宗男「日本語教授法」凡人社

日本語教授法概説 II (後期)

河原崎 幹夫

語学の教材は、教授法と離れては成立しない。教授法ばかりでなく、教育内容や教育技術においても、教材と密接な関係をもっている。

語学教育が行われる場合、学習者の言語背景、目的、目標、期間などが教材を決定する大きな要因となってくる。学問があつて、学習が行われるというより、多様化した学習者のニーズがあつて、語学学習のコースが計画されるといっても過言ではなからう。

この多様化した学習者のニーズは、どんなものが予想され、どのような程度が期待されているのであろうか。日本語教育において、これらを合理化して教育効果を高めるためには、どんな教材が期待されるのであろうか。

また、教材は、どのような理念のもとに成立し、どのような機能を有しているかなどについて考察する。

テキスト：国際交流基金編「教科書解題」北星堂

言語学概論

椎名美智

人間だけの営為である言語活動を対象とする言語学という、現在最も注目される学問分野についての、基礎的な知識と考え方を身につけることを目標とする。テキスト、および参考文献については、最初の授業で指示する。

国語学概論

柏原 司郎

国語学の研究領域について全体的に展望し、さらに史的な解説を加えて理解できるようにつとめ、現在の研究段階や課題にも付言できればよいと思う。

日本事情概論（通年）外国人学生必修

椎名 和男

日本事情とは、いったいどんなことを学習する学問であろうか。外国語を学習する者はその当該国の歴史、政治、経済、法律、教育、社会情勢、風俗、習慣などについての広汎な知識を必要とする。特にその外国語を教育指導しようとする者には、必須の知識であろう。ところが、上に挙げたような事項は、それ自体専門分野として既に確立された学問領域であり、これら全てを短期間で学習することは至難の業であろう。

これらのそれぞれの学問のうち、どのような項目が外国人学生に必要なか、また、それらをどのような時間に、どのように教育指導しなければならないかは、現在の留学生教育にとって最重要課題であると言える。

この観点から、この講義では日本事情とは何か、どのように学ばせるか、そしてまた、外国人日本語教師としての必須の知識、技能を学習させる。

テキスト：自主作成教材

専門科目（2年次）

外国語研究（コリア語）（通年）

朴 聖雨

日本語教師に必須の知識の一つに外国語がある。本講義の目的は英語以外の外国語をとりあげ、教師の立場と学習者の立場の両面から知ろうとするものである。本年度は韓国語の音韻組織、語法体系などを学ぶと同時に学習者の学習心理、語句や音の獲得方法を体験し、研究する。

日本語教授法 1（前期）

椎名 和男

日本語教育は専門分野として既に確立している学問であるが、語学のもつ性格上、学習者の

目的、目標、期間などといった諸条件がその学習課程を決定するので、それぞれ異なったプログラムを必要としている。

一定の期間内に、学習者の目的を達成させるために必要な語学を習得させるには、どのくらいの語いや文型、文法知識、言語行動などを配列したらよいか。

多様化した学習者の要求と、その学習細目やプログラムなどについて考察し更にその適正な評価を下すにはどのような方法をもってするかなどを講義する。

テキスト：自主教材プリント

日本語教授法 II（後期）

河原崎 幹夫

日本語の文字で表記されたもの、日本語の音声で語られたもの、これらは全て日本語の教材になりうるであろうか。これらは、素材であって教材ではない。それでは、教材として用いられるようにするには、どのような方法があるのだろうか。

教材作成を実践的に行うことにより、教材の機能、教材の使用法など、下記の諸点について考察していく。

1. 目的別、目標別教育内容の整理
2. 教育的価値のある素材の収集と配列
3. 段階的配慮と教材
4. 学習事項の定着と効果

日本語教授法研究 1（前期）

下瀬川 慧子

一般に、初中級段階の読解は精読方式で行われる。新出語も、文脈の中での現われ方を知ったうえでその用法を習得することが必要だからである。そこで、日本人である日本語教師にとって肝要なことは、学習者の知識レベルを確実に押えたうえで、日本語が自分の文化に属するがゆえに見落としてしまうといったことのないよう、扱う文章の語法・語彙・文字・内容全般を外国人の視点から前もって検討しておくことである。この科目では、前半、読解における指導事項をどこまで広げるかを、実際の教科書の

文章に即して見ていくことにする。

読解教材はまた、作文の刺激材としても有用である。書くことは構成力・文法力・語彙力・書写力を同時に要求する総合的な作業であるとともに、話し言葉の世界から文章語の論理に移行することをも書き手に要求する。そこで、技術が未熟なら、誤りは母語の干渉による直接的なものから読解力の不足と表裏をなす深層的なものまで、二重三重に現われる。それらについての添削の方法を、後半、実際の留学生の文章によって検討する。

日本語教授法研究 II (後期)

宮 城 幸 枝

日本語を教授する者として、現代東京語を正しく、明瞭で、自然な発音やアクセントで話し、学習者にモデルを示すことが出来るようになること。学習者の発音上の誤りを適切に把握し、効果的に矯正が行えるようになること。発音練習や聴解のための教材や音声テープを作成出来るようになること等を目的として、実践的な知識や方法が身に付くように指導し、訓練する。

また、現在ある種々の発音練習や聴解練習のためのテキストや音声テープ等を紹介するとともに、より良い教材や練習法のあり方を探る。

日本語教授法研究 III (後期)

森 田 富美子

語学の学習において練習問題及び試験の占める位置は極めて重要である。それによって学習者は自らの理解度を確認し、誤りを訂正し、正しい知識の定着を図ることができるし、教授者の方も教授上の不備、欠陥を反省するチャンスが得られるからである。それだけにその作成にあたっては十分な検討が必要となる。問題の内容によっては学習者の頭を混乱させるだけに終わってしまう場合さえあることを忘れてはならない。

本講義では、どんな場合にどんな出題が有効であるか、問題のよしあしはどのように判断するか、などについて、初級から順に実例をあげ

ながら考察を進めていく。

テキスト：自主作成教材

日本語学演習 I (前期)

平 高 史 也

日本語教育における対照研究という位置づけで、日本語を音声、文法、意味のレベルにとどまらず、ノンバーバルコミュニケーションや発想などの文化的なレベルにまで広げて、諸外国語と比較対照する。その際、学習者の誤用分析も行う。授業は参加者の発表を中心に進める。

日本語学演習 II (後期)

修了論文の作成について、分野別の教員が指導を行う。

日本語教育実習

別科日本語研修課程(1年間コース)、特別日本語教育講座(3か月コース)等の教室において、教員の指導のもとに実際に教育実習を行う。

大学の所在地と資料のリスト（大学名の五十音順）

愛知教育大学 総合科学課程

〒448 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 (tel)0566-36-3111

『平成元年度 総合科学課程概要』

『平成元年度 授業内容一覧』

『平成元年度 履修の手引』

芦屋大学 教育学部教育学科

〒659 芦屋市六麓荘町 13-12 (tel)0797-23-0661

「日本語教員養成コース（要項）」

大阪外国語大学 外国語学部日本語学科

大阪外国語大学大学院 外国語学研究科

〒562 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 (tel)0727-28-3111

『授業科目履修案内 1989』

『平成元年度 授業科目履修案内』（大学院・専攻科）

大阪大学 文学部日本文学科

大阪大学大学院 文学研究科

〒560 大阪府豊中市待兼山 1-1 (tel)06-844-1151

『昭和63年度 学生便覧 1988-89』（文学部・大学院文学研究科）

お茶の水女子大学 文教育学部

〒112 東京都文京区大塚 2-1-1 (tel)03-943-3151

『平成元年度開講科目 学生便覧別冊』

『学生便覧 1989』

香川大学 教育学部総合科学課程

〒760 香川県高松市幸町 1-1 (tel)0878-61-4141

『平成元年度 履修の手引 総合科学課程』（教育学部）

学習院大学 文学部国文学科

〒171 東京都豊島区目白 1-5-1 (tel)03-986-0221

『昭和63年度 文学部履修要覧』

『平成元年度 文学部履修要覧』

鹿児島女子大学 文学部

〒899-51 鹿児島県始良郡隼人町 1904 (tel)0995-43-1111

『平成元年度 学生便覧』

『平成元年度 履修要項』

神奈川大学 日本語教員養成課程

〒221 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 (tel)045-481-5661

『平成元年度 履修要覧』

関西外国語大学 外国語学部

〒573 大阪府枚方市北片鉾町 16-1 (tel)0720-56-1721

『昭和63年度(1988年) 履修規定(一年次生)』

岐阜女子大学 文学部

〒501-25 岐阜県岐阜市太郎丸 80 (tel)0582-29-2211

『平成元年度 学生便覧』

京都教育大学 総合科学課程

〒612 京都府京都市伏見区深草藤森町 1 (tel)075-641-9281

『平成元年度 学生便覧』

杏林大学 外国語学部日本語学科

〒192 東京都八王子市宮下町 476 (tel)0426-91-0141

『昭和63年度 杏林大学外国語学部(大学案内)』

『昭和63年度 GUIDEBOOK '88』(Faculty of Foreign Languages)

慶応義塾大学 国際センター

〒108 東京都港区三田 2-15-45 (tel)03-453-4511

「昭和63年度 日本語教授法講座」

国際基督教大学 教養学部語学科

〒181 東京都三鷹市大沢 3-10-2 (tel)0422-33-3191

『教養学部要覧 1988-89』

松蔭女子学院大学 文学部国文学科

〒657 兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町 1-2-1 (tel)078-882-6122

『1989年度 学生便覧』

昭和女子大学 文学部日本文学科

〒154 東京都世田谷区太子堂 1-7 (tel)03-411-5111

『平成元年度 学生便覧』

上智大学 比較文化学部日本語・日本文化学科

〒102 東京都千代田区四番町 4 (tel)03-238-4000

『上智大学 SOPHIA UNIVERSITY Department of Comparative Culture,
Bulletin of Information 1987-1988 Spring 1989』

聖心女子大学 文学部

〒150 東京都渋谷区広尾 4-3-1 (tel)03-407-5811

『平成元年度 学生便覧』

拓殖大学 日本語教員資格認定講座

〒112 東京都文京区小日向 3-4-14 (tel)03-947-2261

『昭和63年度 履修要項』(商学部、政経学部、外国語学部)

筑紫女学園大学 文学部日本語・日本文学科

〒818-01 福岡県太宰府市石坂 2-12-1 (tel)092-925-3511

『平成元年度 学生便覧』

『平成元年度 講義内容』

筑波大学 第二学群日本語・日本文化学類(学部)

筑波大学大学院 修士課程地域研究研究科

筑波大学大学院 博士課程文芸・言語研究科

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1 (tel)0298-53-2111

『昭和62年度 日本語・日本文化学類案内』

『平成元年度 大学院便覧』

『平成元年度 開設授業科目一覧』

天理大学 日本語教員養成課程

〒632 奈良県天理市杣之内町 1050 (tel)07436-3-1511

『昭和63年度 履修要覧』

東海大学 留学生教育センター

〒259-12 神奈川県平塚市北金目 1117 (tel)0463-58-1211

『昭和63年度 留学生教育センター日本語教育学課程履修の手引』

東京外国語大学 外国語学部日本語学科

東京外国語大学大学院 外国語学研究科

〒114 東京都北区西ヶ原 4-51-21 (tel)03-917-6111

『昭和63年度 学生便覧』

(外国語学部・外国語学研究科・地域研究研究科)

『昭和63年度 講義題目一覧』

(外国語学部・外国語学研究科・地域研究研究科)

『日本語学科案内 1988.1 』(外国語学部)

東京学芸大学 教育学部

〒184 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 (tel)0423-25-2111

『昭和63年度 履修の手引(教養系)』

東京家政学院大学 人文学部日本文化学科

〒194-02 東京都町田市相原町 2600番地 (tel)0427-82-9811

『平成元年度 学生便覧』

同志社女子大学 学芸学部日本語日本文学科

〒610-31 京都府綴喜郡田辺町興戸南鉾立 97-1 (tel)07746-5-8701

『1989年度 同志社女子大学同志社女子大学短期大学部 要覧』

東北大学 文学部日本語学科

〒980 宮城県仙台市青葉区川内 (tel)022-222-1800

『'89 東北大学文学部後期課程案内』

獨協大学 外国語学部

〒340 埼玉県草加市学園町 1-1 (tel)0489-42-1111

『1989 DOKKYO UNIVERSITY 学科目履修の手引』

名古屋大学大学院 修士課程文学研究科

〒464-01 愛知県名古屋市千種区不老町 1 (tel)052-781-5111

『平成元年度 便覧』(文学部・大学院文学研究科)

南山大学 外国語学部日本語学科

〒466 愛知県名古屋市昭和区山里町 18 (tel)052-832-3111

『1989 学生便覧 授業科目履修案内』

二松學舎大学 文学部

〒102 東京都千代田区三番町 6 (tel)03-261-7406

『平成元年度 学生便覧』

梅花女子大学 日本語教員養成コース

〒567 大阪府茨木市宿久庄 2-19-5 (tel)0726-43-6221

『1989 大学要覧』

梅光女学院大学 文学部

〒759-65 山口県下関市吉見妙寺町 365 (tel)0832-86-2221

『梅光女学院大学・大学院ガイド・ブック 1989』

『梅光女学院大学ガイド・ブック 別冊 1989』

姫路獨協大学 外国語学部日本語学科

〒670 兵庫県姫路市上大野 7-2-1 (tel)0792-23-2211

『平成元年度 履修の手引』

『平成元年度 教職課程履修の手引』

『昭和63年度 講義要項』

広島大学 教育学部日本語教育学科

広島大学大学院 教育学研究科

〒724 広島県東広島市西条町大字下見 (tel)0824-22-7111

『平成元年度 学生便覧』(教育学部・教育学部福山分校)

『平成元年度 授業科目要覧』(教育学部・教育学部福山分校)

『平成元年度 学生便覧』(大学院教育学研究科)

福岡大学 人文学部

〒814-01 福岡県福岡市城南区七隈 8-19-1 (tel)092-871-6631

「日本語教員養成課程 履修の手引 平成元年度」

文教大学 文学部日本語日本文学科

〒343 埼玉県越谷市南荻島 3337 (tel)0489-74-8811

『平成元年度 履修のてびき』(教育学部人間科学部・文学部)

『平成元年度 講義概要』(教育学部人間科学部・文学部)

明海大学 外国語学部日本語学科

〒279 千葉県浦安市明海 8 (tel)0473-55-5111

『1989年度 講義要項』(外国語学部・経済学部)

盛岡大学 文学部日本文学科

〒020-01 岩手県岩手郡滝沢村砂込 808 (tel)0196-88-5555

『平成元年度 学生便覧』

横浜国立大学 教育学部

〒240 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 156 (tel)045-335-1451
『平成元年度 履修手引(教養系)』

琉球大学 教育学部総合科学科、法文学部文学科

〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 (tel)09889-5-2221
『総合科学課程案内 日本語教育コース・情報教育コース
平成元年(1989)度』(教育学部総合科学科)
『平成元年度 学生便覧』
『平成元年度前期 授業時間配当表』

麗澤大学 外国語学部日本語学科

〒277 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1 (tel)0471-73-3601
『平成元年度 履修要綱』(外国語学部)

早稲田大学 教育学部国語国文学科

〒169 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (tel)03-203-4141
『平成元年度 講義要項』(教育学部)
『平成元年度 教育学部要項』(教育学部)